

首都圏中央連絡自動車道
戸田高架橋耐震補強工事
契約参考図書
(率計上項目及び概算数量、図面)

令和 8 年 9 月

東日本高速道路株式会社 関東支社
市原管理事務所

- 契約参考図書は、率計上項目や概算数量等を指示する資料であり、設計書第 1 条にいう設計図書でない。（請負契約上拘束力はない）
- 当該内容は、受注後に協議を開始する項目であるため、内容に関する質問は受付けない。

図 面 目 次

図 面 名	図 番	図 面 名	図 番
1 . 数量総括表	・ ・ ・ ・ 1	31 . 東金IC Aランプ橋 下部工検査路撤去図(その1～2)	・ ・ ・ ・ 64 ～ 65
2 . 戸田高架橋 下部工検査路撤去図(その1～4)	・ ・ ・ ・ 2 ～ 5	32 . 東金IC Aランプ橋 下部工検査路復旧図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 66 ～ 68
3 . 戸田高架橋 下部工検査路復旧図(その1～8)	・ ・ ・ ・ 6 ～ 13	33 . 東金IC Aランプ橋 昇降設備撤去・復旧計画図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 69 ～ 71
4 . 戸田高架橋 昇降設備撤去・復旧計画図(その1～2)	・ ・ ・ ・ 14 ～ 15	34 . 東金IC Aランプ橋 排水装置撤去・復旧計画図(その1～13)	・ ・ ・ ・ 72 ～ 84
5 . 戸田高架橋 排水装置撤去・復旧計画図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 16 ～ 18	35 . 東金IC Aランプ橋 附帯工撤去・復旧図	・ ・ ・ ・ 85
6 . 戸田高架橋 附帯工撤去・復旧図	・ ・ ・ ・ 19	36 . 東金IC Aランプ橋 試掘工平面図(参考図)	・ ・ ・ ・ 86
7 . 本郷矢部高架橋 下部工検査路撤去図	・ ・ ・ ・ 20	37 . 東金IC Bランプ橋 下部工検査路撤去図(その1～2)	・ ・ ・ ・ 87 ～ 88
8 . 本郷矢部高架橋 下部工検査路復旧図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 21 ～ 23	38 . 東金IC Bランプ橋 下部工検査路復旧図(その1～4)	・ ・ ・ ・ 89 ～ 92
9 . 本郷矢部高架橋 昇降設備撤去・復旧計画図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 24 ～ 26	39 . 東金IC Bランプ橋 排水装置撤去・復旧計画図(その1～8)	・ ・ ・ ・ 93 ～ 100
10 . 本郷矢部高架橋 排水装置撤去・復旧計画図(その1～6)	・ ・ ・ ・ 27 ～ 32	40 . 東金IC Bランプ橋 附帯工撤去・復旧図	・ ・ ・ ・ 101
11 . 本郷矢部高架橋 附帯工撤去・復旧図	・ ・ ・ ・ 33	41 . 東金IC Bランプ橋 試掘工平面図(参考図)	・ ・ ・ ・ 102
12 . 本郷矢部高架橋 試掘工平面図(参考図)	・ ・ ・ ・ 34		
13 . 本郷矢部高架橋 P9橋脚 農業用水路 切り回し図(参考図)	・ ・ ・ ・ 35		
14 . 森高架橋 下部工検査路復旧図	・ ・ ・ ・ 36		
15 . 森高架橋 排水装置撤去・復旧計画図(その1～2)	・ ・ ・ ・ 37 ～ 38		
16 . 森高架橋 附帯工撤去・復旧図	・ ・ ・ ・ 39		
17 . 森高架橋 市道迂回計画図(参考図)	・ ・ ・ ・ 40		
18 . 森高架橋 ヤード整備図(参考図)	・ ・ ・ ・ 41		
19 . 酒蔵高架橋 下部工検査路撤去図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 42 ～ 44		
20 . 酒蔵高架橋 下部工検査路復旧図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 45 ～ 47		
21 . 酒蔵高架橋 排水装置撤去・復旧計画図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 48 ～ 50		
22 . 酒蔵高架橋 附帯工撤去・復旧図	・ ・ ・ ・ 51		
23 . 滝高架橋 排水装置撤去・復旧計画図	・ ・ ・ ・ 52		
24 . 滝高架橋 附帯工撤去・復旧図	・ ・ ・ ・ 53		
25 . 滝高架橋 ヤード整備図(参考図)	・ ・ ・ ・ 54		
26 . 丹尾高架橋 下部工検査路撤去図(その1～2)	・ ・ ・ ・ 55 ～ 56		
27 . 丹尾高架橋 下部工検査路復旧図(その1～3)	・ ・ ・ ・ 57 ～ 59		
28 . 丹尾高架橋 排水装置撤去・復旧計画図(その1～2)	・ ・ ・ ・ 60 ～ 61		
29 . 丹尾高架橋 工事用道路計画図	・ ・ ・ ・ 62		
30 . 丹尾高架橋 附帯工撤去・復旧図	・ ・ ・ ・ 63		

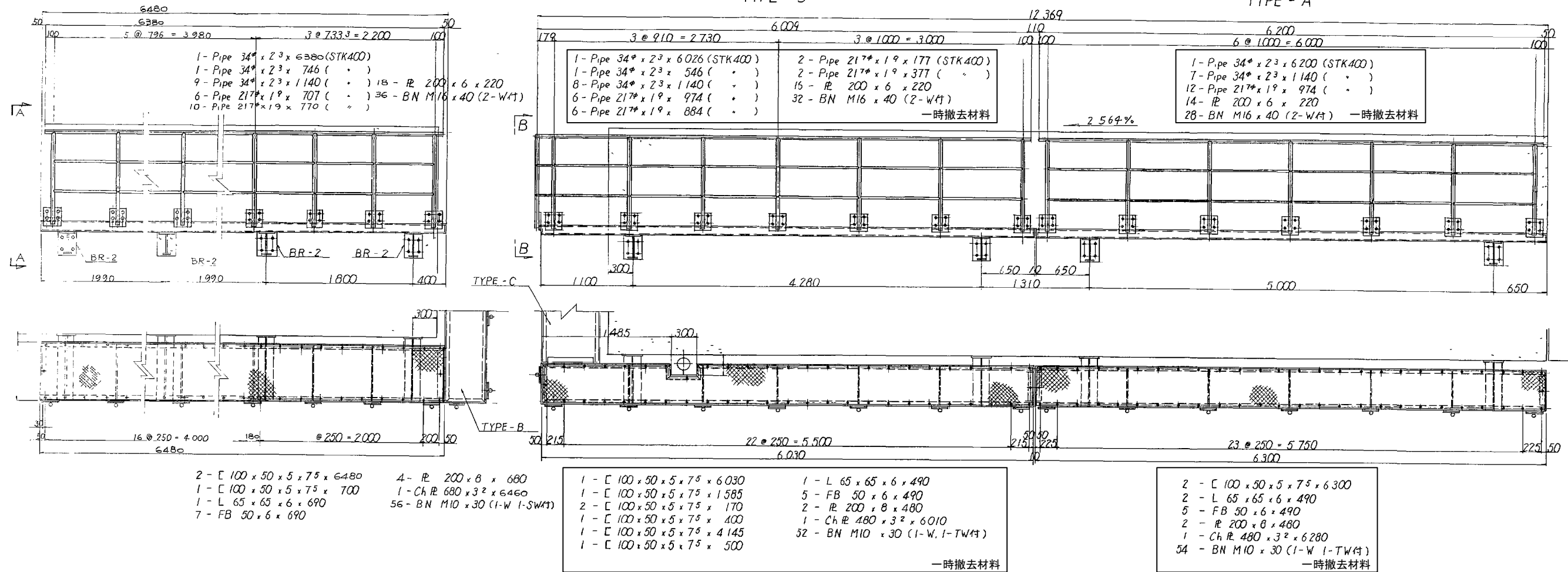
数量総括表(率計上項目)

項目番号	11－(3)	11－(4)	15－(10)		15－(11)	15－(12)		18－(17)			特－(1)	特－(1)
項目名称	排水装置	検査路	防護柵撤去設置工		立入防止柵撤去設置工	立入防止柵の出入口撤去設置工		構造物等取壊し工			撤去工	撤去工
区分	排水管 A	B	G r－A－4 E	転落防止柵	一般非積雪地用	人用門扉	門扉 W=3.0m	アスファルト 舗装版取壊し (T y p e A)	コンクリート 構造物取壊し (T y p e B)	コンクリート 構造物取壊し (T y p e C)	PuL・0.30・ 0.30	検査路B
単位	m	t	m	m	m	箇所	箇所	m2	m3	m3	m	t
戸田高架橋	95	6.393	0	0	12	0	3	0.0			125	5.046
本郷矢部高架橋	31	0.060	0	0	425	0	2	451.0			133	0.051
森高架橋	14	0.000	17	0	69	1	1	26.6		1.2	84	0.003
酒蔵高架橋	16	0.063	0	0	194	0	3	9.6			132	0.011
滝高架橋	3	0.000	0	0	8	1	0	0.0	2.3	0.6	68	0.000
丹尾高架橋	5	0.046	0	0	40	0	0	0.0			9	0.014
東金IC Aランプ橋	6	0.803	20	0	40	0	1	13.9			70	0.705
東金IC Bランプ橋	22	0.156	21	24	166	0	0	47.6			98	0.110
合計	190	7.521	58	24	954	2	10	548.7	2.3	1.8	720	5.940

項目番号	特－(1)	特－(2)		特－(3)	特－(4)
項目名称	撤去工	再設置工		工事用道路造成工	試掘工
区分	排水管 A	排水管 A	検査路B	A	A
単位	m	m	t	m3	m3
戸田高架橋	262	167	1.644	0.0	0.0
本郷矢部高架橋	335	304	1.519	0.0	0.4
森高架橋	119	105	0.000	0.0	0.0
酒蔵高架橋	236	220	1.367	0.0	0.0
滝高架橋	34	31	0.000	0.0	0.0
丹尾高架橋	106	101	0.862	352.7	0.0
東金IC Aランプ橋	270	264	0.449	0.0	3.8
東金IC Bランプ橋	158	136	2.549	0.0	2.6
合計	1,519	1,329	8.390	352.7	6.8

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	数量総括表(率計上項目)		
縮 尺	—	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

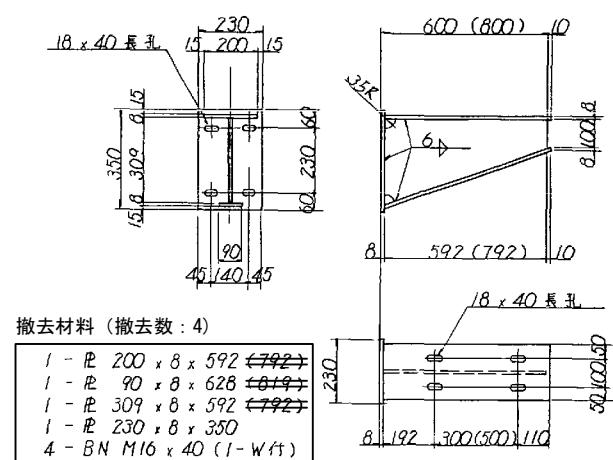
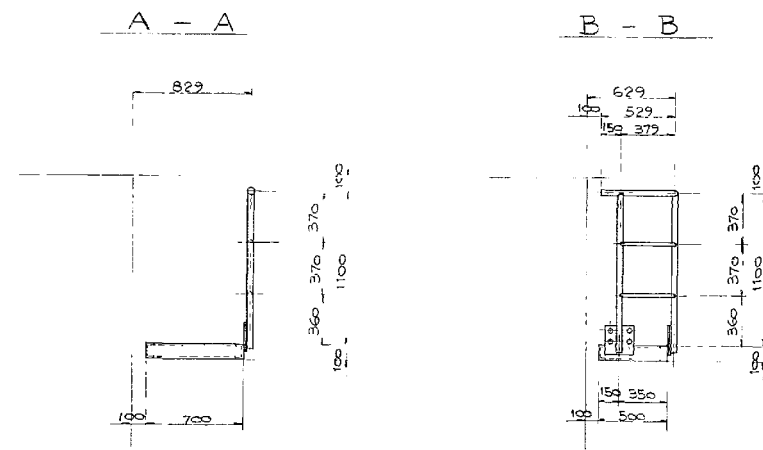
TYPE - A



フ ラ ケ ッ ト 縮尺 1/10
BR-1 (BR-2)

步廊断面图 縮尺 1/10

配置図
A / 橋台

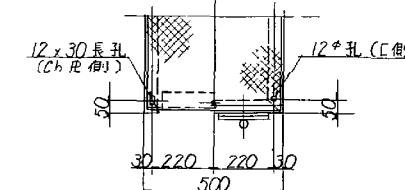
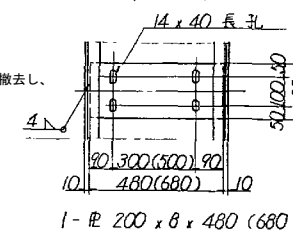


撤去材料（撤去数：4）

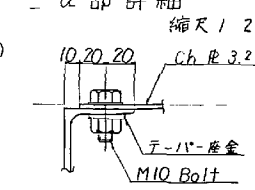
- 1 - R 200 x 8 x 592 (~~792~~)
 1 - R 90 x 8 x 628 (~~819~~)
 1 - R 309 x 8 x 592 (~~792~~)
 1 - R 230 x 8 x 350
 4 - BN M16 x 40 (1-W付)
~~4 - ホワイア 1A - M16~~
 4-NUT M16 (1種)
 4-WASHER M16
 4-SPRING WASHER M16

注) ホールインアンカーは、ナットおよびワッシャーのみ撤去し、アンカー本体は再利用する。

歩廊取付板



2部詳細



- (注)
- 1 特記なき材価は全て SS400 とする
 - 2 部材は全て溶融亜鉛メッキ施す。
(付着量は JIS H8641 HDZ35C とする。
但しボルト ナットは HDZ35A とする)
 - 3 特記なきフラケットは BR-1 とする。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事				
図面の種類	戸田高架橋 下部工検査路撤去図(その1)			
縮 尺	図示	図面番号	／	
設計会社名	日本工営株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所			

戸田高架橋 下部工検査路撤去図(その2)

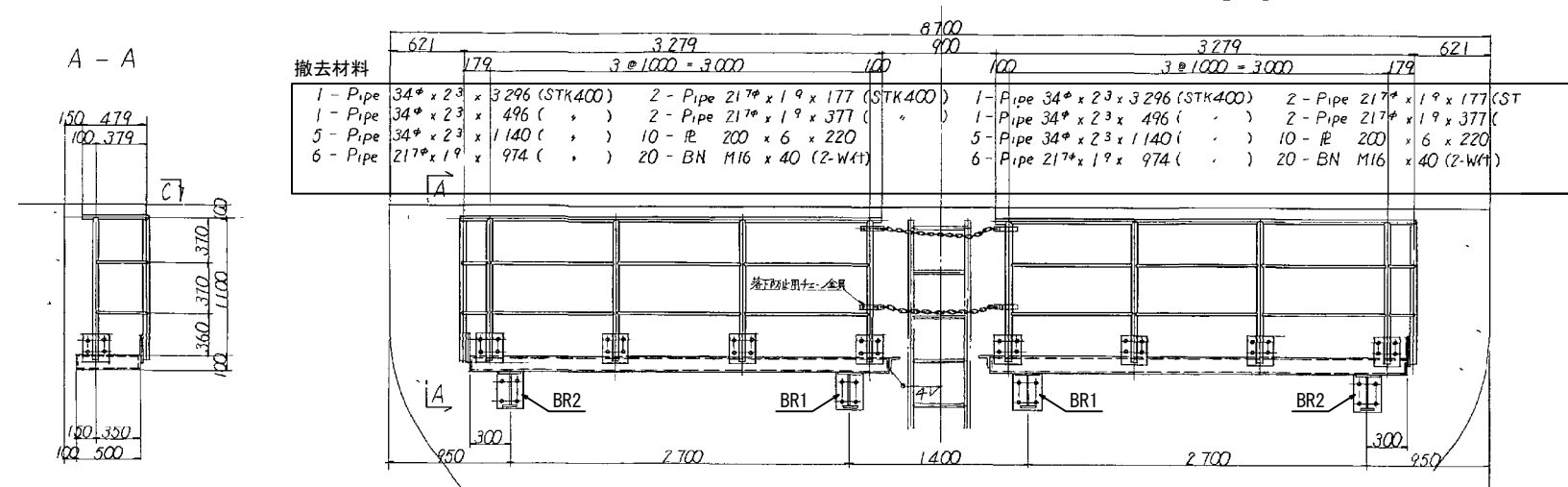
P11~P7及びP4~P1橋脚

検査路 (その3) 縮尺 1/20

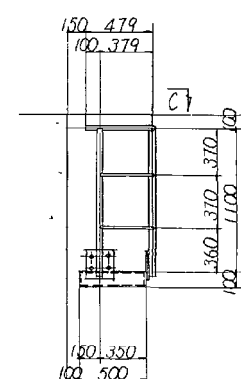


TYPE - D

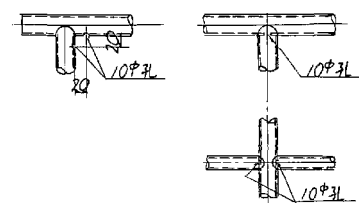
TYPE - D



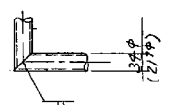
A - A



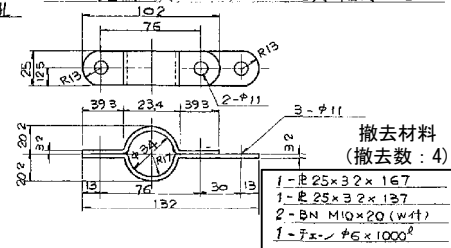
メッキ用空気抜き孔 縮尺 1:5



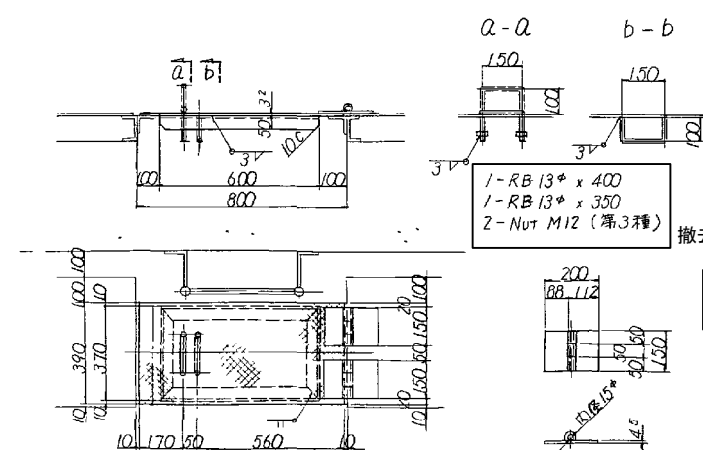
C - C 縮尺 1:5



落下防止用チェーン金具 縮尺 1:2



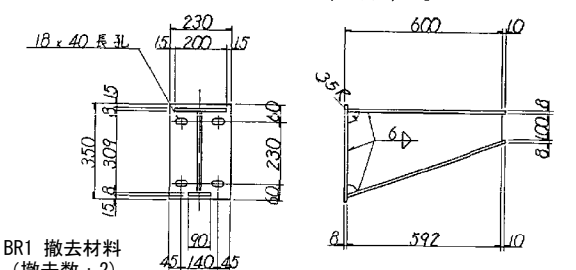
マンホール詳細 縮尺 1/10



- 撤去材料
- 1 - Ch R 390 x 3.2 x 780
 - 2 - L 65 x 65 x 6 x 600
 - 2 - L 65 x 65 x 6 x 370
 - 2 - R 150 x 45 x 160
 - 1 - RB 13 x 150

- 撤去材料
- 2 - C 100 x 50 x 5 x 75 x 3300
 - 2 - C 100 x 50 x 5 x 75 x 500
 - 1 - L 65 x 65 x 6 x 370
 - 2 - FB 50 x 6 x 490
 - 1 - Ch R 480 x 3.2 x 3280
 - 2 - R 200 x 8 x 400
 - 28 - BN M10 x 30 (1-W, 1-T, W付)
 - 2 - C 100 x 50 x 5 x 75 x 3300
 - 2 - C 100 x 50 x 5 x 75 x 500
 - 1 - L 65 x 65 x 6 x 370
 - 2 - FB 50 x 6 x 490
 - 1 - Ch R 480 x 3.2 x 3280
 - 2 - R 200 x 8 x 400
 - 28 - BN M10 x 30 (1-W, 1-T, W付)

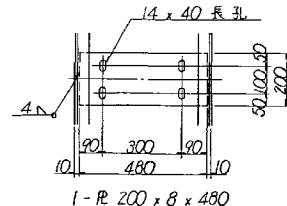
ブラケット 縮尺 1:10



BR1 撤去材料 (撤去数: 2)

- 撤去材料
- 1 - R 200 x 8 x 592
 - 1 - R 90 x 8 x 628
 - 1 - R 309 x 8 x 592
 - 1 - R 230 x 8 x 350
 - 4 - BN M16 x 40 (1-W付)

歩道取付板



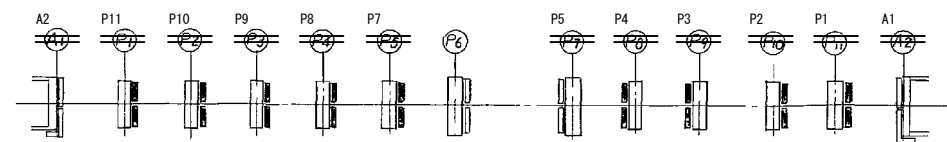
注1) BR1ブラケットは既設部材を撤去する。
但し、アンカー本体は再利用し、
ホールインアンカーは、ナットおよびワッシャーのみ撤去する。
注2) BR2ブラケットは既設部材を再利用する為、
検査路本体とブラケットを接合するボルト・ナットのみ撤去する。

BR2 撤去材料 (撤去数: 2)

- 4-BN M16x40 (1-W)

注)
1 特記なき材質は全てSS400とする
2 部材は全て溶融亜鉛メッキで施す。
(付数量はJIS H8641 HDZ35Cとする
但しボルト・ナットはHDZ35Aとする)

全体配置図



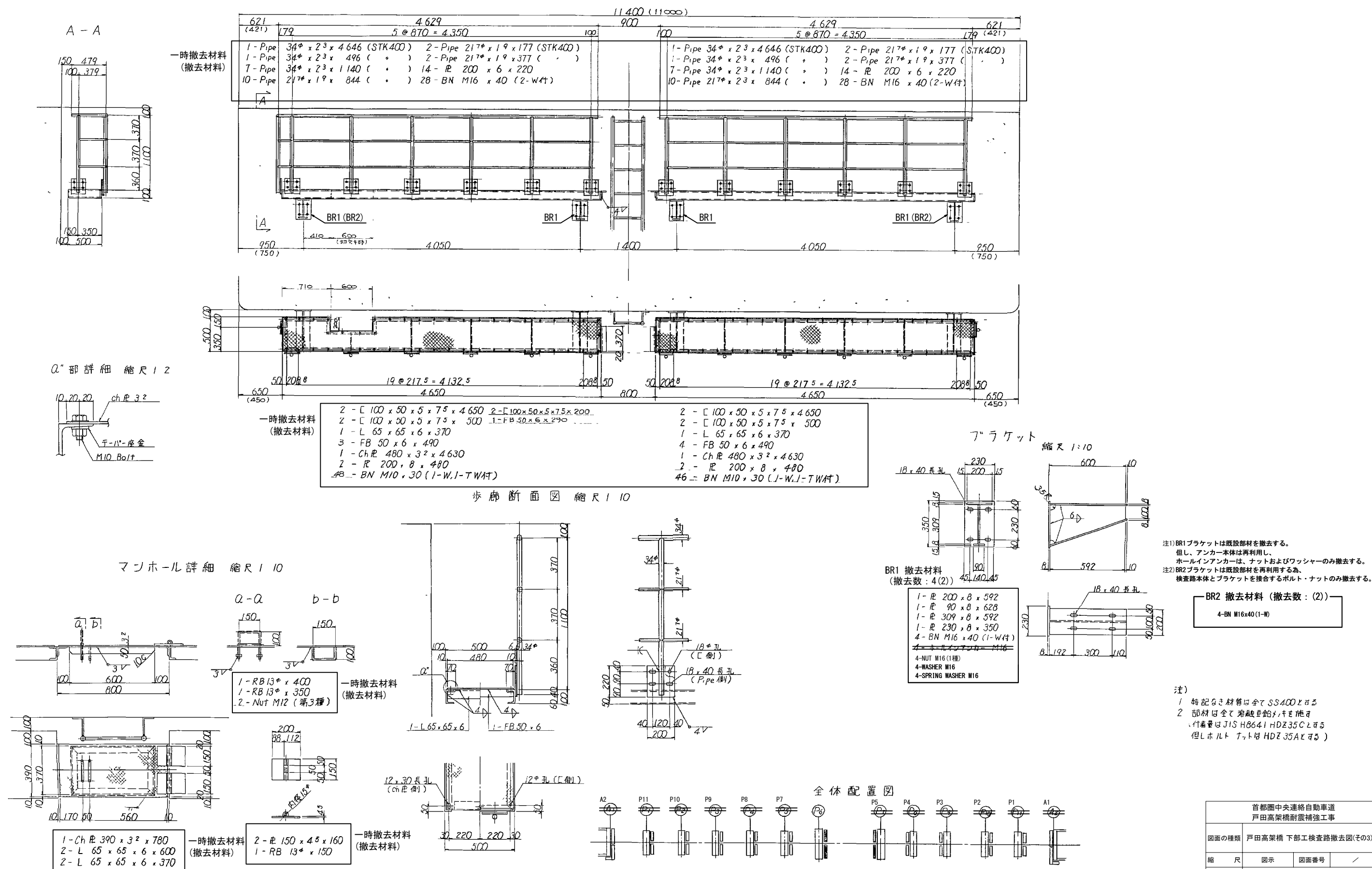
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋 下部工検査路撤去図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P6橋脚 (P5橋脚)

TYPE - E



TYPE - E



注1) BR1ブラケットは既設部材を撤去する。
但し、アンカー本体は再利用し、
ホールインアンカーは、ナットおよびワッシャーのみ撤去する。

注2) BR2ブラケットは既設部材を再利用する為、
検査路本体とブラケットを接合するボルト・ナットのみ撤去する

—BR2 撤去材料（撤去数：(2)）

4-BN M16x40(1-W

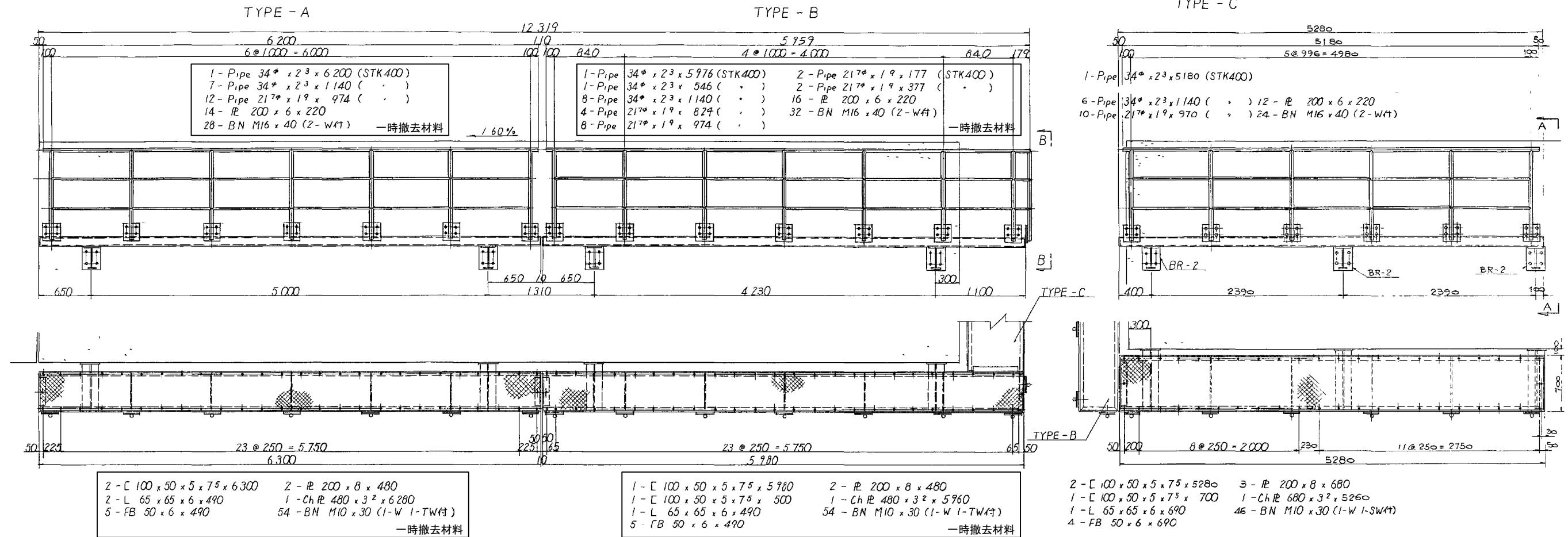
注)
1 特記なき材質は全てSS400とする
2 部材は全て溶融亜鉛メッキ施す
、付着量はJIS H8641 HDZ35Cとする
(但しホルト ナットはHDZ35Aとする)

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋 下部工検査路撤去図(その3)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

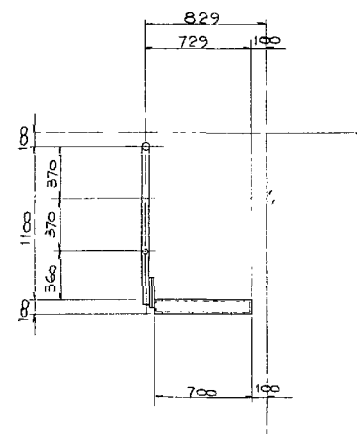
A1橋台

A1 ~~A2~~ 橋台
TYPE - B

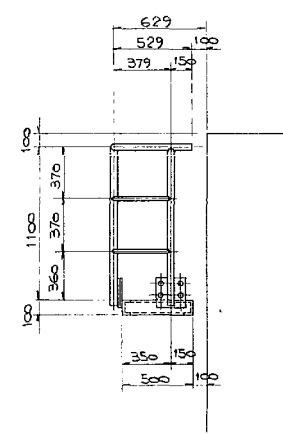
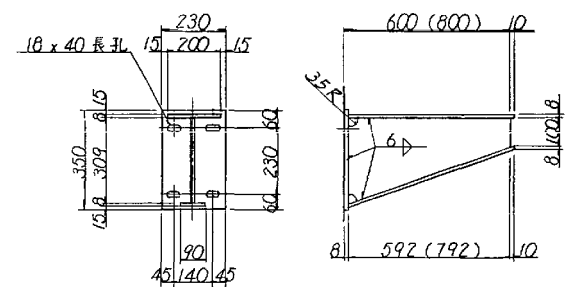
TYPE - C



A - A



B - B

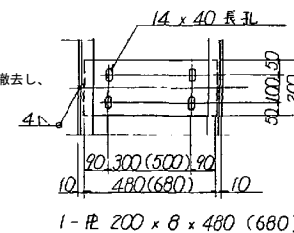
ブラケット 縮尺 1/10
BR-1 (BR-2)

撤去材料 (撤去数: 4)

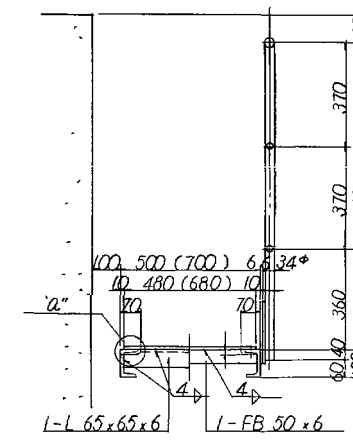
- 1-R 200 x 8 x 592 (792)
- 1-R 90 x 8 x 638 (829)
- 1-R 309 x 8 x 592 (792)
- 1-R 230 x 8 x 350
- 4-BN M16 x 40 (1-W付)
- 4-ホルインアンカー M16
- 4-NUT M16 (1種)
- 4-WASHER M16
- 4-SPRING WASHER M16

注) ホールインアンカーは、ナットおよびワッシャーのみ撤去し、アンカー本体は再利用する。

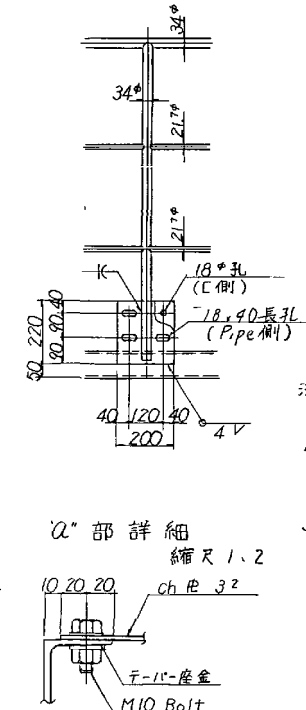
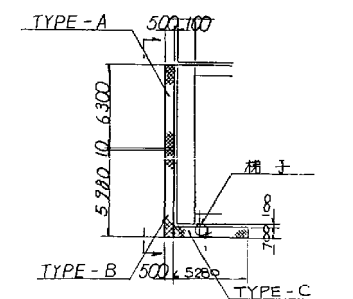
歩廊取付板



歩廊断面図 縮尺 1/10



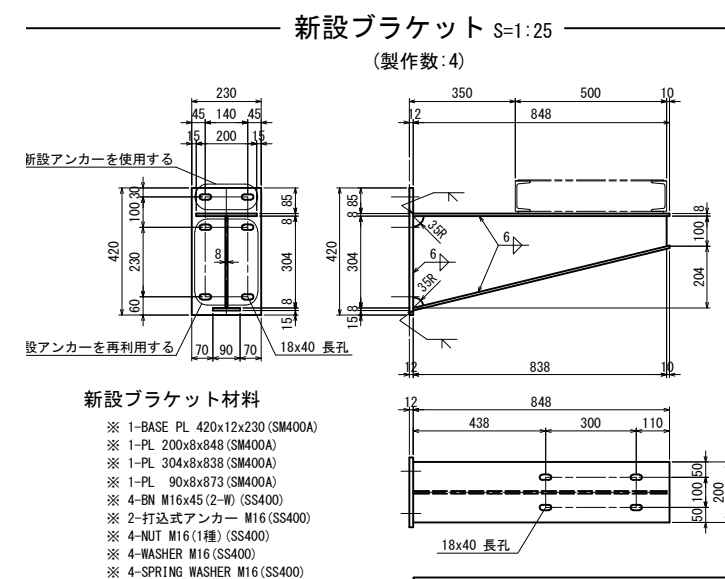
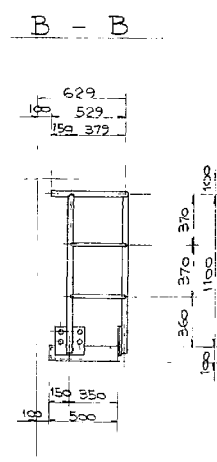
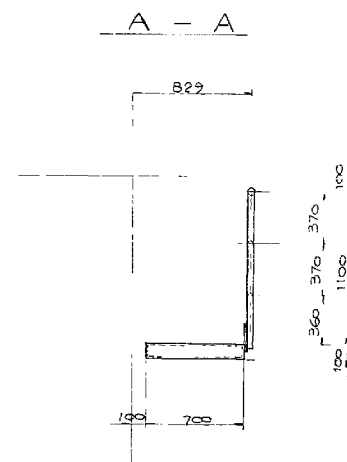
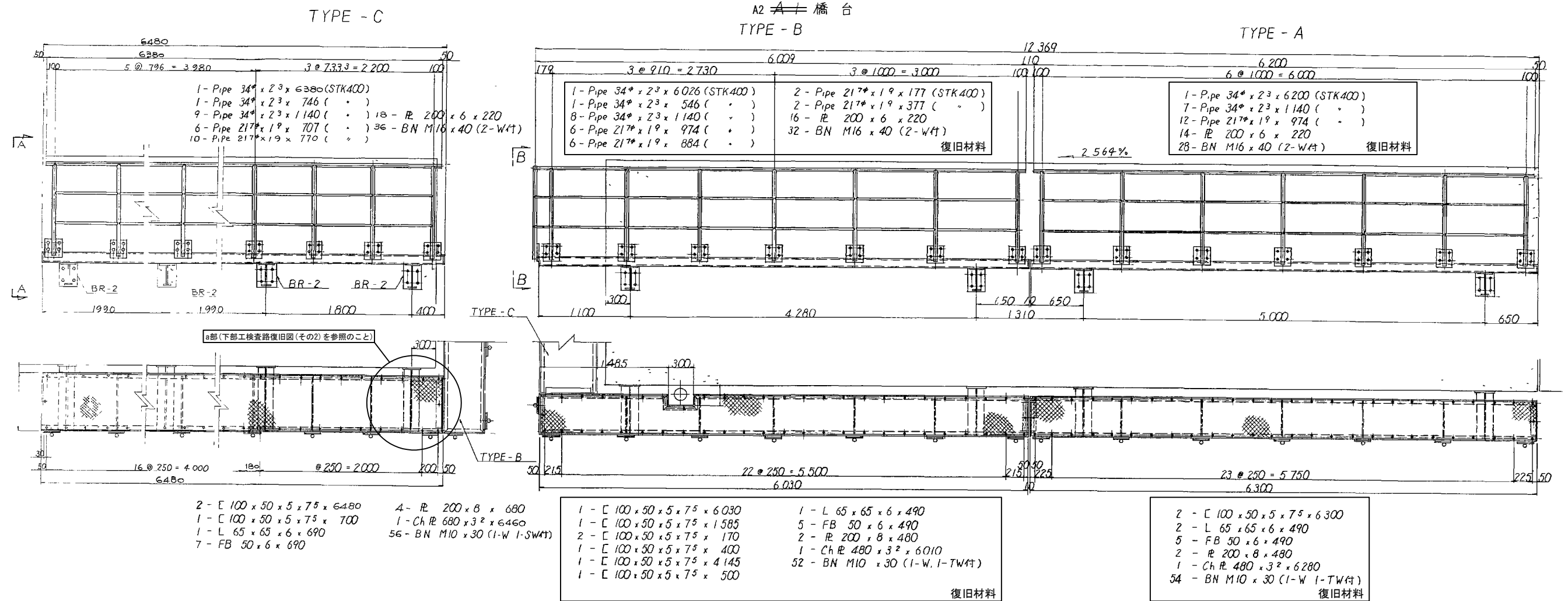
A部詳細 縮尺 1/2

配置図
A2橋台

- 注)
- 特記なし材料は全てSS400とする。
 - 部材は全て溶融亜鉛メッキを施す。
(仕量はJIS H8641 HDZ35Cとする。
但しボルトはHDZ35Aとする。)
 - 特記なしブラケットはBR-1とする。

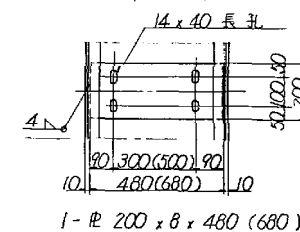
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋 下部工検査路撤去図(その4)	図面番号	/
縮尺	図示	設計会社名	日本工営株式会社
施工会社名	東日本高速道路 株式会社	事務所名	関東支社 市原管理事務所

A2橋台 - 1(既設下部工検査路復旧図)

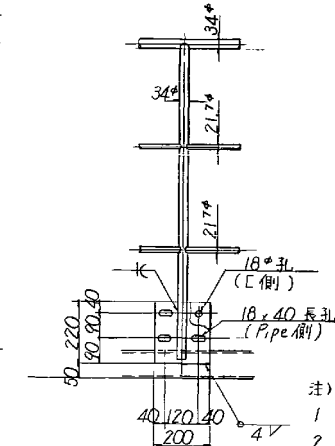
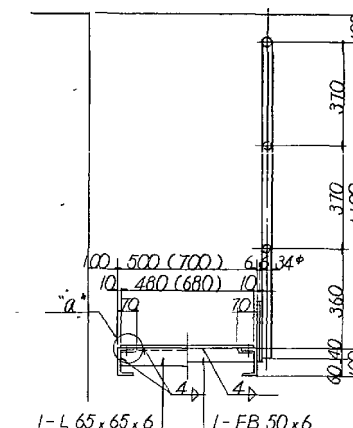


- 注記
- 現場実測後、製作、施工すること。
 - 新設ブラケットのアンカーは、既設アンカーを再利用すること。
但し、再利用の際もナット、座金については、新設部材を使用すること。
なお、既設アンカーを再利用する際は、既設アンカーの健全性を確認し、健全性が確保出来ない場合は、新設アンカーに変更すること。
 - ※印付部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZ777 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZ749とする。
 - 検査路とブラケットを付付ける新設BNは、ゆるみ止めナットを使用すること。
 - 新設打込式アンカーの埋込長は、60mmを標準とする。

歩廊取付板

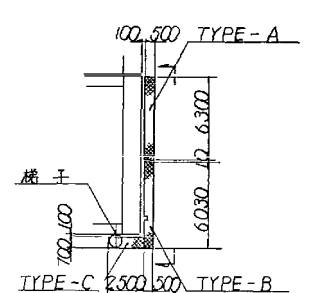


歩廊断面図 縮尺 1/10



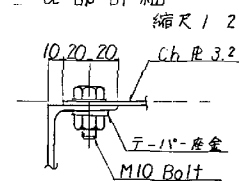
配置図

A1橋台



- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする
 - 部材は全て溶融亜鉛メッキを施す。
(付着量は JIS H 8641 HDZ35Cとする。
但しボルト、ナットはHDZ35Aとする)
 - 特記なきブラケットはBR-1とする。

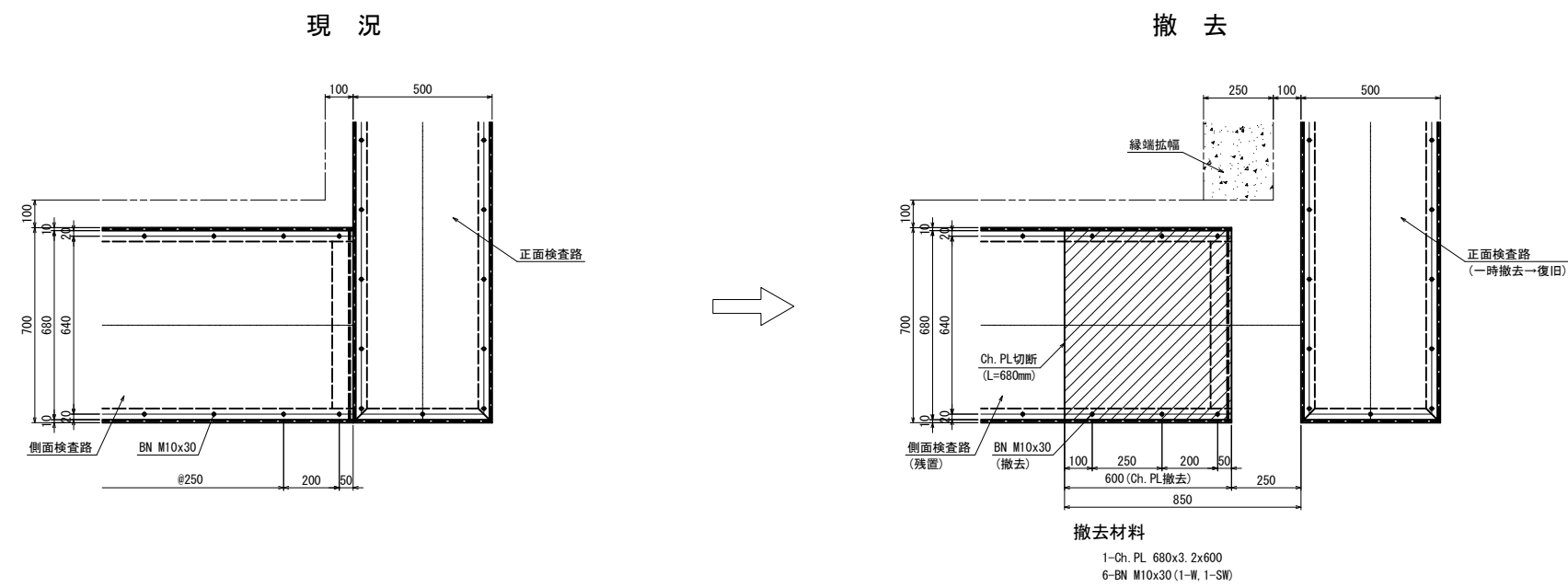
Q部詳細



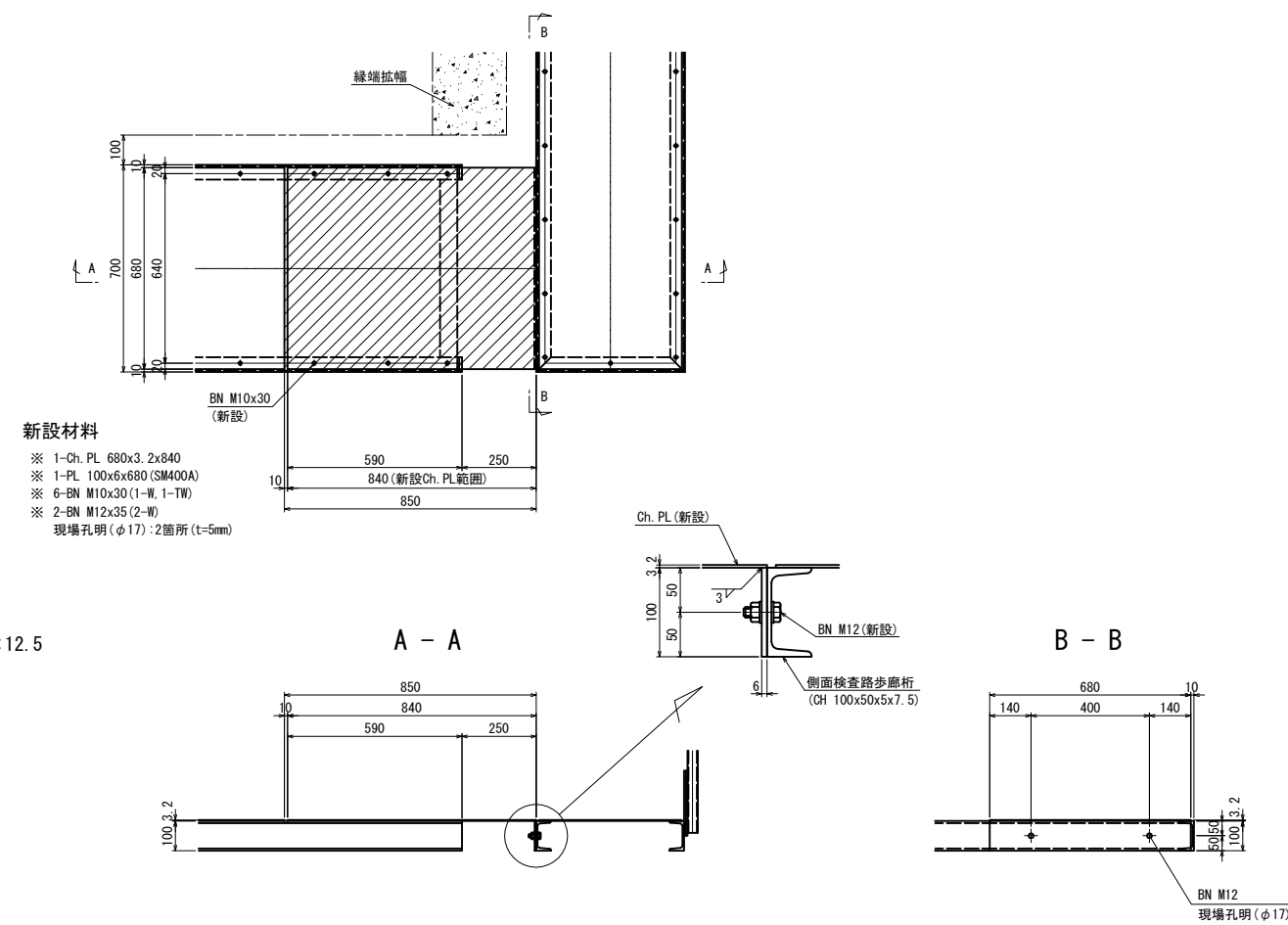
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋 下部工検査路復旧図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

A2橋台 - 2(既設下部工検査路改築図)

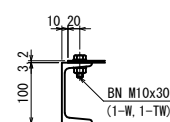
a部詳細



改 築 後



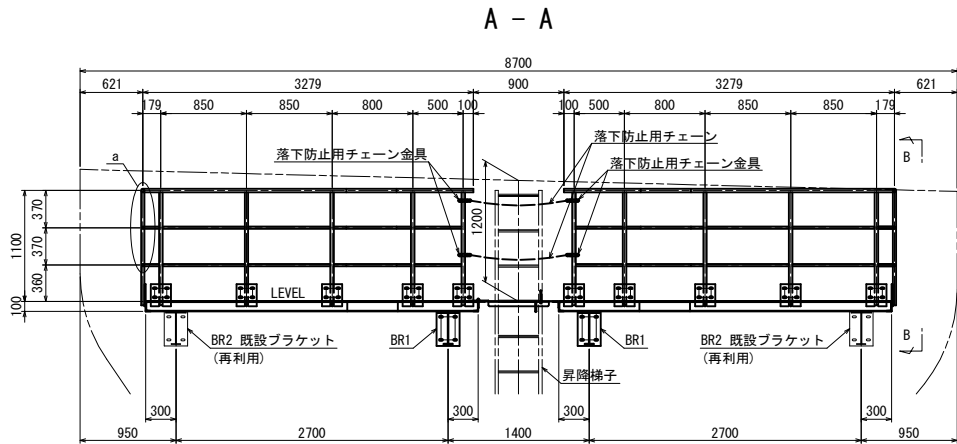
新設Ch. PL取付部詳細 S=1:12.5



- 注記
1. 現場実測後、製作、施工すること。
 2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
 3. ナットは、全てゆるみ止めナットを使用すること。
 4. ※印付部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT777 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材 (チェッカープレートを含む) は、HDZT49とする。
 5. 溶融亜鉛メッキを施した部材の切断された面には、高濃度亜鉛末塗料で補修する等の処置を施すこと。

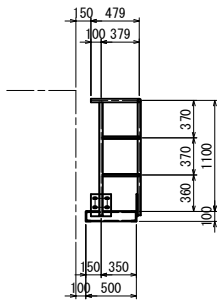
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋 下部工検査路復旧図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P11～P7及びP3, P1橋脚 (新設下部工検査路図)



- 1-PIPE φ34x2.3x2042 (STK400)
1-PIPE φ34x2.3x652 (STK400)
1-PIPE φ34x2.3x766 (STK400)
5-PIPE φ34x2.3x1140 (STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x177 (STK400)
4-PIPE φ21.7x1.9x824 (STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x131 (STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x648 (STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x151 (STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x474 (STK400)
10-PL 200x6x220
20-BN M16x40 (2-W)
- 1-PIPE φ34x2.3x766 (STK400)
1-PIPE φ34x2.3x652 (STK400)
1-PIPE φ34x2.3x2042 (STK400)
5-PIPE φ34x2.3x1140 (STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x177 (STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x151 (STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x648 (STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x131 (STK400)
4-PIPE φ21.7x1.9x824 (STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x177 (STK400)
10-PL 200x6x220
20-BN M16x40 (2-W)

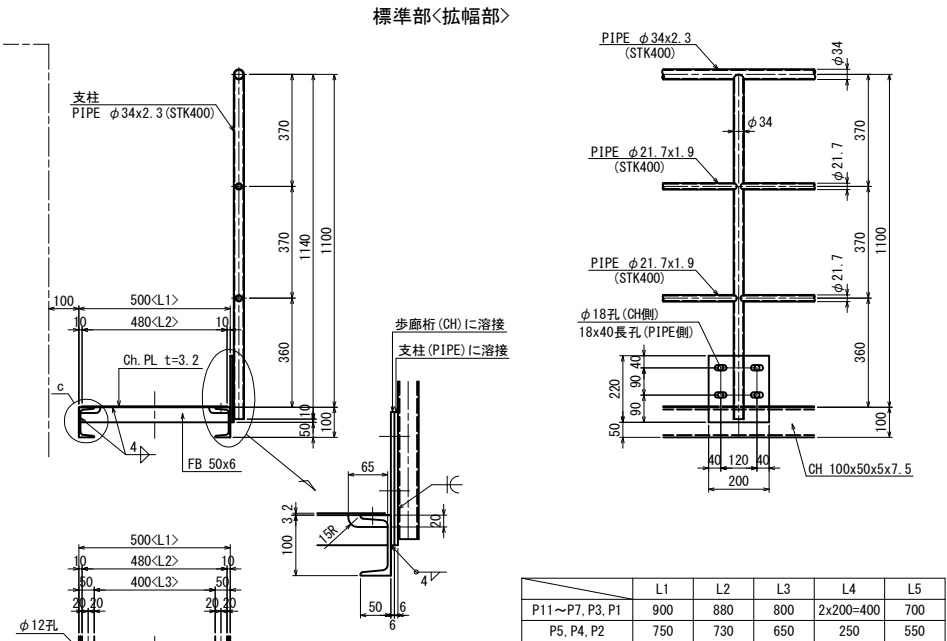
B - B



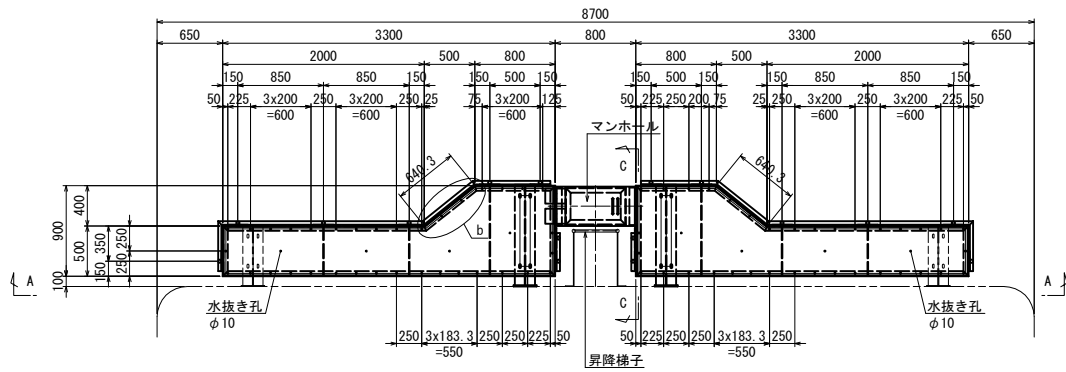
- (製作数:2)
- 1-PIPE φ34x2.3x496 (STK400)
1-PIPE φ34x2.3x1140 (STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x377 (STK400)
2-PL 200x6x220
4-BN M16x40 (2-W)

P11～P7, P5～P1橋脚 (新設下部工検査路詳細図-1)

手摺及び歩廊詳細 S=1:25

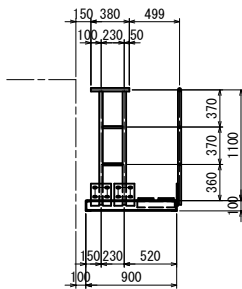


平面図



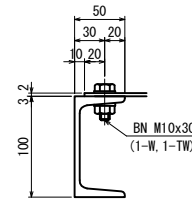
- 1-CH 100x50x5x7.5x2018
1-CH 100x50x5x7.5x658
1-CH 100x50x5x7.5x800
1-CH 100x50x5x7.5x3300
1-CH 100x50x5x7.5x500
1-CH 100x50x5x7.5x900
2-FB 50x6x490
1-FB 50x6x890
1-Ch, PL 880x3.2x3280
1-PL 200x8x480
1-PL 200x8x880
35-BN M10x30 (1-W, 1-TW)
- 1-CH 100x50x5x7.5x800
1-CH 100x50x5x7.5x658
1-CH 100x50x5x7.5x2018
1-CH 100x50x5x7.5x3300
1-CH 100x50x5x7.5x900
1-CH 100x50x5x7.5x500
2-FB 50x6x890
1-Ch, PL 880x3.2x3280
1-PL 200x8x880
1-PL 200x8x480
35-BN M10x30 (1-W, 1-TW)

C - C

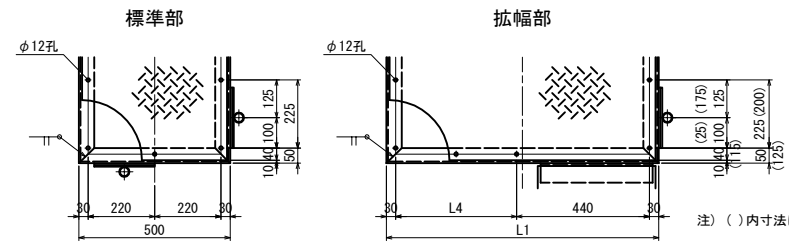


- (製作数:2)
- 1-PIPE φ34x2.3x380 (STK400)
2-PIPE φ34x2.3x1140 (STK400)
2-PIPE φ21.7x1.9x204 (STK400)
4-PL 200x6x220
8-BN M16x40 (2-W)

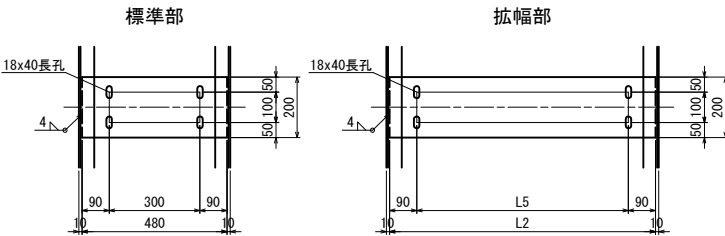
c部詳細 S=1:7.5



歩廊端部詳細 S=1:25

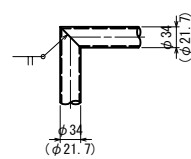


ブラケット取付板詳細 S=1:25

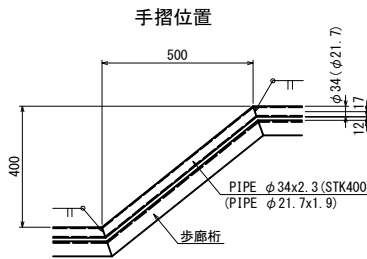
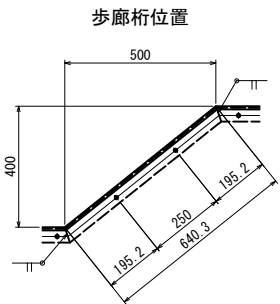


- 注記
1. 現場実測後、製作、施工すること。
 2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
 3. ナットは、全てゆるみ止めナットを使用すること。
 4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT77 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材 (チェッカープレートを含む) は、HDZT49とする。
 5. マンホール詳細、落下防止用チェーン金具詳細およびブラケット詳細は、「戸田高架橋 下部工検査路復旧図(その4)」を参照のこと。
 6. 昇降梯子は「昇降梯子図」を参照のこと。

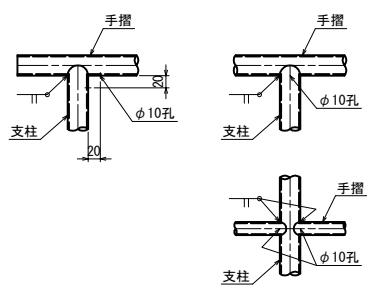
a部詳細 S=1:12.5



b部詳細 S=1:25



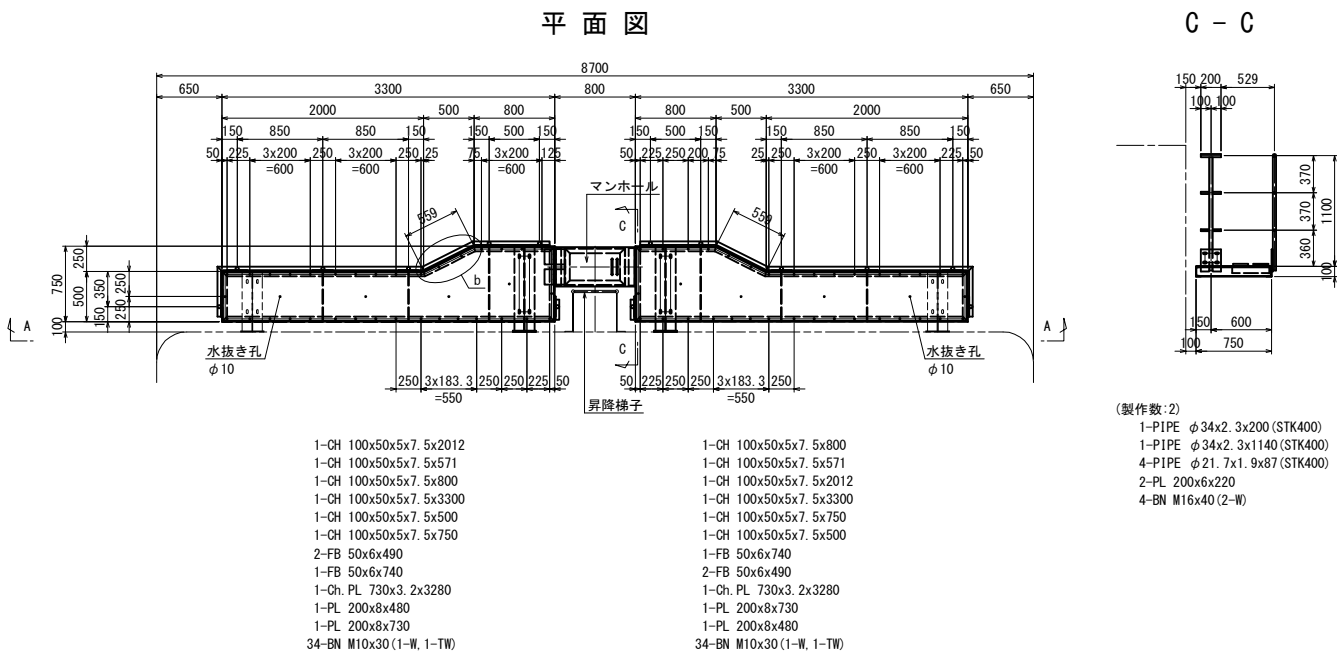
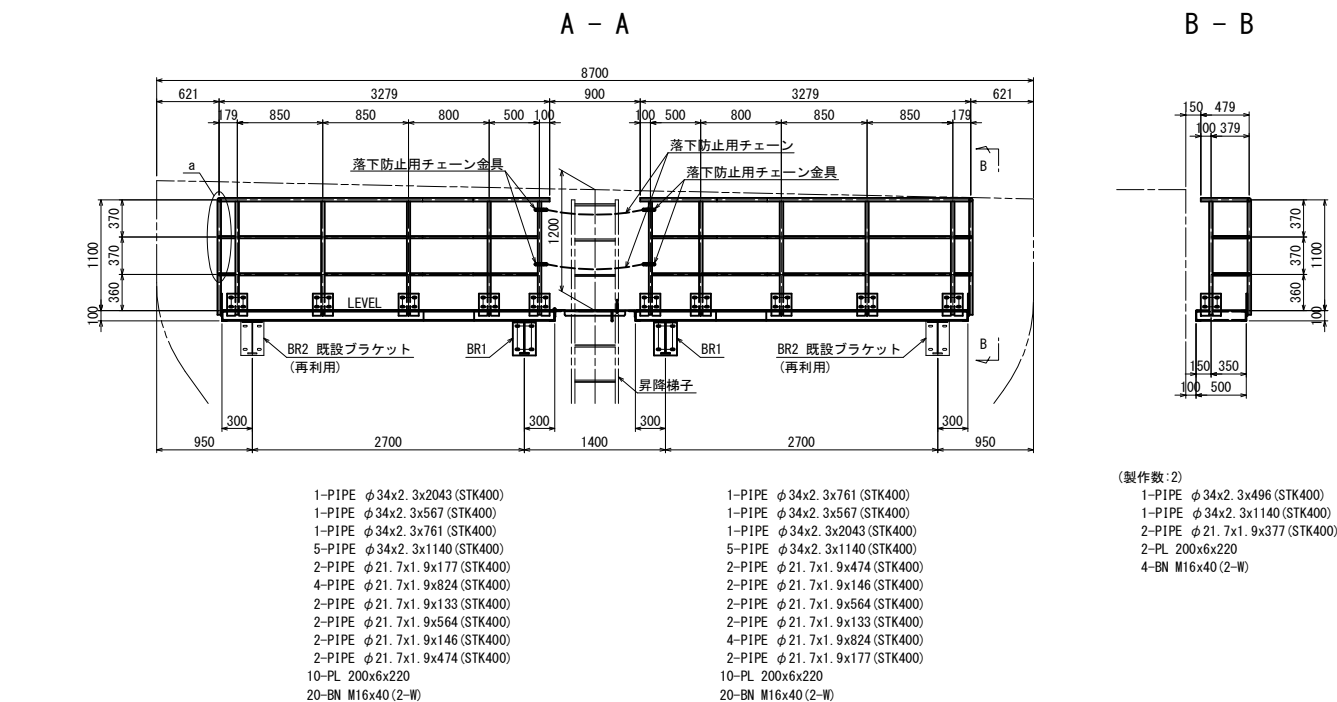
支柱及び手摺メッキ用空気孔詳細 S=1:12.5



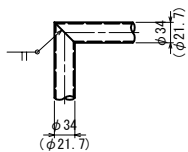
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋 下部工検査路復旧図(その3)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P4, P2橋脚 (新設下部工検査路図)

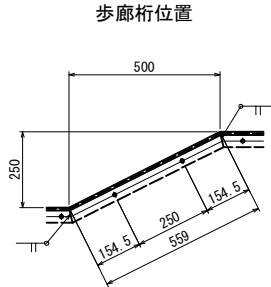
P11~P7, P5~P1橋脚 (新設下部工検査路詳細図-2)



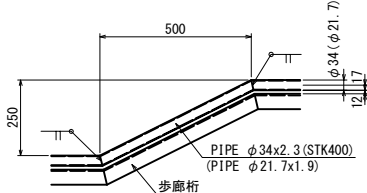
a部詳細 S=1:12.5



b部詳細 S=1:25

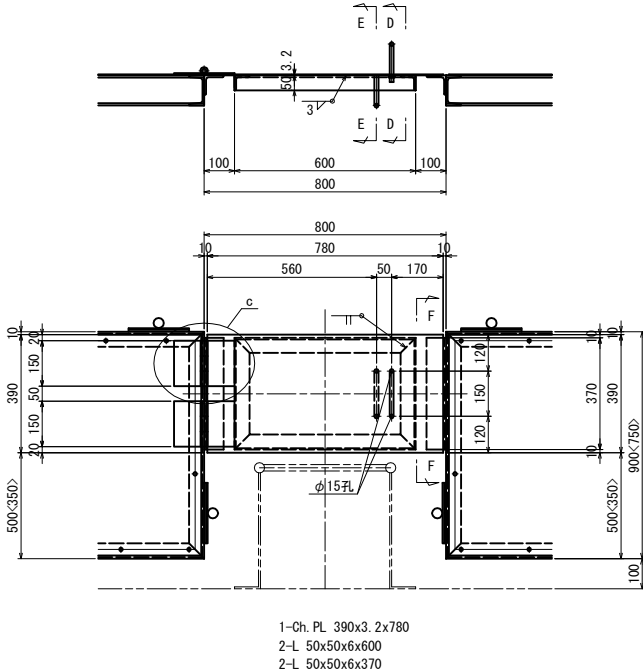


手摺位置

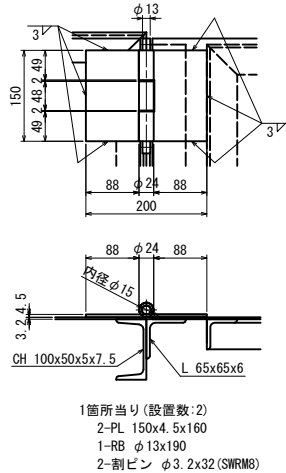


マンホール詳細 S=1:25

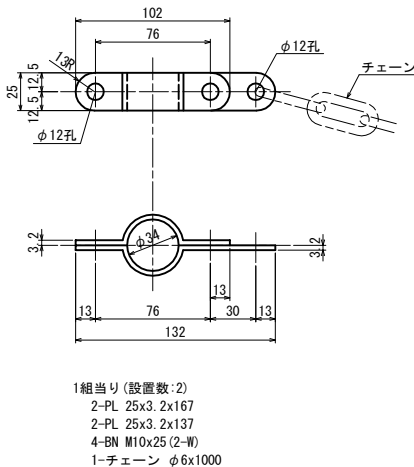
P11~P7, P3, P1<P5, P4, P2>
(製作数:各1)



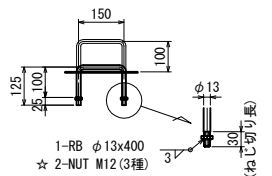
c部詳細 S=1:12.5



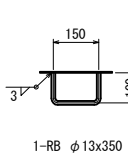
落下防止用チェーン金具詳細 S=1:5



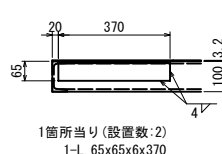
D - D S=1:25



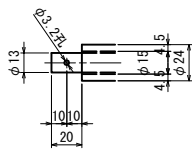
E - E S=1:25



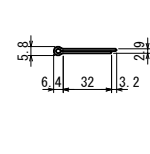
F - F S=1:25



ピン端部詳細 S=1:5

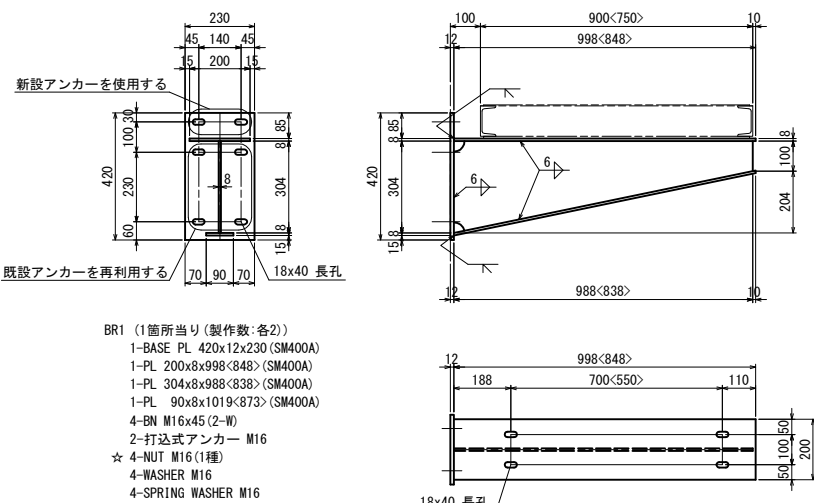


割ピン詳細 S=1:5



ブラケット S=1:25

P11~P7, P3, P1<P5, P4, P2>



- 注記
- 現場実測後、製作、施工すること。
 - ブラケットのアンカーは、既設アンカーを再利用する。
但し、再利用の際もナット、座金については、新設部材を使用する。
なお、既設アンカーを再利用する際は、既設アンカーの健全性を確認し、健全性が確保出来ない場合は、新設アンカーに変更すること。
 - 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - 特記なきスカーラップは、35Rとする。
 - ☆印付以外のナットは、全てゆるみ止めナットを使用すること。
 - 部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT77 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材 (チェッカープレートを含む) は、HDZT49とする。
 - 打込式アンカーボルトの埋込長は、60mmを標準とする。
 - 手摺及び歩廊関連の詳細は、「戸田高架橋 下部工検査路復旧図(その3)」を参照のこと。
 - 昇降梯子は「昇降梯子図」を参照のこと。

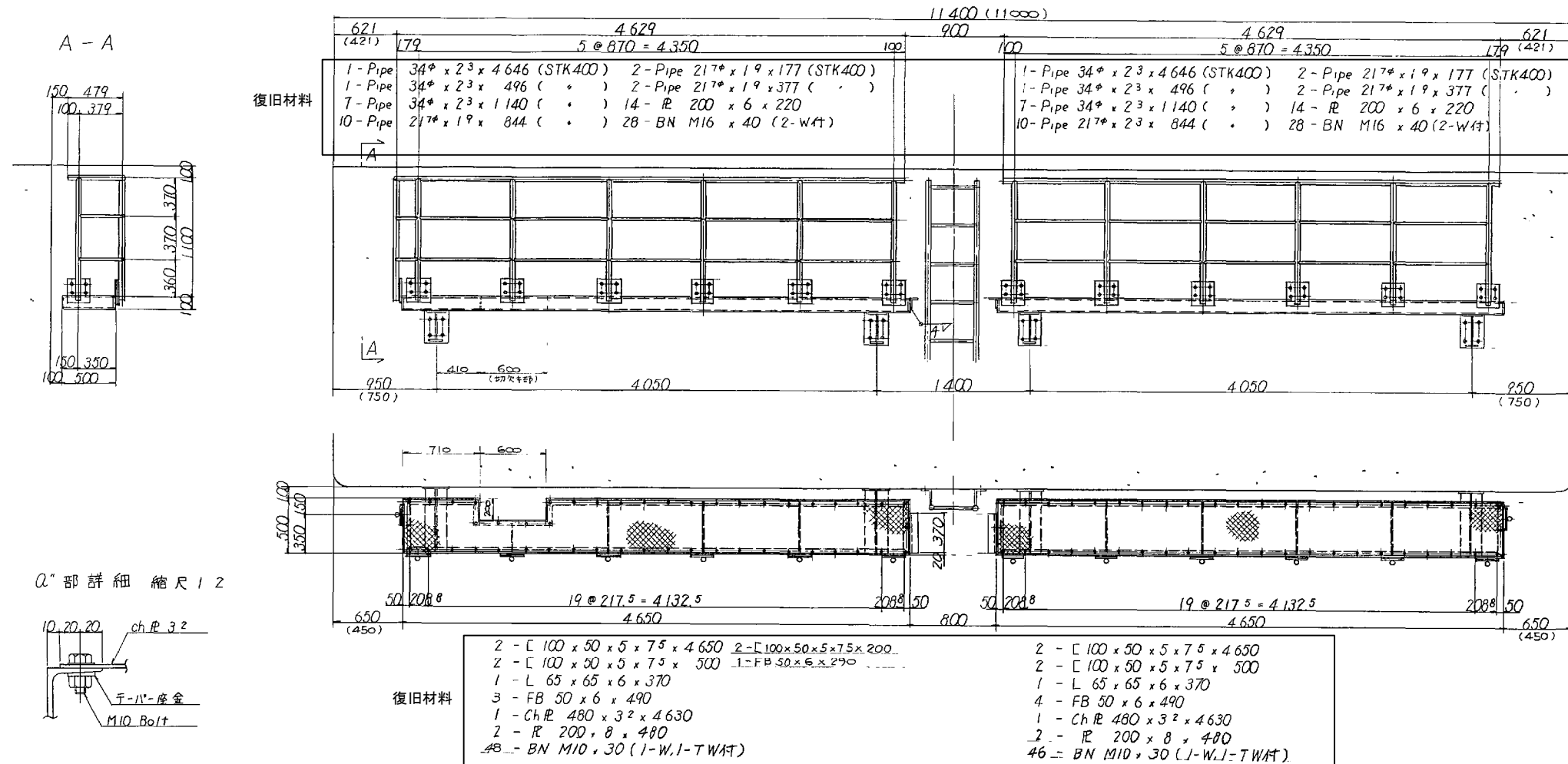
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋 下部工検査路復旧図(その4)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P6橋脚(既設下部工検査路復旧図)

P6橋脚

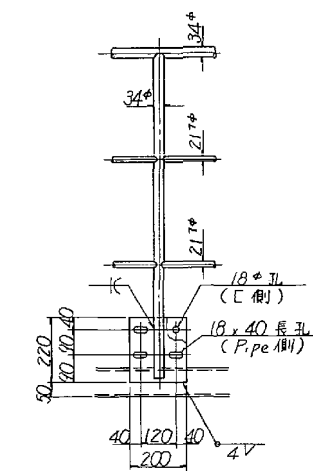
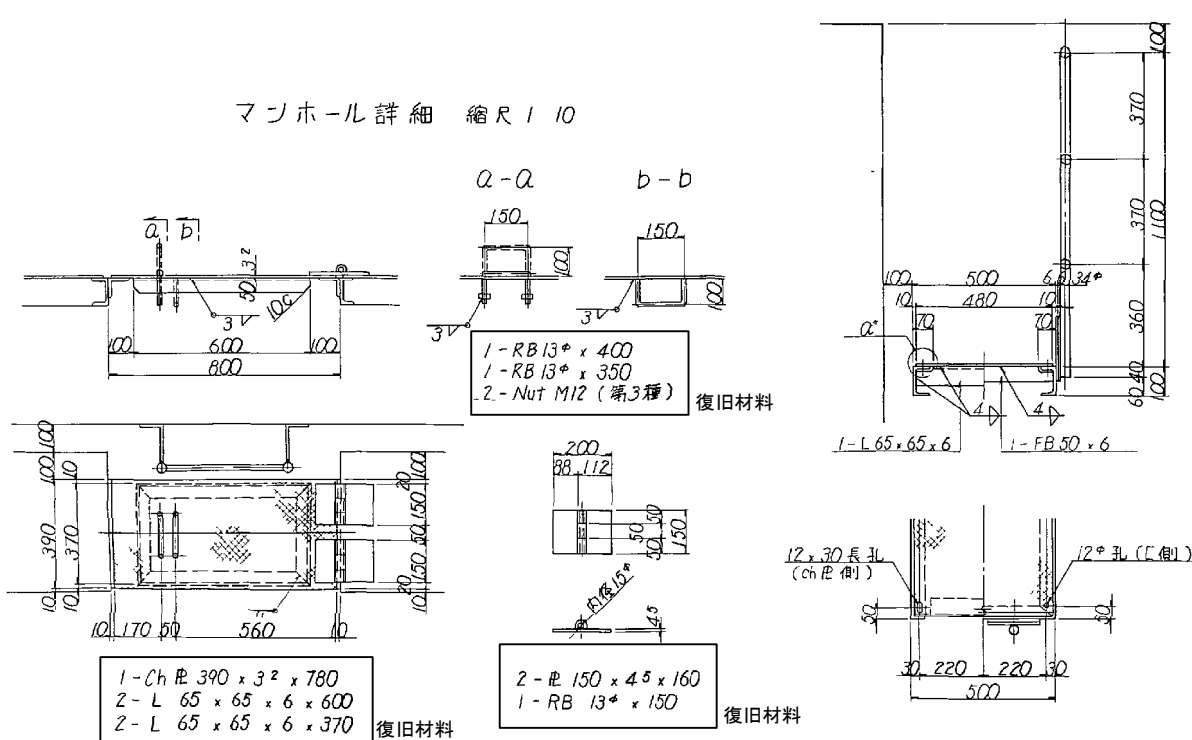
TYPE - E

TYPE - E



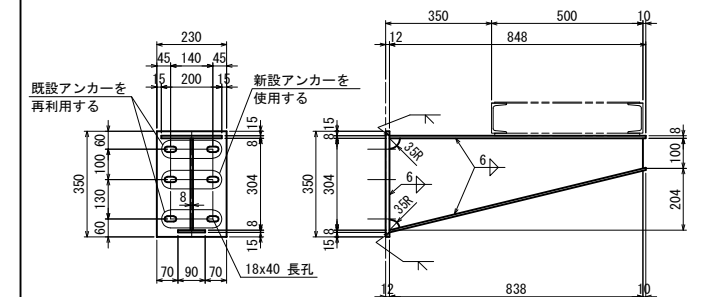
歩廊断面図 縮尺 1/10

マンホール詳細 縮尺 1/10



新設ブラケット S=1:25

(製作数:4)



新設ブラケット材料

- ※ 1-BASE PL 350x12x230 (SM400A)
- ※ 1-PL 200x8x848 (SM400A)
- ※ 1-PL 304x8x838 (SM400A)
- ※ 1-PL 90x8x873 (SM400A)
- ※ 4-BN M16x45 (2-W) (SS400)
- ※ 2-打込式アンカー M16 (SS400)
- ※ 4-NUT M16 (1種) (SS400)
- ※ 4-WASHER M16 (SS400)
- ※ 4-SPRING WASHER M16 (SS400)

注記

- 現場実測後、製作、施工すること。
- 新設ブラケットのアンカーは、既設アンカーを再利用する。
但し、再利用の際もナット、座金については、新設部材を使用すること。
なお、既設アンカーを再利用する際は、既設アンカーの健全性を確認し、健全性が確保出来ない場合は、新設アンカーに変更すること。
- ※ 印付部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT77 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
- 検査路とブラケットを取付ける新設BNは、ゆるみ止めナットを使用すること。
- 新設打込式アンカーの埋込長は、60mmを標準とする。

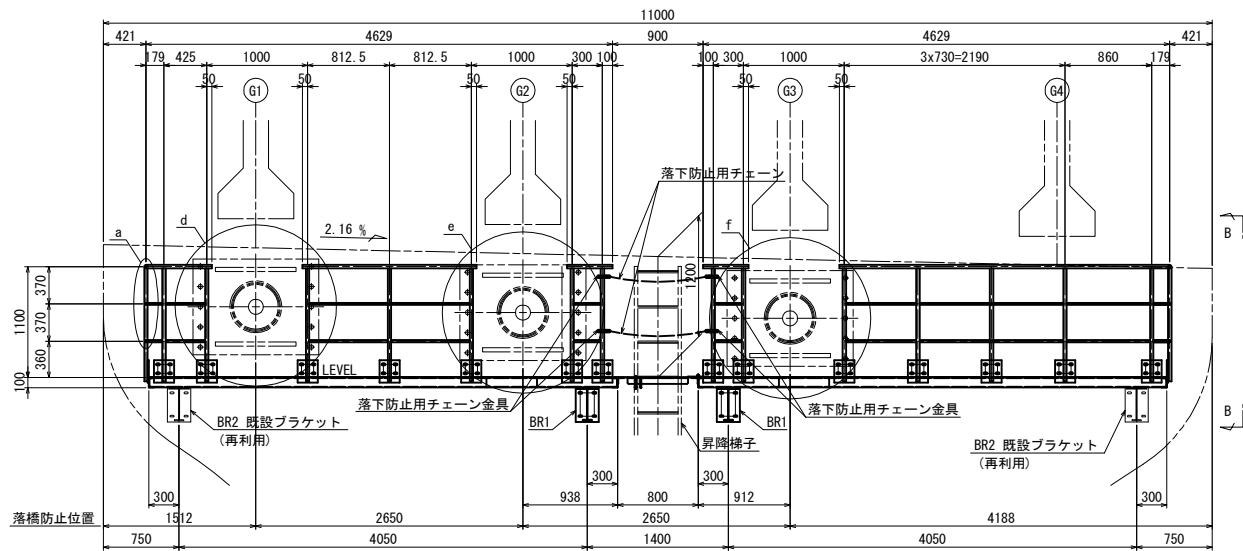
注)

- 特記なき材質は全てSS400とする
- 部材は全て溶融亜鉛メッキを施す
メッキ量はJIS H8641 HDZ35Cとする
但しボルト、ナットはHDZ35Aとする

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋 下部工検査路復旧図(その5)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P5橋脚(新設下部工検査路図)

A - A

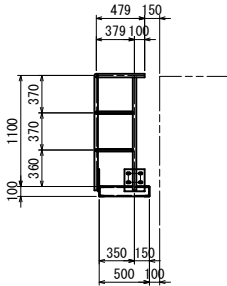


1-PIPE φ34x2. 3x671 (STK400)
1-PIPE φ34x2. 3x1725 (STK400)
1-PIPE φ34x2. 3x450 (STK400)
7-PIPE φ34x2. 3x1140 (STK400)
2-PIPE φ21. 7x1. 9x177 (STK400)
2-PIPE φ21. 7x1. 9x399 (STK400)
4-PIPE φ21. 7x1. 9x786 (STK400)
2-PIPE φ21. 7x1. 9x274 (STK400)
14-PL 200x6x220
28-BN M16x40 (2-W)

1-PIPE φ34x2. 3x450 (STK400)
1-PIPE φ34x2. 3x3296 (STK400)
7-PIPE φ34x2. 3x1140 (STK400)
2-PIPE φ21. 7x1. 9x274 (STK400)
6-PIPE φ21. 7x1. 9x704 (STK400)
2-PIPE φ21. 7x1. 9x834 (STK400)
2-PIPE φ21. 7x1. 9x177 (STK400)
14-PL 200x6x220
28-BN M16x40 (2-W)

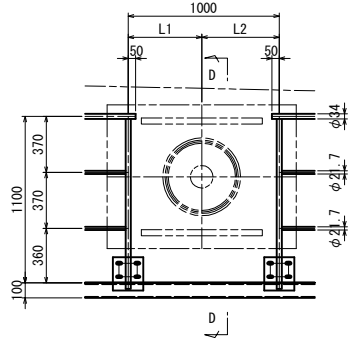
平面図

B - B

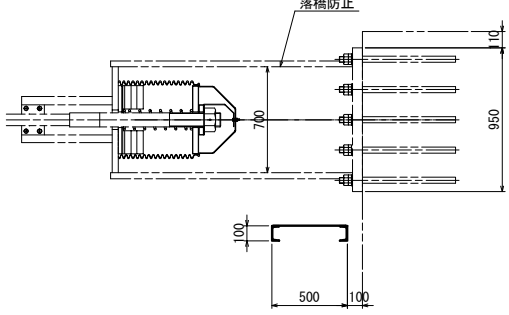


(製作数:2)
1-PIPE φ34x2. 3x496 (STK400)
1-PIPE φ34x2. 3x1140 (STK400)
2-PIPE φ21. 7x1. 9x377 (STK400)
4-BN M16x40 (2-W)

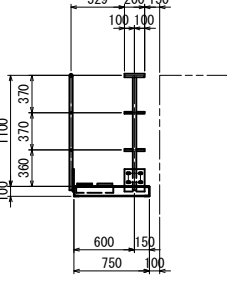
d~f部詳細 S=1:50



D - D S=1:50

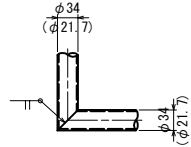


C - C

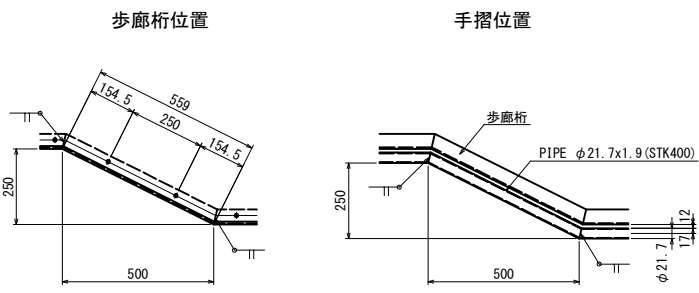


(製作数:2)
1-PIPE φ34x2. 3x200 (STK400)
1-PIPE φ34x2. 3x1140 (STK400)
4-PIPE φ21. 7x1. 9x87 (STK400)
2-PL 200x6x220
4-BN M16x40 (2-W)

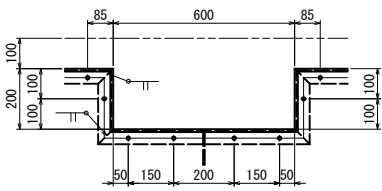
a部詳細 S=1:25



b部詳細 S=1:25



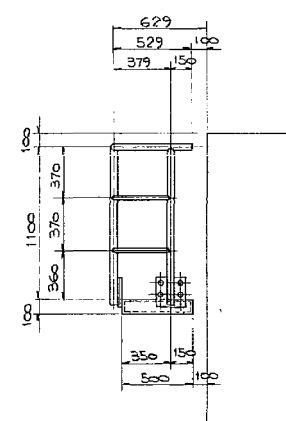
c部詳細 S=1:25



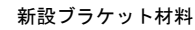
注記
1. 現場実測後、製作、施工すること。
2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
3. 部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
垂鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT77 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材
(チェッカープレートを含む)は、HDZT49とする。
4. 各部詳細は、「戸田高架橋 下部工検査路復旧図(その3,4)」
を参照のこと。
5. 昇降梯子は「昇降梯子図」を参照のこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋 下部工検査路復旧図(その6)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

A1 ~~A-2~~ 橋台
TYPE - B

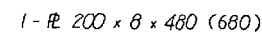


(製作数:4)



- ※ 1-BASE PL 420x12x230 (SM400A)
- ※ 1-PL 200x8x848 (SM400A)
- ※ 1-PL 304x8x838 (SM400A)
- ※ 1-PL 90x8x873 (SM400A)
- ※ 4-BN M16x45 (2-W) (SS400)
- ※ 2-打込式アンカー M16 (SS400)
- ※ 4-NUT M16 (1種) (SS400)
- ※ 4-WASHER M16 (SS400)
- ※ 4-SPRING WASHER M16 (SS400)

14 x 40 長孔



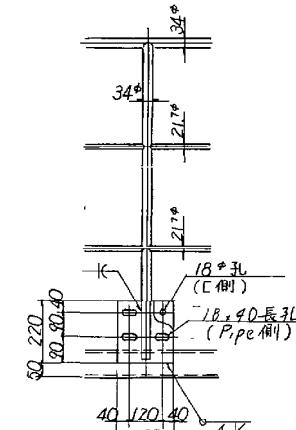
Technical drawing of a window frame assembly. The drawing shows a cross-section of the frame with various dimensions and material specifications.

Dimensions (mm):

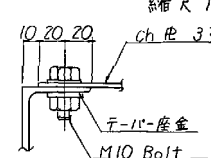
- Overall height: 1400
- Height of the upper sash: 370
- Height of the lower sash: 370
- Height of the bottom rail: 60
- Width of the frame: 600 (700)
- Width of the lower sash: 480 (680)
- Width of the bottom rail: 40
- Radius of the bottom rail: R40
- Radius of the lower sash: R40
- Radius of the frame: R40

Material specifications:

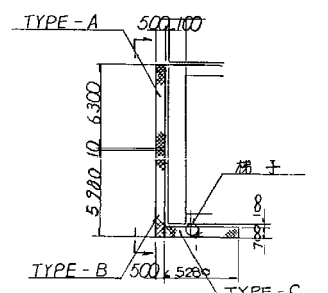
- 1-L 65x65x6
- 1-FB 50x6



α" 部 詳 細
縮 尺 1.2



A2 橋台



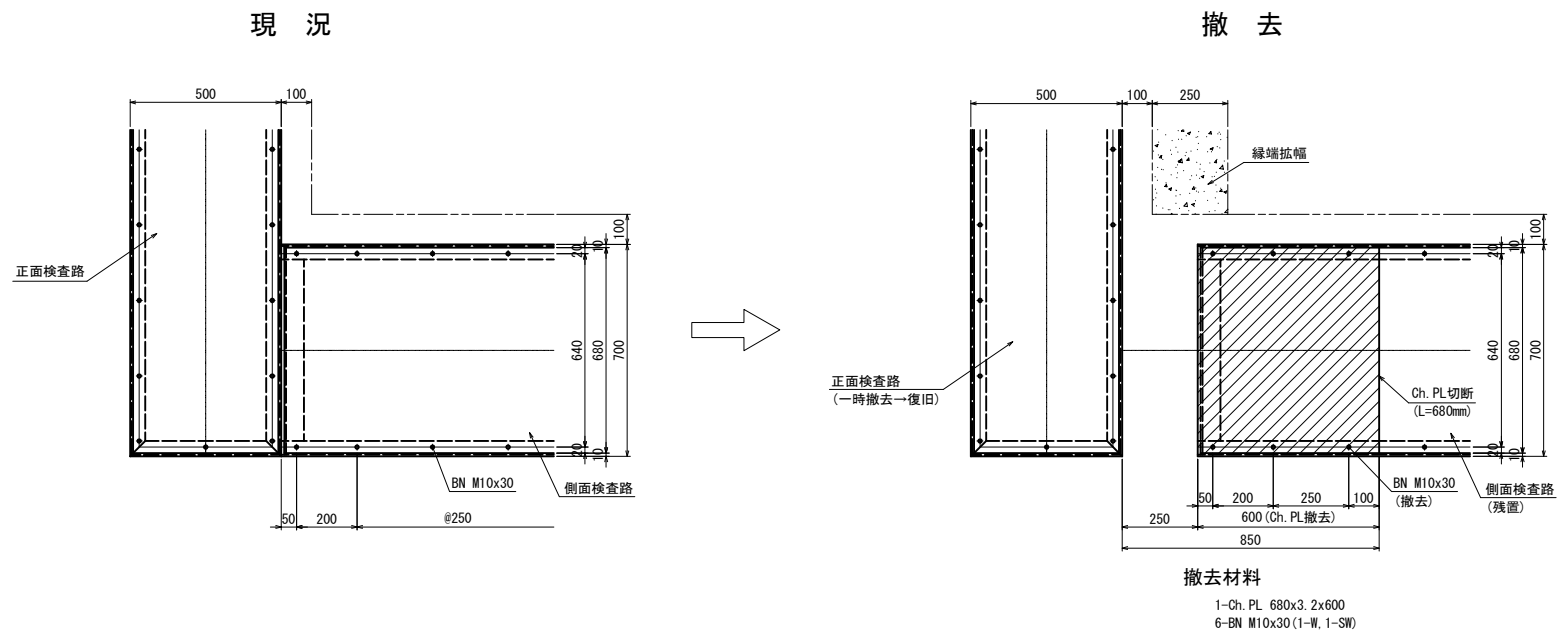
- 注記

1. 現場実測後、製作・施工すること。
2. 新設ブラケットのアンカーは、既設アンカーを再利用する。
但し、再利用の際もナット、座金については、新設部材を使用すること。
なお、既設アンカーを再利用する際は、既設アンカーの腐蝕性を確認し、健全性が確保出来ない場合は、新設アンカーに変更すること。
- ※印付部材は、全て溶融亜鉛めっきを施す。
垂鉛の厚度は JIS H 8641 HDZ777 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚 3.2mm未満の部材は、HDZ749 とする。
4. 検査道とブラケットを接続する既設新設は、ゆるみ止めナットを使用すること
5. 新設円板式アンカーの埋込長さ、60mmを標準とする。

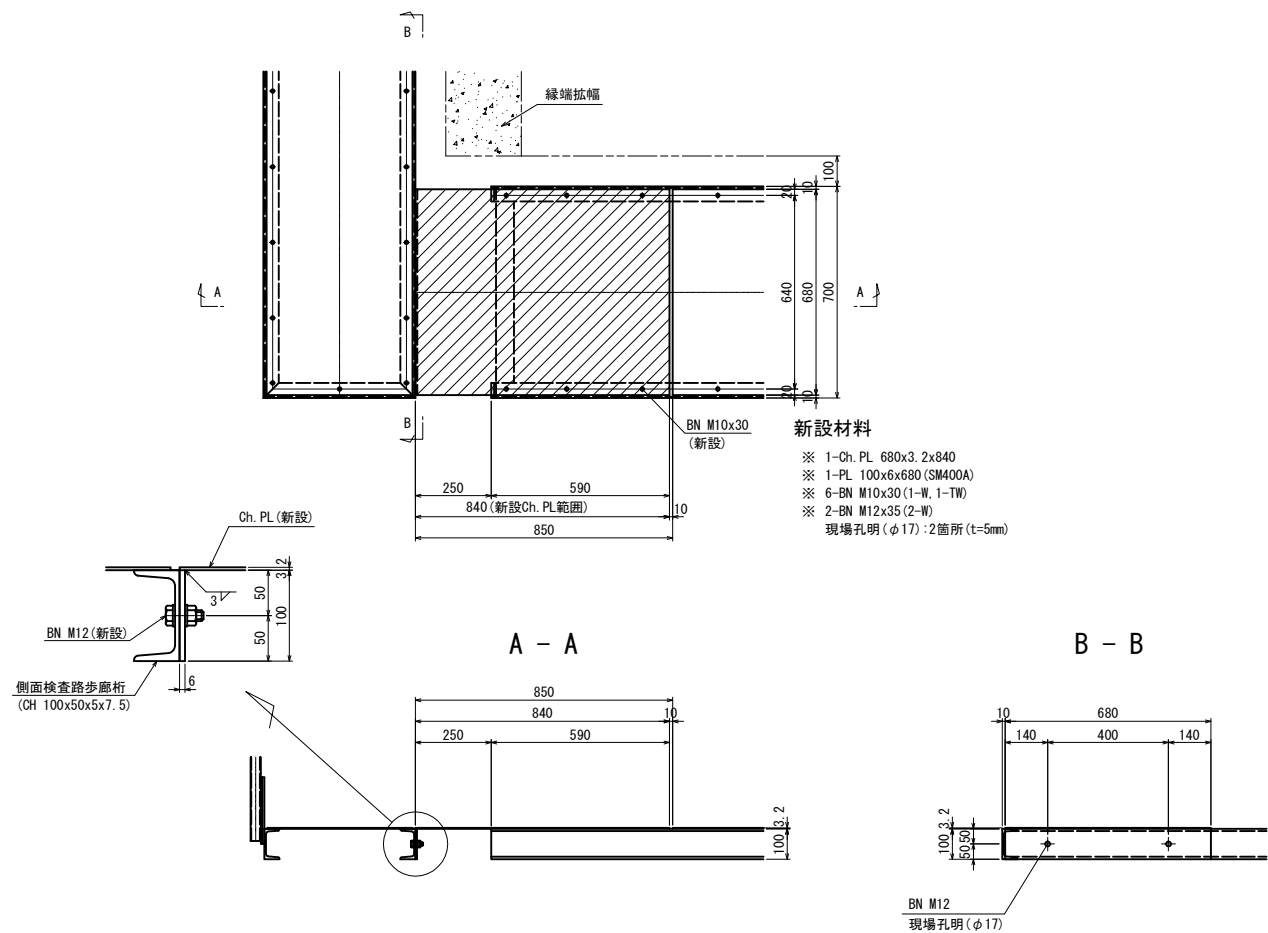
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋 下部工検査後復旧図(その7)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

A1橋台 - 2(既設下部工検査路改築図)

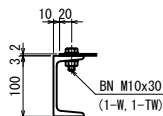
a部詳細



改 築 後



新設Ch. PL取付部詳細 S=1:12.5

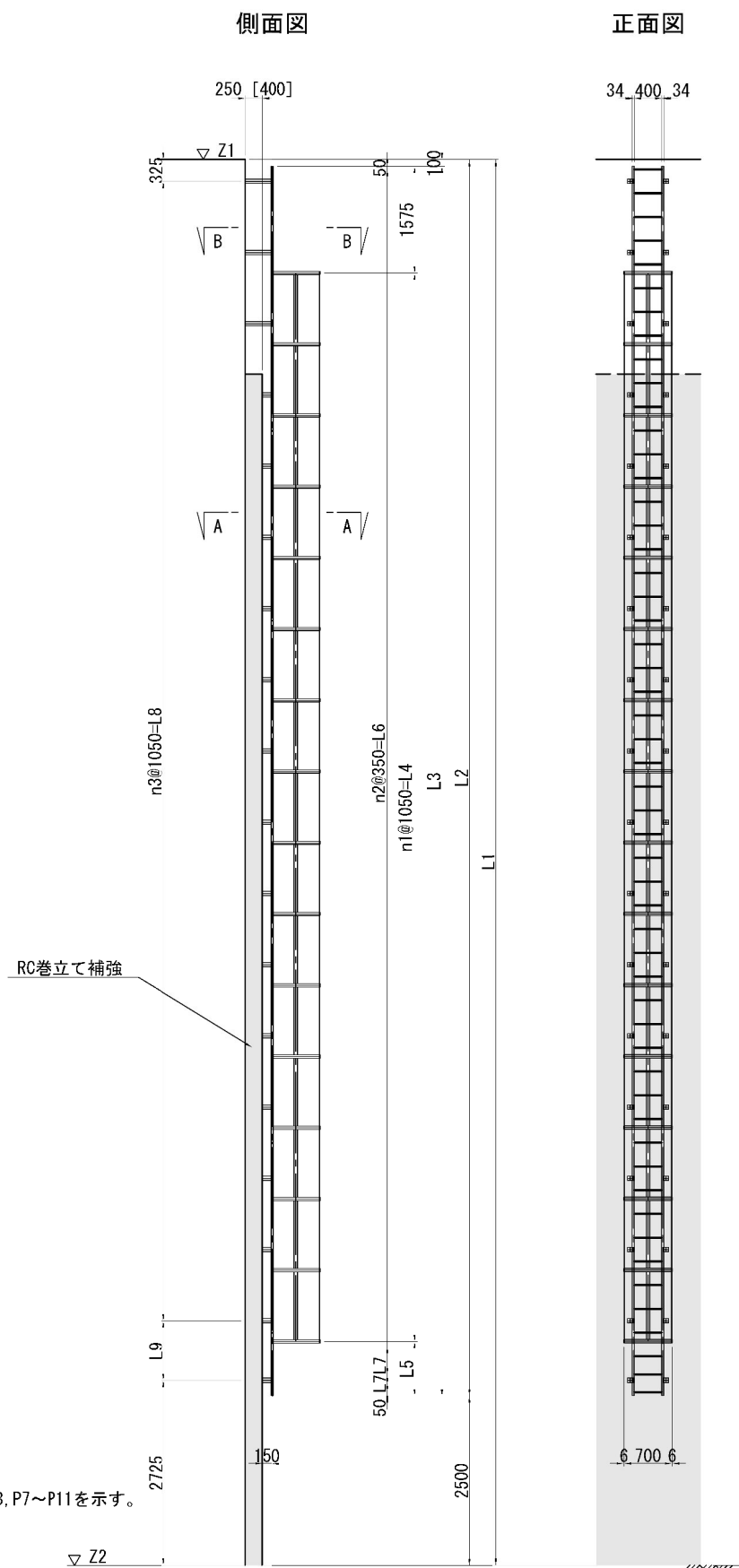


- 注記
1. 現場実測後、製作、施工すること。
 2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
 3. ナットは、全てゆるみ止めナットを使用すること。
 4. ※印付部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
垂鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT77 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材 (チェッカープレートを含む) は、HDZT49とする。
 5. 溶融亜鉛メッキを施した部材の切断された面には、高濃度亜鉛末塗料で補修する等の処置を施すこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋 下部工検査路復旧図(その8)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

昇降設備 撤去

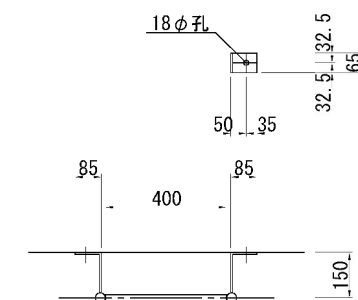
昇降設備 復旧



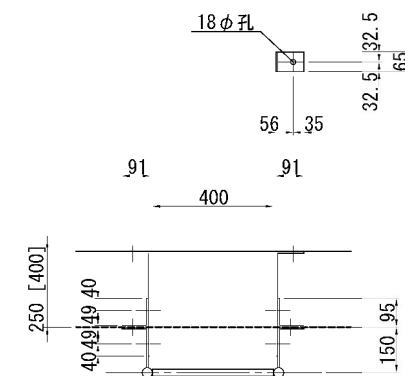
凡例
 : RC巻立て補強

	L7	n3	L8	L9	L10	L11	n4	n5	n6
P1	293	14	14700	586	5736	13700	44	32	14
P2	312	14	14700	624	5774	13700	44	32	14
P3	272	15	15750	1244	7444	14750	49	34	15
P4	264	16	16800	878	8128	15800	51	36	16
P7	299. 5	15	15750	599	6799	14750	47	34	15
P8	269	14	14700	1238	6388	13700	46	32	14
P9	238. 5	14	14700	827	5977	13700	45	32	14
P10	247. 5	13	13650	845	4945	12650	42	30	13
P11	323. 5	11	11550	647	2647	10550	35	26	11

A - A



B - B



2 - Pipe 34 ϕ x 2.3 x 1000 (STK400)
2 - Pipe 34 ϕ x 2.3 x L10 (STK400)
n4 - RB 22 ϕ x 400
n5 - FB 65 x 6 x 218
n6 - FB 50 x 6 x 1784
3 - FB 50 x 6 x L11

n5 - ホールインアンカー M16

n5 - ホールインアンカー M16
3- FB 65 x 6 x 180
3- FB 65 x 6 x 436 [586]
9- BN M16 x 40

注)

1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

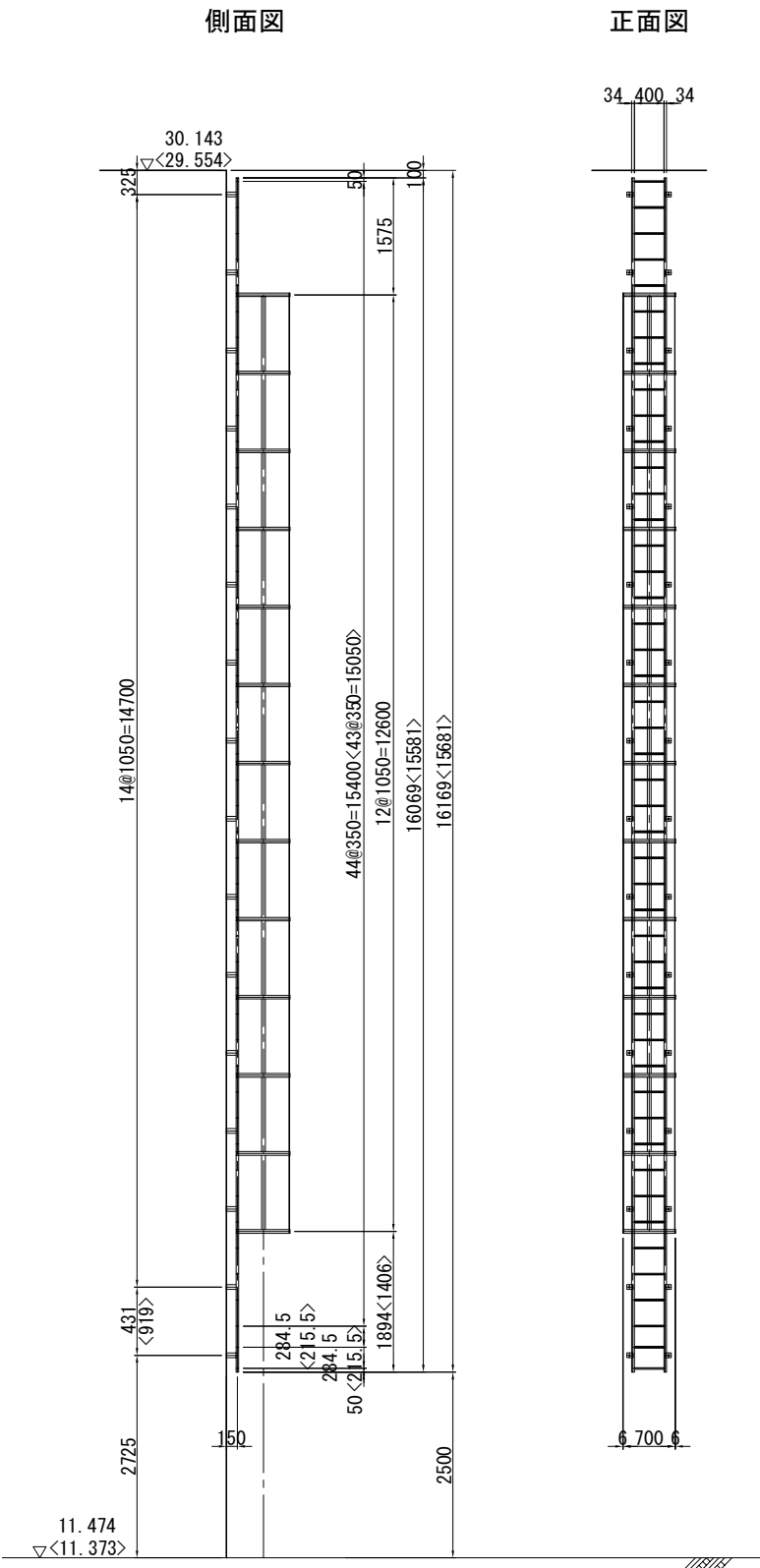
	首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事		
図面の種類	戸田高架橋 昇降設備撤去・復旧計画図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P5・P6橋脚

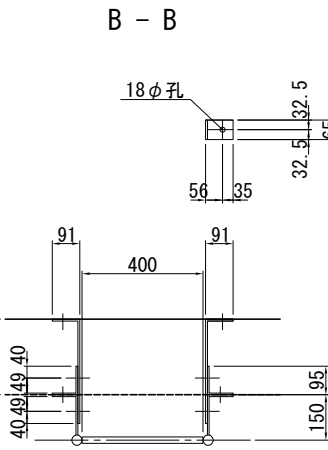
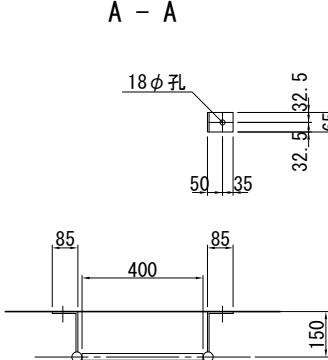
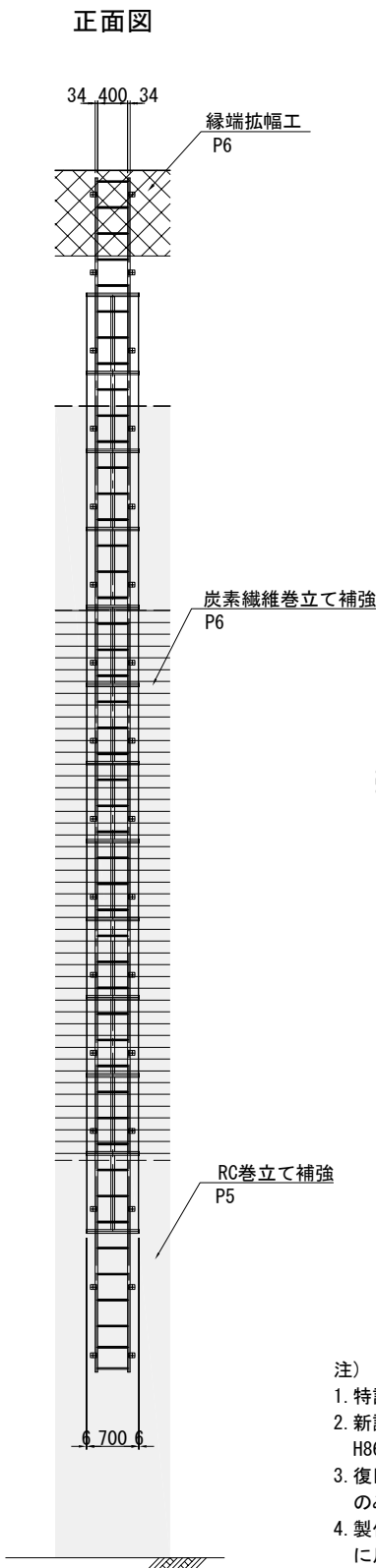
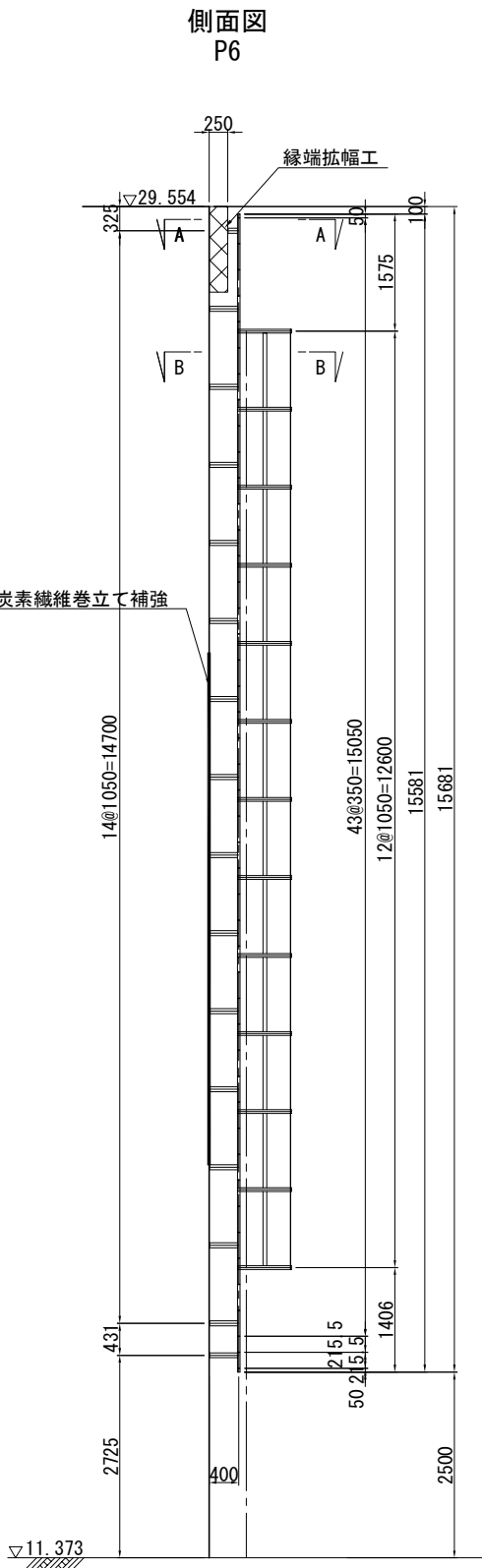
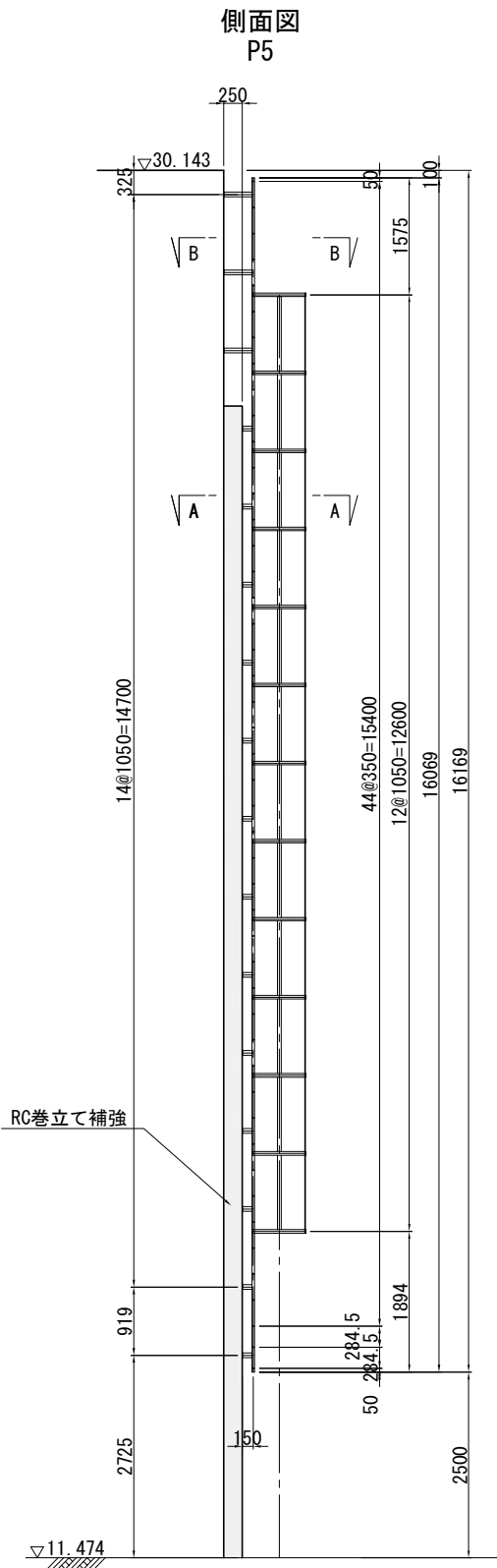
昇降設備 撤去

昇降設備 復旧

昇降設備断面図 S=1:25



注) < > はP6を示す。



- 一時撤去材料
- 2 - Pipe 34φ x 2.3 x 16069<15581>(STK400)
 - 45<44> - RB 22φ x 400
 - 32 - FB 65 x 6 x 218
 - 13 - FB 50 x 6 x 1784
 - 3 - FB 50 x 6 x 12650

- 撤去材料
- 32 - ホールインアンカー M16

- 新設材料
- 32 - ホールインアンカー M16
 - 6<30> - FB 65 x 6 x 180
 - 6<30> - FB 65 x 6 x 436
 - 18<90> - BN M16 x 40

注) < > はP6を示す。

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

- 凡例
- RC巻立て補強
 - 炭素繊維巻立て補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋		
	昇降設備撤去・復旧計画図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P1橋脚

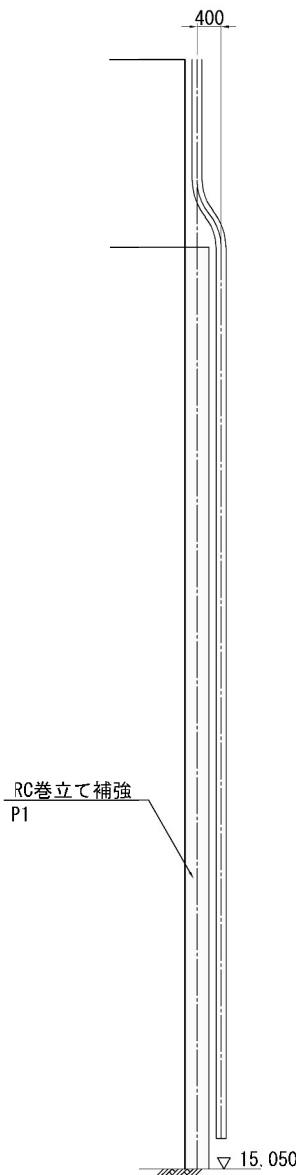
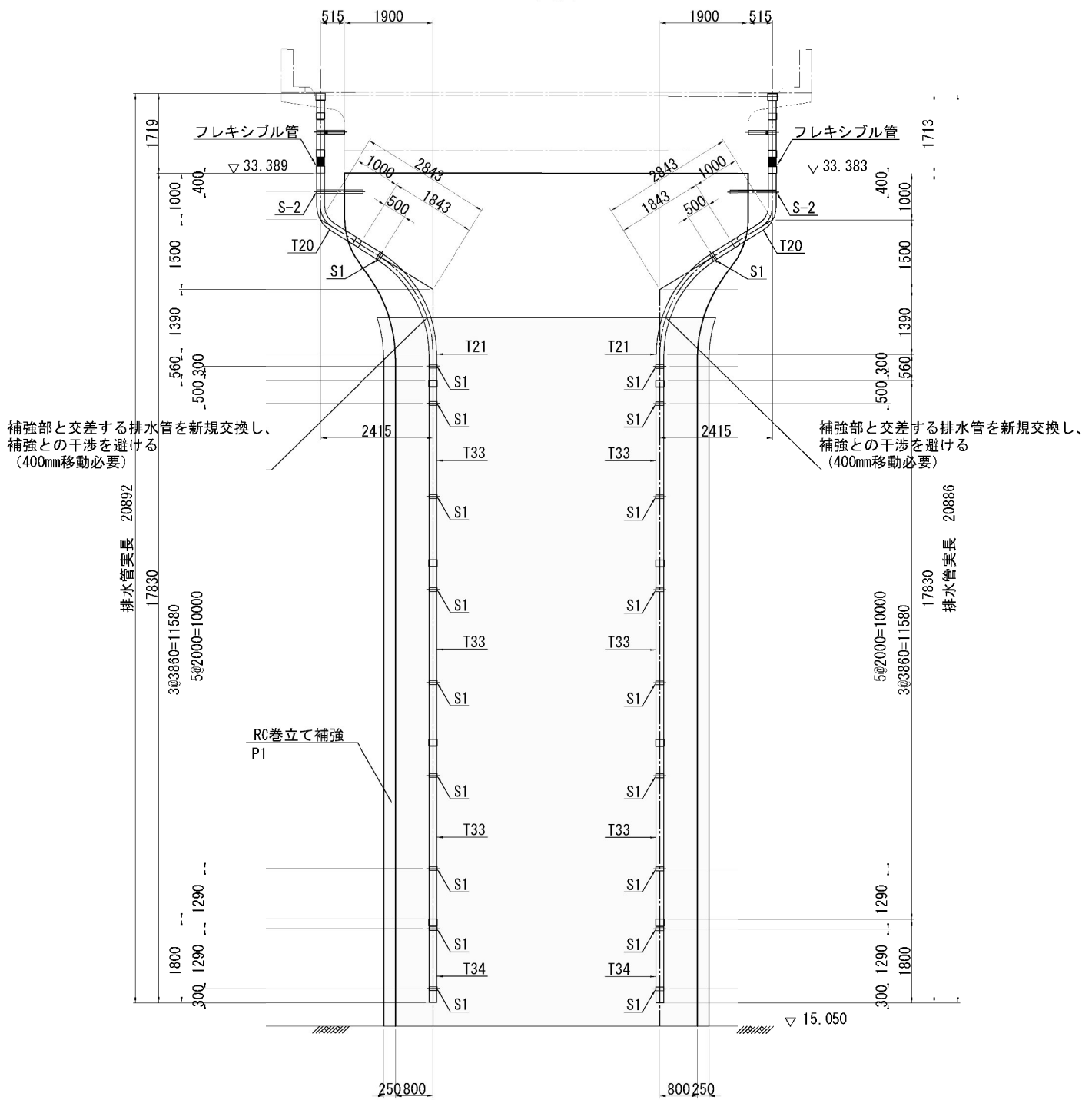
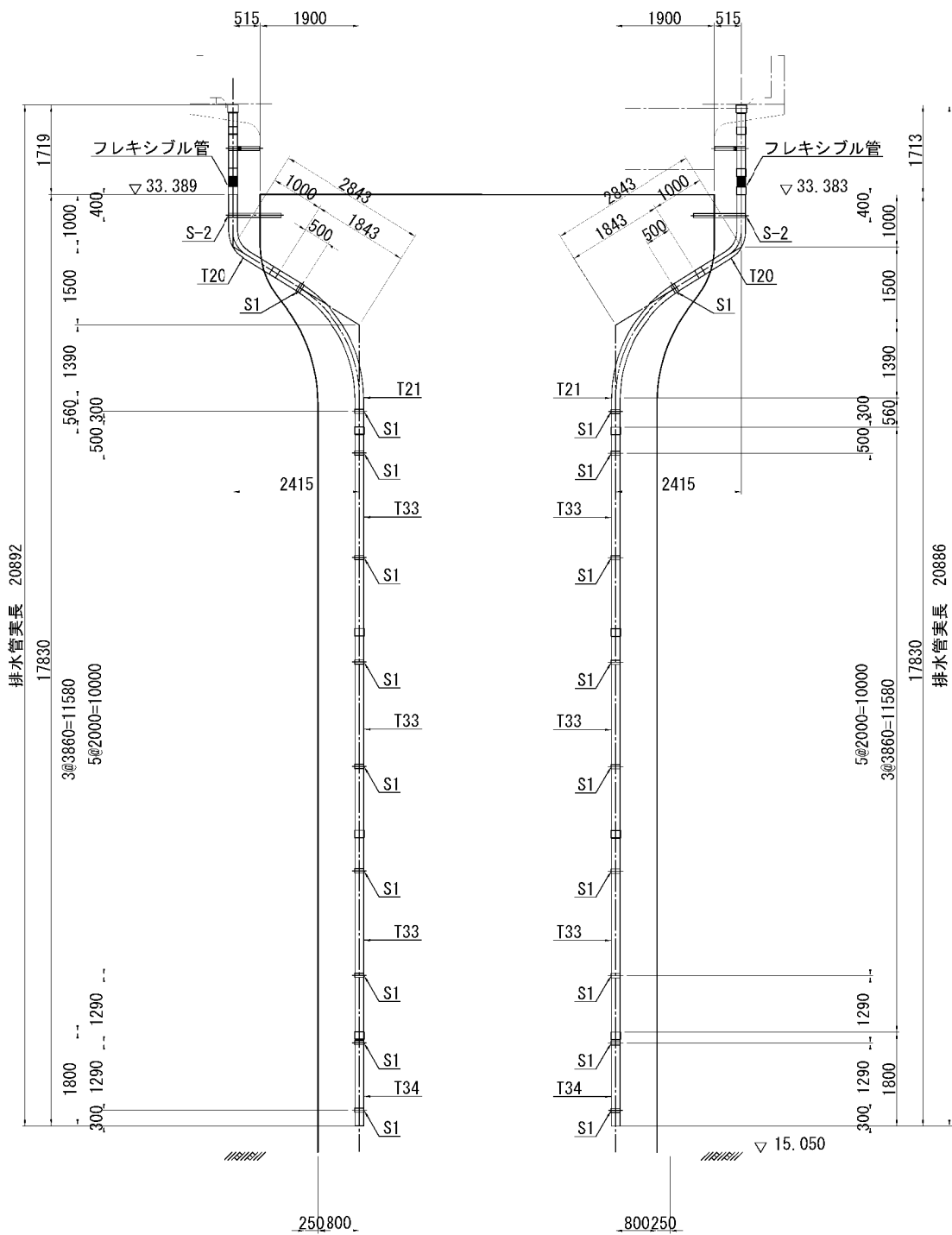
既設排水装置撤去図

正面図

新設排水装置改良図

正面図

側面図



凡例
RC巻立て補強

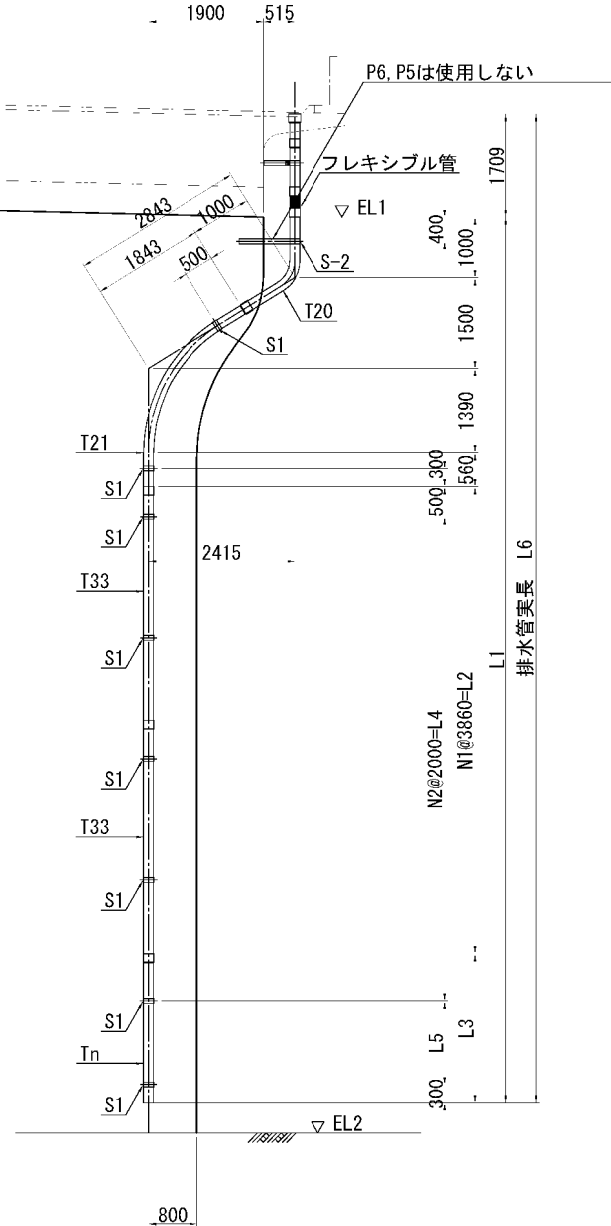
- 注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。銅板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋 排水装置撤去・復旧計画図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P2～P11橋脚

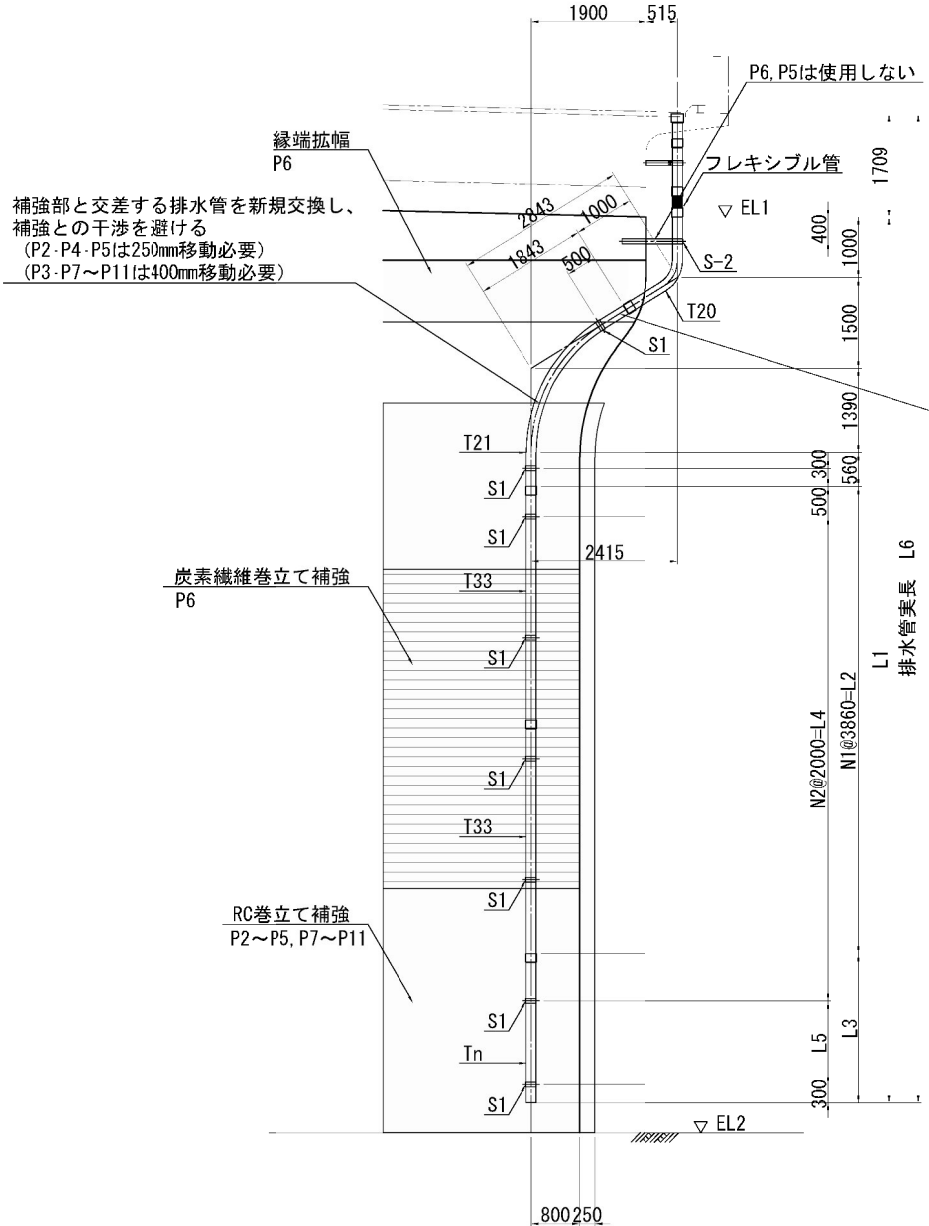
既設排水装置撤去図

正面図



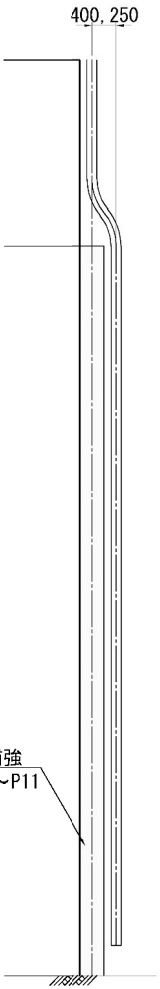
新設排水装置改良図

正面図



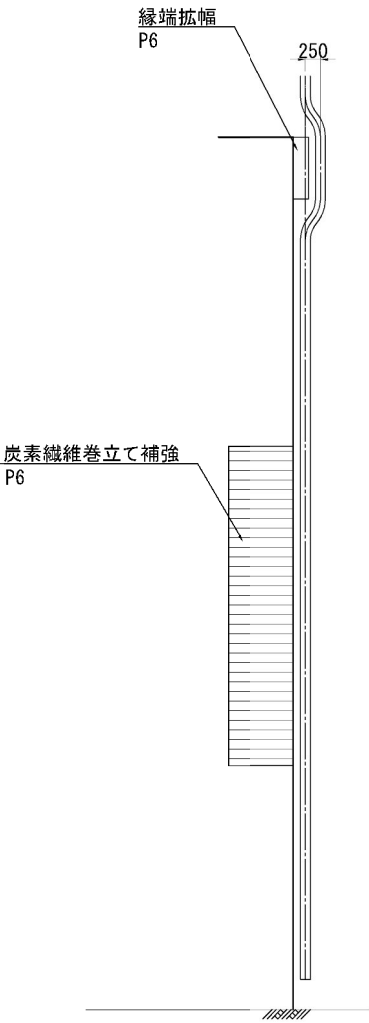
側面図

(P6橋脚以外)



側面図

(P6橋脚)



寸法表

	EL1	EL2	L1	N1	L2	L3	N2	L4	L5	L6
P2	32.951	14.650	17800	3	11580	1770	6	12000	550	20852
P3	32.505	12.550	19450	3	11580	3420	6	12000	2200	22502
P4	32.141	11.504	20130	3	11580	4000	7	14000	780	23082
P5	30.024	11.474	18050	3	11580	2020	6	12000	800	21102
P6	31.166	11.373	19290	3	11580	3260	6	12000	2040	22342
P7	30.722	11.423	18790	3	11580	2760	6	12000	1540	21842
P8	30.357	11.471	18380	3	11580	2350	6	12000	1130	21432
P9	30.002	11.520	17980	3	11580	1950	6	12000	730	21032
P10	29.615	12.184	16930	3	11580	900	5	10000	1680	19982
P11	29.253	14.115	14630	2	7720	2460	4	8000	1380	17682

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋲板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例

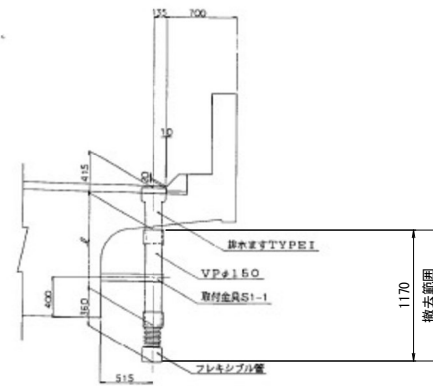
RC巻立て補強

炭素繊維巻立て補強

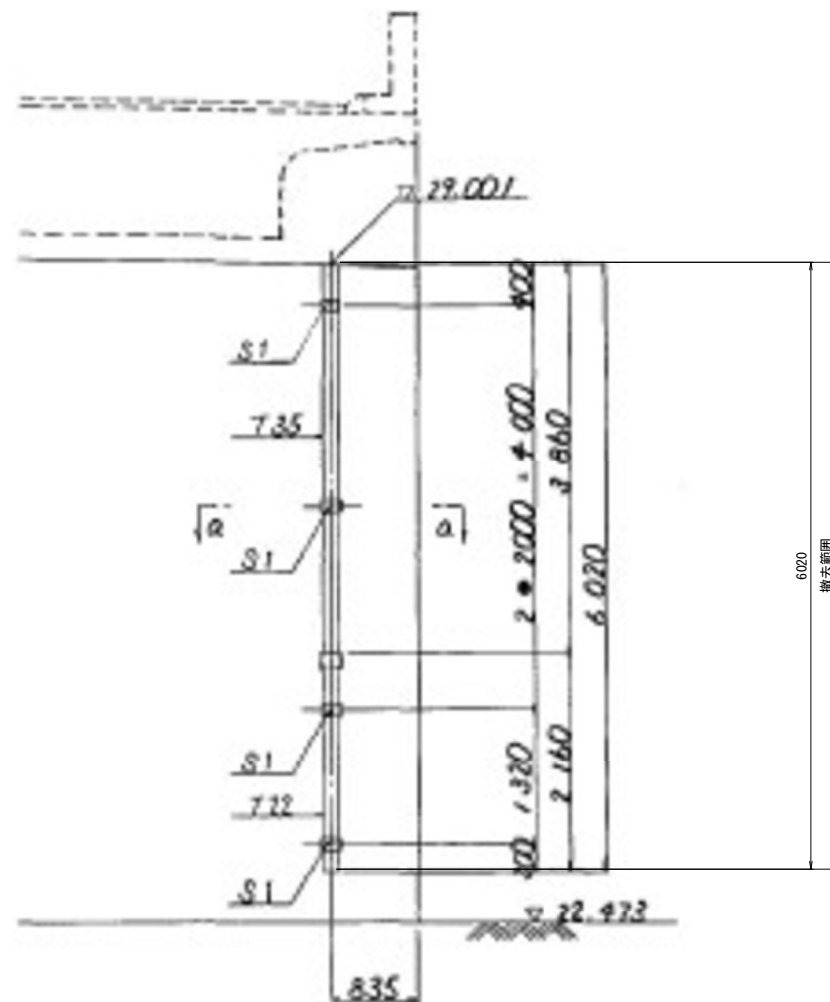
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

新設排水装置改良図

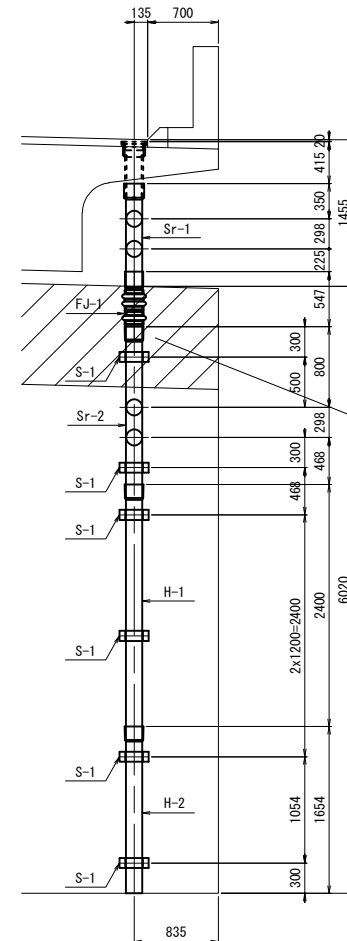
断面图 比例 1:20



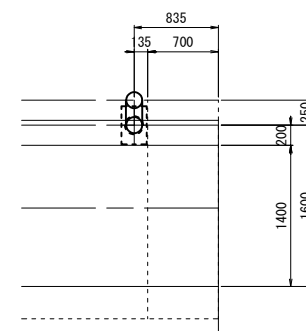
A 1 橋 台



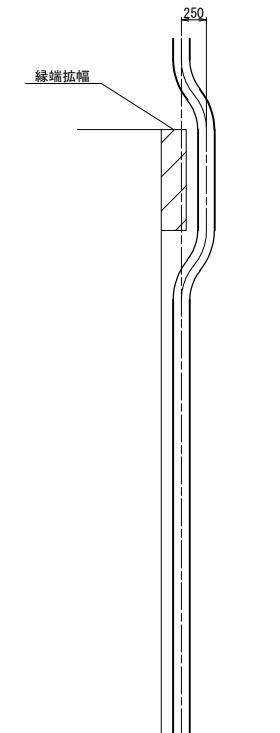
断面図 S=1:75



平面图 S=1:75



側面図 S=1:75



補強部と交差する排水管を新規交換し、
補強との干渉を避ける
(緑端拡幅250mm移動必要)

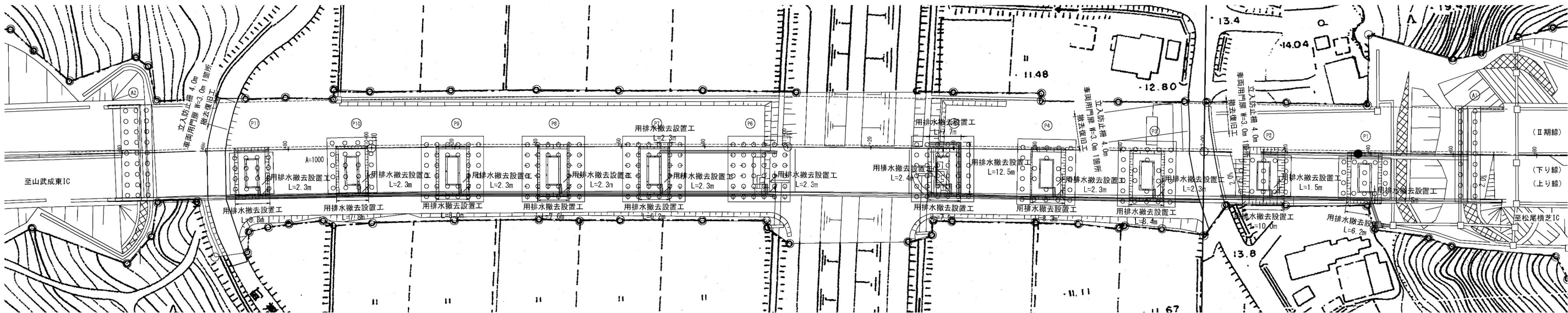
- 注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 2. 部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641によるものとする。
鋼板 HDZT77、ボルト・ナット HDZT49。
 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、
その他は既設材料を再利用する。
 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現状を十分に反映し、
寸法については必要に応じて変更に製作すること。

材 料 表 (A2橋台)

名 称	記 号	材質・規格	単位	数 量	備 考
流心磁基	撤去、復旧		m	7.04	

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		戸田高架橋 排水装置撤去、復旧計画図（その3）	
縮	尺	図示	図面番号
設計会社名		日本工営株式会社	
施工会社名			
事務所名		東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所	

平面図 S=1:1000



集計表

種別	規格	単位	起点側	終点側	合計
立入防止柵	φ2.0m	m	4.0	8.0	12.0
車両用門扉	W=3.0m	箇所	1	2	3
用排水撤去設置工	0.30×0.30	m	54.0	71.0	125.0

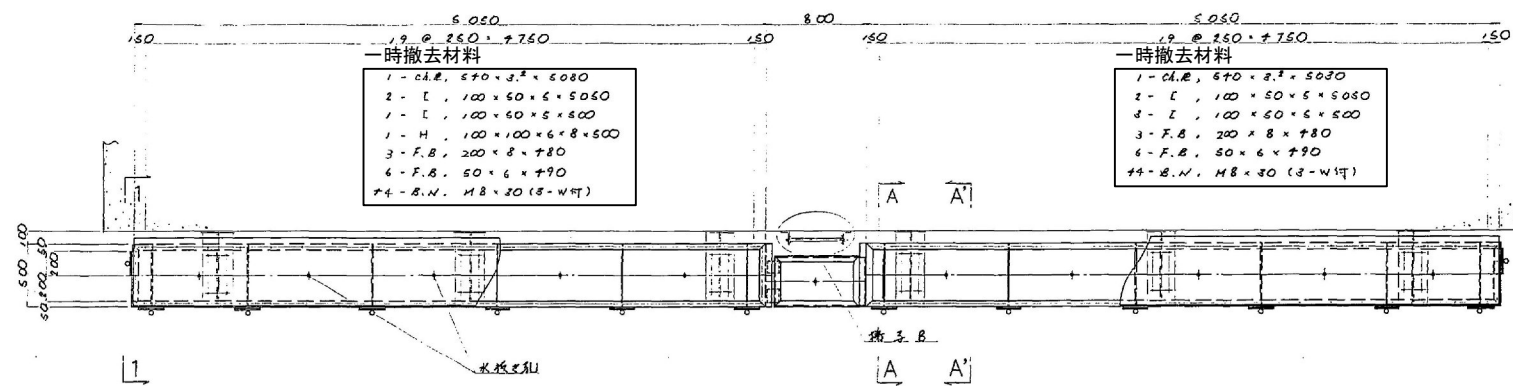
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	戸田高架橋 附帯工撤去・復旧図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

本郷矢部高架橋 下部工検査路撤去図

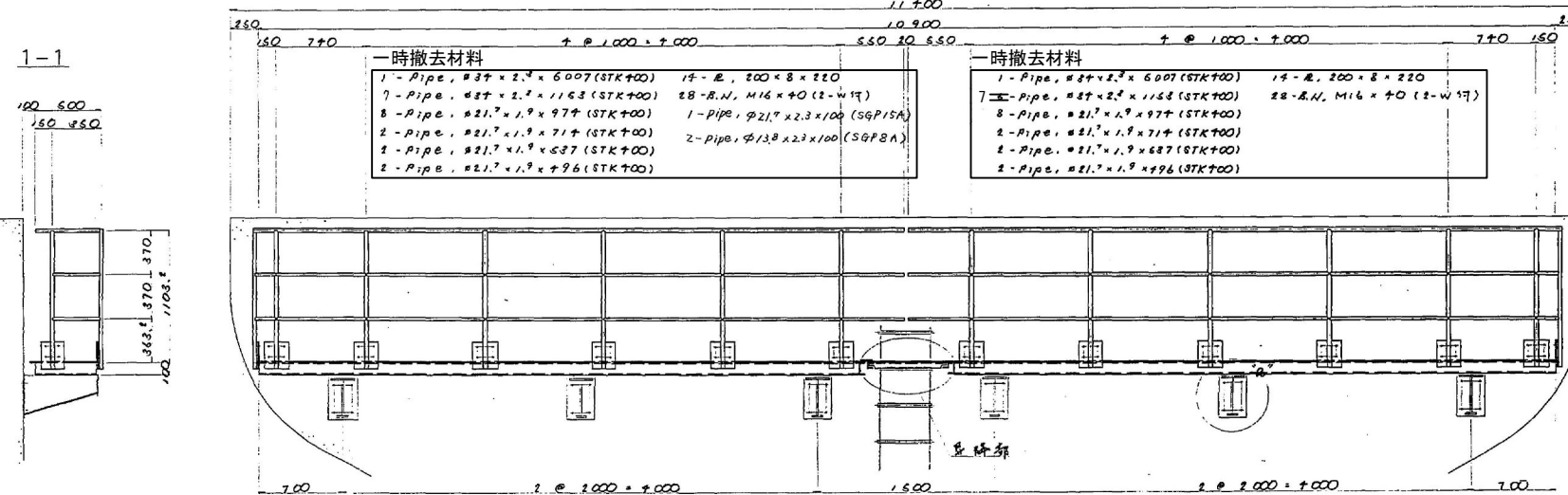
P8、P9橋脚

P9 P8
P14, 15橋脚

側面図 縮尺1:20

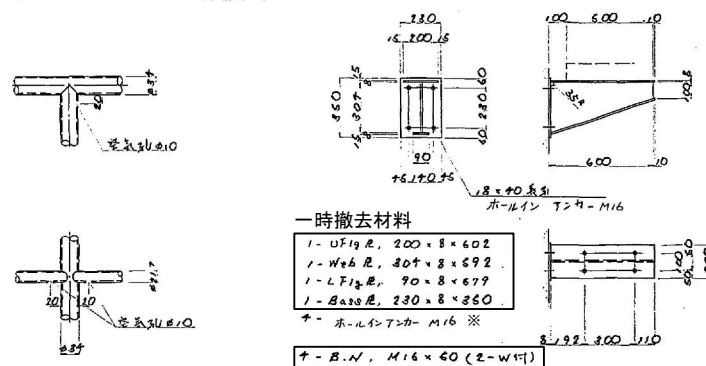


平面図 縮尺1:20

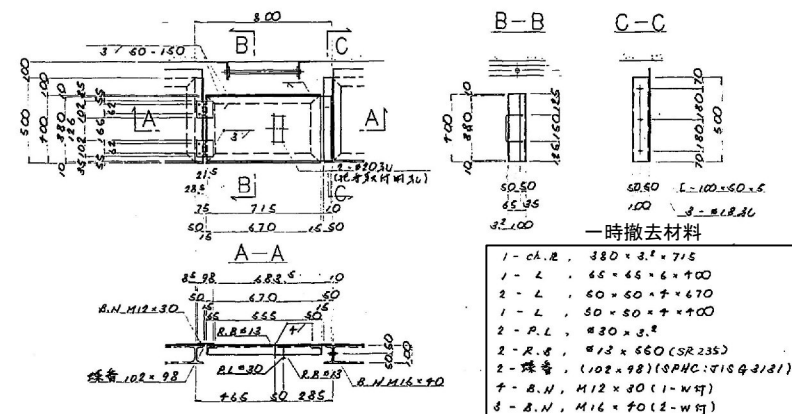


a'部詳細図 縮尺1:15
(ブラケット)

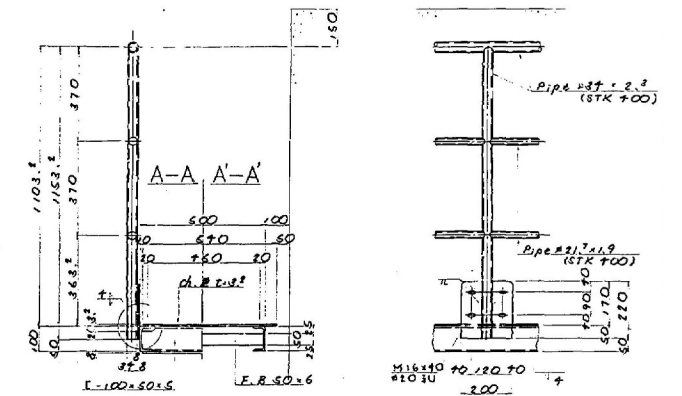
手摺空気孔詳細図 縮尺1:5



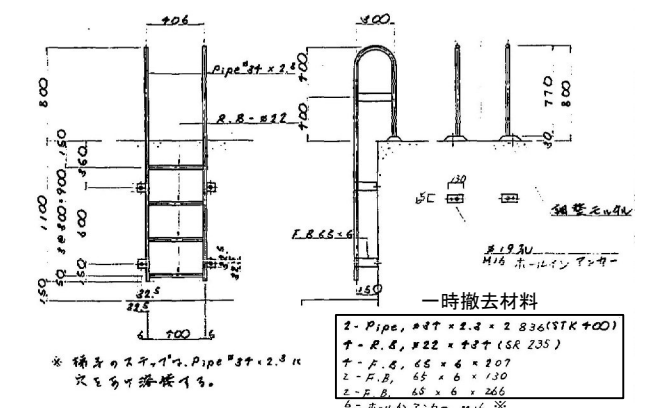
昇降部詳細図 縮尺1:15



標準断面図 縮尺1:10



※P8橋脚のみ一時撤去
梯子A詳細図 縮尺1:20



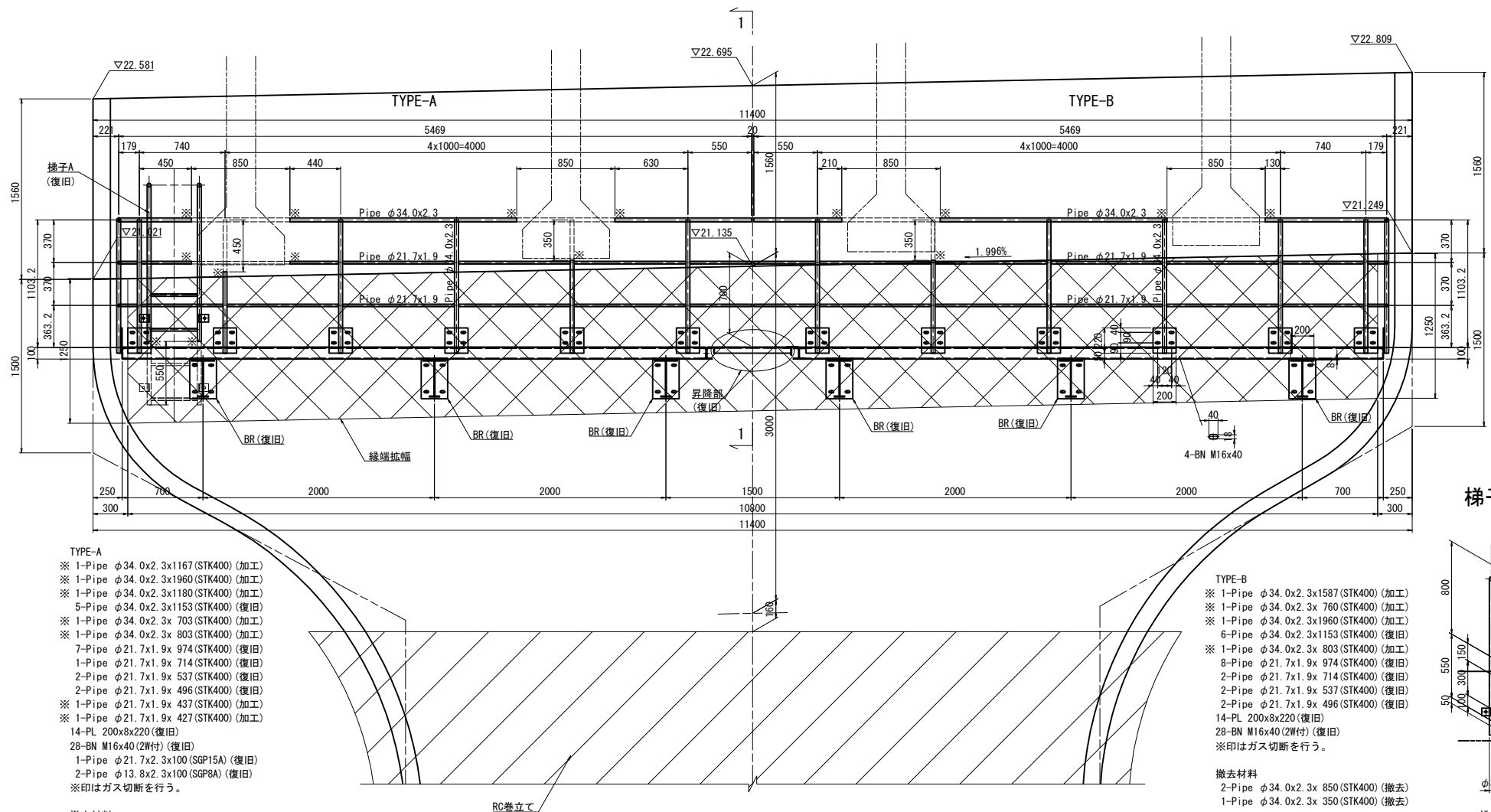
注1)
1. 材料の寸法は全てSS+00とする。
2. 座金は全て鉄板製とし、M16を標準とする。
付着量についてはH86+1, H82.35Cとする。
(但しボルトナットはH82.35Aとする。)

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	本郷矢部高架橋 下部工検査路撤去図		
縮尺	—	図面番号	—
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

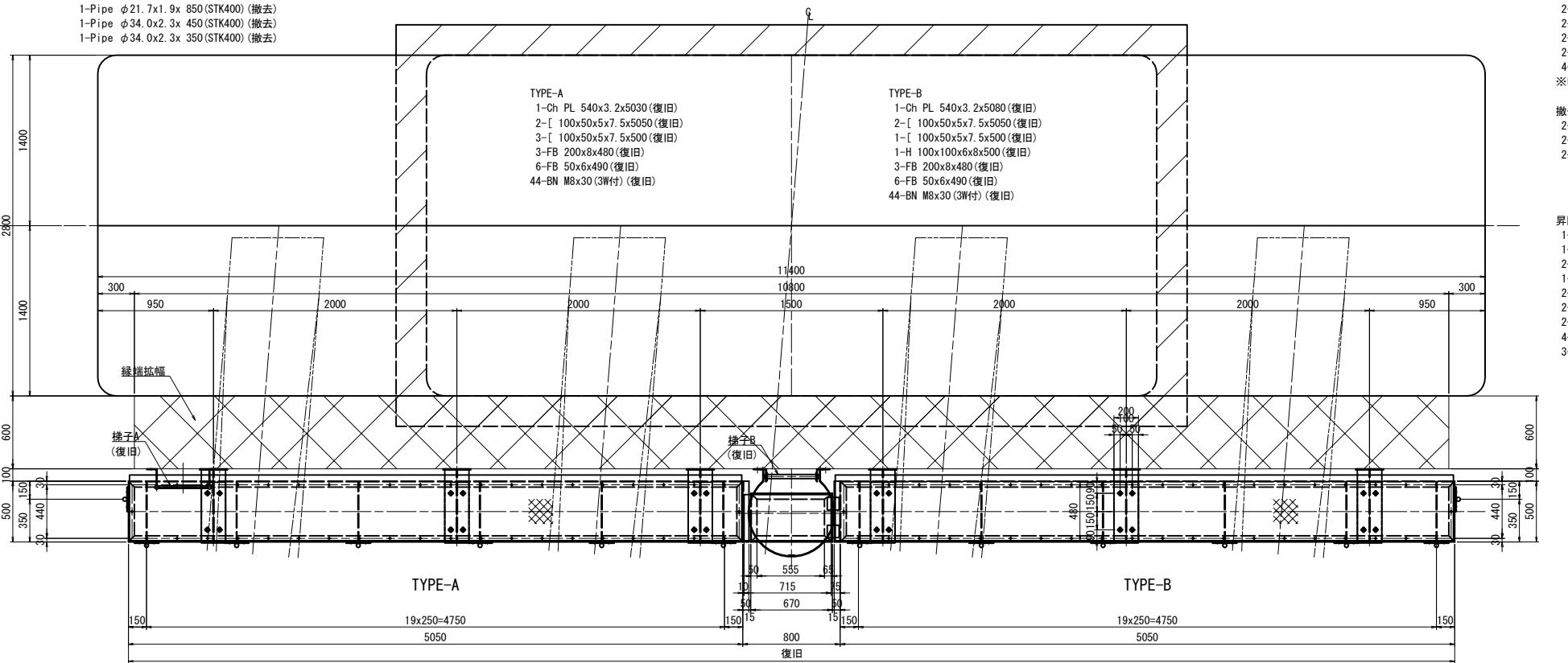
本郷矢部高架橋 下部工検査路復旧図(その1)

P8橋脚

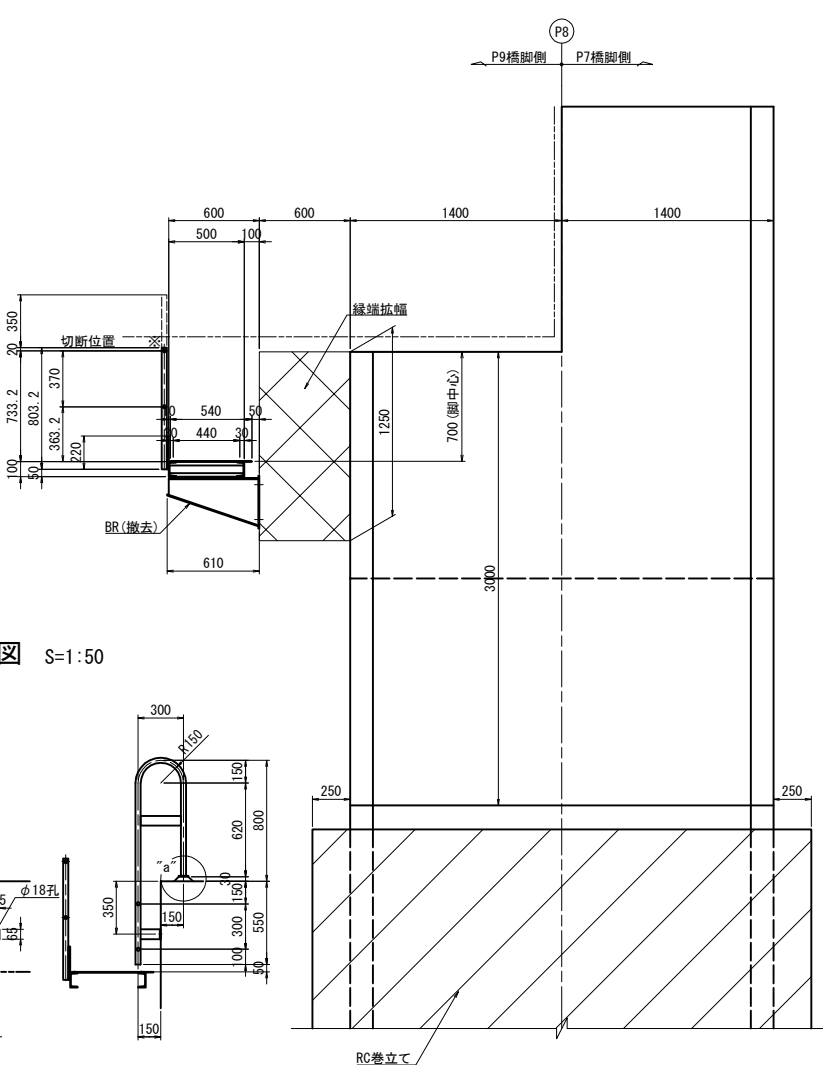
正面図 S=1:50



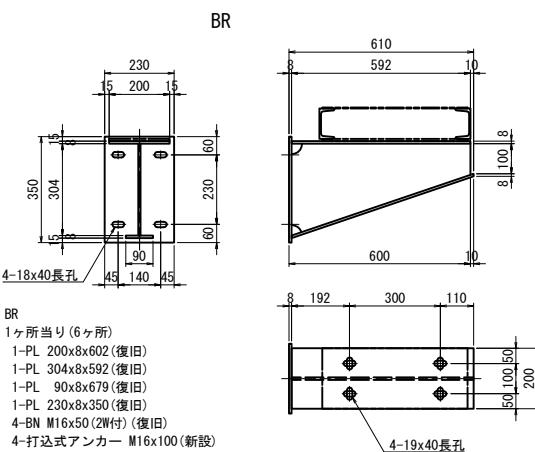
平面図 S=1:50



側面図(1-1) S=1:50



ブラケット詳細図 S=1:25



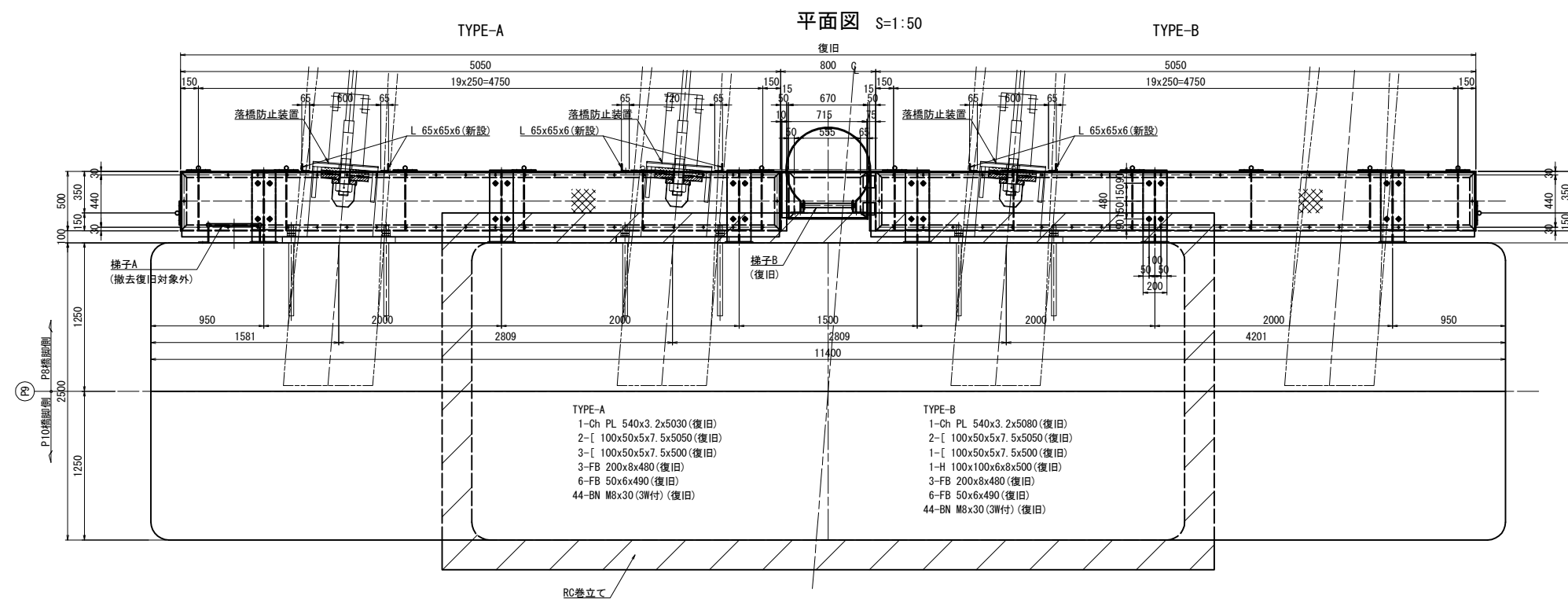
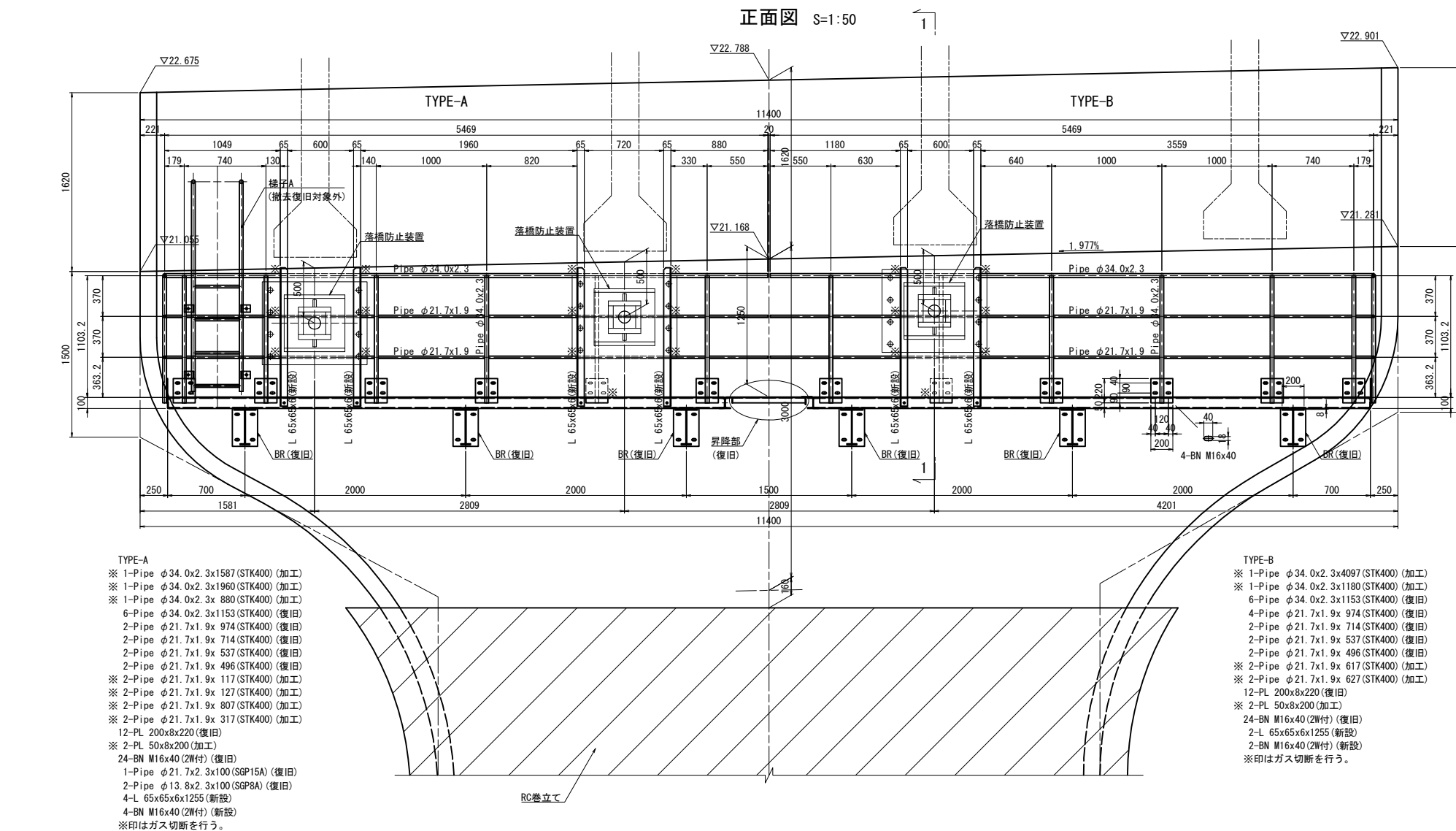
注記

- 現場実測後、製作、施工すること。
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
- 新設部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT77 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
- 溶融亜鉛メッキを施した復旧部材の切断された面には、高濃度亜鉛末塗料で補修する等の処置を施すこと。
- 新設打込式アンカーの埋込長は、60mmを標準とする。
- 昇降部詳細は、「下部工検査路撤去図」を参照のこと。
- 梯子A" a"部詳細は、「下部工検査路撤去図」を参照のこと。
- 梯子B詳細は、「昇降設備撤去・復旧計画図」を参照のこと。

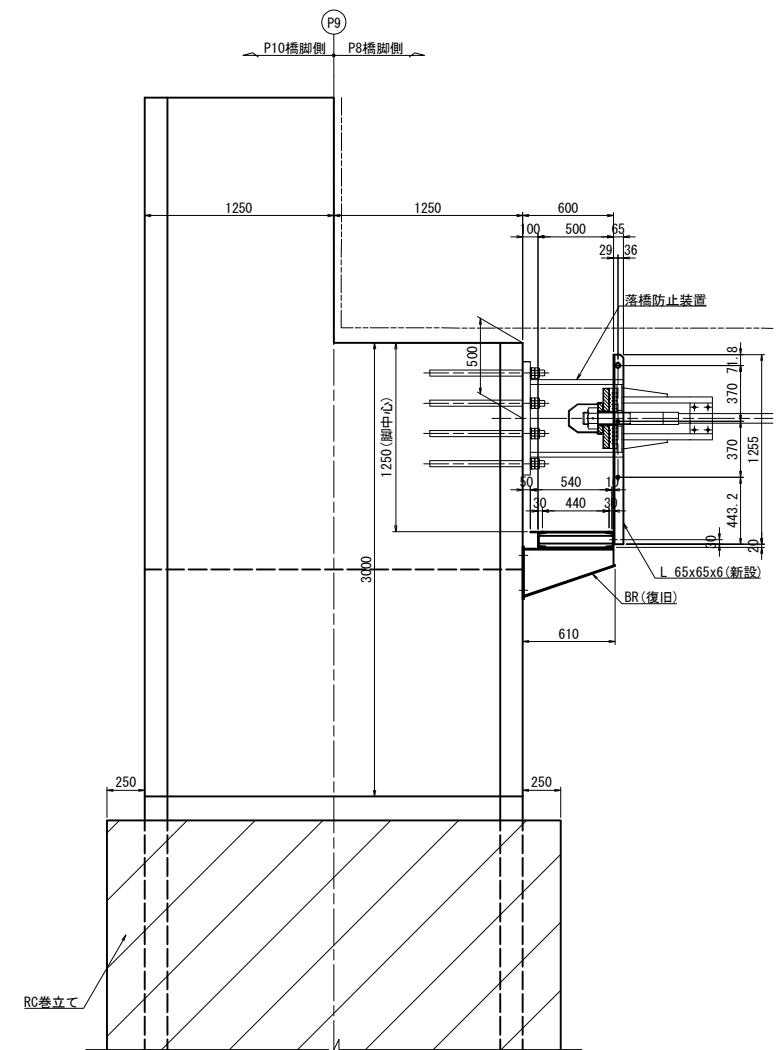
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	本郷矢部高架橋		
	下部工検査路復旧図(その1)		
縮 尺	—	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

本郷矢部高架橋 下部工検査路復旧図(その2)

P9橋胛



側面図(1-1) S=1:50



撤去材料

TYPE-A
1-Ring

1-Pipe φ34.0x2.3x 730 (STK400) (撤去)
1-Pipe φ34.0x2.3x 850 (STK400) (撤去)
2-Pipe φ21.7x1.9x 730 (STK400) (撤去)
2-Pipe φ21.7x1.9x 850 (STK400) (撤去)
1-Pipe φ34.0x2.3x1153 (STK400) (撤去)
2-PL 170x8x200 (撤去)
4-BN M16x40 (2W付) (撤去)

TYPE-B

1-Pipe $\phi 34.0 \times 2.3 \times 730$ (STK400) (撤去)
2-Pipe $\phi 21.7 \times 1.9 \times 730$ (STK400) (撤去)
1-Pipe $\phi 34.0 \times 2.3 \times 1153$ (STK400) (撤去)
2-PL 170x8x200 (撤去)
4-BN M16x40 (2W付) (撤去)

注意

1. 現場実測後、製作、施工すること。
2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
3. 新設部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT77 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚 3.2mm 未満の部材は、
HDZT49 とする。
4. 溶融亜鉛メッキを施した復旧部材の切断された面には、
高強度亜鉛未塗料で補修する等の処置を施すこと。
5. 昇降部詳細は、「下部工検査路撤去図」を参照のこと。
6. 梯子B詳細は、「昇降設備撤去、復旧計画図」を参照のこと。

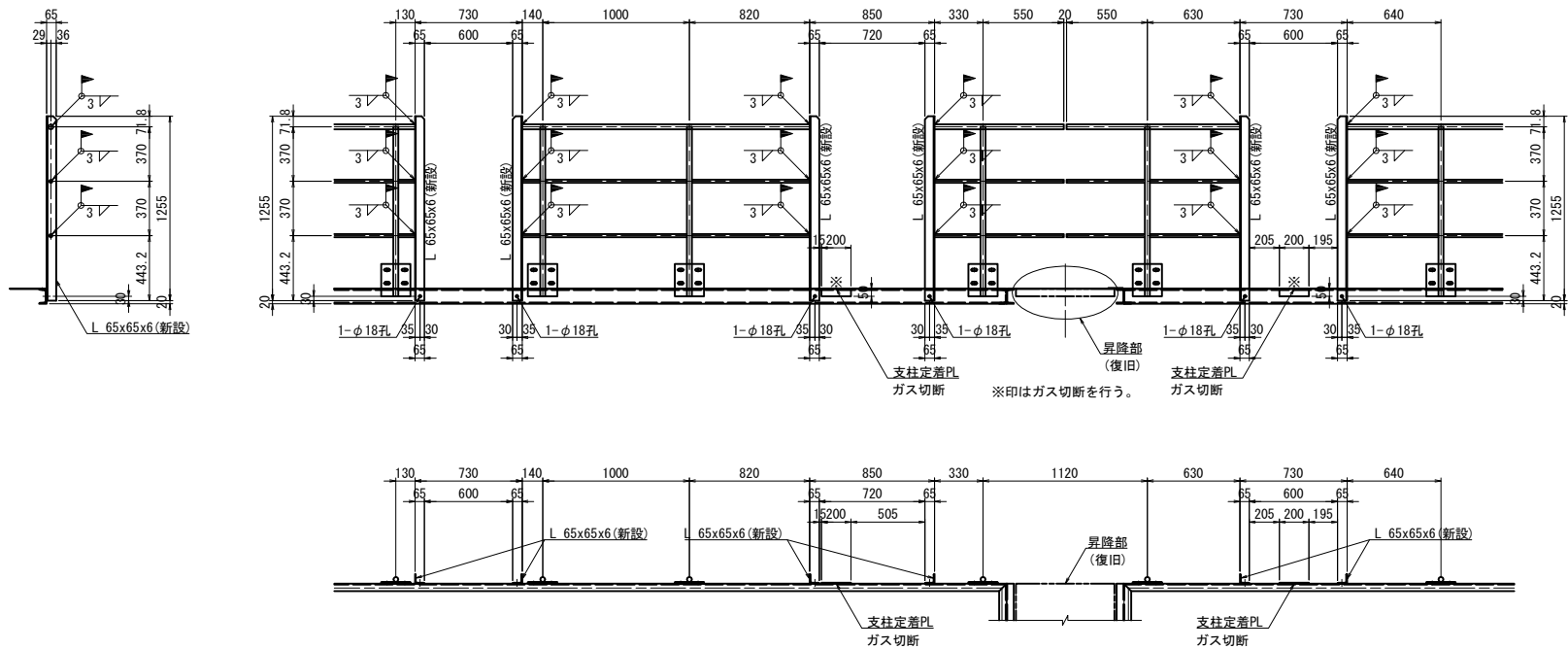
昇降:

- 1-Ch PL 380x3.2x715 (復旧)
- 1-L 65x65x6x400 (復旧)
- 2-L 50x50x4x670 (復旧)
- 1-L 50x50x4x400 (復旧)
- 2-PL ϕ 30x3.2 (復旧)
- 2-RB ϕ 13x660 (SR235) (復旧)
- 2-蝶番 (102x98) (SPHC:JIS G 3131) (復旧)
- 4-BN M12x30 (1W付) (復旧)
- 3-BN M16x40 (2W付) (復旧)

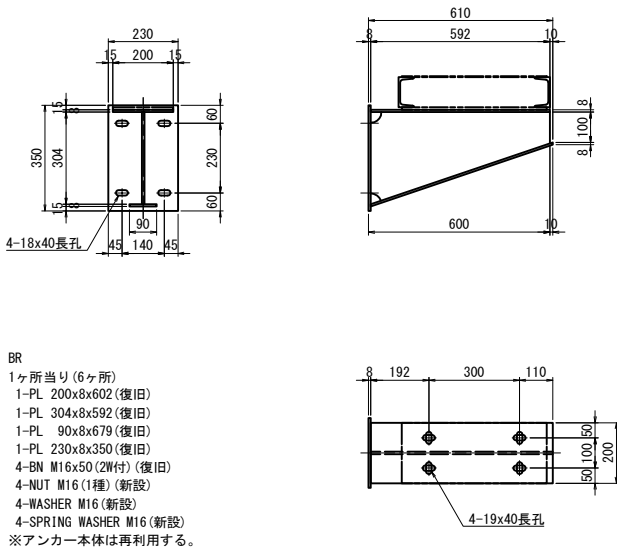
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		本郷矢部高架橋 下部工検査路復旧図(その2)	
縮	尺	—	図面番号 ／
設計会社名		日本工営株式会社	
施工会社名			
事務所名		東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所	

本郷矢部高架橋 下部工検査路復旧図(その3)
P9橋脚

加工詳細図 S=1:50



ブラケット詳細図 S=1:25
BR



- 注記
1. 現場実測後、製作、施工すること。
 2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
 3. 新設部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT77 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
 4. 溶融亜鉛メッキを施した復旧部材の切断された面には、
高濃度亜鉛末塗料で補修する等の処置を施すこと。
 5. ブラケットのアンカーは、既設アンカーを再利用する。
但し、再利用の際もナット、座金については、新設部材を使用する。
なお、既設アンカーを再利用する際は、既設アンカーの健全性を確認し、
健全性が確保出来ない場合は、新設アンカーに変更すること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	本郷矢部高架橋 下部工検査路復旧図(その3)		
	縮 尺	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P1～P7橋脚

昇降設備 撤去

昇降設備 復旧

側面図

正面図

側面図

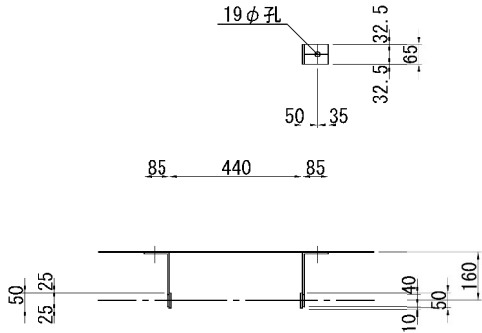
正面図

	H2	H6+H7+H50	N2+2	(N2+2) x2	N1+1
P1	8400	7600	8	16	23
P2	10800	10000	11	22	30
P3	10800	10000	11	22	30
P4	8000	7200	8	16	22
P5	9700	8900	10	20	27
P6	10800	10000	11	22	30
P7	11100	10300	11	22	31

	H1	H2	H3	N1	H4	H5	H6	N2	H7
P1	10896	8400	2496	22	7700	600	1250	6	6300
P2	14299	10800	3499	29	10150	550	500	9	9450
P3	14229	10800	3429	29	10150	550	500	9	9450
P4	10445	8000	2445	21	7350	550	850	6	6300
P5	12126	9700	2426	26	9100	500	450	8	8400
P6	13208	10800	2408	29	10150	550	500	9	9450
P7	13588	11100	2488	30	10500	500	800	9	9450

昇降設備断面図 S=1:25

A - A



- 一時撤去材料
- 2 - FB 50 x 6 x H2
 - 3 - FB 50 x 6 x (H6+H7+60)
 - N2+2 - FB 60 x 6 x 1841
 - (N2-2) x2 - FB 65 x 6 x 244
 - N1+1 - RB 22φ x 460 (SR235)

- 撤去材料
- (N2-2) x2 - ホールインアンカー M16

- 新設材料
- (N2-2) x2 - ホールインアンカー M16

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋸板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
RC巻立て補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	本郷矢部高架橋		
	昇降設備撤去・復旧計画図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P8, P9橋脚

昇降設備 撤去

昇降設備 復旧

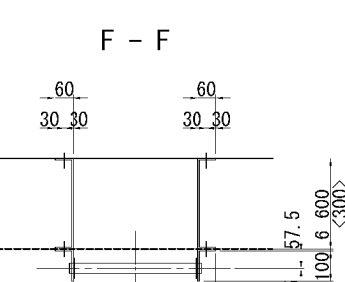
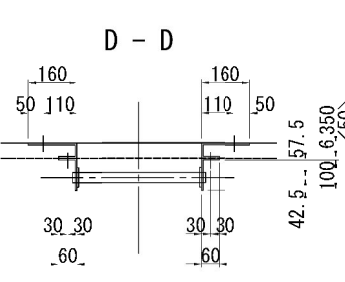
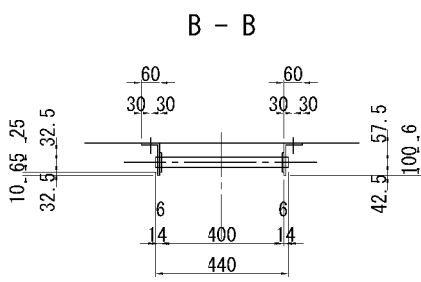
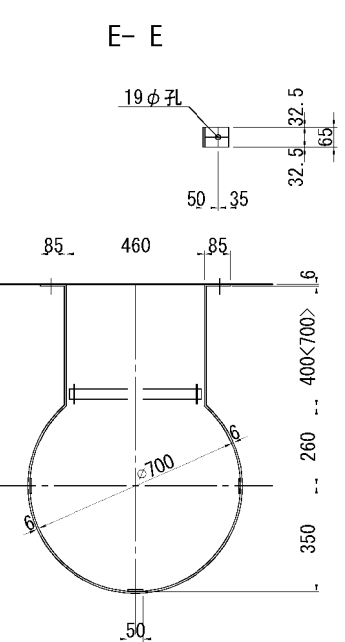
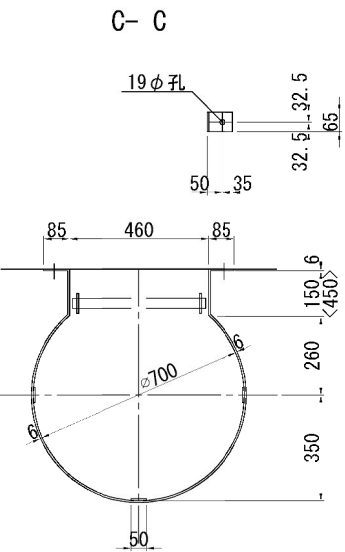
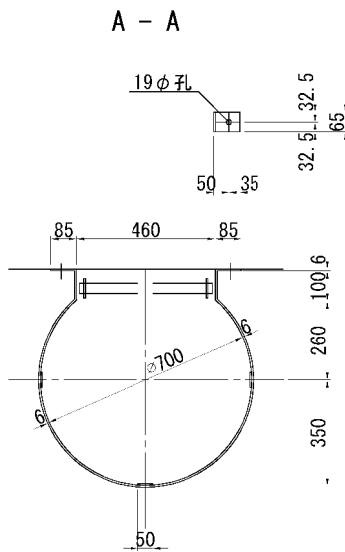
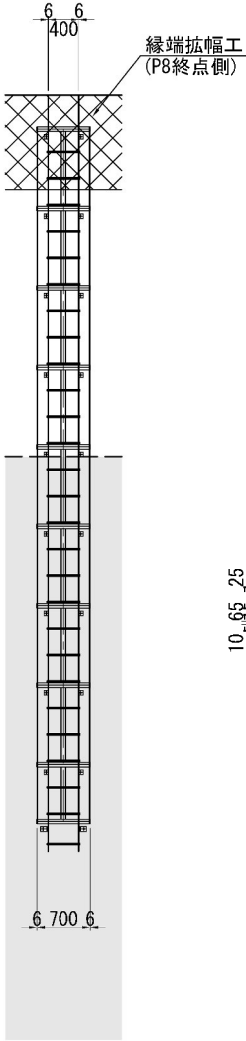
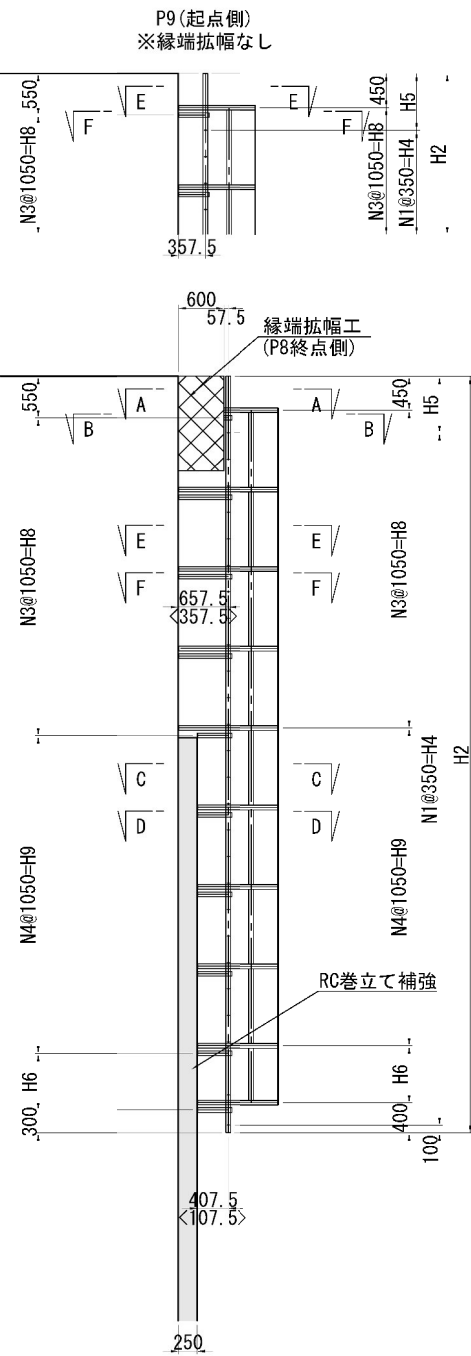
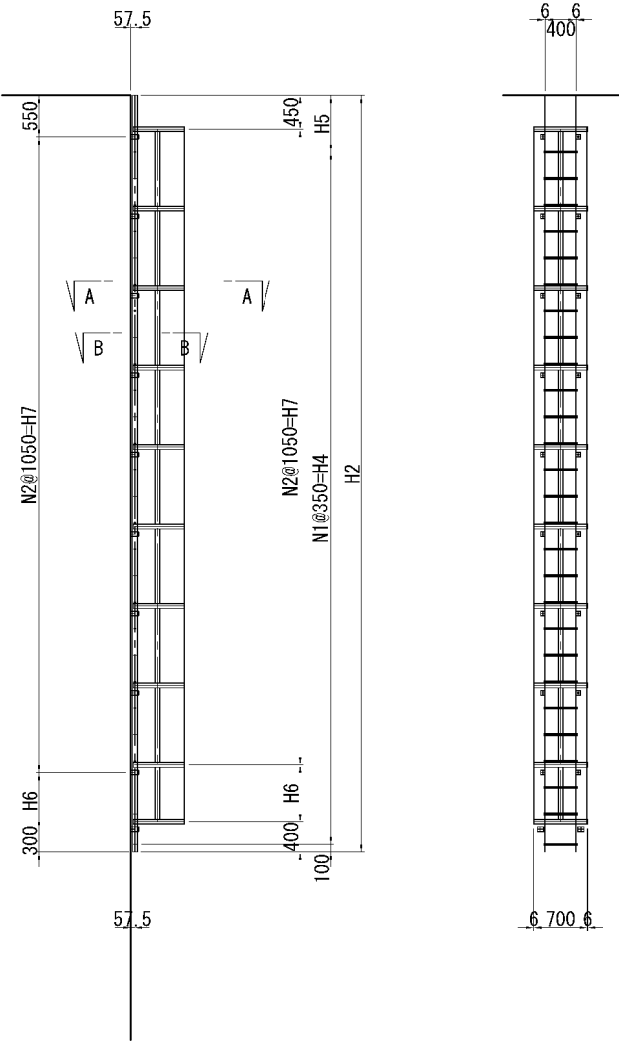
側面図

正面図

側面図

正面図

昇降設備断面図 S=1:25



- 一時撤去材料
- 10<9> - FB 65 x 6 x 2067
 - 3 - FB 50 x 6 x 8450<9200>
 - 2 - FB 70 x 6 x 8900<9650>
 - 2<2> - FB 65 x 6 x 9300<10000>
 - 18<20> - FB 60 x 6 x 166
 - 26<28> - RB 22φ x 440

- 撤去材料
- 18<20> - ホールインアンカー M16
 - 18<20> - ホールインアンカー M16

- 新設材料
- 18<20> - ホールインアンカー M16
 - 18<20> - ホールインアンカー M16
 - 5 - FB 65 x 6 x 2466<2166>
 - 3<4> - FB 65 x 6 x 2966<2666>
 - 12 - FB 60 x 6 x 570<270>
 - 4<8> - FB 60 x 6 x 720<420>
 - 24 - BN M16 x 40
 - 8<16> - BN M16 x 40

注) < > はP9を示す。

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

	H2	H6+H7+H50	N2+2	(N2+2) x 2	N1+1
P8	9300	8500	9	18	26
P9	10000	9200	10	20	28

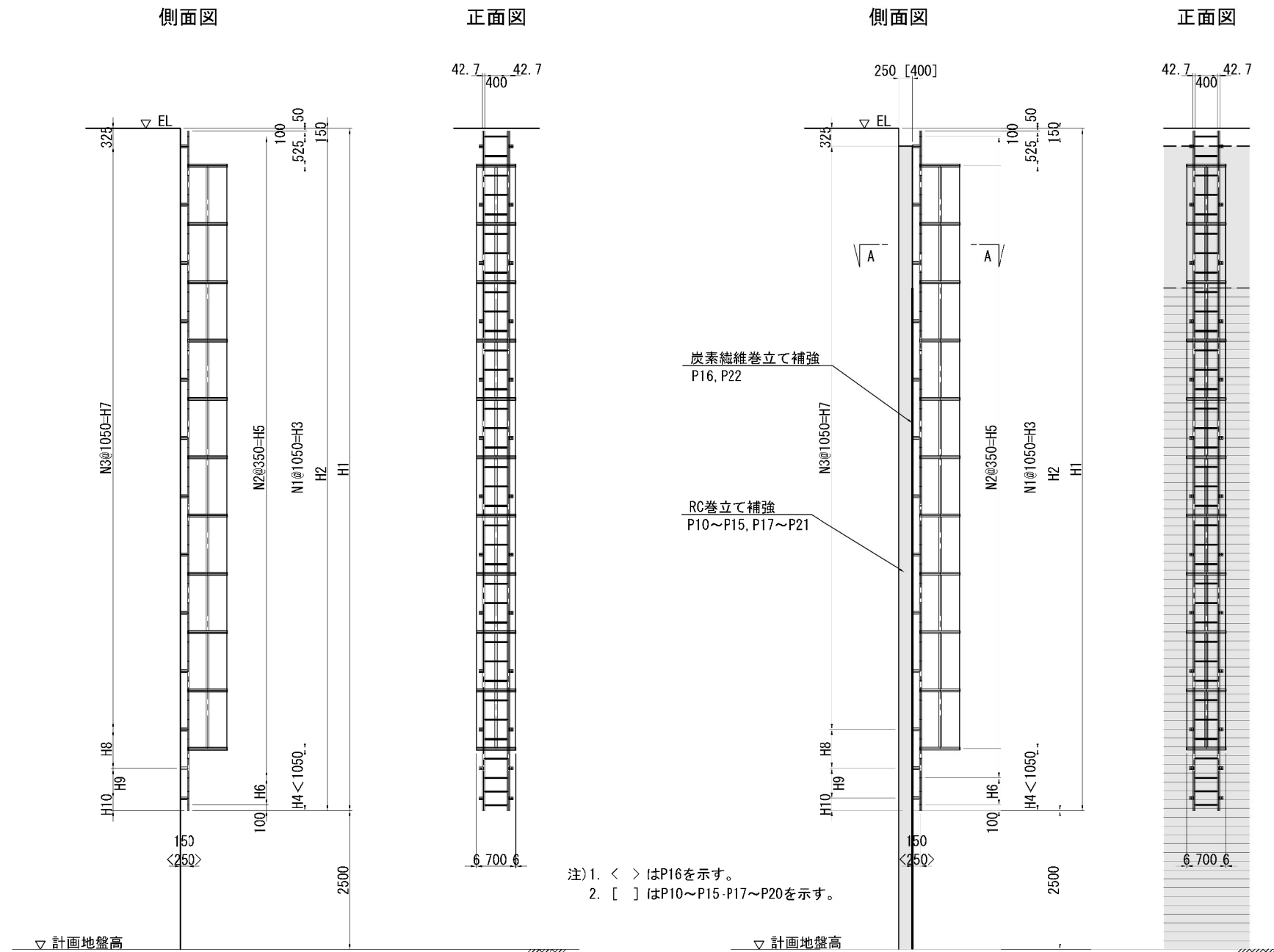
	H1	H2	H3	N1	H4	H5	H6	N2	H7
P8	-	9300	-	25	8750	450	1100	7	7350
P9	-	10000	-	27	9450	450	750	8	8400

	H8	N3	H9	N4
P8	3150	3	4200	4
P9	4200	4	4200	4

凡例
: RC巻立て補強
: 縁端拡幅工

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	本郷矢部高架橋 昇降設備撤去・復旧計画図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

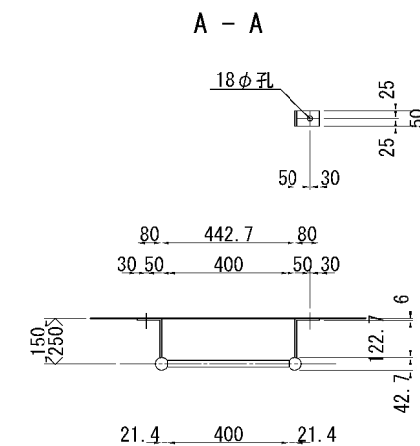
昇降設備 撤去



計畫地盤高		(m)								
		EL	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8
P10	8.090	22.876	12.286	12.136	10.500	1.111	11.550	2@0.243	10.500	0.700
P11	8.470	22.952	11.982	11.832	10.500	0.807	11.200	2@0.266	9.450	1.050
P12	8.600	23.052	11.952	11.802	10.500	0.777	11.200	2@0.251	9.450	1.050
P13	8.730	23.175	11.945	11.795	10.500	0.770	11.200	2@0.2475	9.450	1.050
P14	8.950	23.322	11.862	11.712	10.500	0.687	11.200	2@0.206	9.450	1.050
P15	9.200	23.491	11.791	11.641	10.500	0.616	11.200	0.341	9.450	1.050
P16	9.930	23.700	11.270	11.120	9.450	1.147	10.500	2@0.260	9.450	0.700
P17	10.400	23.902	11.002	10.852	9.450	0.877	10.500	0.252	8.400	1.050
P18	10.780	24.142	10.862	10.712	9.450	0.737	10.150	2@0.231	8.400	1.050
P19	12.130	24.406	9.776	9.626	8.400	0.701	9.100	2@0.213	7.350	1.050
P20	12.500	24.713	9.713	9.563	8.400	0.638	9.100	0.1815	7.350	1.050
P21	13.670	25.023	8.853	8.703	7.350	0.828	8.050	2@0.2765	6.300	1.050
P22	13.400	25.349	9.449	9.299	8.400	0.374	8.750	2@0.2245	7.350	1.050

	H9	H10	N1	N2	N3	N4
P10	0.5395	0.2215	10	33	10	26
P11	0.924	0.233	10	32	9	24
P12	0.9015	0.2255	10	32	9	24
P13	0.896	0.224	10	32	9	24
P14	0.834	0.203	10	32	9	24
P15	0.0955	0.2705	10	32	9	24
P16	0.565	0.230	9	30	9	24
P17	1.001	0.226	9	30	8	22
P18	0.8715	0.2155	9	29	8	22
P19	0.8445	0.2065	8	26	7	20
P20	0.797	0.191	8	26	7	20
P21	0.940	0.238	7	23	6	18
P22	0.512	0.212	8	25	7	20

昇降設備断面図 S=1:25



一時撤去材料

- 2 - Pipe 42.7 ϕ x 2.3 x «H1-50»
 3 - FB 50 x 6 x «H3+50»
 N1 - FB 50 x 6 x 1971
 N4 - FB 50 x 6 x 203<303>
 N2+2 - RB 22 ϕ x 400

撤去材料

- N4 - ホールインアンカー M16

新設材料

- N4 - ホールインアンカー M16

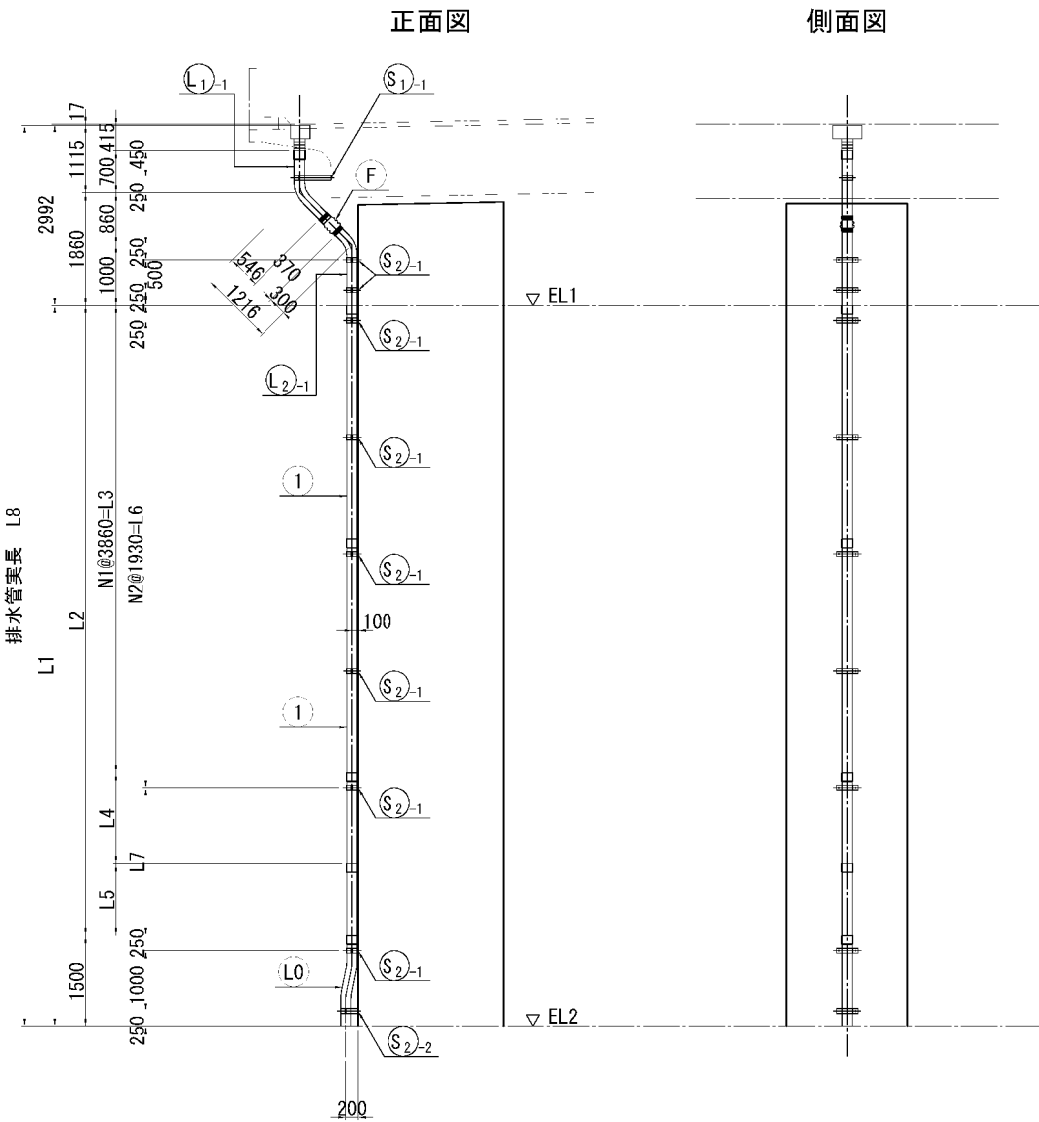
注)

1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとす。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

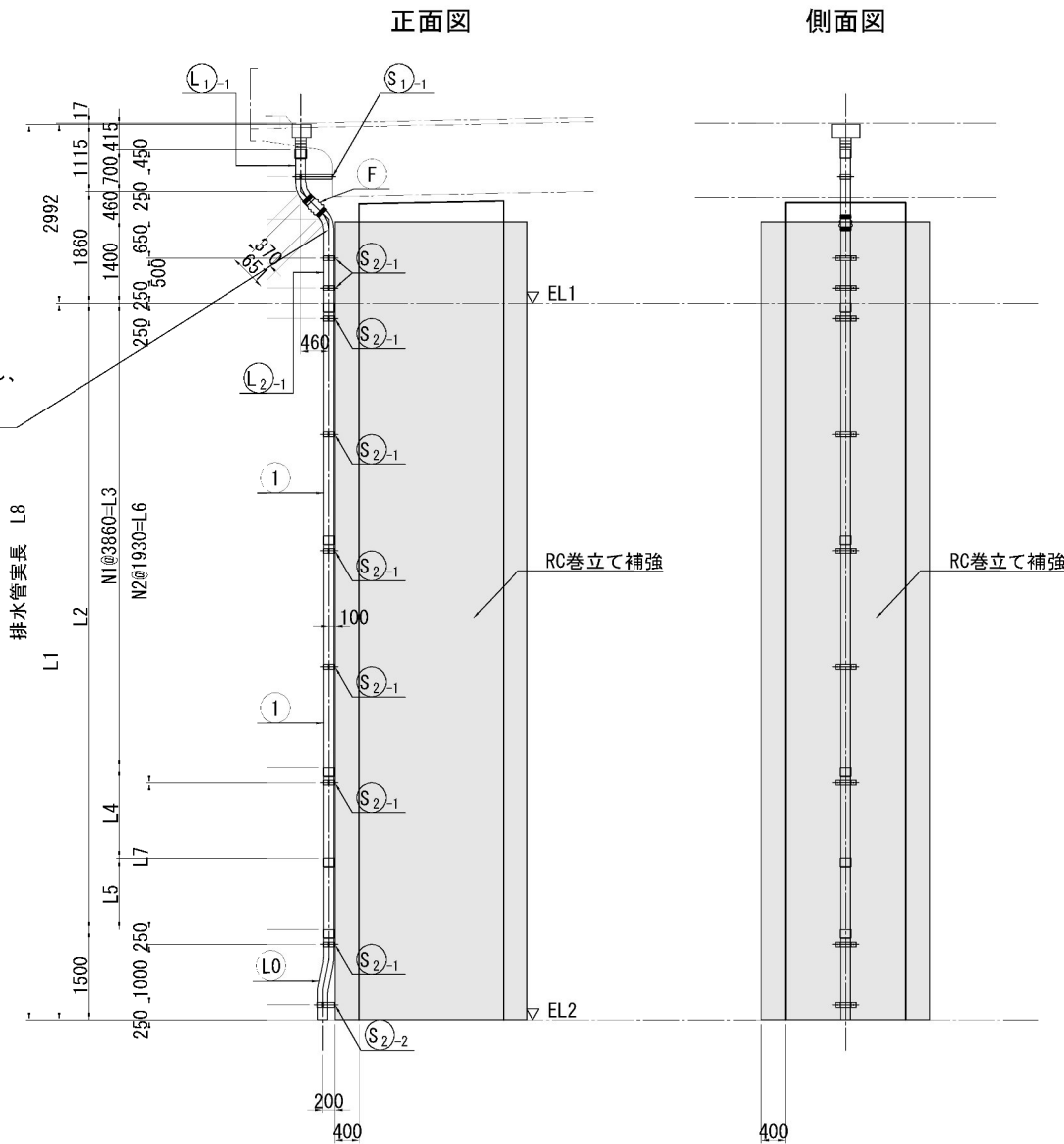
凡例 : RC巻立て補強 : 炭素繊維巻立て補強		首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事 本郷矢部高架橋 昇降設備撤去・復旧計画図(その3)	
図面の種類		縮	尺
設計会社名	日本工営株式会社	図示	図面番号
施工会社名			／
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P1・P10橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



補強部と交差する排水管を新規交換し、
補強との干渉を避ける
(400mm移動必要)

寸法表

	EL1	EL2	L1	L2	N1	L3	L4	L5	N2	L6	L7	L8
P1	22.039	12.600	9439	7939	1	3860	1930	2149	3	5790	1899	12770
P10	21.349	8.090	13259	11759	2	7720	1930	2109	5	9650	1859	16590

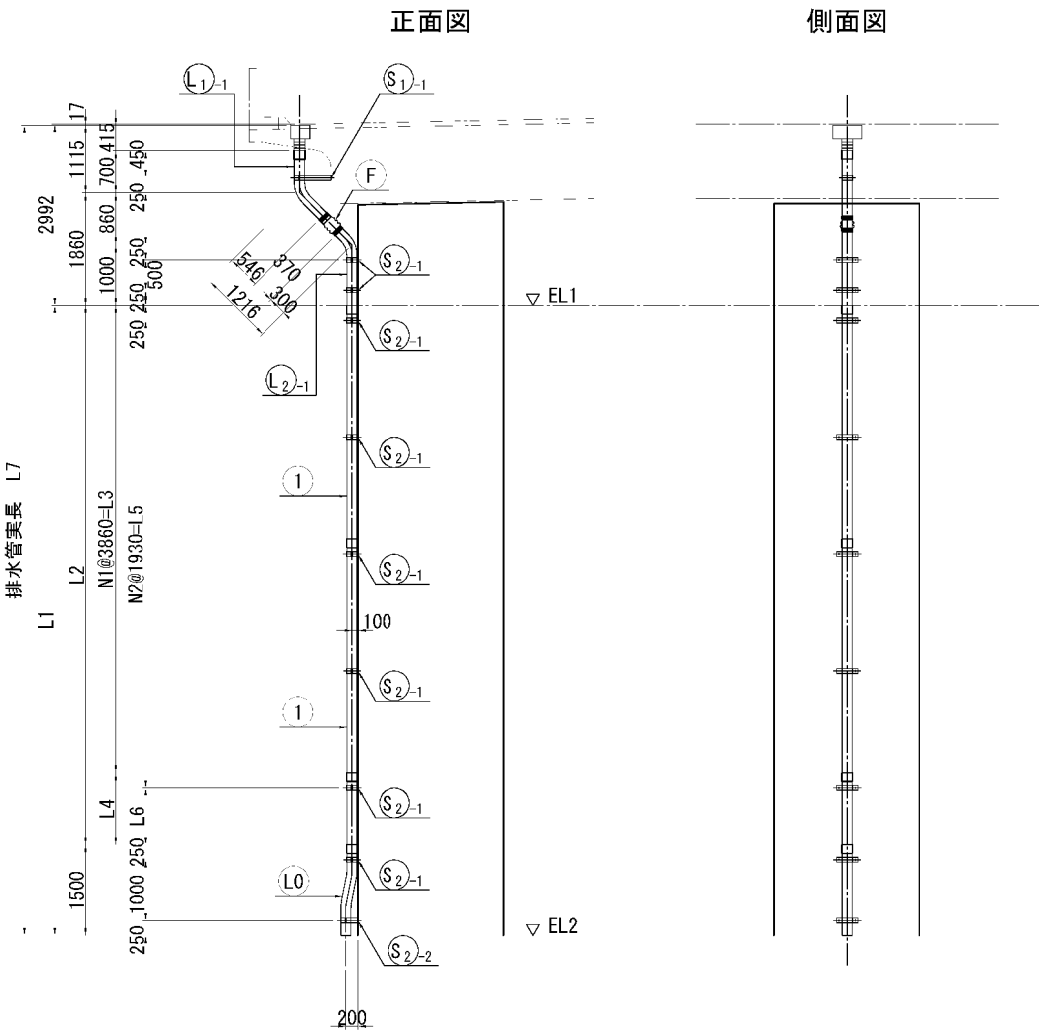
- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
□ : RC巻立て補強

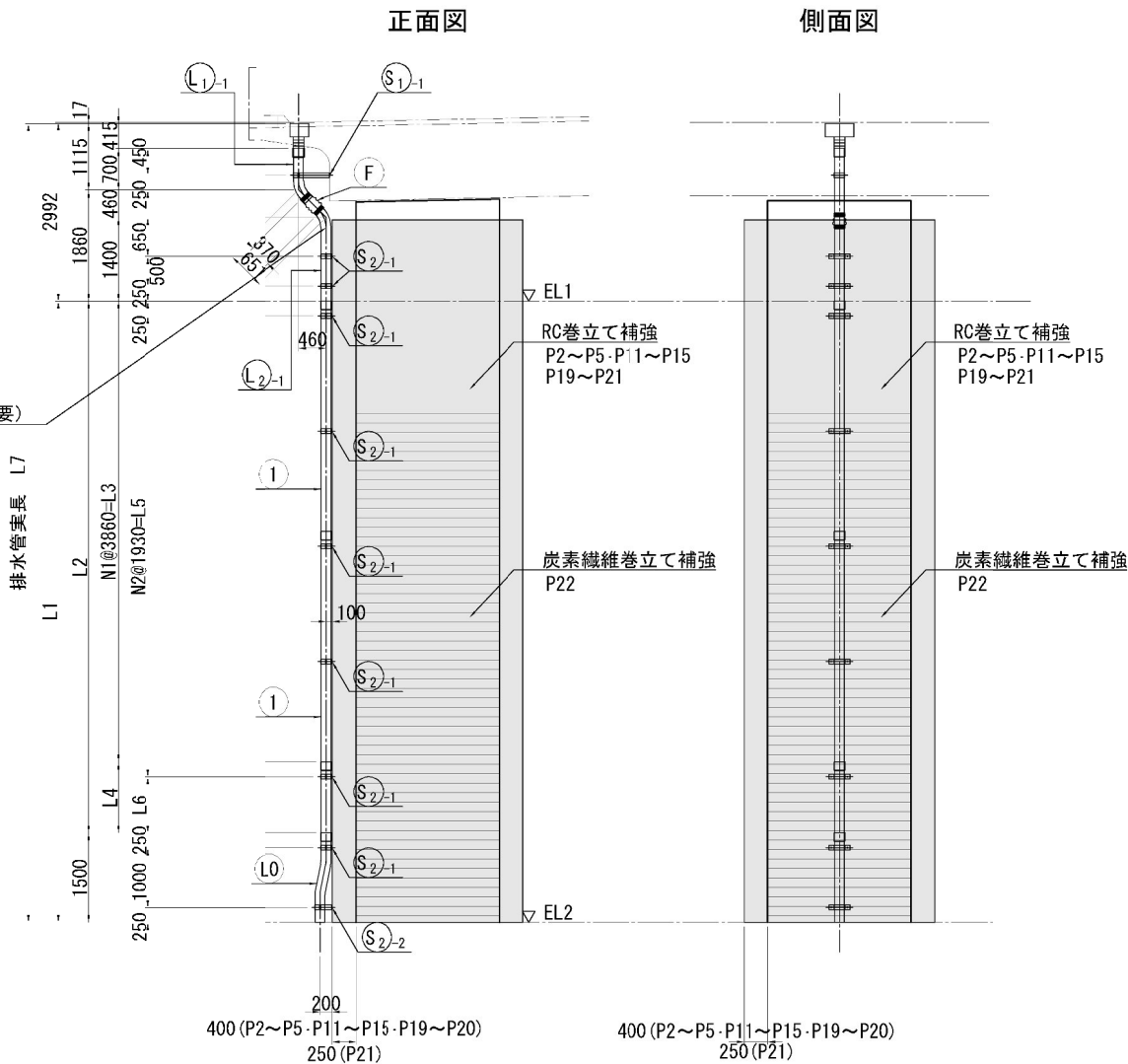
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	本郷矢部高架橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P2～P5・P11～P15・P19～P22橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



寸法表

	EL1	EL2	L1	L2	N1	L3	L4	N2	L5	L6	L7
P2	21.832	9.000	12831	11331	2	7720	3611	5	9650	1431	16162
P3	21.696	9.000	12695	11195	2	7720	3475	5	9650	1295	16026
P4	21.318	12.400	8918	7418	1	3860	3558	3	5790	1378	12249
P5	21.174	10.530	10644	9144	2	7720	1424	5	9650	1174	13975
P11	21.426	8.470	12955	11455	2	7720	3735	5	9650	1555	16286
P12	21.525	8.600	12925	11425	2	7720	3705	5	9650	1525	16256
P13	21.648	8.730	12918	11418	2	7720	3698	5	9650	1518	16249
P14	21.795	8.960	12834	11334	2	7720	3614	5	9650	1434	16165
P15	21.965	9.200	12764	11264	2	7720	3544	5	9650	1364	16095
P19	22.879	12.130	10748	9248	2	7720	1528	4	7720	1278	14079
P20	23.166	12.500	10666	9166	2	7720	1446	4	7720	1196	13997
P21	23.477	13.670	9806	8306	2	7720	586	4	7720	336	13137
P22	23.811	13.400	10410	8910	2	7720	1190	4	7720	940	13741

注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例

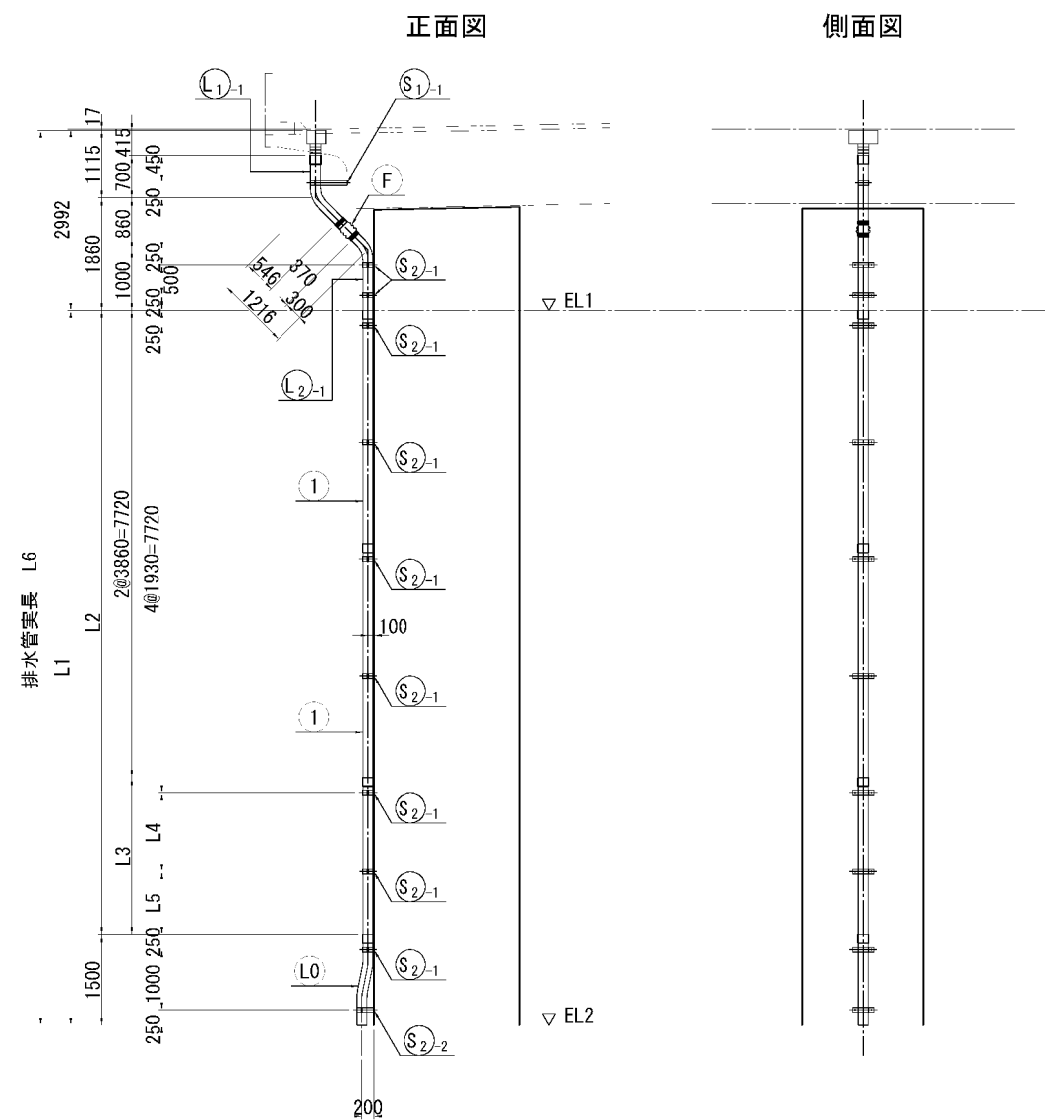
RC巻立て補強

炭素繊維巻立て補強

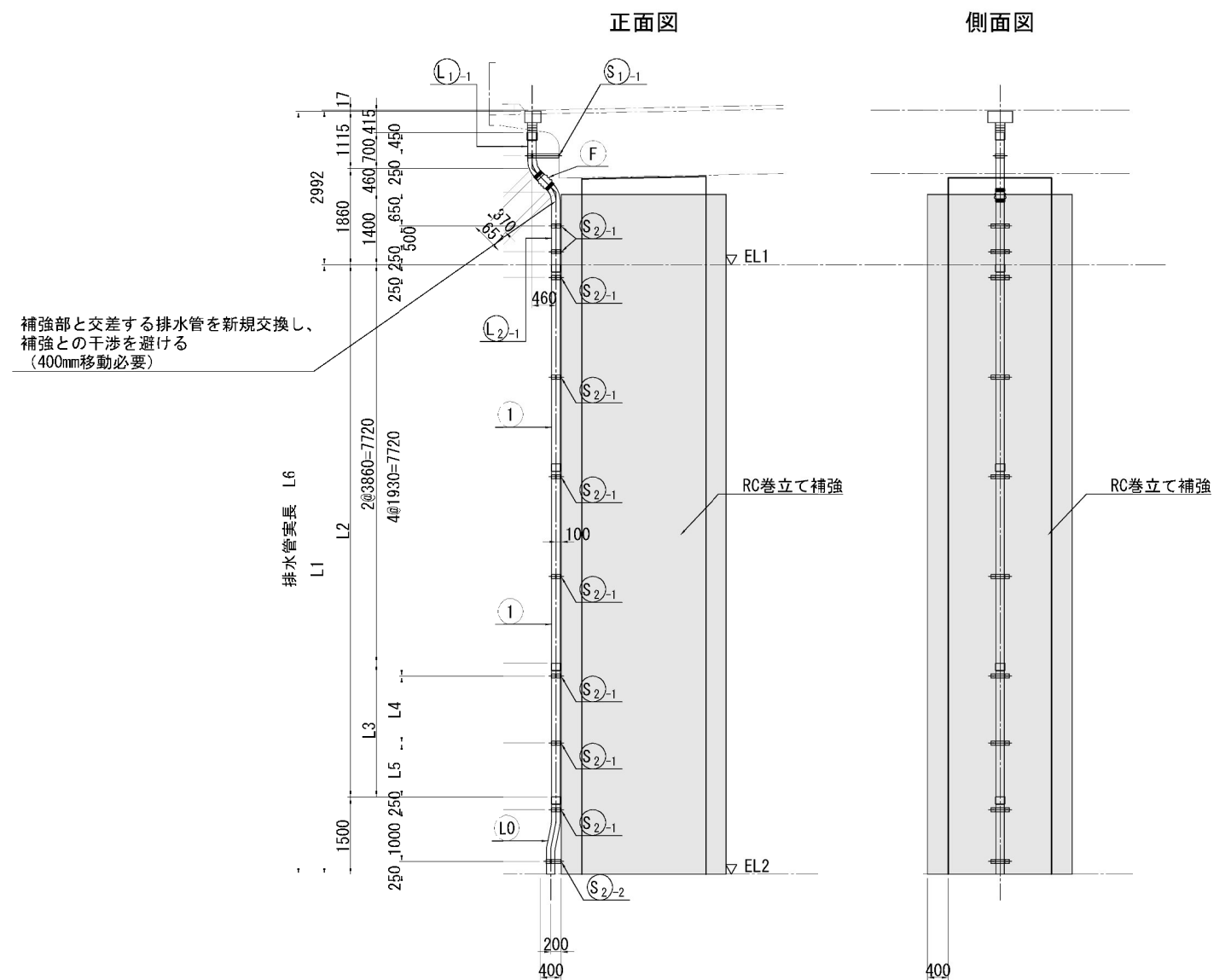
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	本郷矢部高架橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P6·P7·P17·P18橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



寸法表

	EL1	EL2	L1	L2	L3	L4	L5	L6
P6	21. 313	9. 650	11662	10162	2442	1200	992	14993
P7	21. 275	9. 220	12054	10554	2834	1400	1184	15385
P17	22. 375	10. 400	11975	10475	2755	1400	1105	15306
P18	22. 615	10. 780	11835	10335	2615	1300	1065	15166

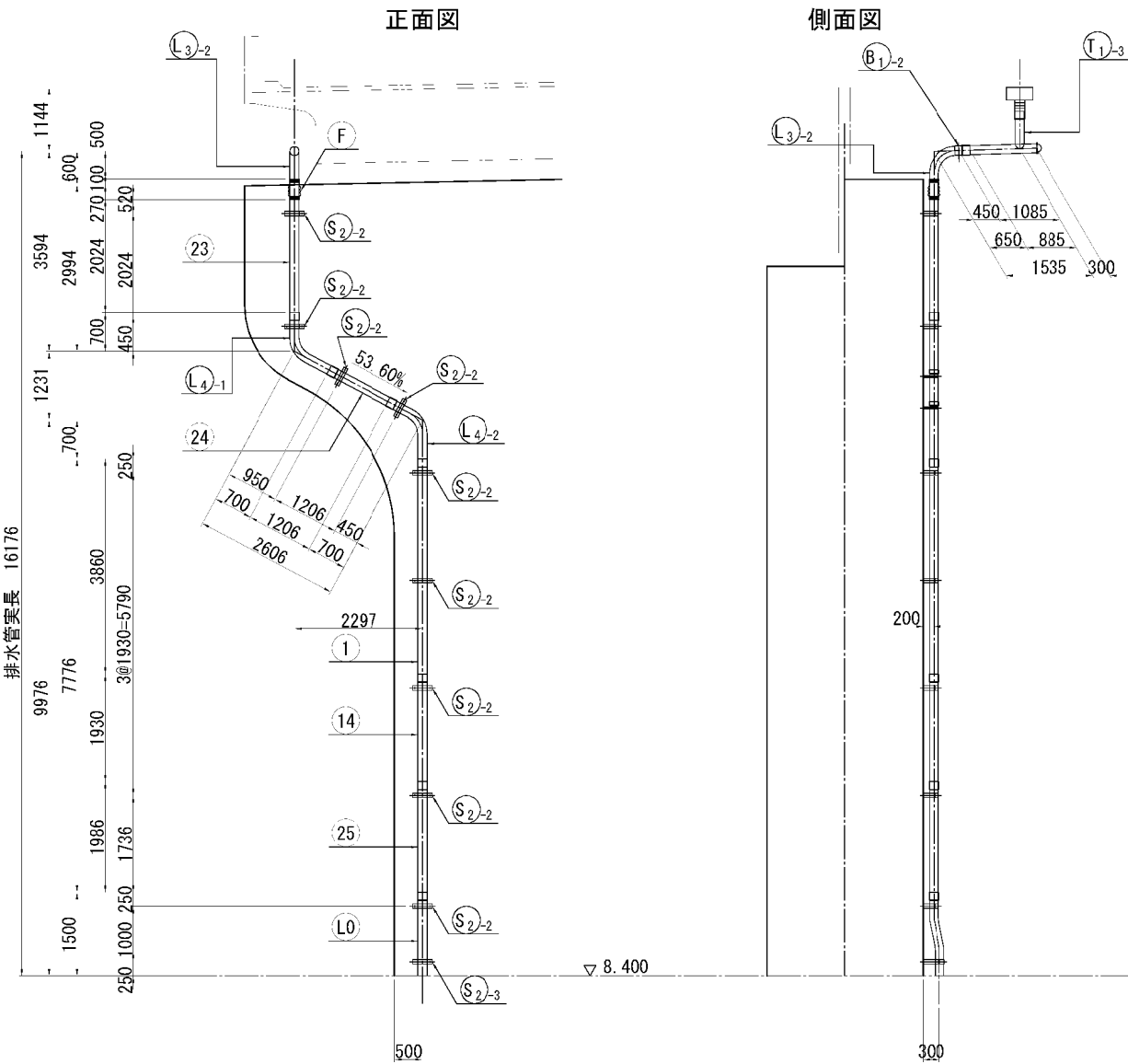
- 注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
 : RC巻立て補強

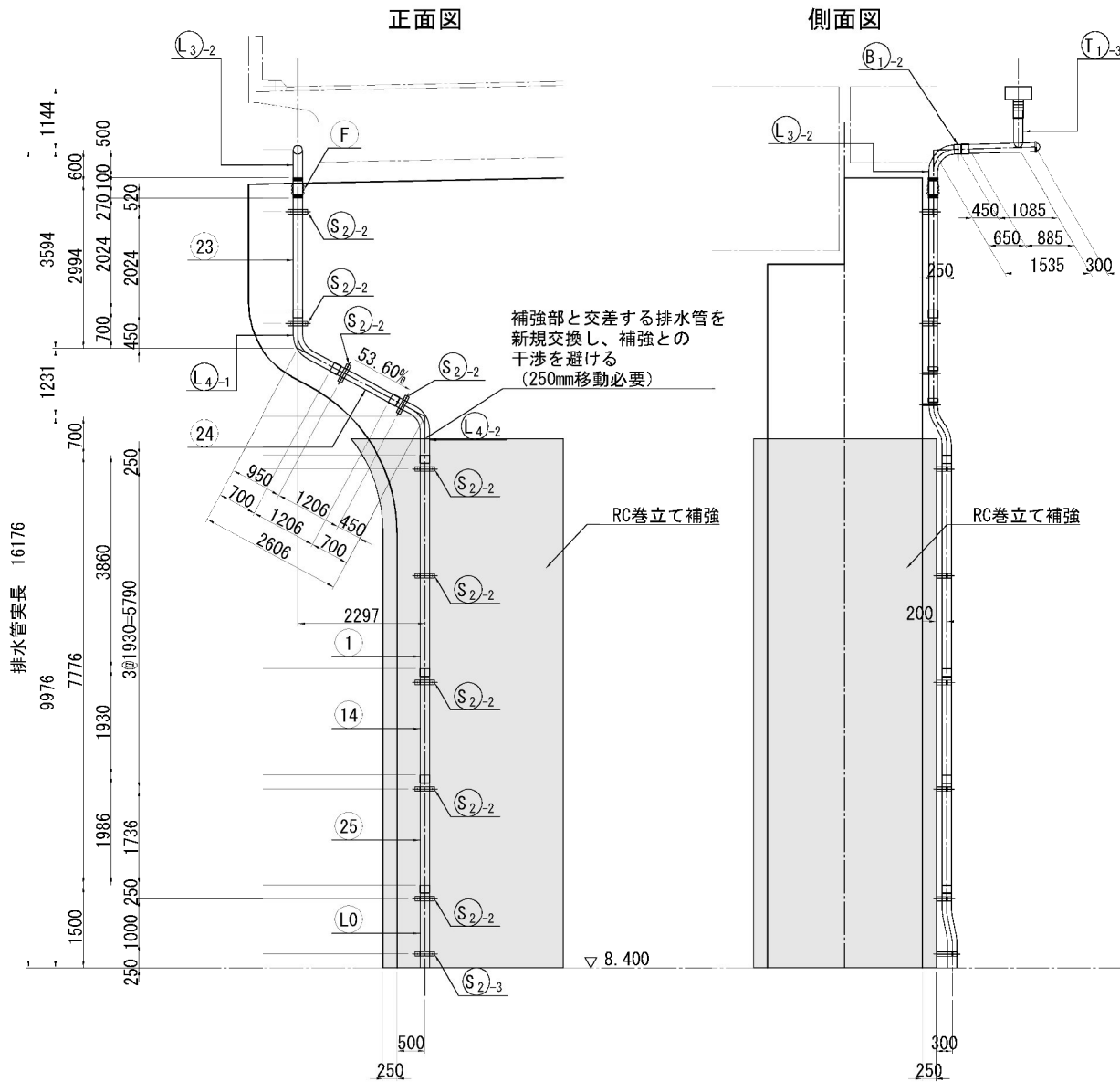
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	本郷矢部高架橋		
排水装置撤去・復旧計画図(その3)			
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P8橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



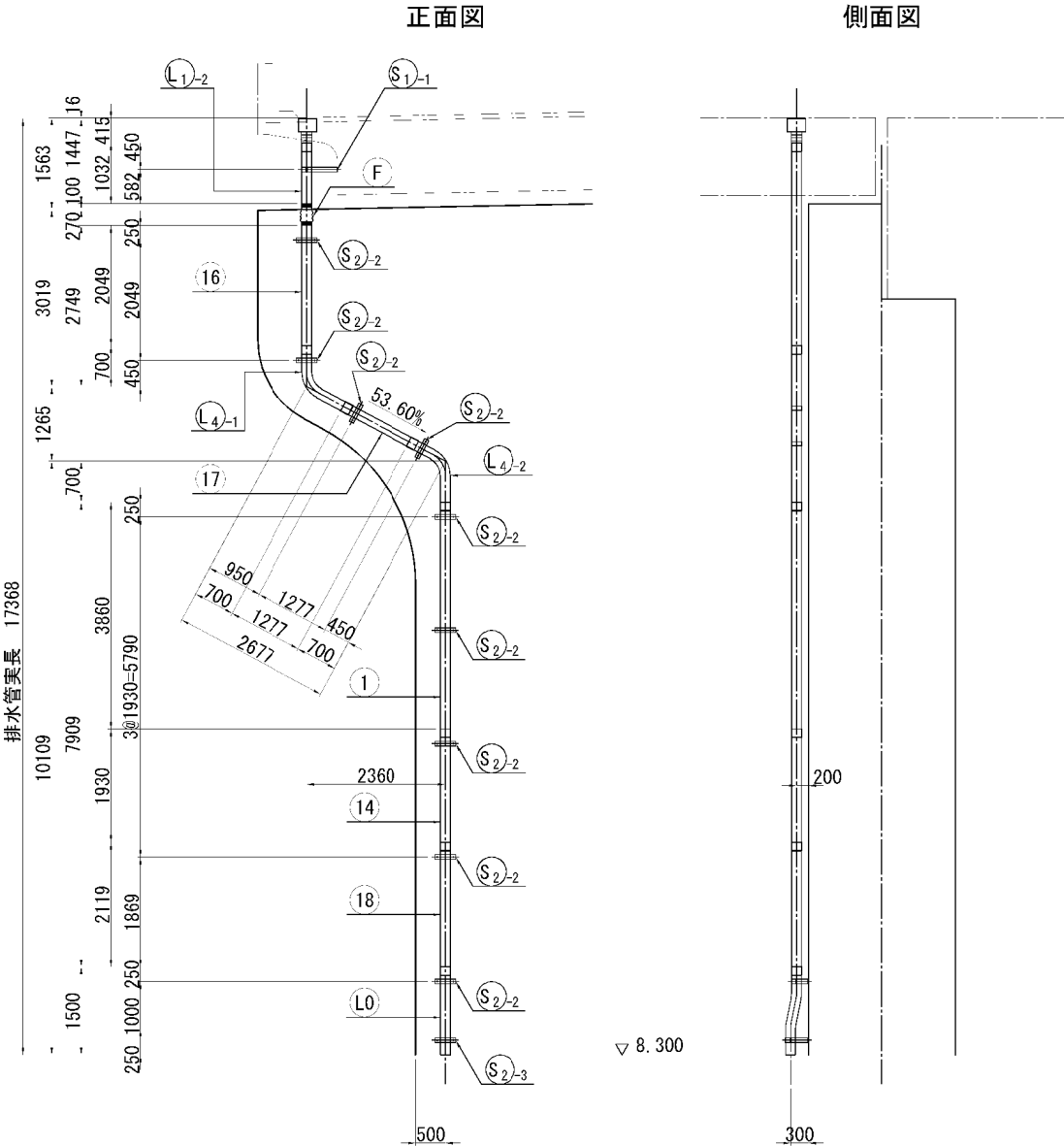
- 注)
- 1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
□ : RC巻立て補強

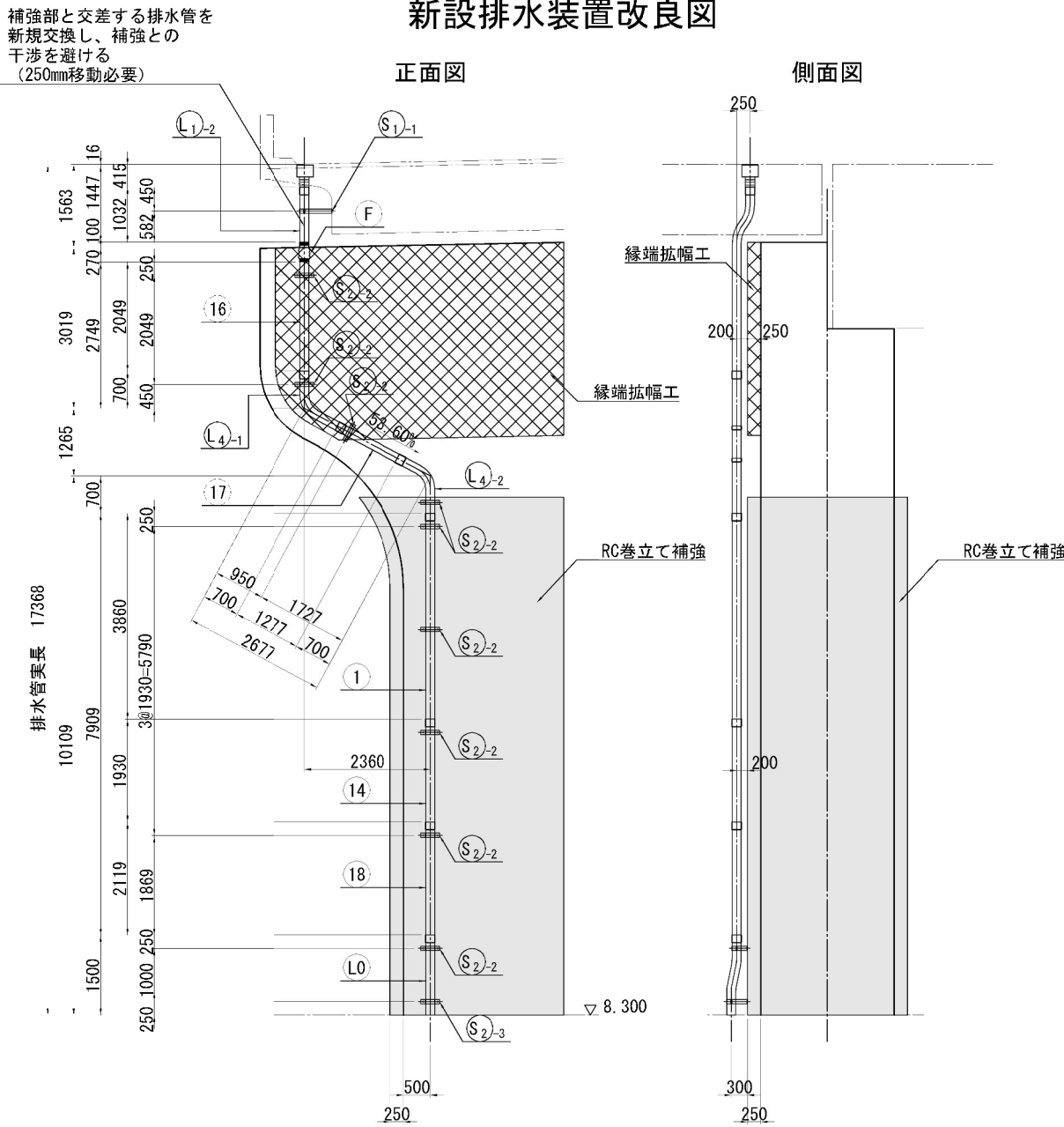
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	本郷矢部高架橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その4)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P9橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



- 注)
- 1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例

	: RC巻立て補強
	: 縁端拡幅工

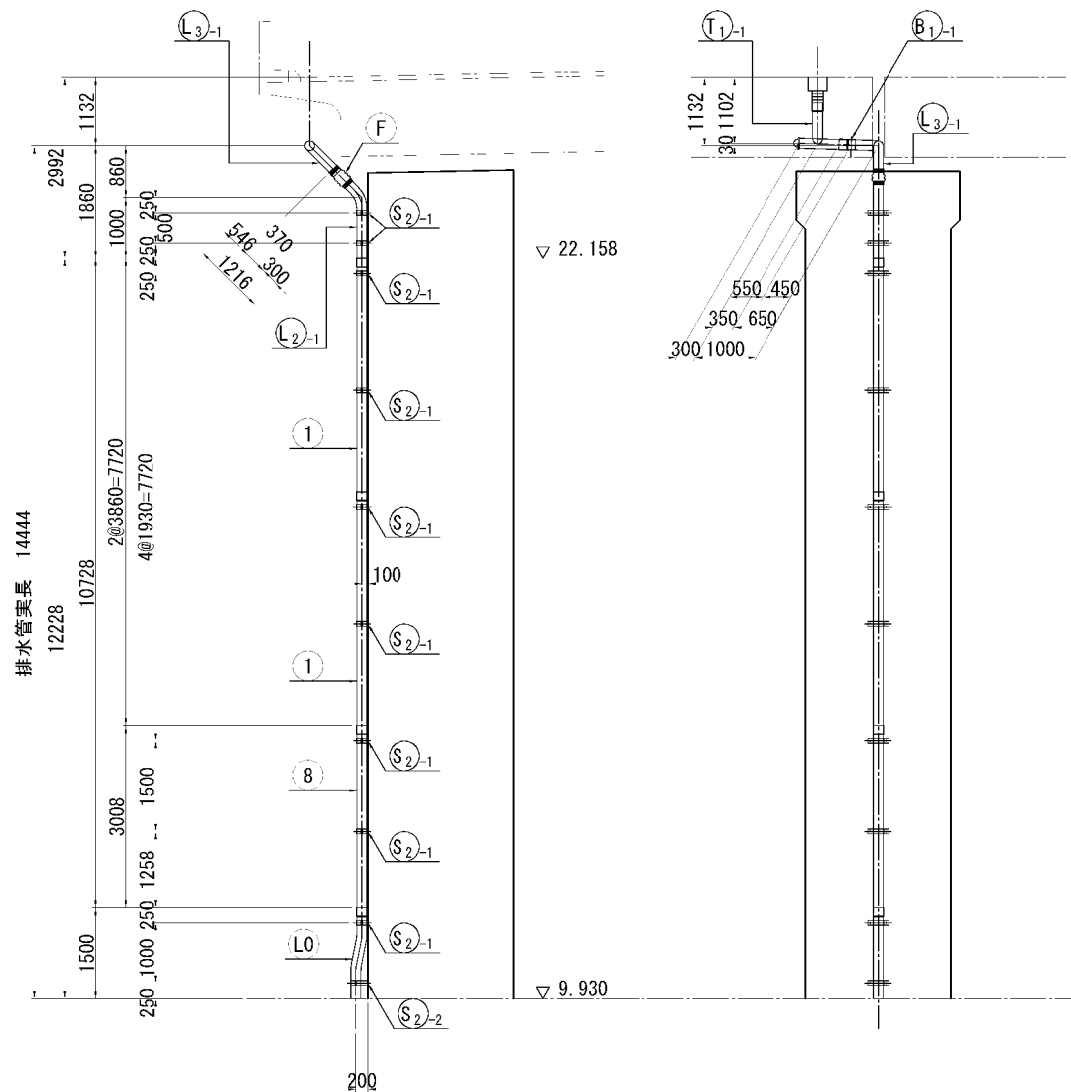
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	本郷矢部高架橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その5)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P16橋脚

既設排水装置撤去図

正面図

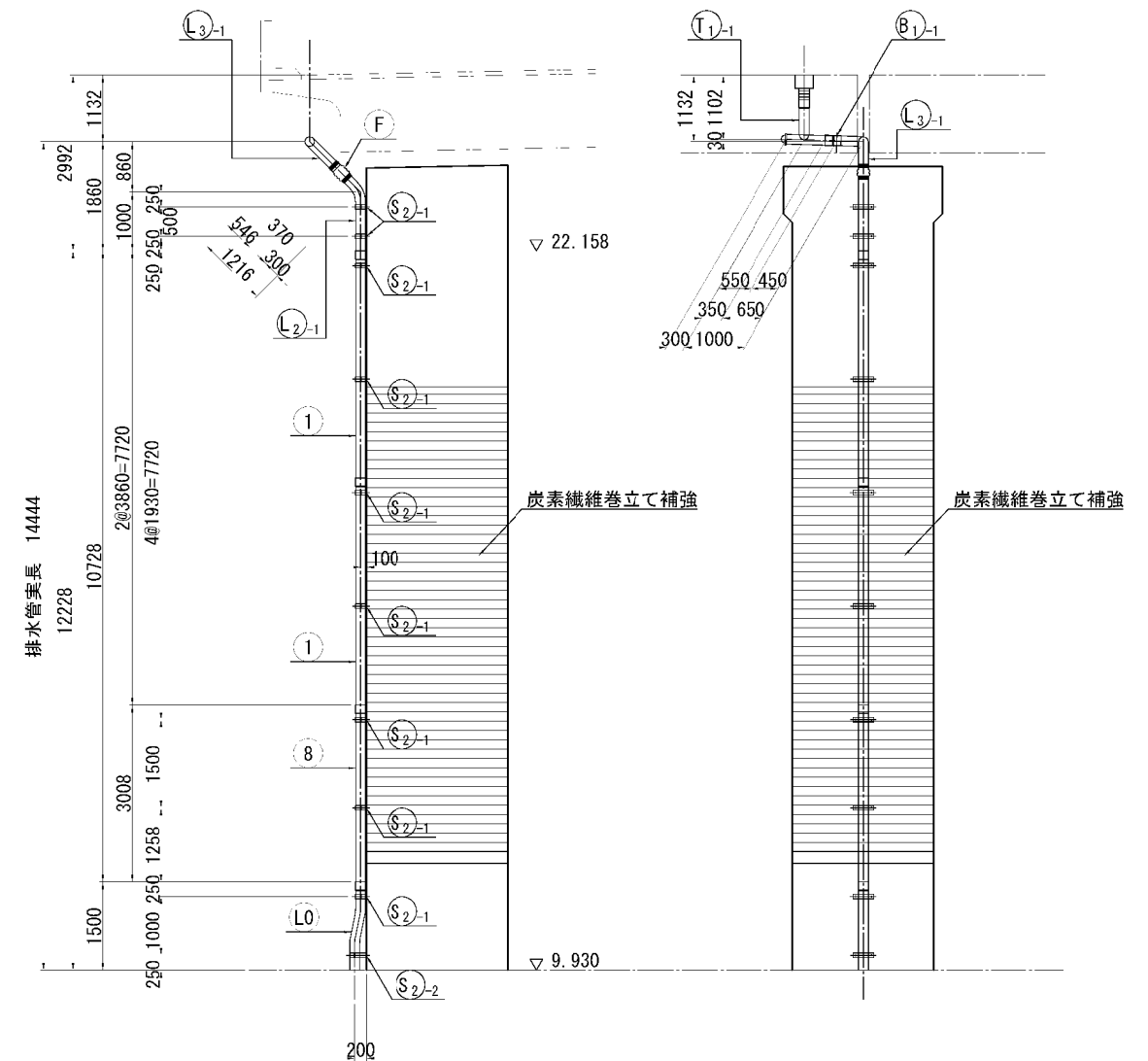
側面図



新設排水装置改良図

正面图

側面図



注)

1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとす。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

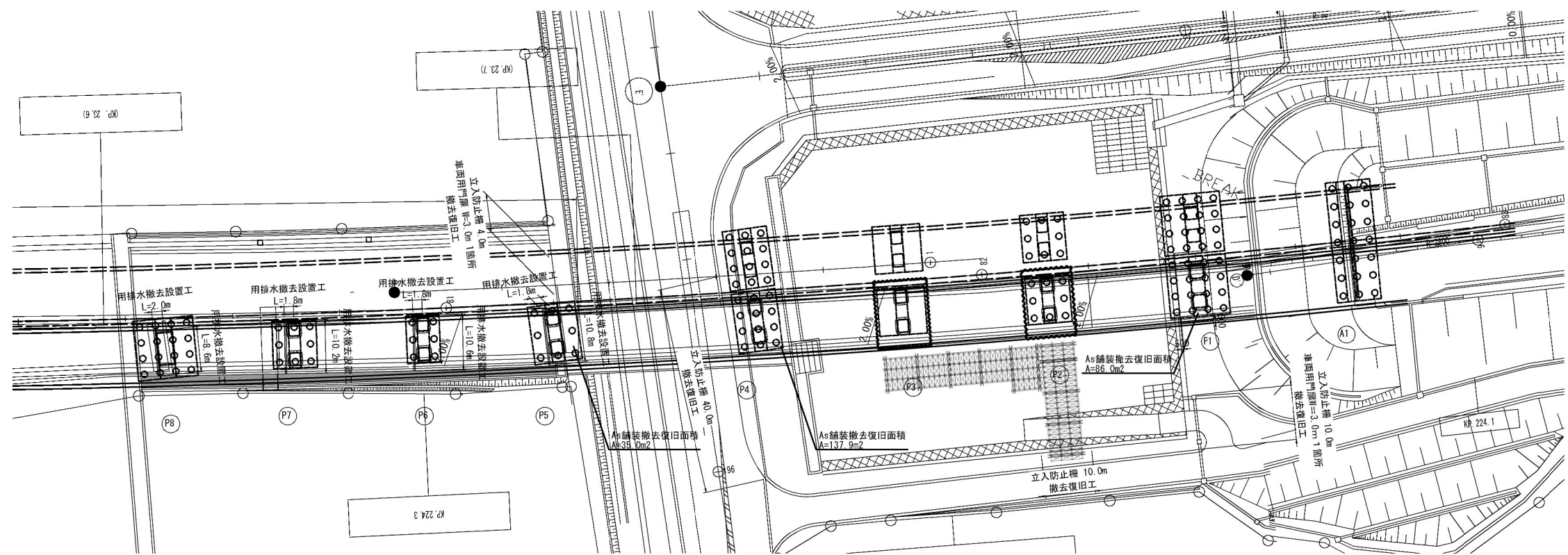
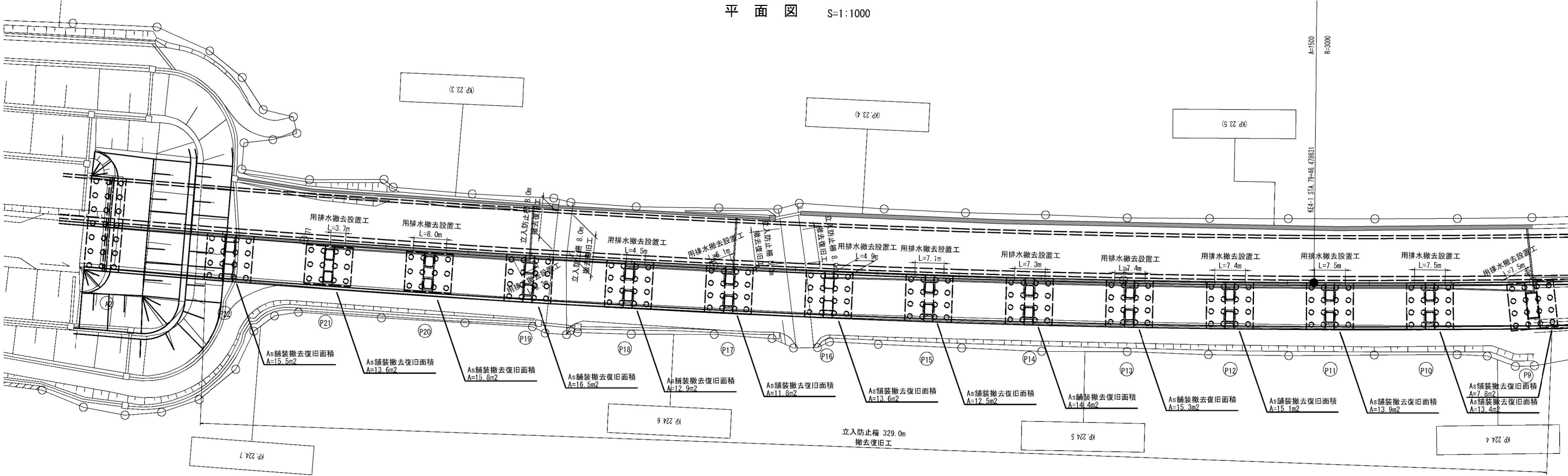
凡例

 : 炭素繊維巻立て補強

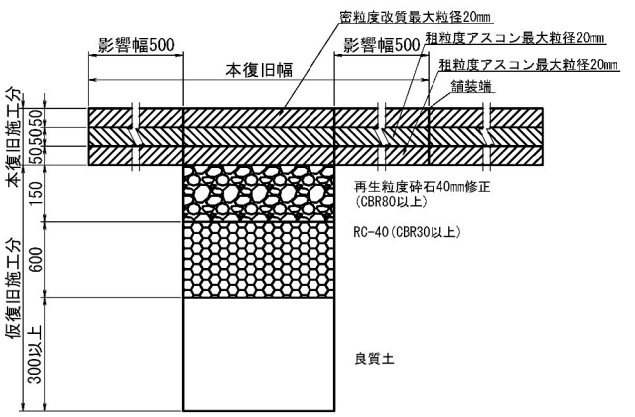
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	本郷矢部高架橋		
排水装置撤去・復旧計画図(その6)			
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

本郷矢部高架橋 附帯工撤去・復旧図

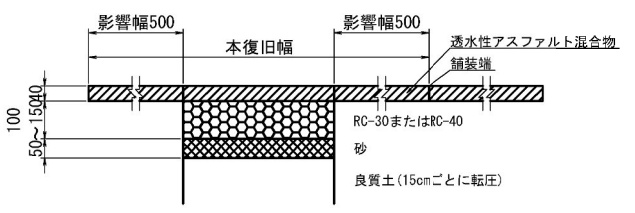
平面図 S=1:1000



舗装復旧構成標準図 S=1:20



舗装復旧構成標準図(歩道部) S=1:20



集計表

種別	規格	単位	全体	合計
立入防止柵(起点側)	@2.0m	m	361.0	361.0
車両用門扉	W=3.0m	箇所	2	2
立入防止柵(終点側)	@2.0m	m	64.0	64.0
舗装撤去・復旧	P1橋脚	m2	88.4	
	P4橋脚	m2	137.9	
	P5橋脚	m2	35.0	

種別	規格	単位	全体	合計
舗装撤去・復旧	P9橋脚	m2	7.8	
	P10橋脚	m2	13.4	
	P11橋脚	m2	13.9	
	P12橋脚	m2	15.1	
	P13橋脚	m2	15.3	
	P14橋脚	m2	14.4	

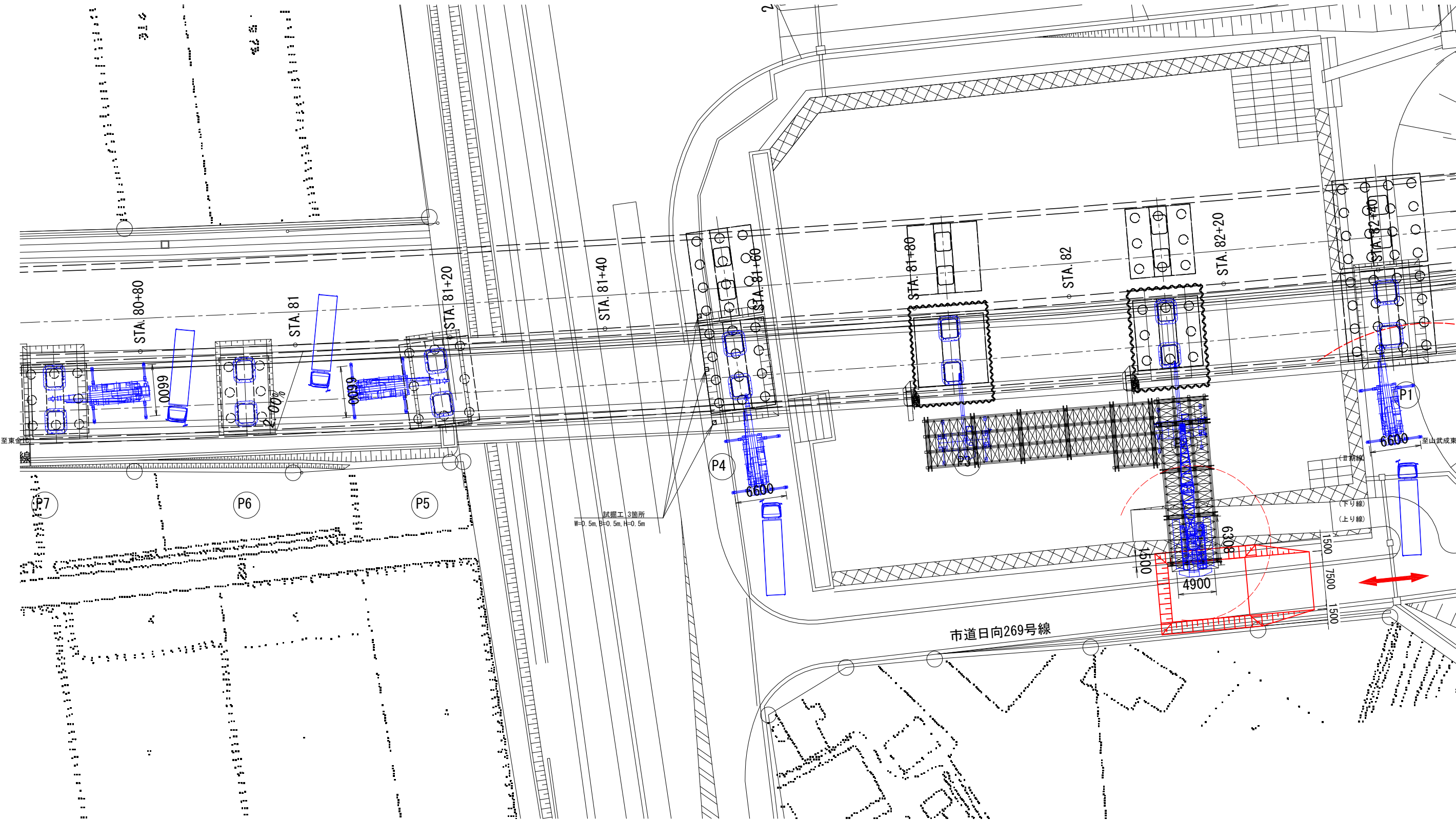
種別	規格	単位	全体	合計
舗装撤去・復旧	P15橋脚	m2	12.5	
	P16橋脚	m2	13.6	
	P17橋脚	m2	11.8	
	P18橋脚	m2	12.9	
	P19橋脚	m2	16.5	
	P20橋脚	m2	15.8	

種別	規格	単位	全体	合計
舗装撤去・復旧	P21橋脚	m2	13.6	
	P22橋脚	m2	15.5	451.0
舗装撤去・復旧	0.30・0.30	m	132.8	132.8

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事				
図面の種類		本郷矢部高架橋 附帯工撤去・復旧図		
縮	尺	図示	図面番号	／
設計会社名		日本工営株式会社		
施工会社名				
事務所名		東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

本郷矢部高架橋 試掘工平面図(参考図)

平面図 S=1:1000



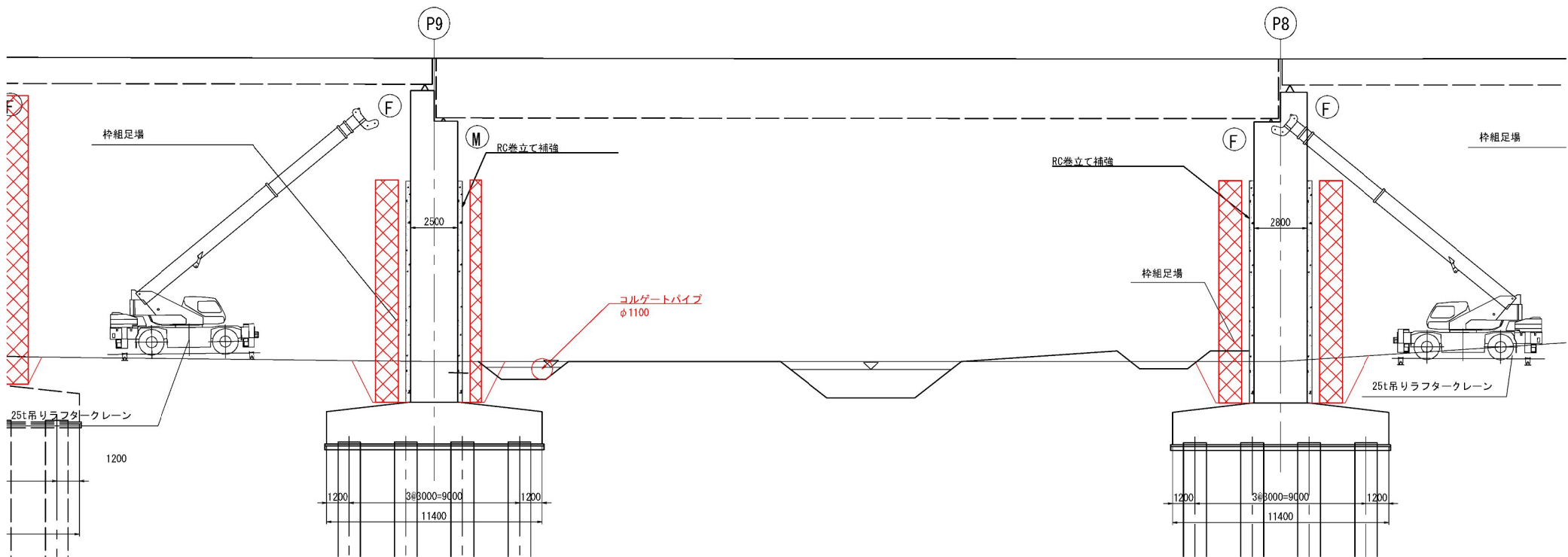
注記
1) 施工時に必要に応じ現地盤を確認し、
地盤の変状、支障物等がある場合は適宜修正を行うこと

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	本郷矢部高架橋		
	試掘工平面図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

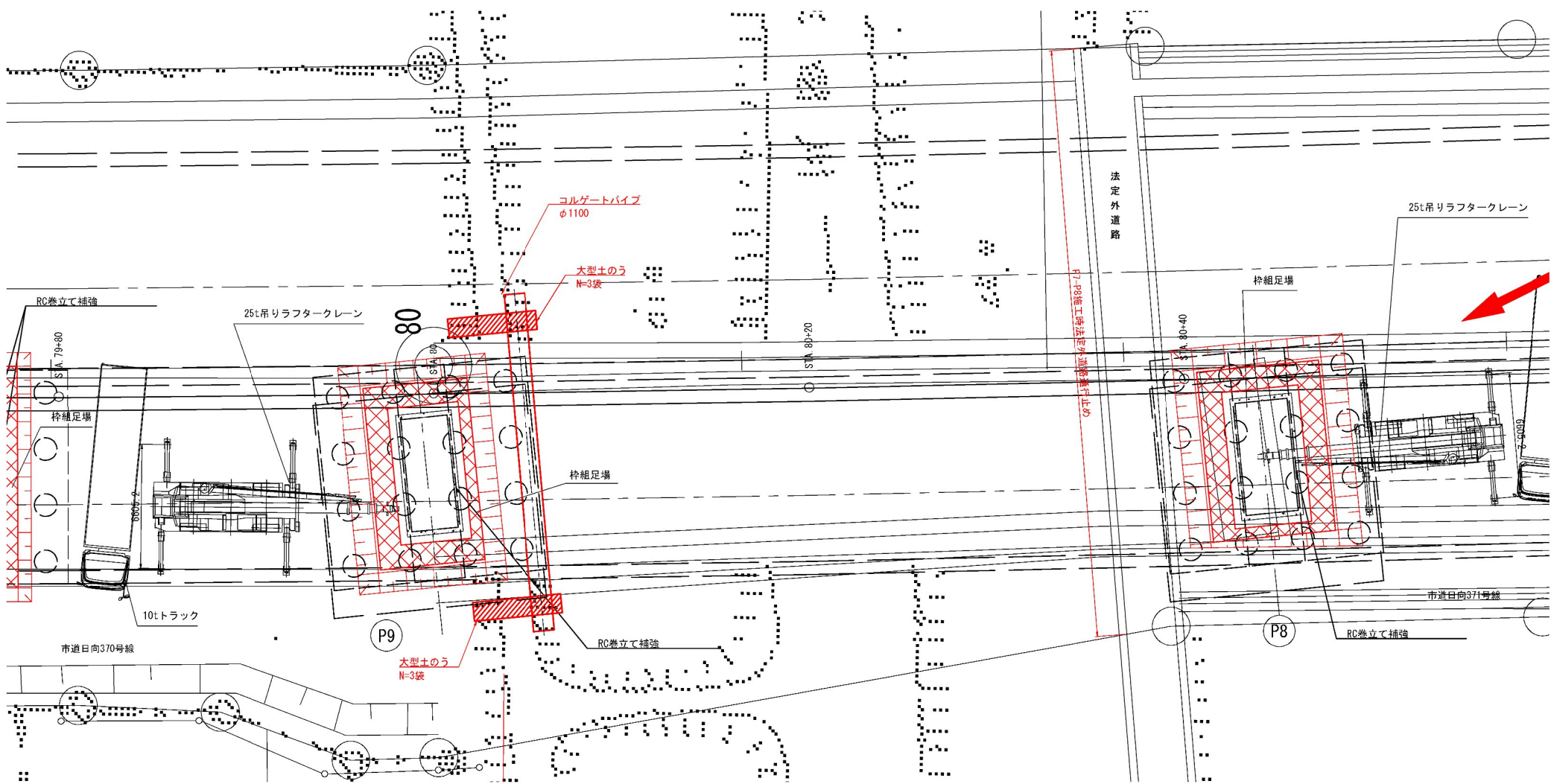
本郷矢部高架橋 P9橋脚 農業用水路 切り回し図（参考図）

計画河川
側面図 S=1:300

凡例
重機
補強工



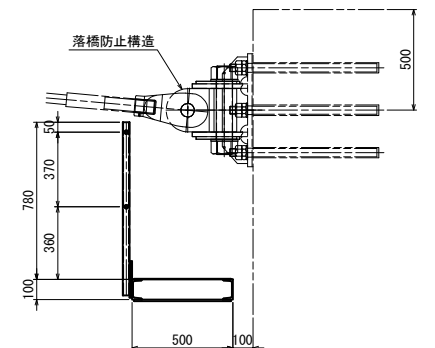
平面図 S=1:300



(注記) 足場設置・解体時およびクレーンでの資材吊り作業時に列車見張員を1名現地に配置すること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	本郷矢部高架橋 P9橋脚 農業用水路 切り回し図(参考図)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

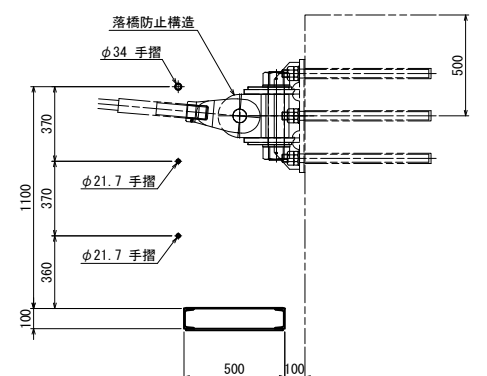
A - A S=1:37.5



既設下部工検査路(撤去材料)

-

C - C $s=1:37.5$



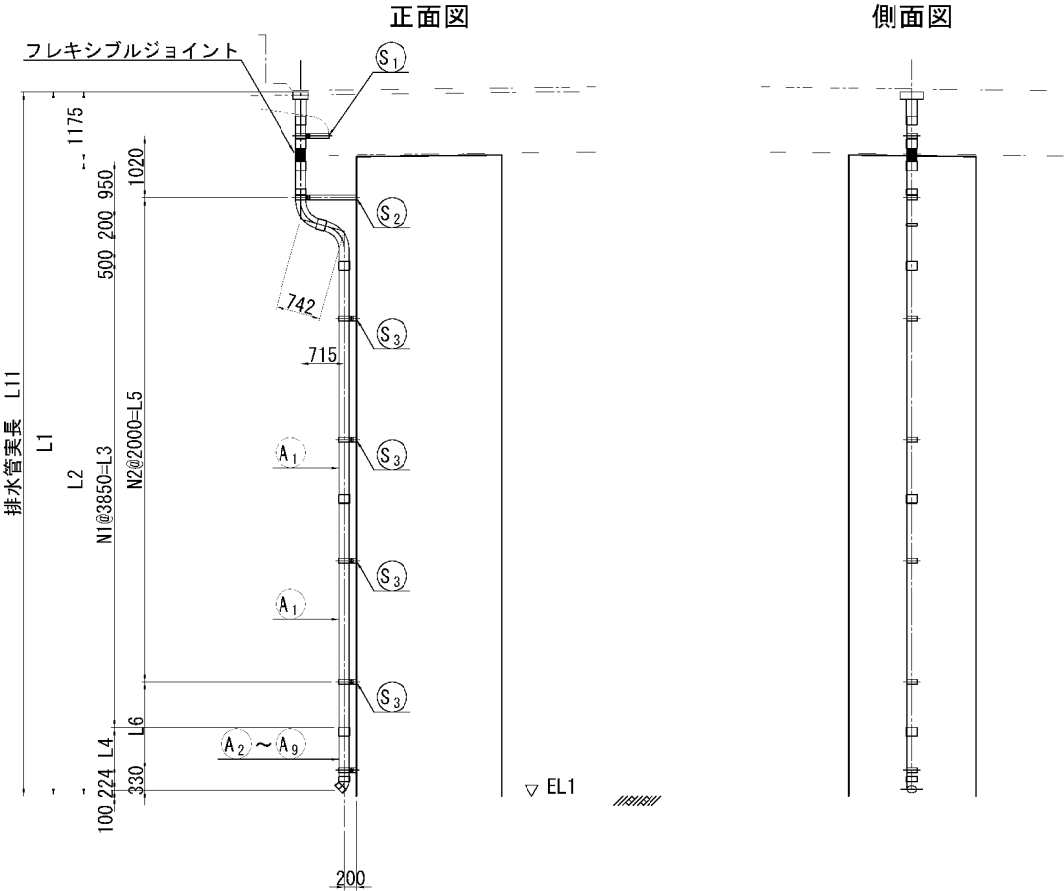
注記

1. 現場実測後、製作、施工すること。
2. 熔融亜鉛メッキを施した部材の切断された面には、高濃度亜鉛末塗料で補修する等の処置を施すこと。

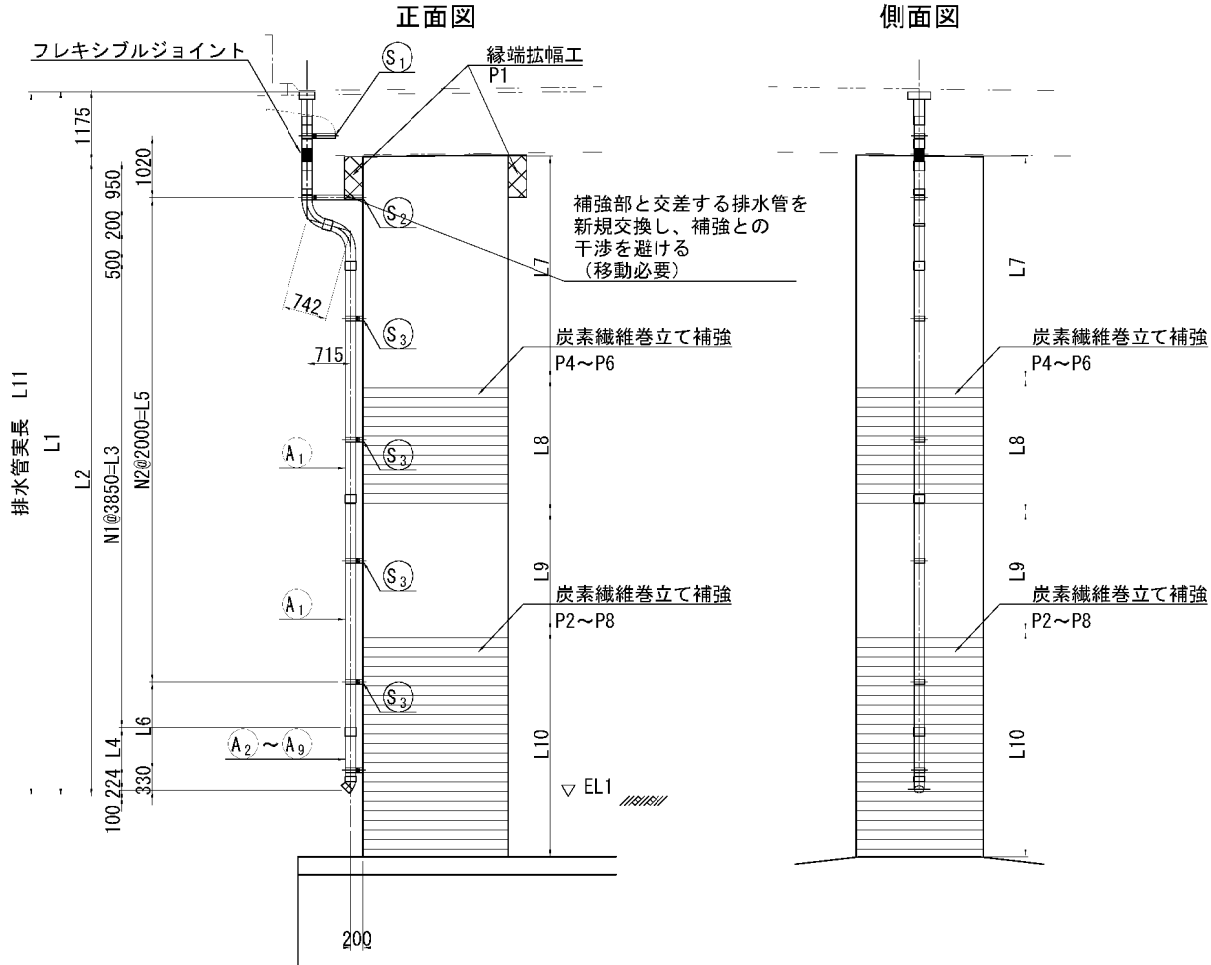
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	森高架橋 下部工検査修復旧図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P1～P8橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



寸法表

	EL1	L1	L2	N1	L3	L4	N2	L5	L6	L11
P1	23.780	11680	10505	2	7700	821	4	8000	1480	12112
P2	23.700	11920	10745	2	7700	1061	4	8000	1720	12352
P3	22.400	13400	12225	2	7700	2541	5	10000	1200	13832
P4	20.210	15780	14605	3	11550	1071	6	12000	1580	16212
P5	20.840	15350	14175	3	11550	641	6	12000	1150	15782
P6	20.990	15410	14235	3	11550	701	6	12000	1210	15842
P7	21.010	15610	14435	3	11550	901	6	12000	1410	15992
P8	25.230	11660	10485	2	7700	801	4	8000	1460	12092

寸法表

	L7		L8	L9	L10
	左柱	右柱			
P2	12440	12500	-	-	3150
P3	11990	12100	-	-	3600
P4	3690	3800	2200	6100	3600
P5	3690	3800	2200	6100	3600
P6	3690	3800	2200	6100	3600
P7	11990	12100	-	-	3600
P8	11434	11550	-	-	3150

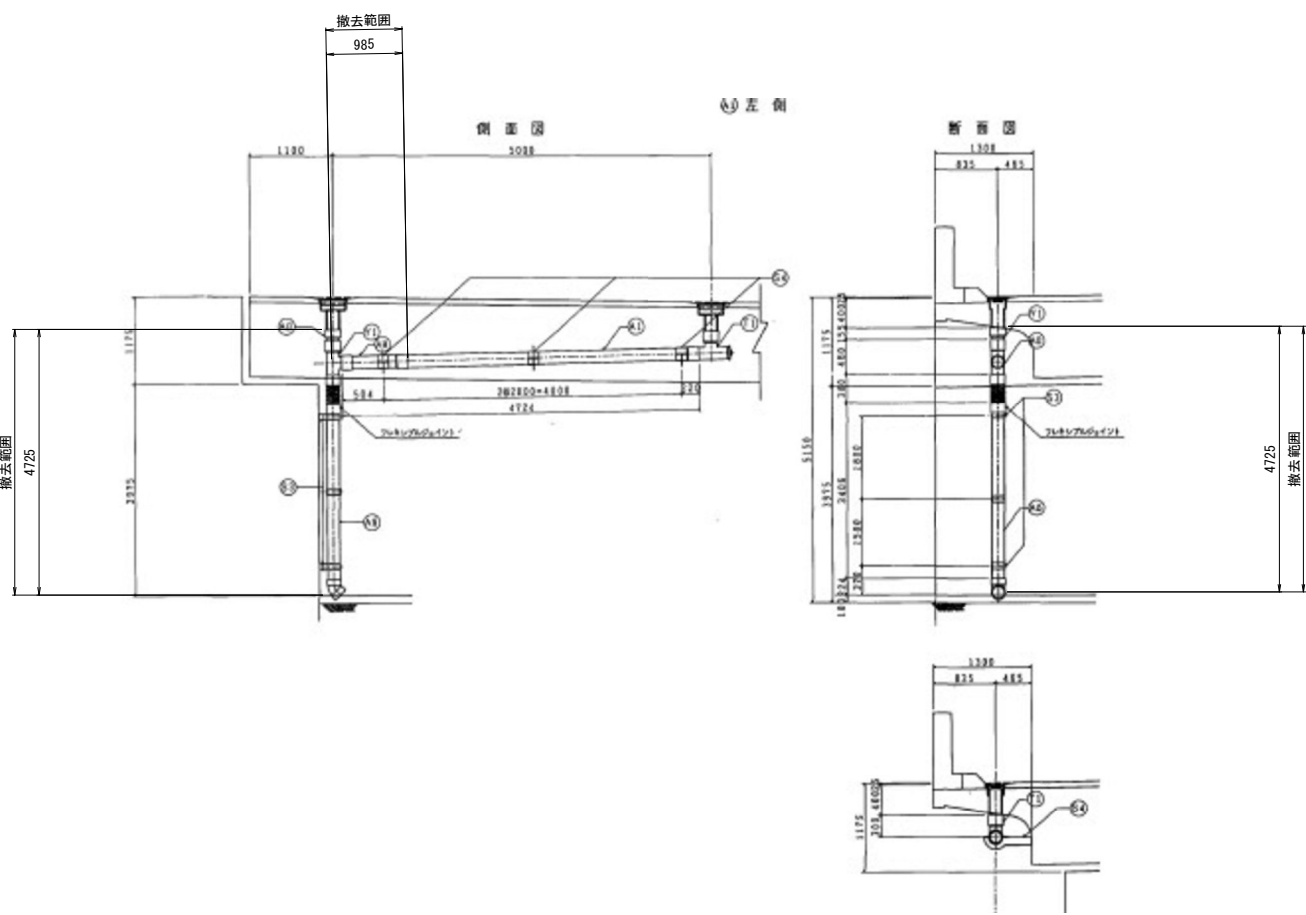
- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
：炭素繊維巻立て補強
：縁端拡幅工

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	森高架橋 排水装置撤去・復旧計画図（その1）		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

既設排水装置撤去・復旧図

A2 橋台（R側）
（竣工時 A1橋台L側）



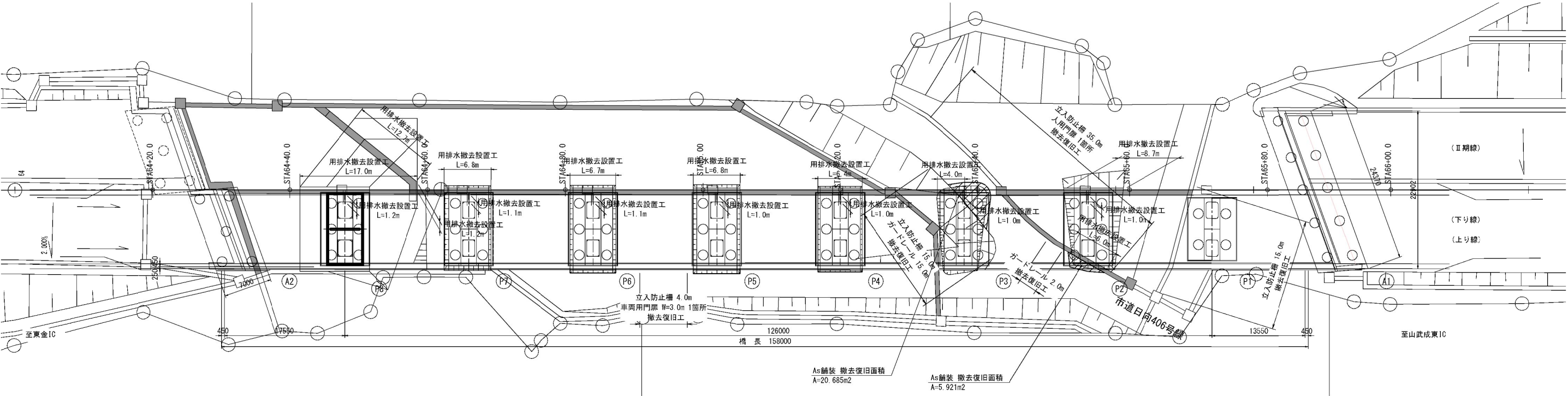
注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641によるものとする。
銅板 HDZT77、ボルト・ナット HDZT49。
3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、
その他は既設材料を再利用する。
4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現状を十分に反映し、
寸法については必要に応じて変更し製作すること。

材 料 表（A2橋台R側）

名 称	記 号	材質・規格	単位	数 量	備 考
流心延長	撤去・復旧		m	4.626	

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	森高架橋		
	排水装置撤去・復旧計画図（その2）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

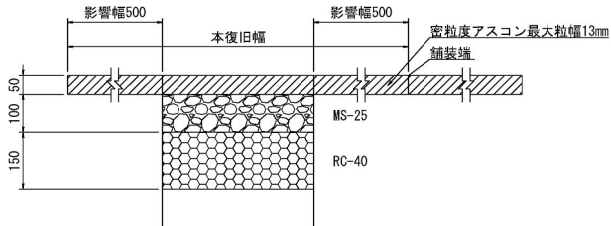
平面図 S=1:600



集計表

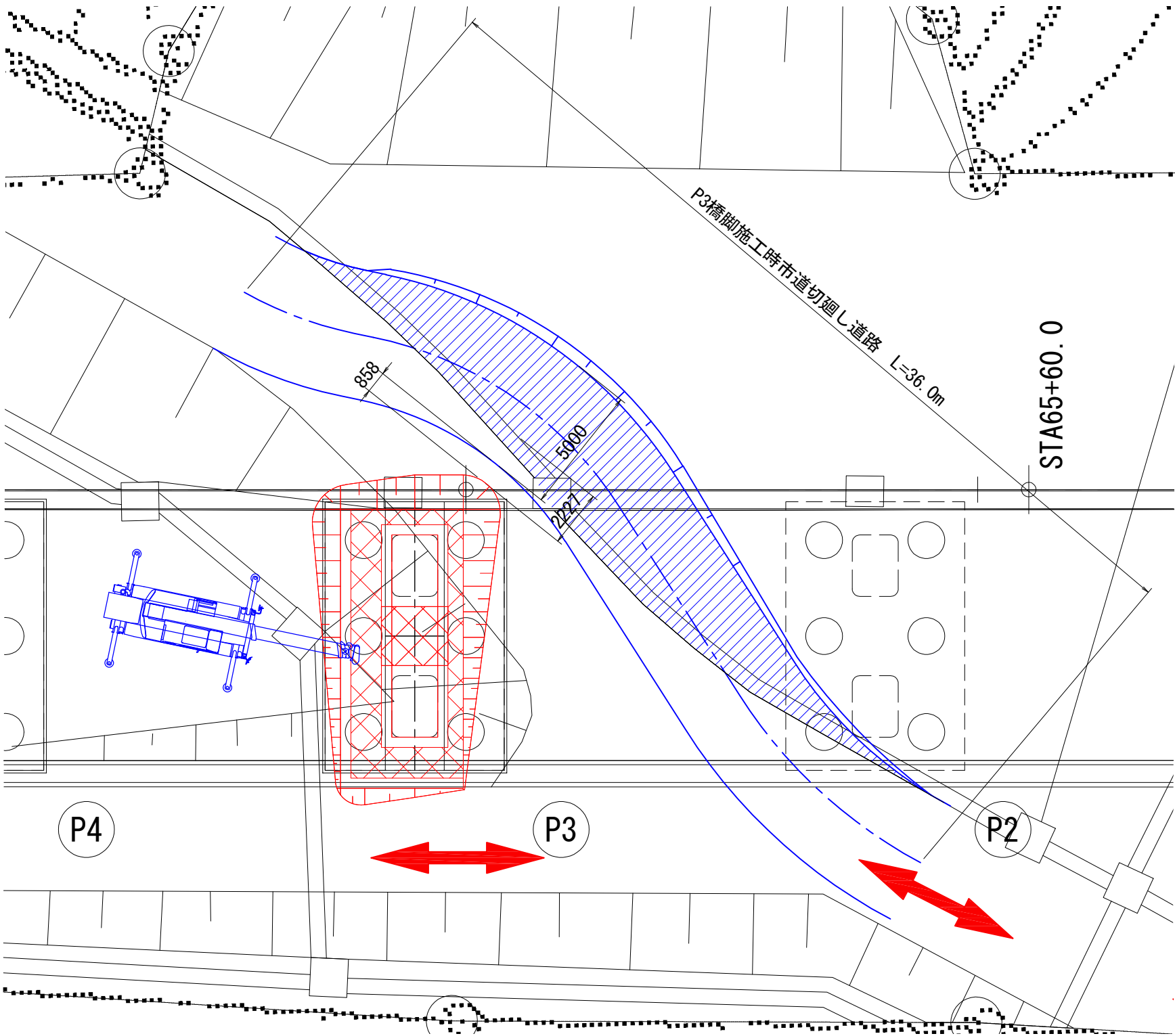
種別	規格	単位	全体	合計
立入防止柵	φ2.0m	m	69.0	69.0
ガードレール		m	17.0	17.0
車両用門扉	W=3.0m	箇所	1	1
人用門扉		箇所	1	1
舗装撤去・復旧	P2槽脚	m2	5.921	26.606
	P3槽脚	m2	20.685	
用排水撤去設置工	0.30・0.30	m	83.7	83.7

舗装復旧構成標準図 S=1:20

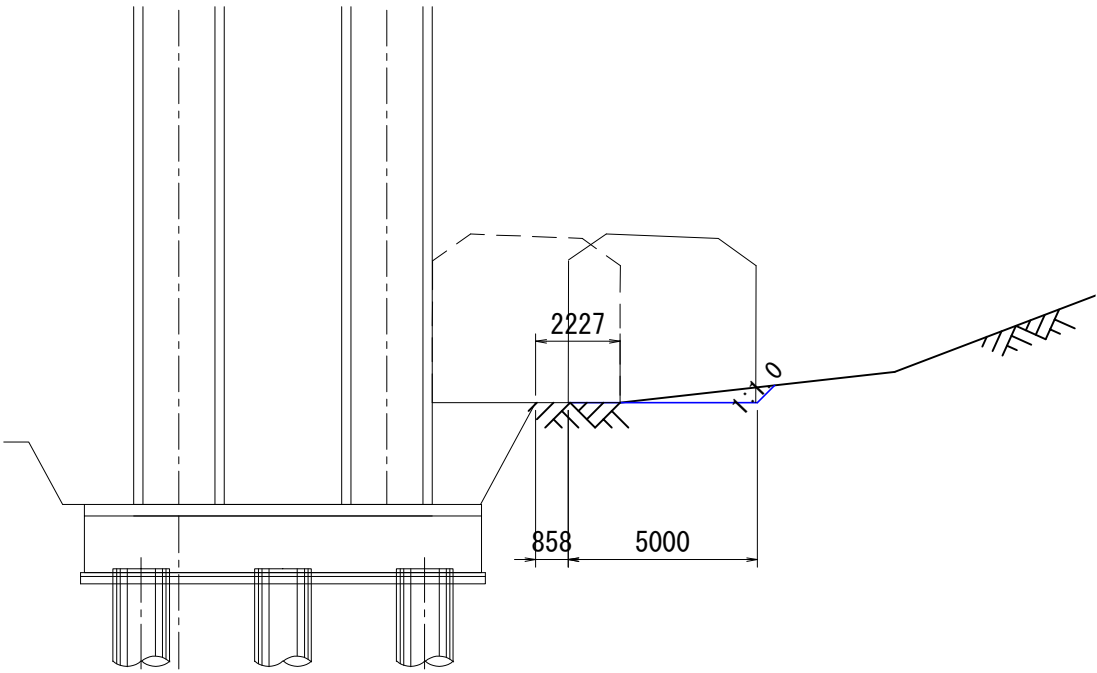


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	森高架橋 附帯工撤去・復旧図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

平面図 S=1:200

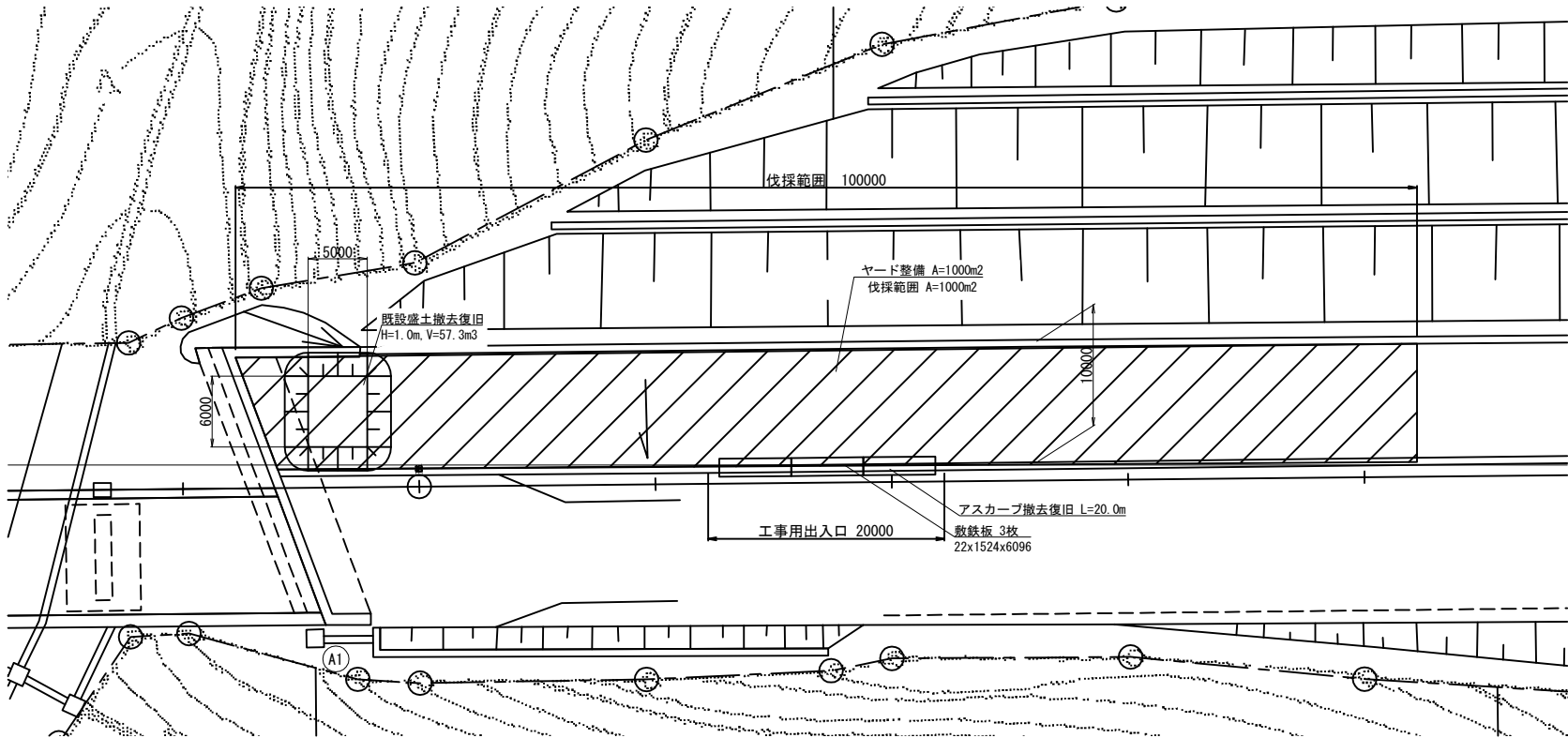


断面図 S=1:200



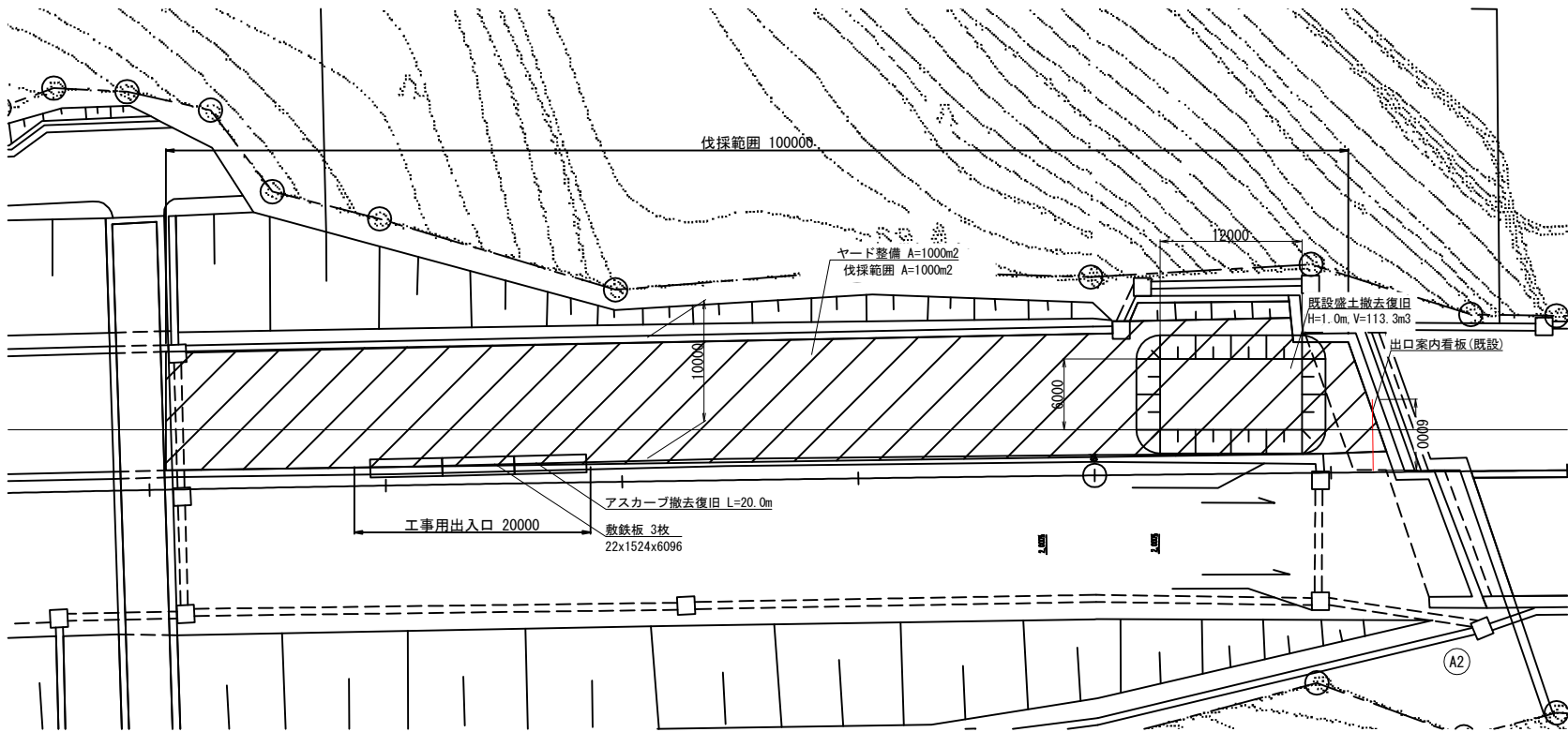
注記
1) 施工時に必要に応じ現地盤を確認し、
地盤の変状、支障物等がある場合は適宜修正を行うこと

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	森高架橋 市道迂回路計画（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



集計表

種別	規格	単位	起点	終点	合計
ヤード整備工		m2	1000.0	1000.0	2000.0
アスカーブ撤去復旧		m	20.0	20.0	40.0
敷鉄板	22x1524x6096	枚	3	3	6
既設盛土撤去復旧		m2	57.3	113.3	170.6



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	森高架橋 作業ヤード整備工図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

酒蔵高架橋 下部工検査路撤去図(その1)

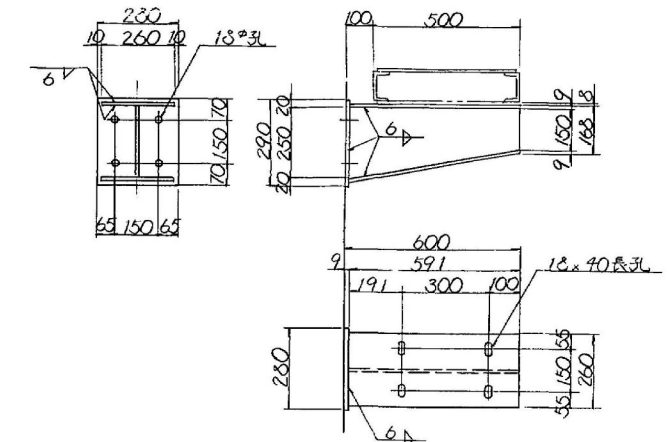
A1橋台

A1
A2橋台

TYPE-B

TYPE-C

ブラケット 縮尺1:10



一時撤去材料

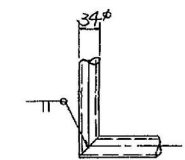
- 1-R 260 x 9 x 591
- 1-R 260 x 9 x 599
- 1-R 250 x 9 x 591
- 1-R 280 x 9 x 290
- 4-BN M16 x 35
- 4-ホールインアンカー M16 ※

撤去材料

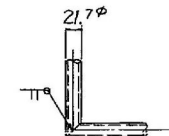
- 4-NUT M16 (1種)
- 4-WASHER M16
- 4-SPRING WASHER M16

※ホールインアンカーは、ナットおよび座金のみ撤去し、アンカー本体は再利用する。

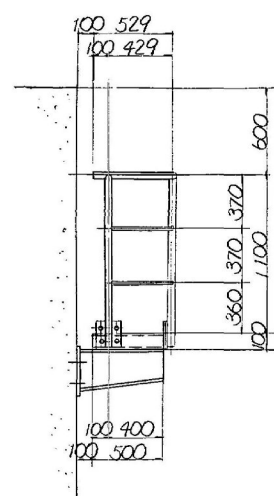
“b”部詳細 縮尺1:5



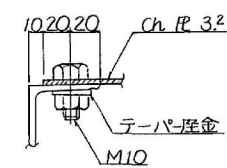
“c”部詳細 縮尺1:5



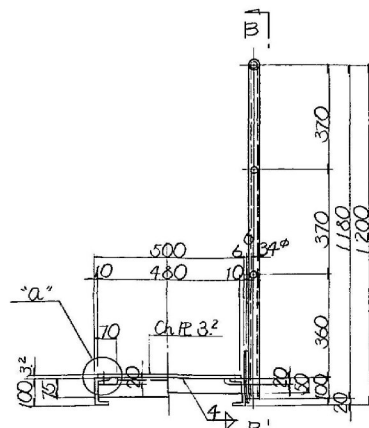
A-A



“a”部詳細 縮尺1:2



断面図 縮尺1:10

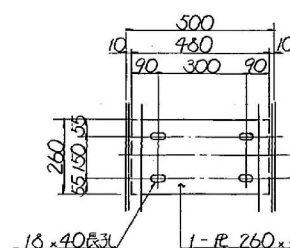


一時撤去材料

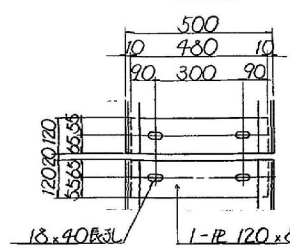
- | | | | |
|--|-------------------------------|--|-------------------------------|
| 1-Pipe 34 ^φ x 2.3 x 4200 (STK400) | 2-L 100 x 50 x 5 x 7.5 x 4215 | 1-Pipe 34 ^φ x 2.3 x 5296 (STK400) | 2-L 100 x 50 x 5 x 7.5 x 5265 |
| 5-Pipe 34 ^φ x 2.3 x 1180 (“) | 2-L 75 x 75 x 6 x 490 | 1-Pipe “ x 546 (“) | 1-L “ x 500 |
| 8-Pipe 21.7 ^φ x 1.9 x 974 (“) | 5-FB 50 x 6 x 490 | 7-Pipe “ x 1180 (“) | 1-L 75 x 75 x 6 x 490 |
| 10-R 150 x 6 x 180 | 1-Ch.R 480 x 3.2 x 4195 | 10-Pipe 21.7 ^φ x 1.9 x 974 (“) | 6-FB 50 x 6 x 490 |
| 2-R 34 ^φ x 3.2 | 2-R 260 x 8 x 480 | 2-R “ x 177 (“) | 1-Ch.R 480 x 3.2 x 5245 |
| 20-BN M16 x 35 (2-座金付) | 1-R 120 x 8 x 480 | 2-R “ x 427 (“) | 2-R 260 x 8 x 480 |
| | 38-BN M10 x 30 | 14-R 150 x 6 x 180 | 1-R 120 x 8 x 480 |
| | (1-テーパー座金, 1-座金付) | 2-R 34 ^φ x 3.2 | 46-BN M10 x 30 |
| | | 28-BN M16 x 35 (2-座金付) | (1-テーパー座金, 1-座金付) |

ブラケット取付板 縮尺1:10

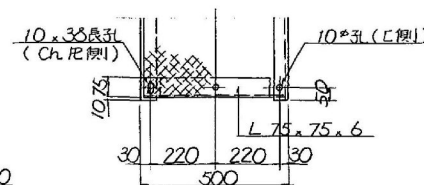
中間部



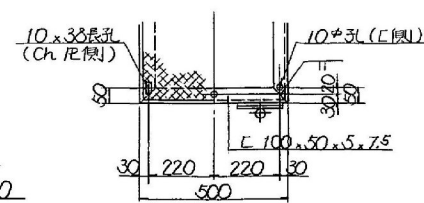
取合部



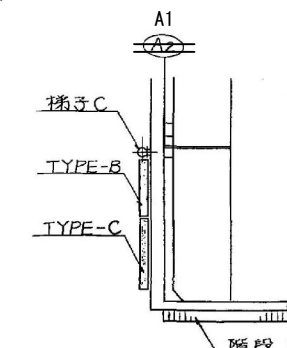
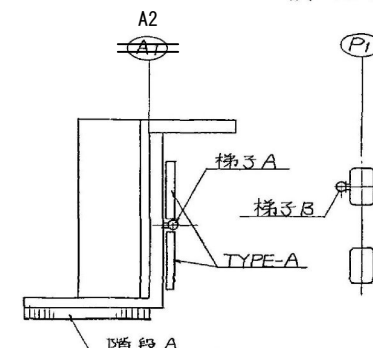
端部断面



外側部



検査路配置図



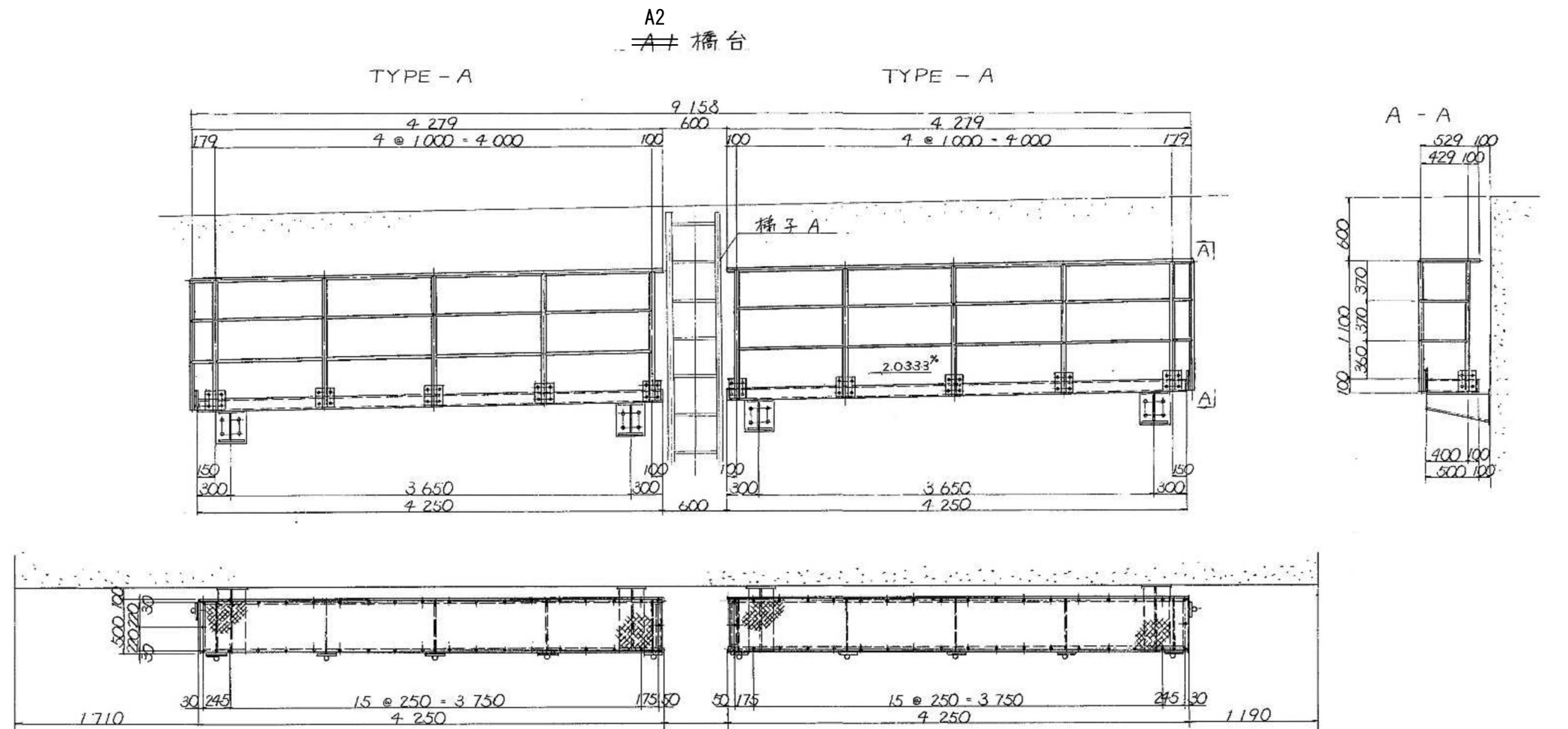
注)

1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 部材は全て溶断亜鉛メッキを施す。付帯量はJIS H 8641 HDBZ55Cとする。(但し、ボルト、ナットはHDBZ35Aとする。)

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	酒蔵高架橋 下部工検査路撤去図(その1)		
縮 尺	—	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

酒蔵高架橋 下部工検査路撤去図(その2)

A2橋台



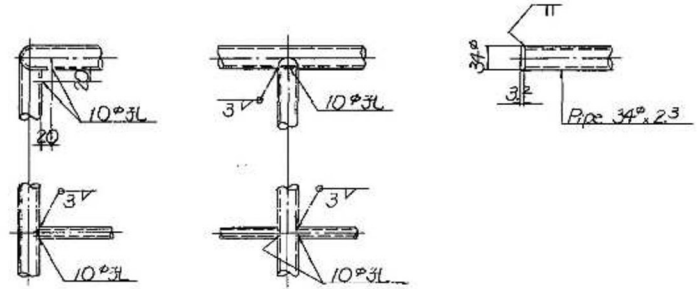
TYPE-A (2-Reqd)

一時撤去材料

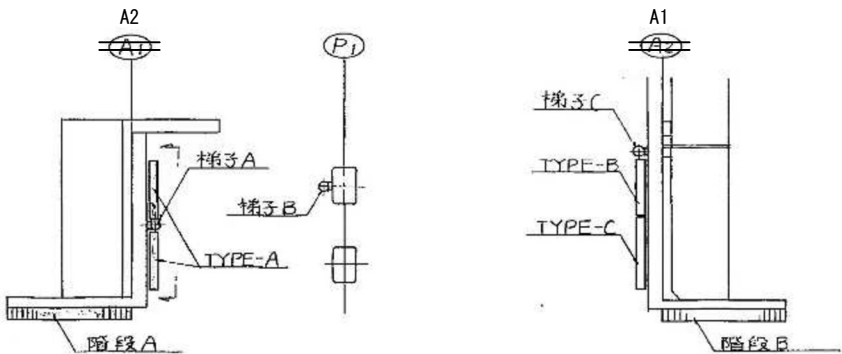
1 - Pipe 34 ^φ x 2.5 x 4,296 (STK 400)	2 - L 100 x 50 x 5 x 7.5 x 4,250
1 - Pipe " x 546 (")	1 - L " x 500
6 - Pipe " x 1,180 (")	1 - L 75 x 75 x 6 x 490
2 - Pipe 21.7 ^φ x 1.9 x 427 (")	5 - FB 50 x 6 x 490
2 - Pipe " x 177 (")	1 - Ch. R 400 x 3.2 x 4,230
8 - Pipe " x 974 (")	2 - R 260 x 8 x 480
12 - R 150 x 6 x 180	38 - BN M10 x 30
2 - R 34 ^φ x 3.2	(1 - テーパー座金, 1 - 座金付)
24 - BN M16 x 35 (2 - 座金付)	

メッキ用空気抜き孔 縮尺1:5

手摺パイプ端部 縮尺1:5



検査路配置図

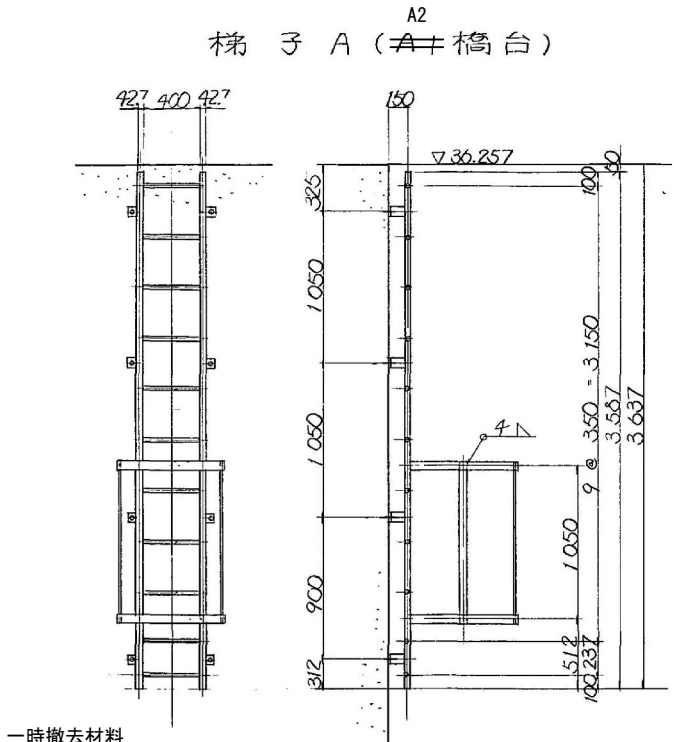


注)
1. 材料記号は全量SS400とする。
2. 部材は全量溶接部はメッキをせず、
付着量はJIS H 8641 H 855C
とする。(但し、ボルト・ナットはH 8235A
とする。)

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	酒蔵高架橋		
	下部工検査路撤去図(その2)		
縮 尺	—	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

酒蔵高架橋 下部工検査路撤去図(その3)

梯子A、C



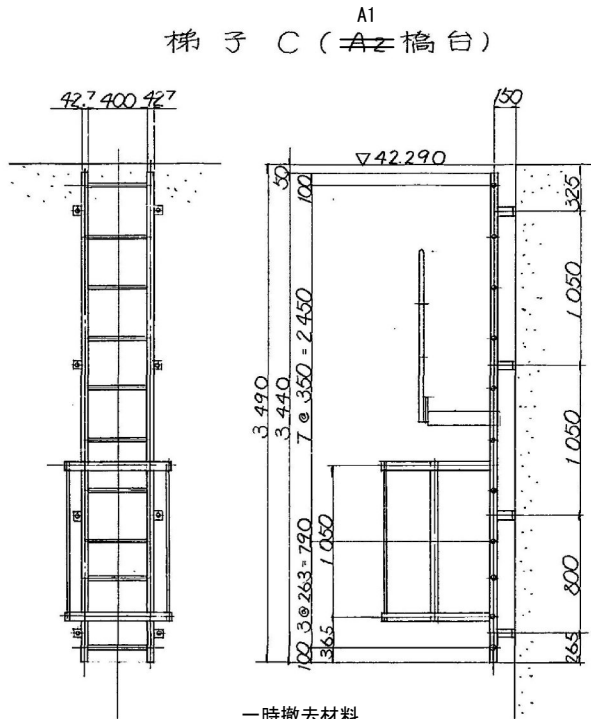
一時撤去材料

2 - Pipe 42.7φ × 2.3 × 3.587 (STK400)	8 - FB 50 × 6 × 123
2 - FB 50 × 6 × 1.971	11 - RB 22φ × 400
3 - FB 50 × 6 × 1.100	8 - ホールインアンカー M16 ※
8 - FB 50 × 6 × 80	

撤去材料

8-NUT M16 (1種)
8-WASHER M16
8-SPRING WASHER M16

※ホールインアンカーは、ナットおよび座金のみ撤去し、アンカー本体は再利用する。



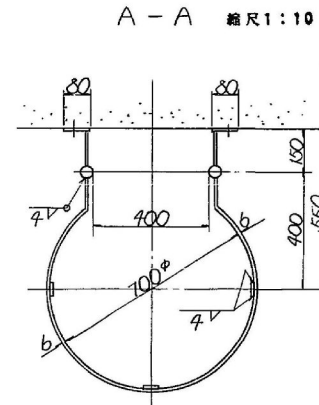
一時撤去材料

2 - Pipe 42.7φ × 2.3 × 3.440 (STK400)	
2 - FB 50 × 6 × 1.971	
3 - FB 50 × 6 × 1.100	
8 - FB 50 × 6 × 80	
8 - FB 50 × 6 × 123	
11 - RB 22φ × 400	
8 - ホールインアンカー M16 ※	

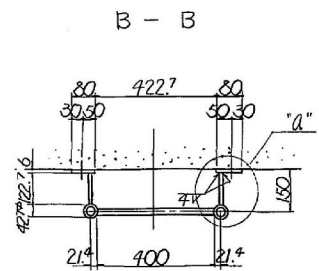
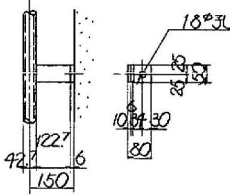
撤去材料

8-NUT M16 (1種)
8-WASHER M16
8-SPRING WASHER M16

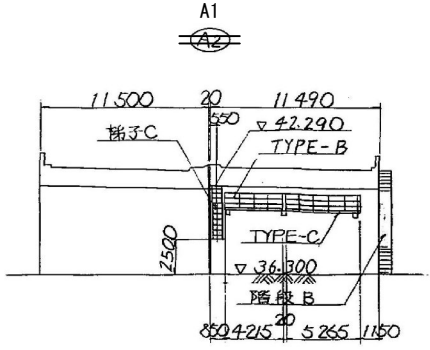
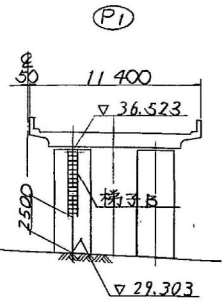
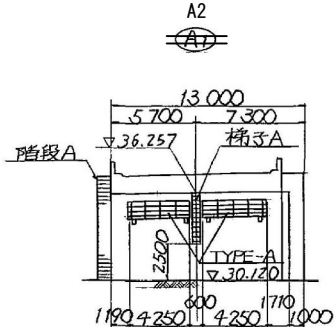
※ホールインアンカーは、ナットおよび座金のみ撤去し、アンカー本体は再利用する。



※ "a" 部 詳 図 縮尺 1 : 10



検査路配置図



- 注)
- 特記なき材質は全て SS400 とする。
 - ボルトは全て JIS H 8641 HDZ55C とする。(但しボルト、ナットは、HDZ35A とする。)

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	酒蔵高架橋		
	下部工検査路撤去図(その3)		
縮 尺	—	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

酒蔵高架橋 下部工検査路復旧図(その1)

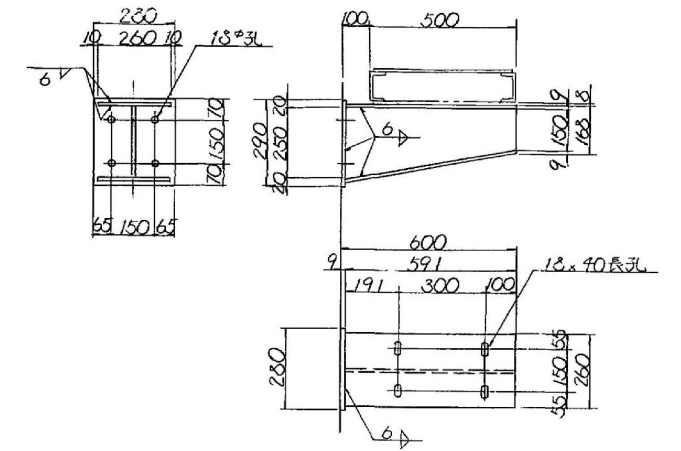
A1橋台

A1橋台
A2橋台

TYPE-B

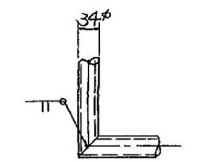
TYPE-C

ブラケット 縮尺1:10

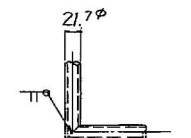


- 復旧材料
- 1-R 260×9×591
 - 1-R 260×9×599
 - 1-R 250×9×591
 - 1-R 280×9×290
 - 4-BN M16×35
 - 4-ボルト・ナット M16※
- 新設材料
- 4-NUT M16(1種)
 - 4-WASHER M16
 - 4-SPRING WASHER M16
- ※アンカー本体は再利用する。

“b”部詳細 縮尺1:5



“c”部詳細 縮尺1:5



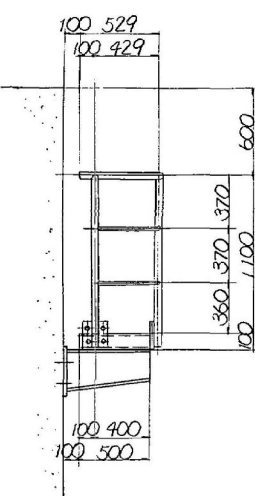
注記

- 現場実測後、製作、施工すること。
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
- 新設部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZ777 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZ749とする。
- ブラケットのアンカーは、既設アンカーを再利用する。
但し、再利用の際もナット、座金については、新設部材を使用する。
なお、既設アンカーを再利用する際は、既設アンカーの健全性を確認し、健全性が確保出来ない場合は、新設アンカーに変更すること。
5. 梯子詳細は「下部工検査路復旧図(その3)」を参照のこと。

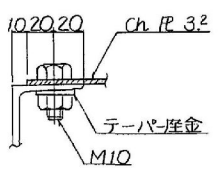
注)

- 特記なき材質は全てSS400とする。
- 部材1は全て溶融亜鉛メッキを施す。
付着量は JIS H 8641 HDZ55C とする。
(但し、ボルト、ナットは HDZ35A とする。)

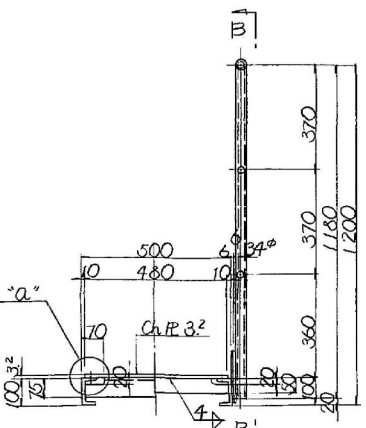
A-A



“a”部詳細 縮尺1:2



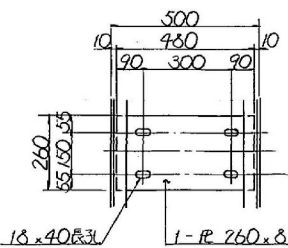
断面図 縮尺1:10



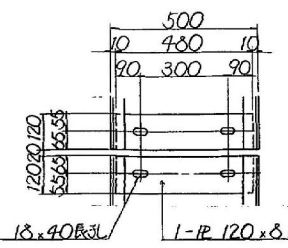
復旧材料

- | | | | |
|--|-----------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1-Pipe 34 ^φ ×2.3×4200(STK400) | 2-L 100×50×5.7 ⁵ ×4215 | 1-Pipe 34 ^φ ×2.3×5296(STK400) | 2-L 100×50×5.7 ⁵ ×5265 |
| 5-Pipe 34 ^φ ×2.3×1180(“) | 2-L 75×75×6×490 | 1-Pipe “ × 546(“) | 1-L “ × 500 |
| 8-Pipe 21.7 ^φ ×1.9×974(“) | 5-FB 50×6×490 | 7-Pipe “ × 1180(“) | 1-L 75×75×6×490 |
| 10-R 150×6×180 | 1-Ch.R 480×3.2×4195 | 10-Pipe 21.7 ^φ ×1.9×974(“) | 6-FB 50×6×490 |
| 2-R 34 ^φ ×3.2 | 2-R 260×8×480 | 2-R “ × 177(“) | 1-Ch.R 480×3.2×5245 |
| 20-BN M16×35(2-座金付) | 1-R 120×8×480 | 2-R “ × 427(“) | 2-R 260×8×480 |
| | 38-BN M10×30 | 14-R 150×6×180 | 1-R 120×8×480 |
| | (1-テーパー座金, 1-座金付) | 2-R 34 ^φ ×3.2 | 46-BN M10×30 |
| | | 28-BN M16×35(2-座金付) | (1-テーパー座金, 1-座金付) |

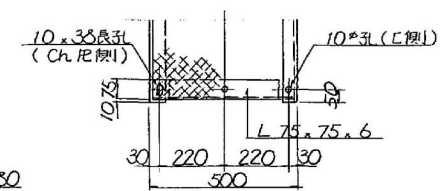
ブラケット取付板 縮尺1:10
中間部



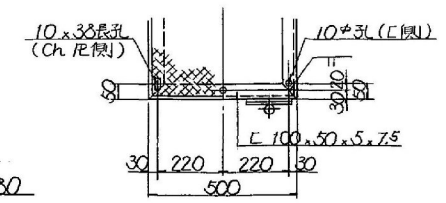
取合部



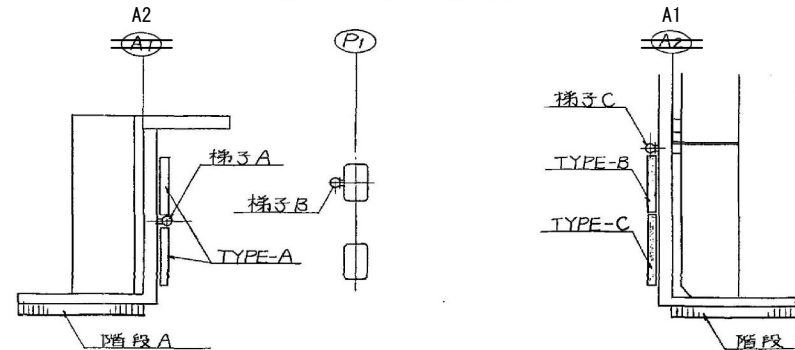
端部断面



外側部



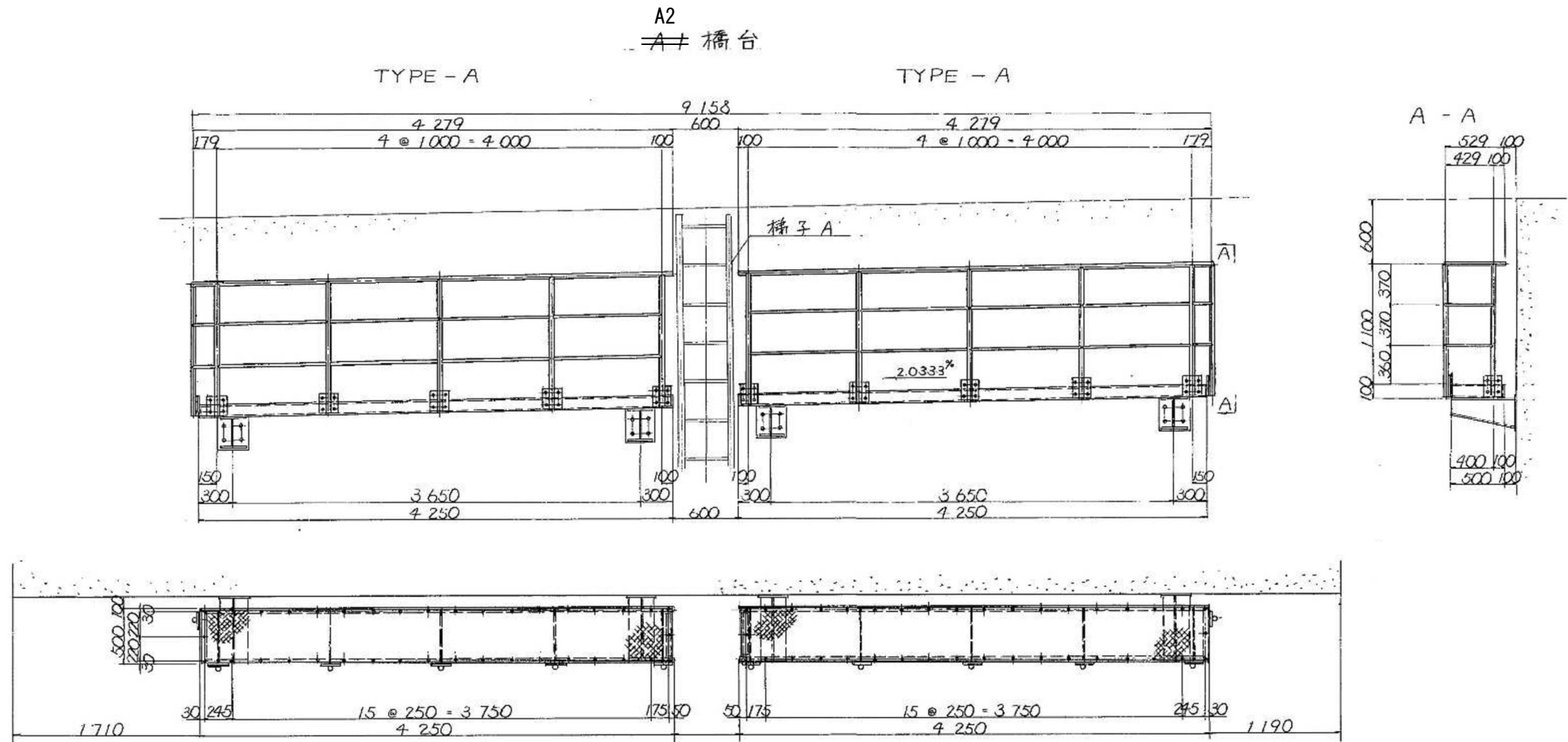
検査路配置図



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	酒蔵高架橋 下部工検査路復旧図(その1)		
縮 尺	—	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

酒蔵高架橋 下部工検査路復旧図(その2)

A2橋台



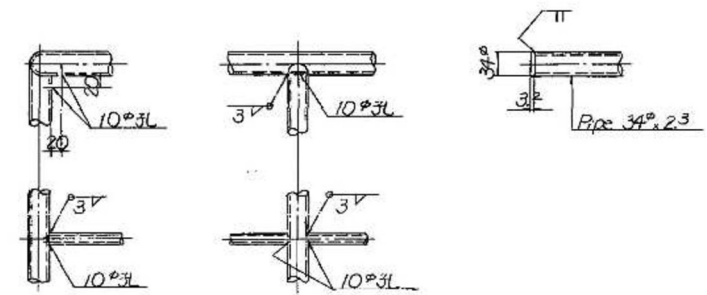
TYPE - A (2-Reqd)

復旧材料

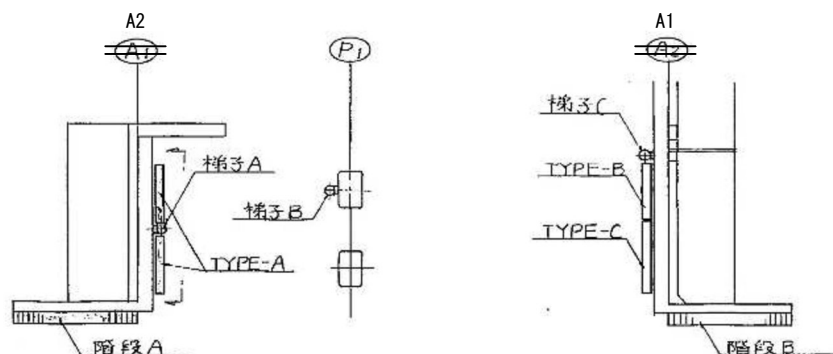
1 - Pipe 34 ^φ × 2.5 × 4,296 (STK400)	2 - L 100 × 50 × 5 × 7.5 × 4,250
1 - Pipe " × 546 (")	1 - L " × 500
6 - Pipe " × 1,180 (")	1 - L 75 × 75 × 6 × 490
2 - Pipe 21.7 ^φ × 1.9 × 427 (")	5 - FB 50 × 6 × 490
2 - Pipe " × 177 (")	1 - Ch. R 400 × 3.2 × 4,230
8 - Pipe " × 974 (")	2 - R 260 × 8 × 480
12 - R 150 × 6 × 180	38 - BN M10 × 30
2 - R 34 ^φ × 3.2	(1 - テーパー座金, 1 - 座金付)
24 - BN M16 × 35 (2 - 座金付)	

メッキ用空気抜き孔 縮尺1:5

手摺パイプ端部 縮尺1:5



検査路配置図



注)

1. 特記なき材料は全てSS400とする。
2. 部材は全て溶接部はメッキを施す。付着量はJIS H 8641 H10855Cとする。(但し、ボルト、ナットはHDE35Aとする。

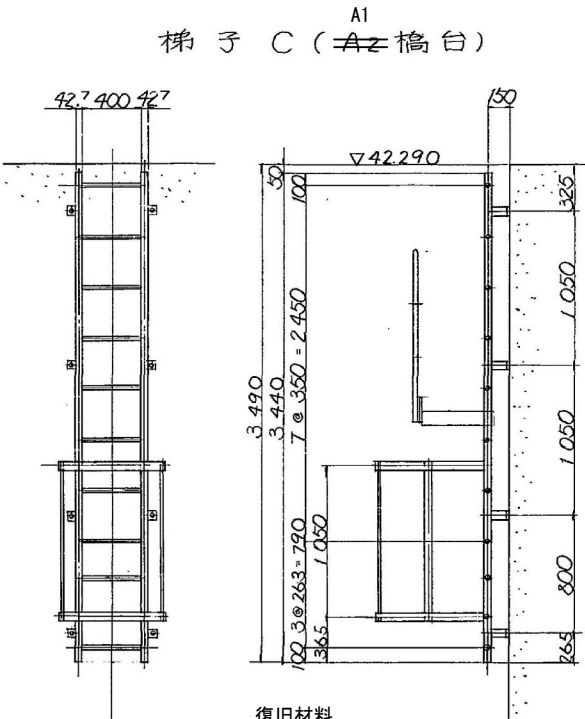
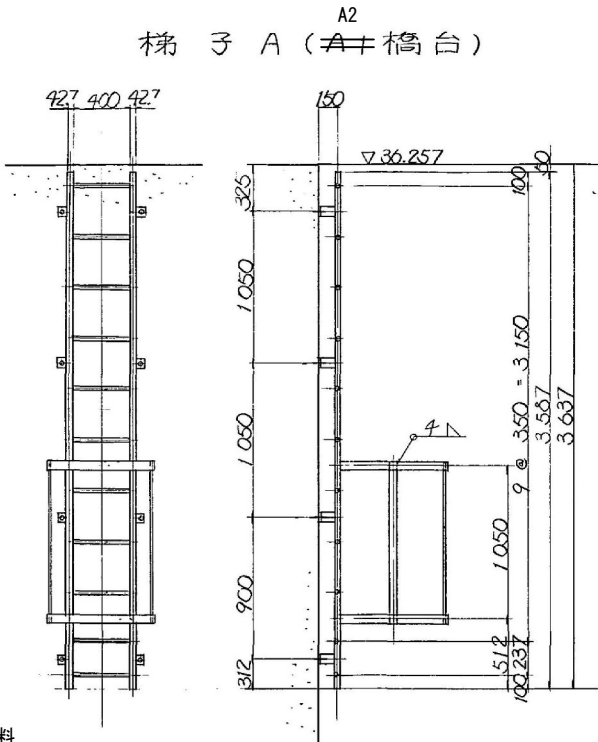
注記

1. 現場実測後、製作、施工すること。
2. プラケット詳細は「下部工検査路復旧図(その1)」を参照のこと。
3. 梯子詳細は「下部工検査路復旧図(その3)」を参照のこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	酒蔵高架橋		
	下部工検査路復旧図(その2)		
縮 尺	—	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

酒蔵高架橋 下部工検査路復旧図(その3)

梯子A、C



復旧材料

2 - Pipe 42.7 ϕ x 2.3 x 3587 (STK400)	8 - FB 50 x 6 x 123
2 - FB 50 x 6 x 1971	11 - RB 22 ϕ x 400
3 - FB 50 x 6 x 1100	8 - ボールインアンカー M16 ※
8 - FB 50 x 6 x 80	

新設材料

8-NUT M16 (1種)
8-WASHER M16
8-SPRING WASHER M16

※アンカー本体は再利用する。

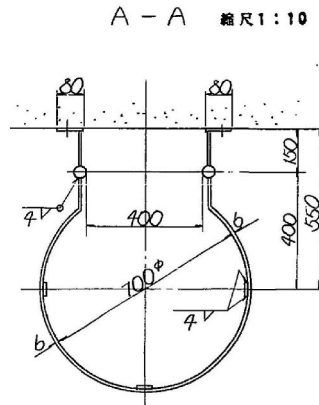
復旧材料

2 - Pipe 42.7 ϕ x 2.3 x 3440 (STK400)	
2 - FB 50 x 6 x 1971	
3 - FB 50 x 6 x 1100	
8 - FB 50 x 6 x 80	
8 - FB 50 x 6 x 123	
11 - RB 22 ϕ x 400	
8 - ボールインアンカー M16 ※	

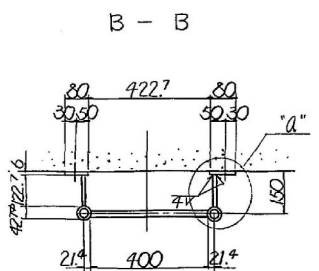
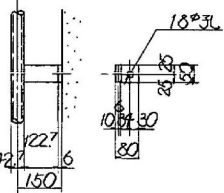
新設材料

8-NUT M16 (1種)
8-WASHER M16
8-SPRING WASHER M16

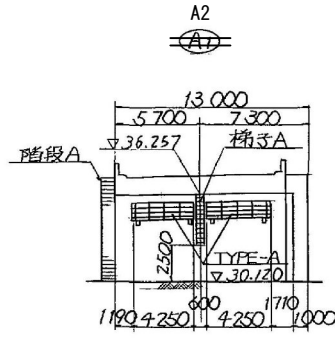
※アンカー本体は再利用する。



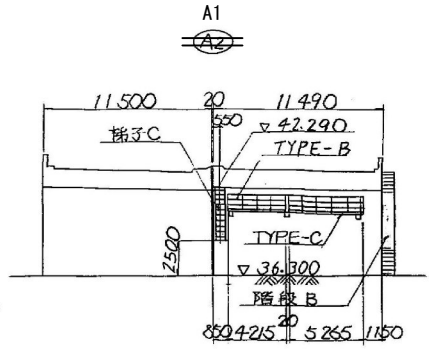
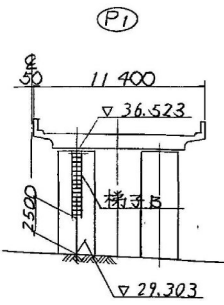
※ "a" 部 詳 図 縮尺 1 : 10



- 注記
1. 現場実測後、製作、施工すること。
 2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
 3. 新設部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZ777 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZ149とする。
 4. 梯子のアンカーは、既設アンカーを再利用する。
但し、再利用の際はナット、座金については、新設部材を使用する。
なお、既設アンカーを再利用する際は、既設アンカーの健全性を確認し、健全性が確保出来ない場合は、新設アンカーに変更すること。
 5. ブラケット詳細は「下部工検査路復旧図(その1)」を参照のこと。



検査路配置図

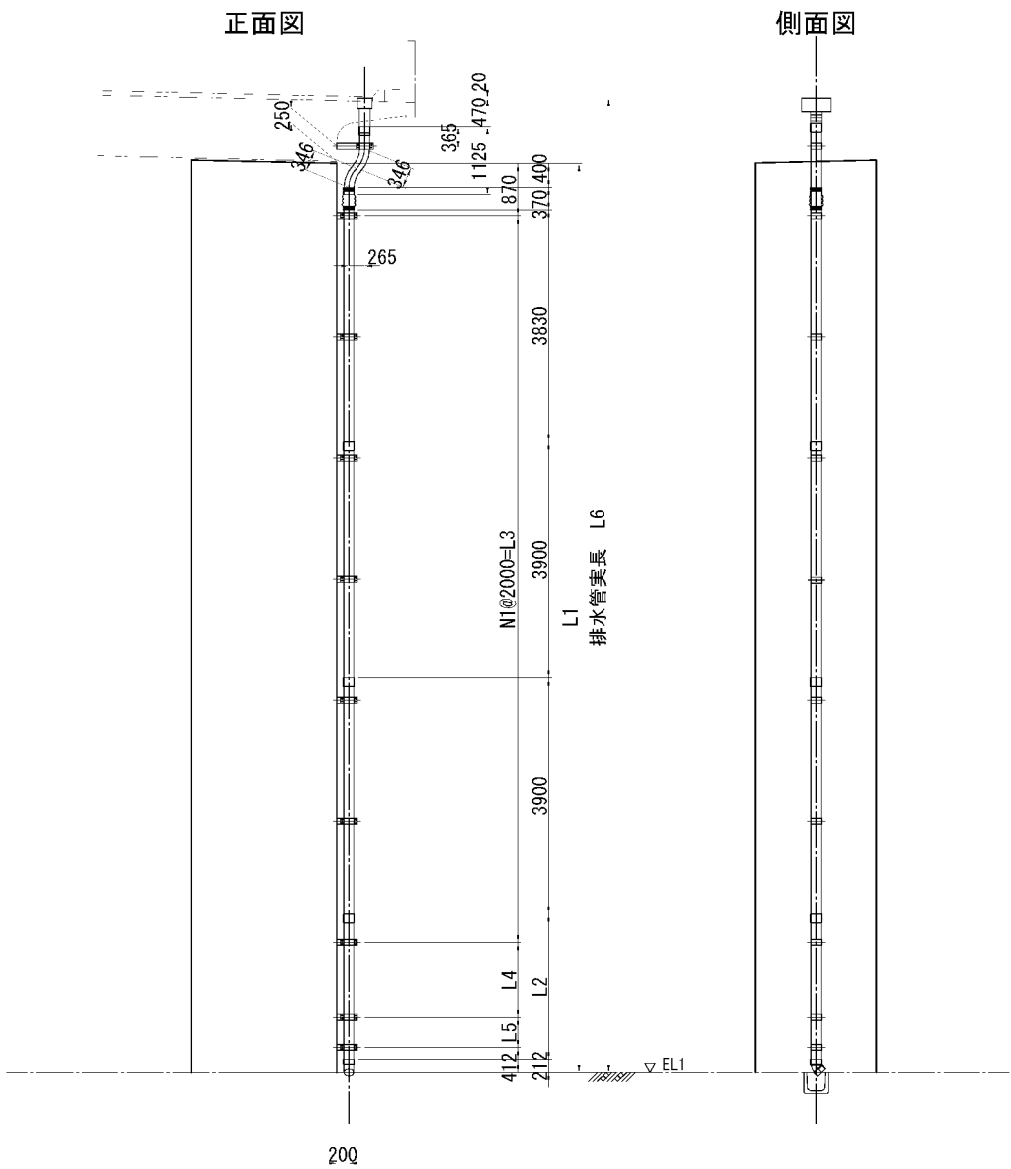


- 注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 2. 部材は全て溶融亜鉛メッキを施す。
付着量は JIS H 8641 HDZ55C とする。(但しボルト、ナットは HDZ35A とする。)

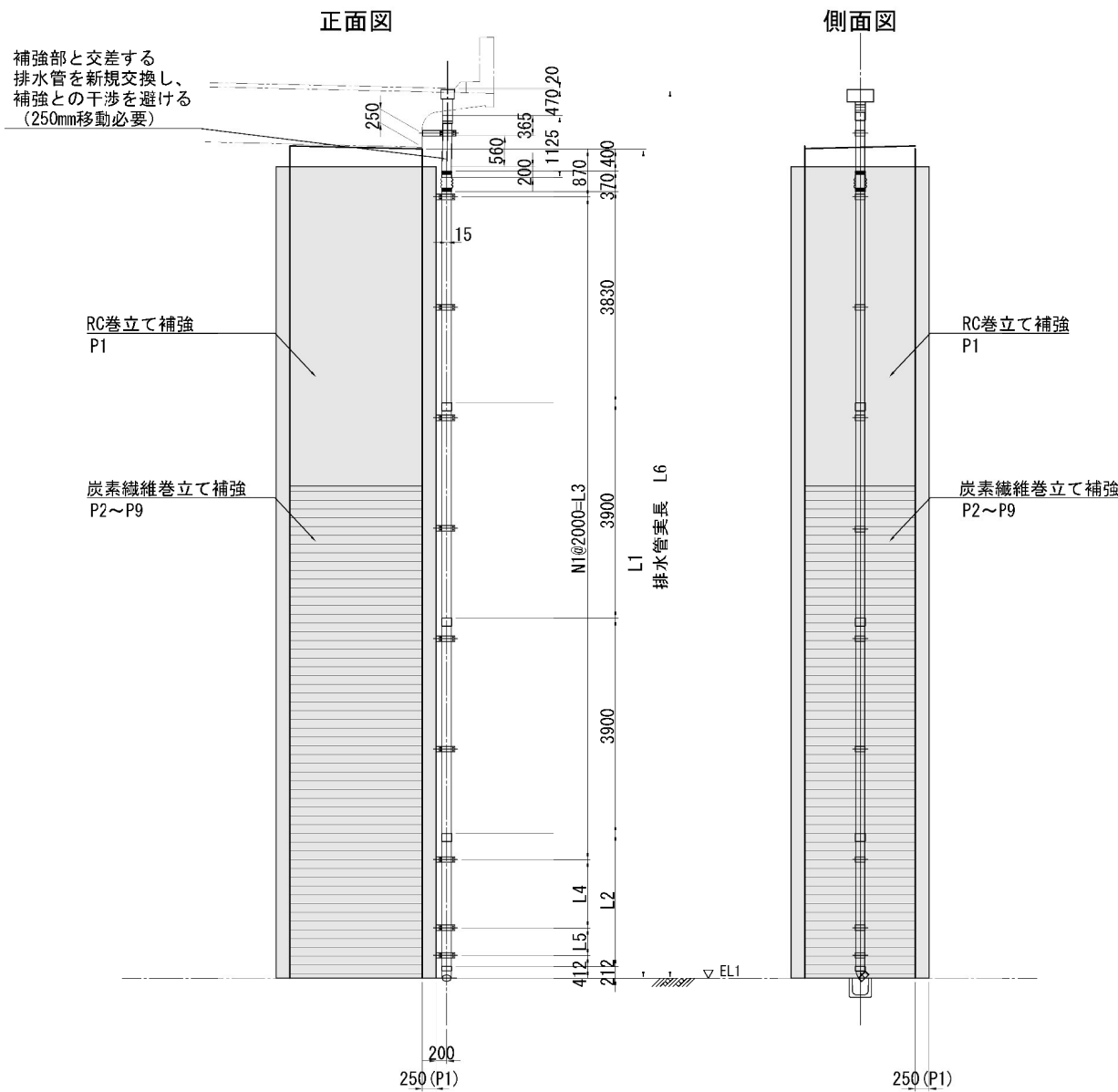
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	酒蔵高架橋		
	下部工検査路復旧図(その3)		
縮 尺	—	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P1～P9橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



寸法表

	EL1	L1	L2	NI	L3	L4	L5	L6
P1	28.400	13478	866	5	10000	1098	1098	14605
P2	26.400	15120	2508	6	12000	1338	500	16247
P3	26.158	15003	2391	6	12000	1221	500	16130
P4	25.631	15172	2560	6	12000	1390	500	16299
P5	24.840	15605	2993	6	12000	1823	500	16732
P6	24.621	15466	2854	6	12000	1684	500	16593
P7	24.210	15519	2907	6	12000	1737	500	16646
P8	24.210	15160	2548	6	12000	1378	500	16287
P9	23.994	15018	2406	6	12000	1236	500	16145

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例

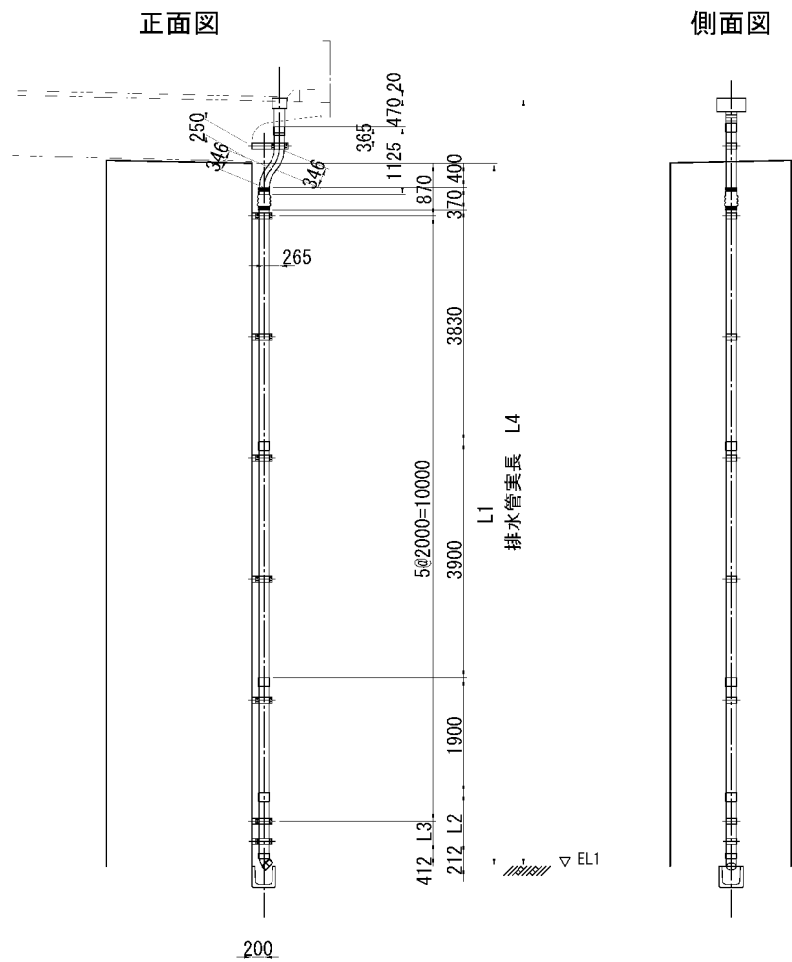
RC巻立て補強

炭素繊維巻立て補強

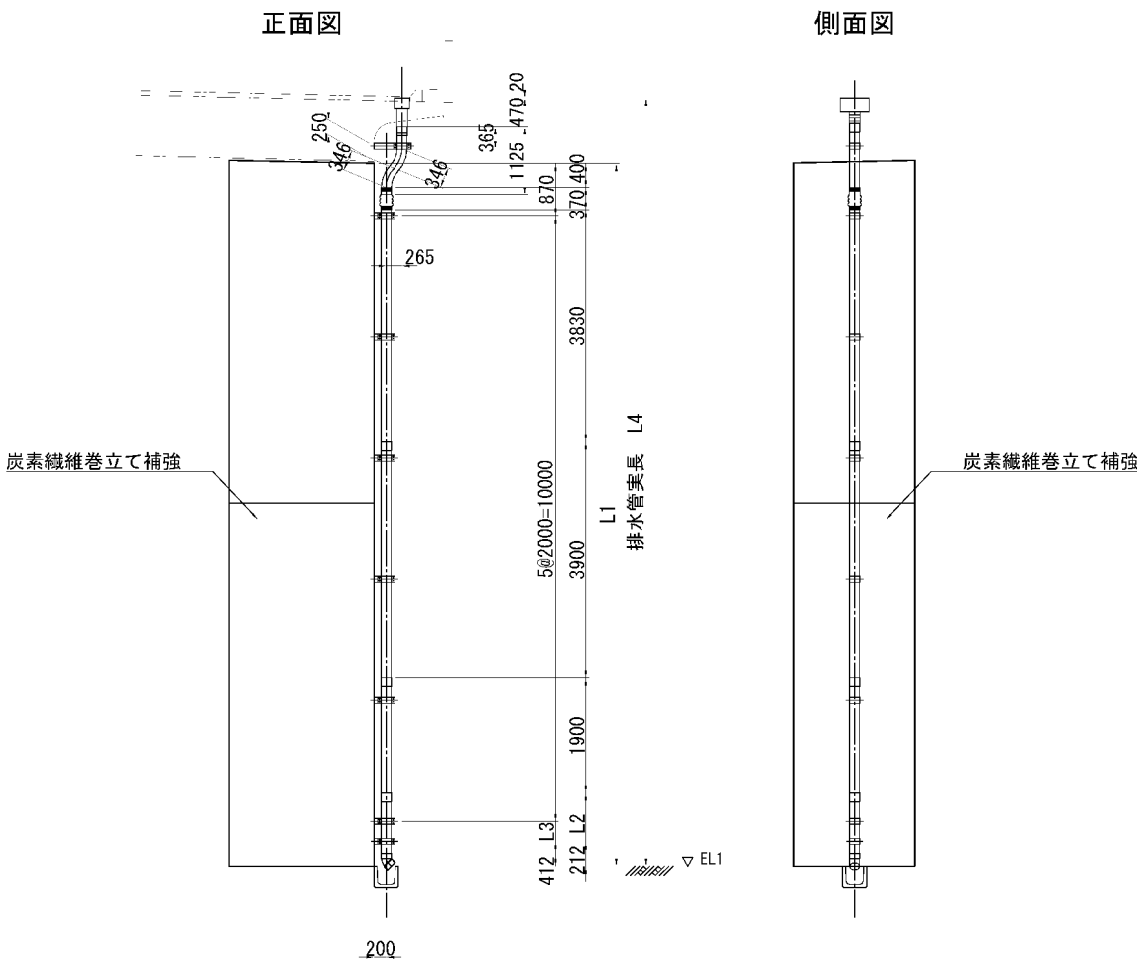
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	酒蔵高架橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P10～P15橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



寸法表

	EL1	L1	L2	L3	L4
P10	25.315	13339	2727	2057	14466
P11	24.925	13371	2759	2089	14498
P12	25.325	12612	2000	1330	13739
P13	25.450	12129	1517	847	13256
P14	25.325	11898	1286	616	13025
P15	25.270	11615	1003	333	12742

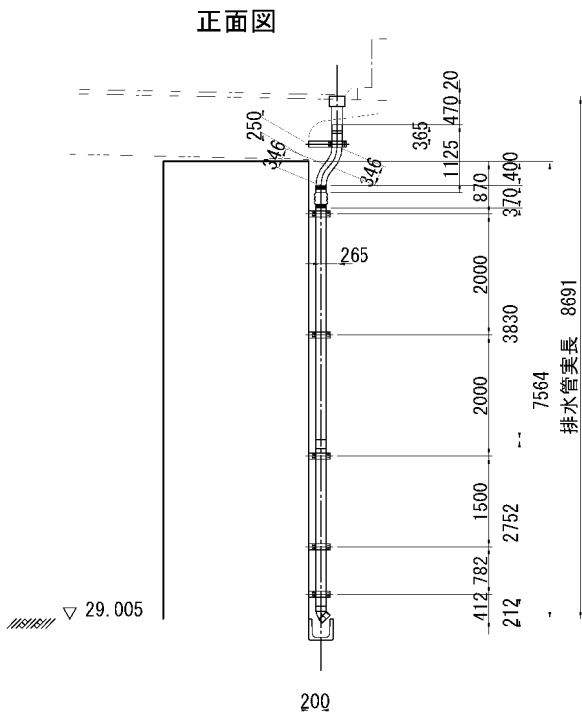
- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
炭素繊維巻立て補強

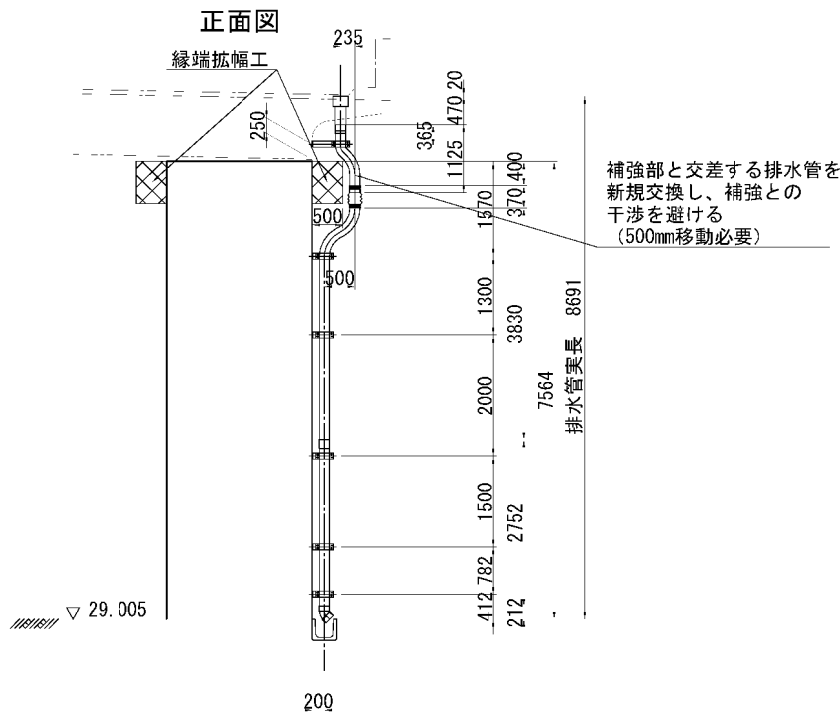
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	酒蔵高架橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P16橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



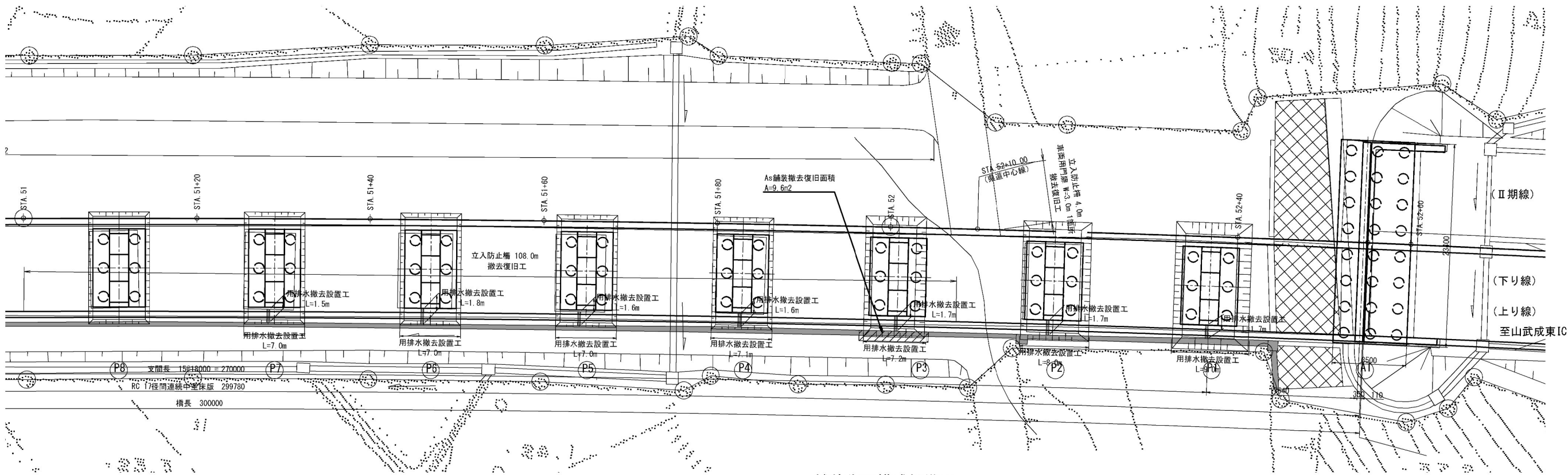
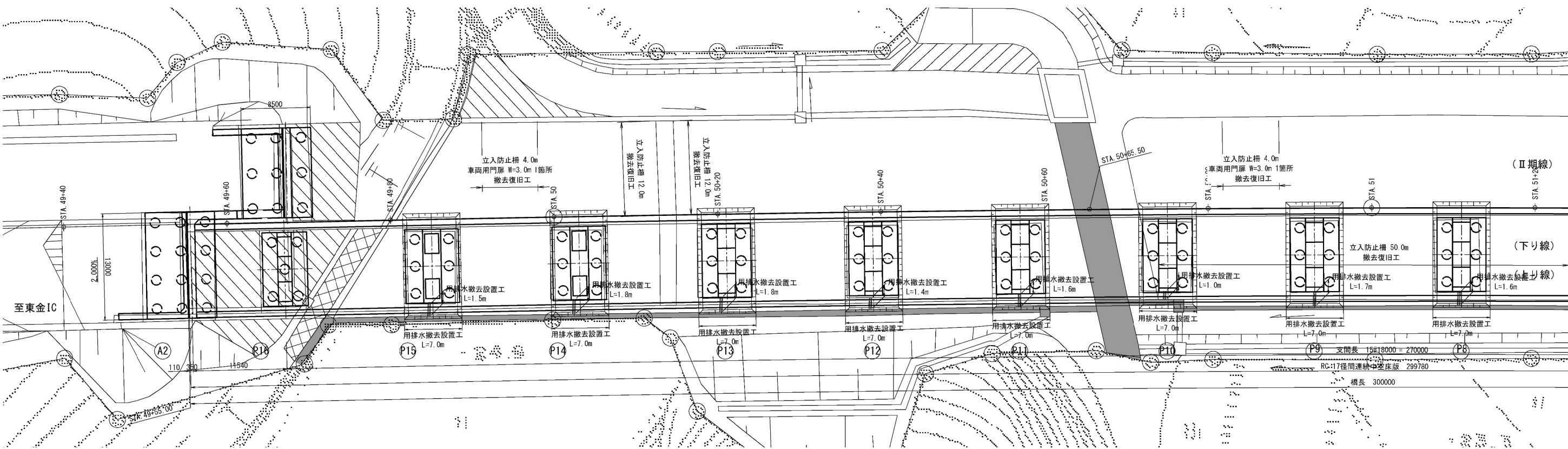
- 注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
☒ : 縁端拡幅工

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	酒蔵高架橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その3)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

酒蔵高架橋 附帯工撤去・復旧図

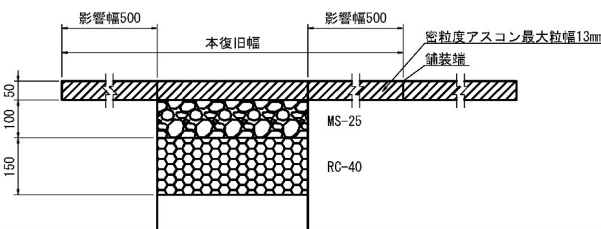
平面図 S=1:500



集計表

種別	規格	単位	起点側	終点側	合計
立入防止柵	φ2.0m	m	82.0	112.0	194.0
車両用門扉	W=3.0m	箇所	1	2	3
舗装撤去・復旧	P3橋脚	m ²		9.6	9.6
用排水撤去設置工	0.30・0.30	m	68.4	63.9	132.3

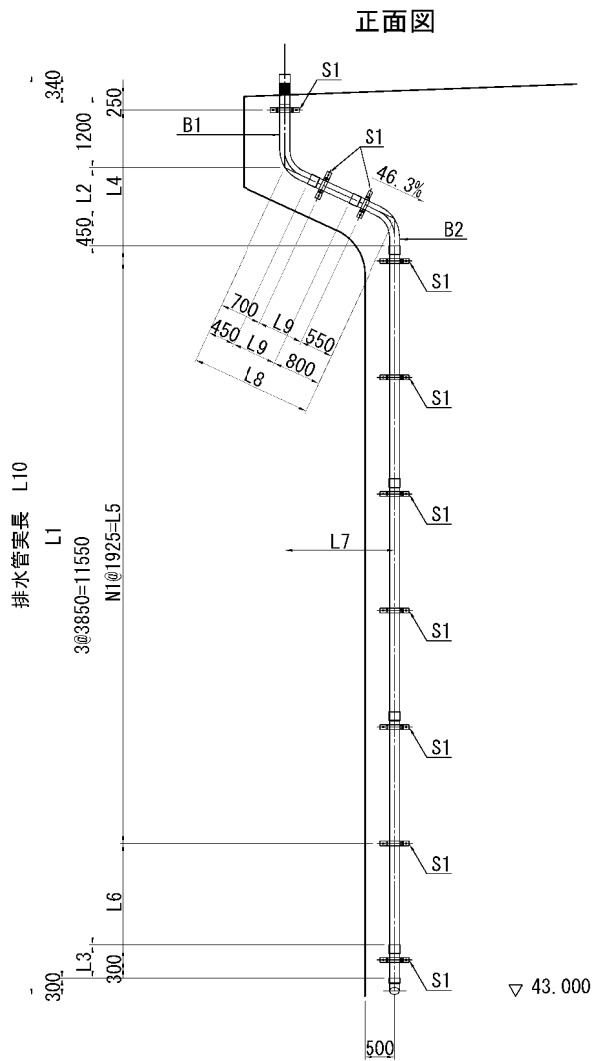
舗装復旧構成標準図 S=1:20



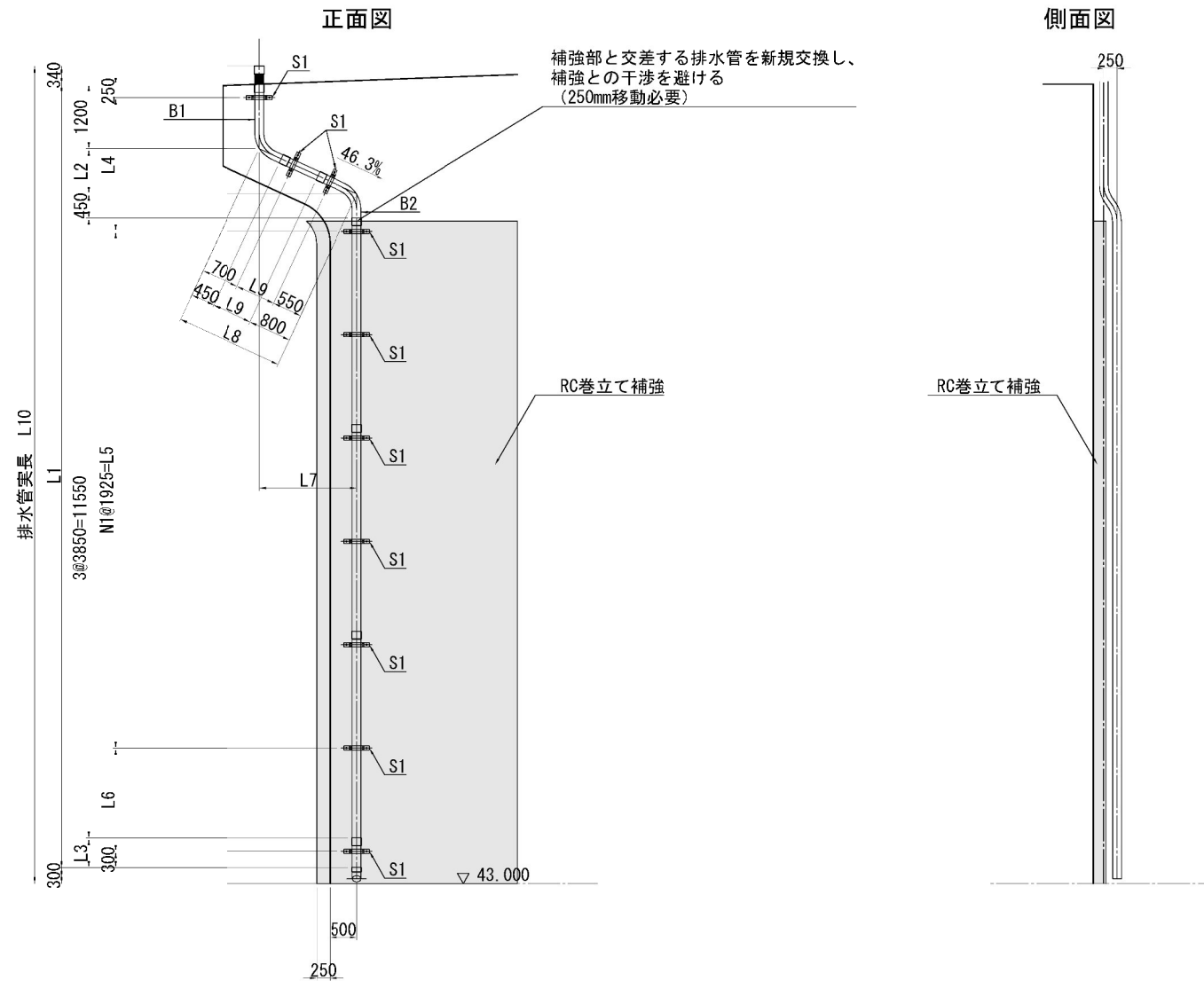
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	酒蔵高架橋 附帯工撤去・復旧図		
縮尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P1・P2橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



寸法表

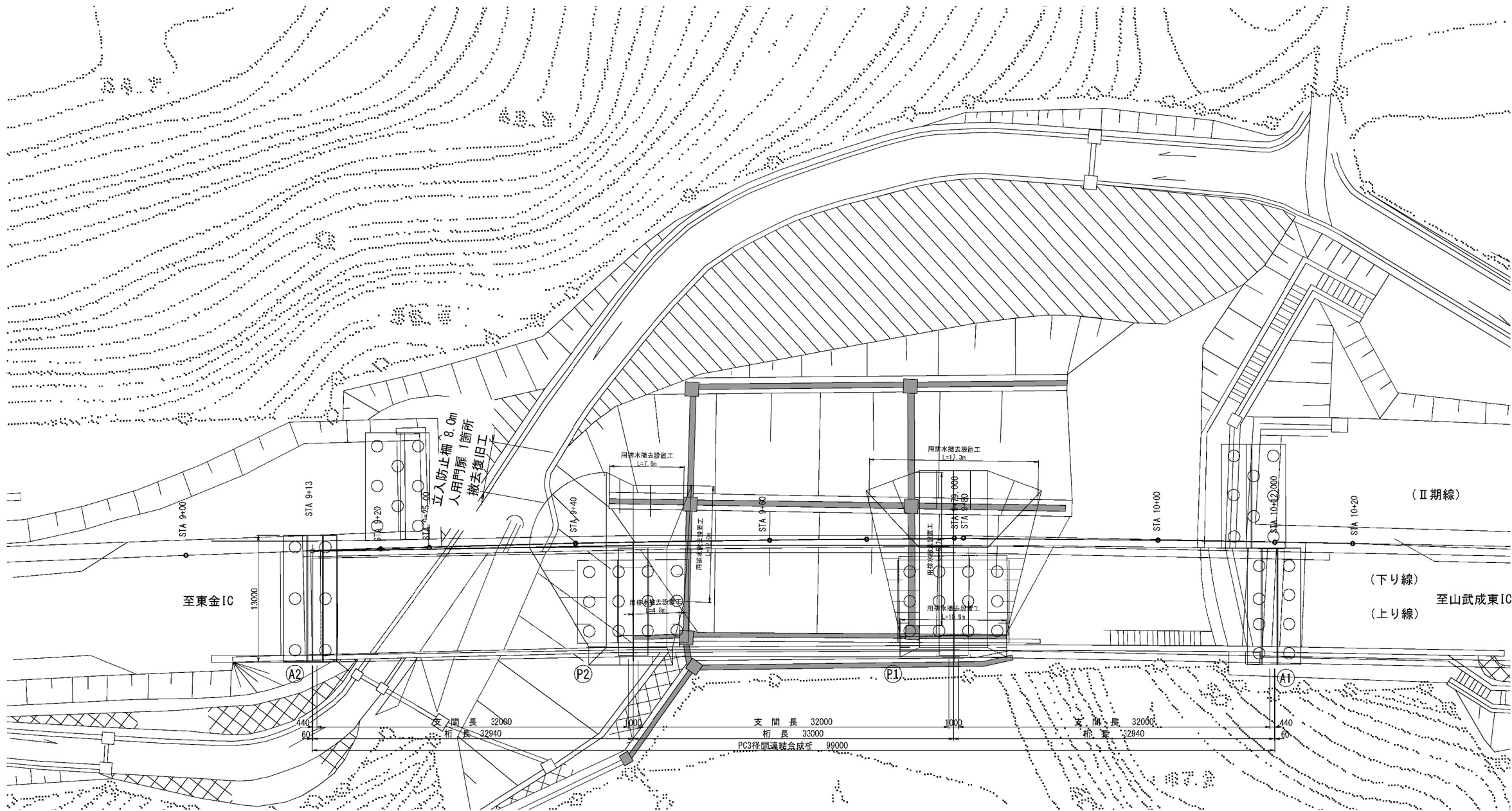
	L1	L2	L3	L4	N1	L5	L6	L7	L8	L9	L10
P1	15252	856	1196	2506	6	11550	646	1848	2036	786	17072
P2	14589	841	548	2491	5	9625	1923	1817	2002	752	16390

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
 □ : RC巻立て補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	滝高架橋		
	排水装置撤去・復旧計画図		
縮尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

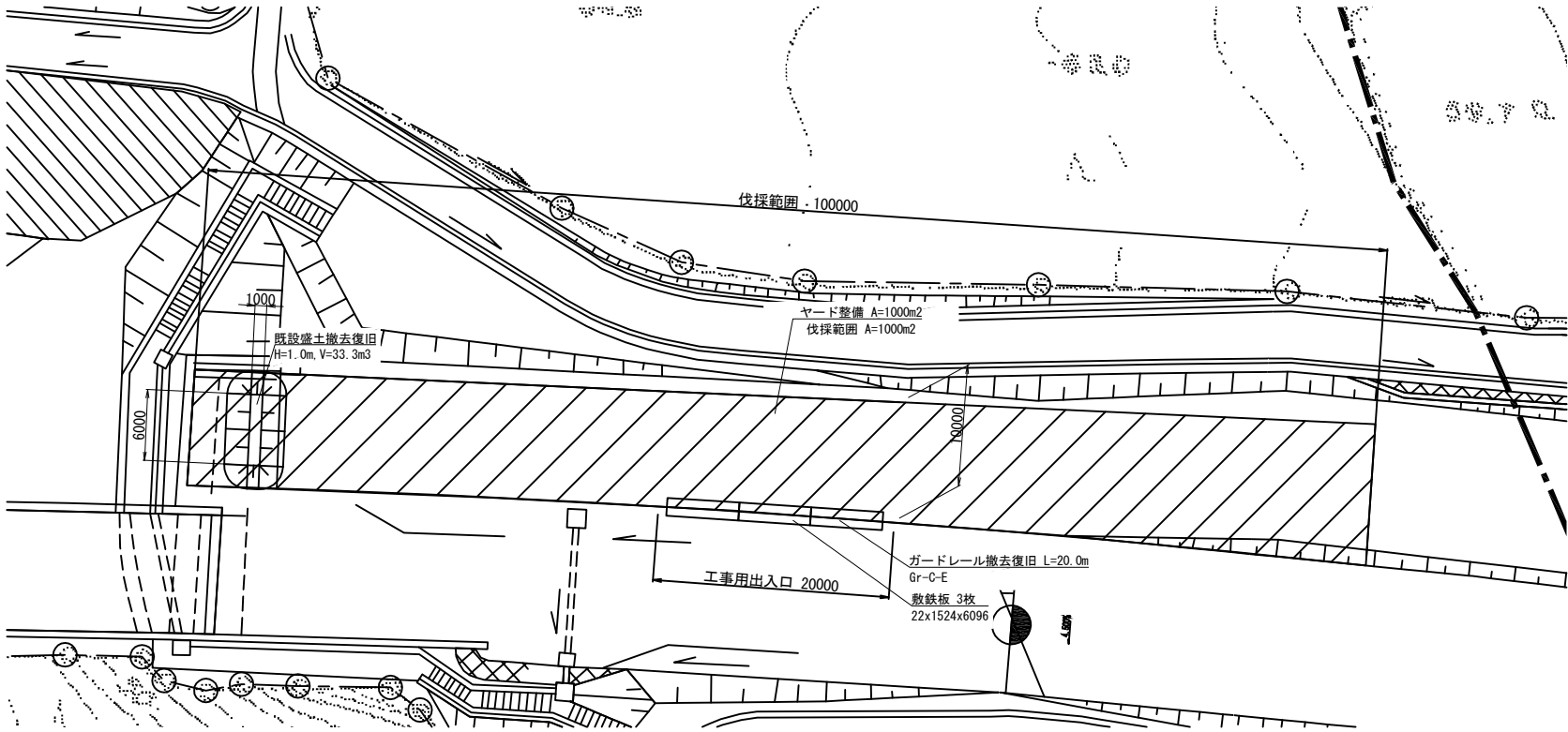
平面図 S=1:500



集計表

種別	規格	単位	全体	合計
立入防止柵	@2.0m	m	8.0	8.0
人用門扉		箇所	1	1
用排水撤去設置工	0.30・0.30	m	68.3	68.3

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	滝高架橋		
	附帯工撤去・復旧図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



集計表

種別	規格	単位	全体	合計
ヤード整備工		m2	1000.0	1000.0
ガードレール撤去復旧		m	20.0	20.0
敷鉄板	22x1524x6096	枚	3	3
既設盛土撤去復旧		m2	33.3	33.3

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	滝高架橋 作業ヤード整備工図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

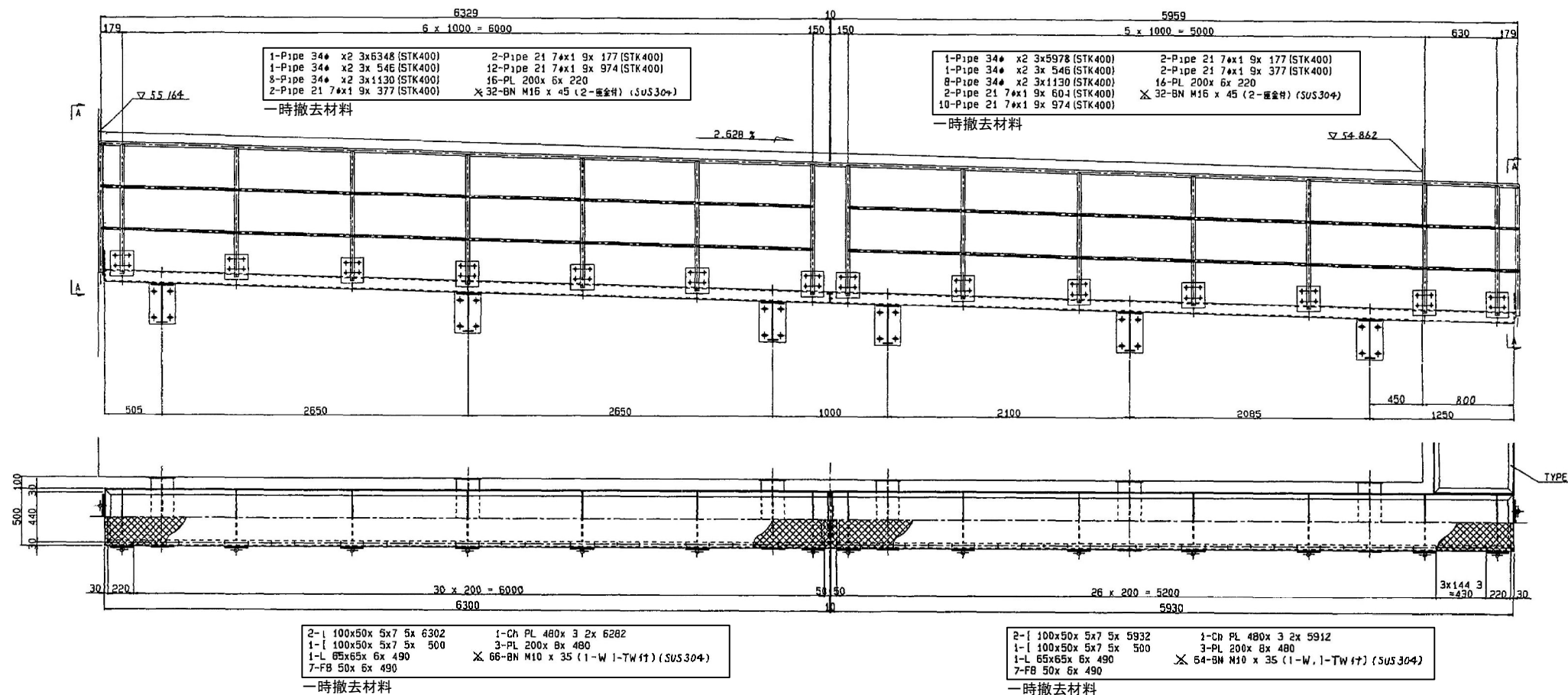
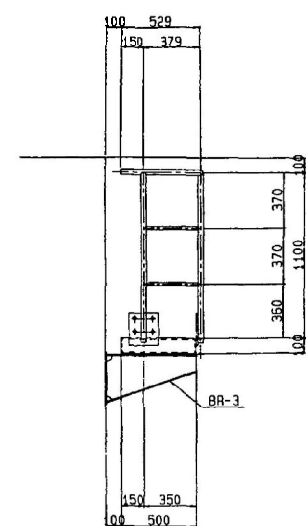
丹尾高架橋 下部工検査路撤去図(その1)

TYPE-B

A1橋台

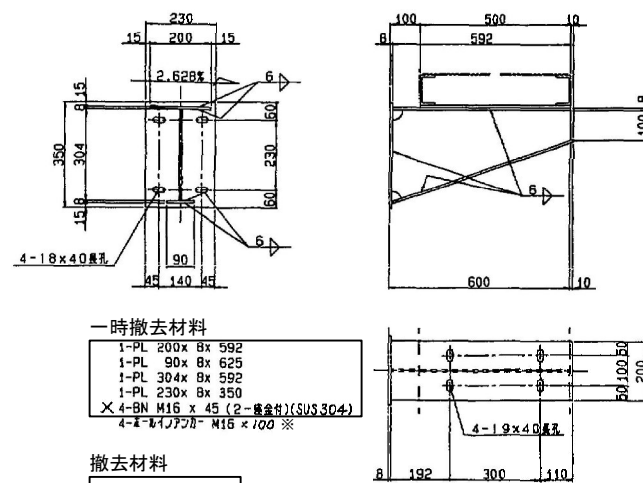
TYPE - C

A - A



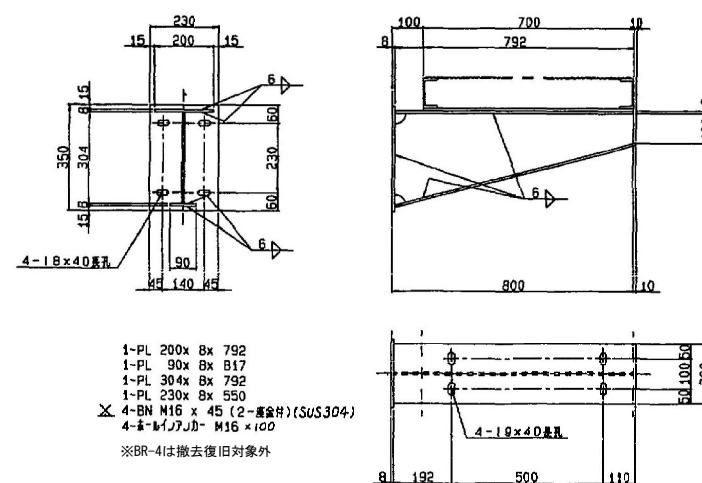
ブラケット詳細図 縮尺 1/10

BR-3 各脚製作較 6

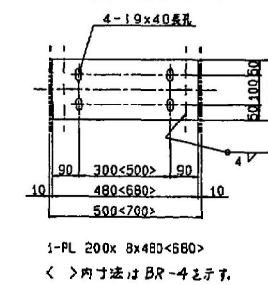


フラケット詳細図 縮尺 1:10

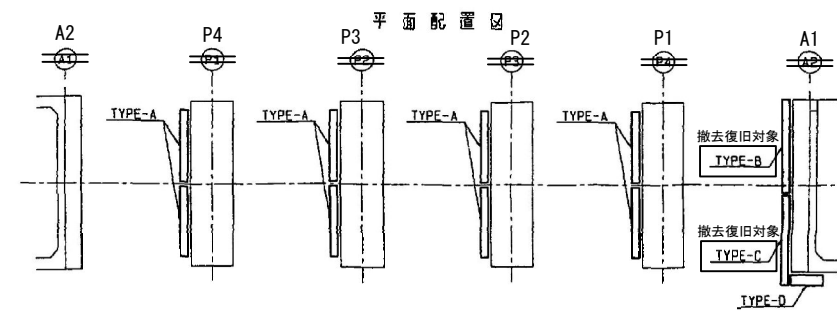
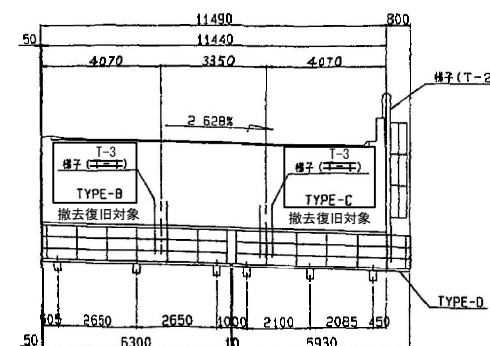
В Я - 4 各攝脚製作教 2



取付金具
各機脚製作費 8



2 部材は全て溶着亜鉛メッキを施す。(X印部材を除く。)
亜鉛の付着量は JIS H 8641 の HDZ55 とする。
但し 手摺及びボルトナットの付着量は HDZ35 とする。



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		丹尾高架橋 下部工検査路撤去図(その1)	
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

丹尾高架橋 下部工検査路撤去図(その2)

A2

 T - 1 , (T - 2)
 (制作数 各1組)

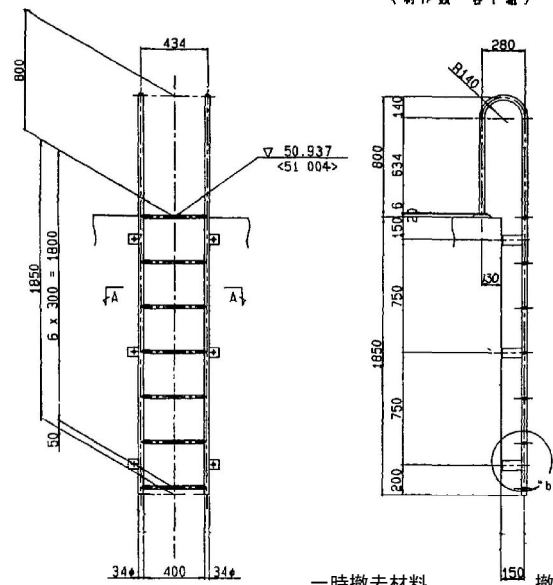
A1橋台・A2橋台 梯子

P 1 橋脚 ~ P 4 橋脚 , ~~A 2 橋台~~ 梯子

T - 3

A1

(制作数 10組)



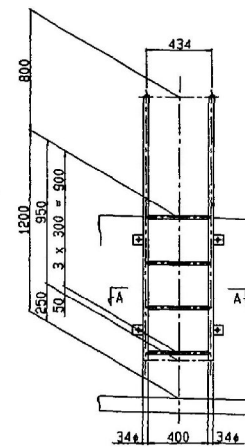
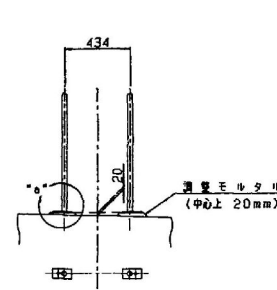
一時撤去材料

2-Pipe 34φ x2 3x 3595 (STK400)
7-AB 22φ x 420
6-FB 65x 6x 218
2-FB 65x 6x 130
8-1/2" 110mm M16 x 100 ※

撤去材料

8-NUT M16 (1種)
8-WASHER M16
8-SPRING WASHER M16

※ホールインアンカーは、ナットおよび座金のみ撤去する。



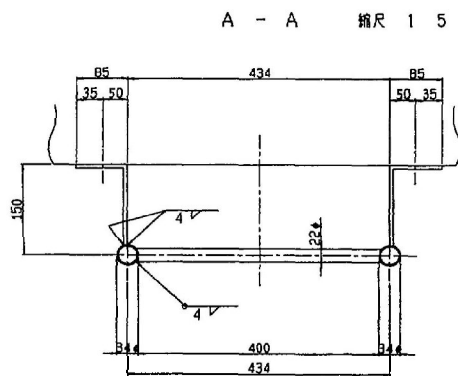
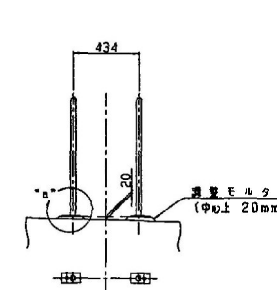
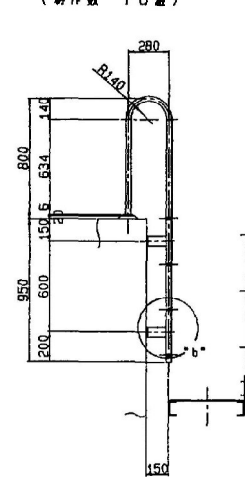
一時撤去材料

2-Pipe 34 x 2 3x 2695 (STK400)
4-RB 22 x 420
4-FB 65x 6x 218
2-FB 65x 6x 130
6-φ-177φ- M18 x 100 ※

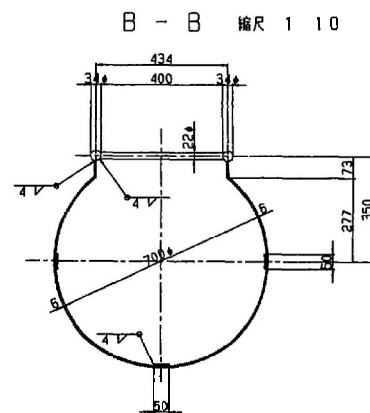
撤去材料

6-NUT M16 (1種)
6-WASHER M16
6-SPRING WASHER M16

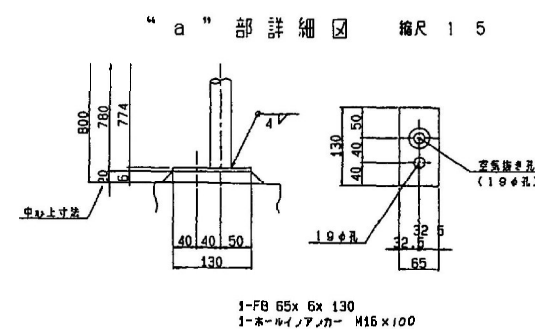
※ホールインアンカーは、ナットおよび座金のみ撤去する。



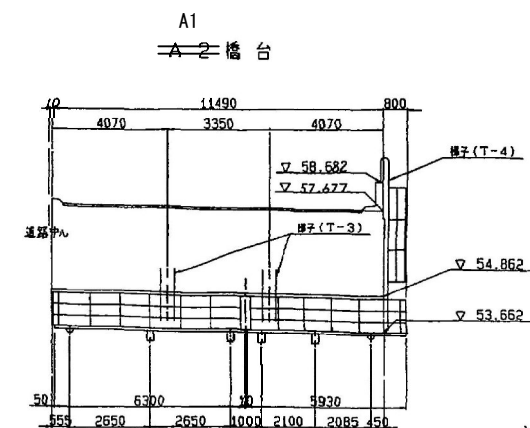
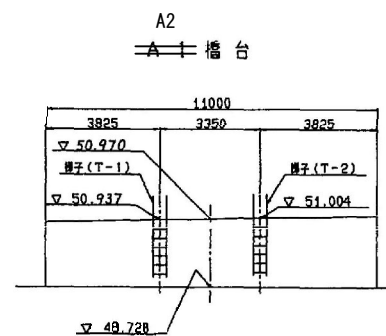
1-BB 22x x 408
2-FB 65x 6x 218
2-ネールイノアノカー M16



1-FB 50x 6x 1875



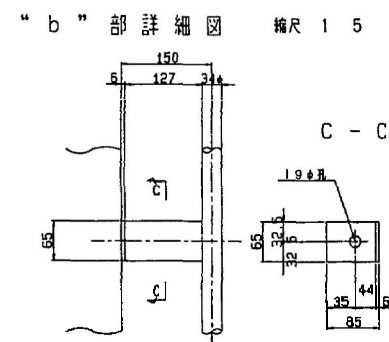
1-FB 65x 6x 130
1-ネーリングアンカー M16 x 100



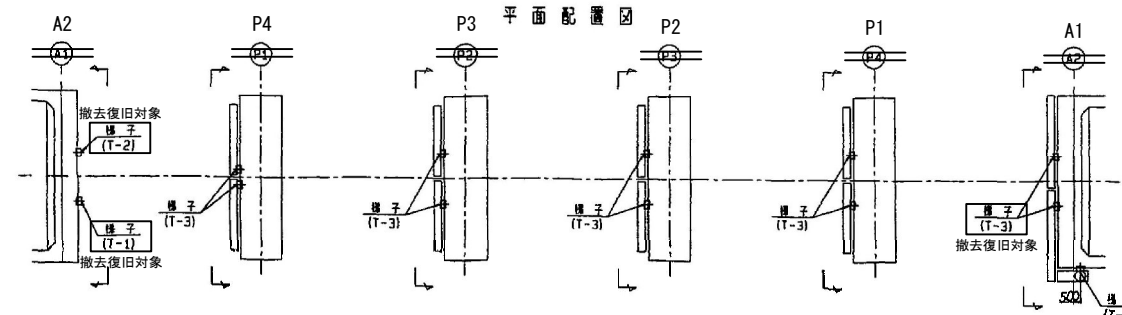
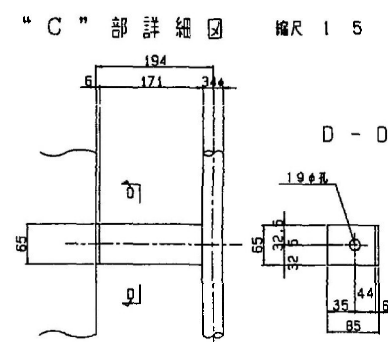
主記)

- 1 特記なき材質は 全てSS400とする。
- 2 母材は全て溶融亜鉛メッキを施す。

亜鉛の付着量は JIS H 8641 の HDZ55 とする。
亜鉛 手摺及びボルトナットの付着量は HDZ35 とする。



2-FB 65 x 6 x 262



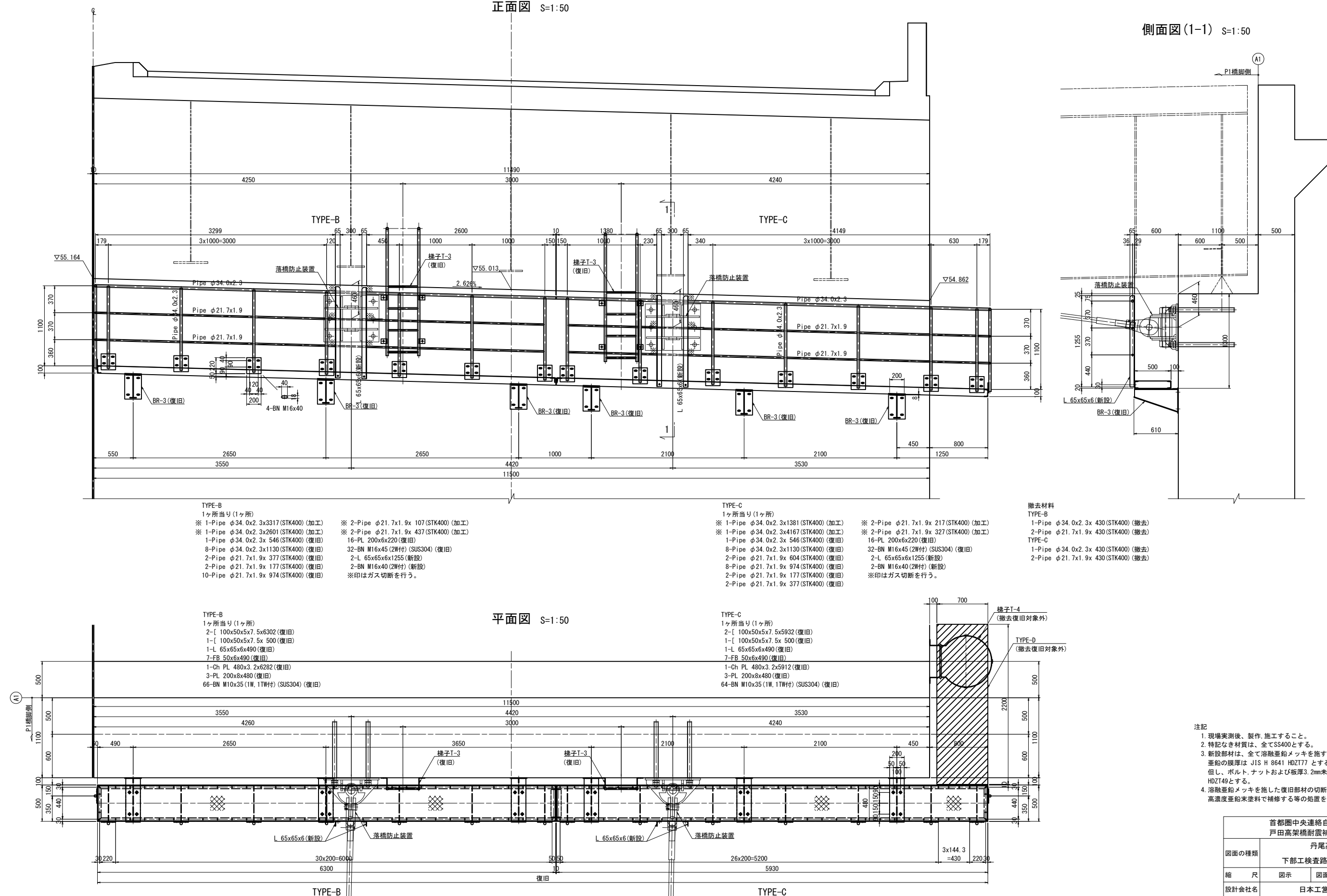
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		丹尾高架橋 下部工検査路撤去図(その2)	
縮	尺	図示	図面番号
設計会社名		日本工営株式会社	
施工会社名			
事務所名		東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所	

丹尾高架橋 下部工検査路復旧図(その1)

A1橋台

正面图 S=1:50

側面図(1-1) S=1:50



注記

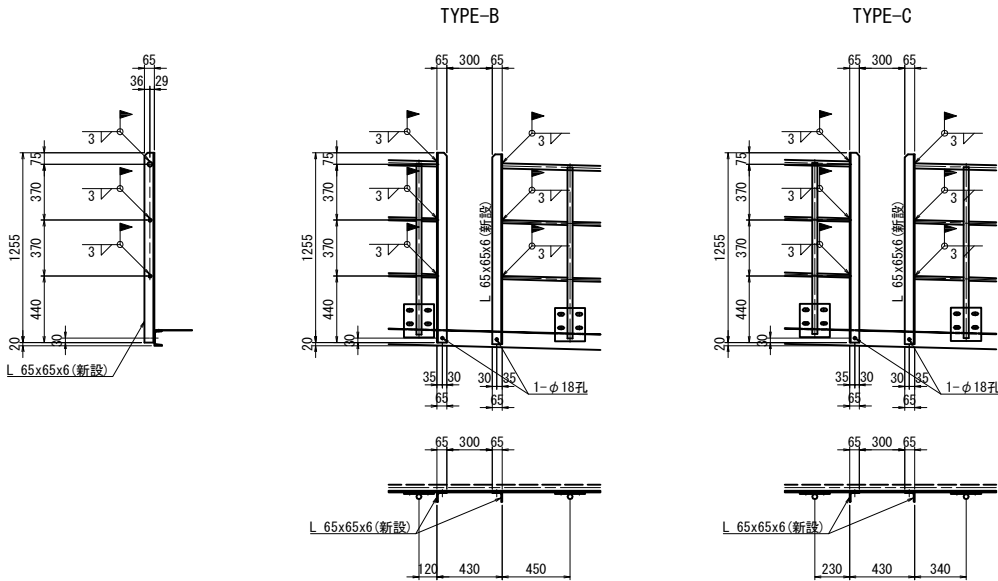
1. 現場実測後、製作、施工すること。
2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
3. 新設部材は、全て熔融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT77 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、
HDZT49とする。
4. 熔融亜鉛メッキを施した復旧部材の切断された面には、
高温塗布亜鉛系塗料を補修等の部材の配置を施すこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		丹尾高架橋 下部工検査路復旧図 (その1)	
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

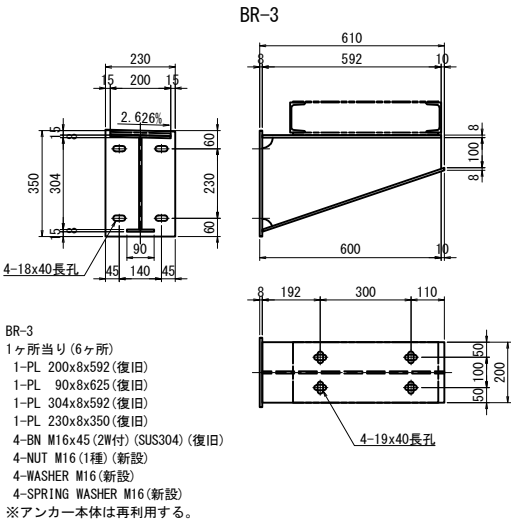
丹尾高架橋 下部工検査路復旧図(その2)

A1橋台

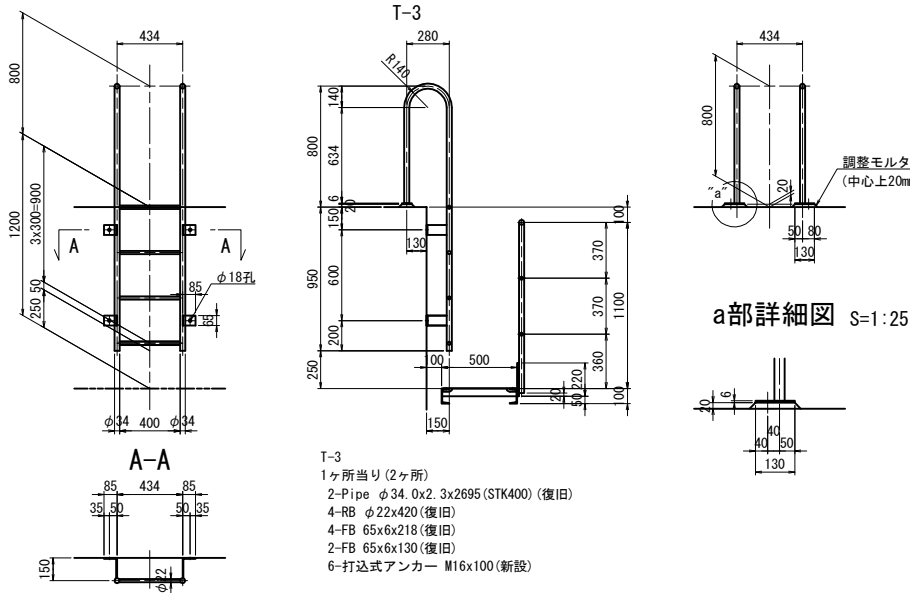
加工詳細図 S=1:50



ブラケット詳細図 S=1:25



梯子詳細図 S=1:50

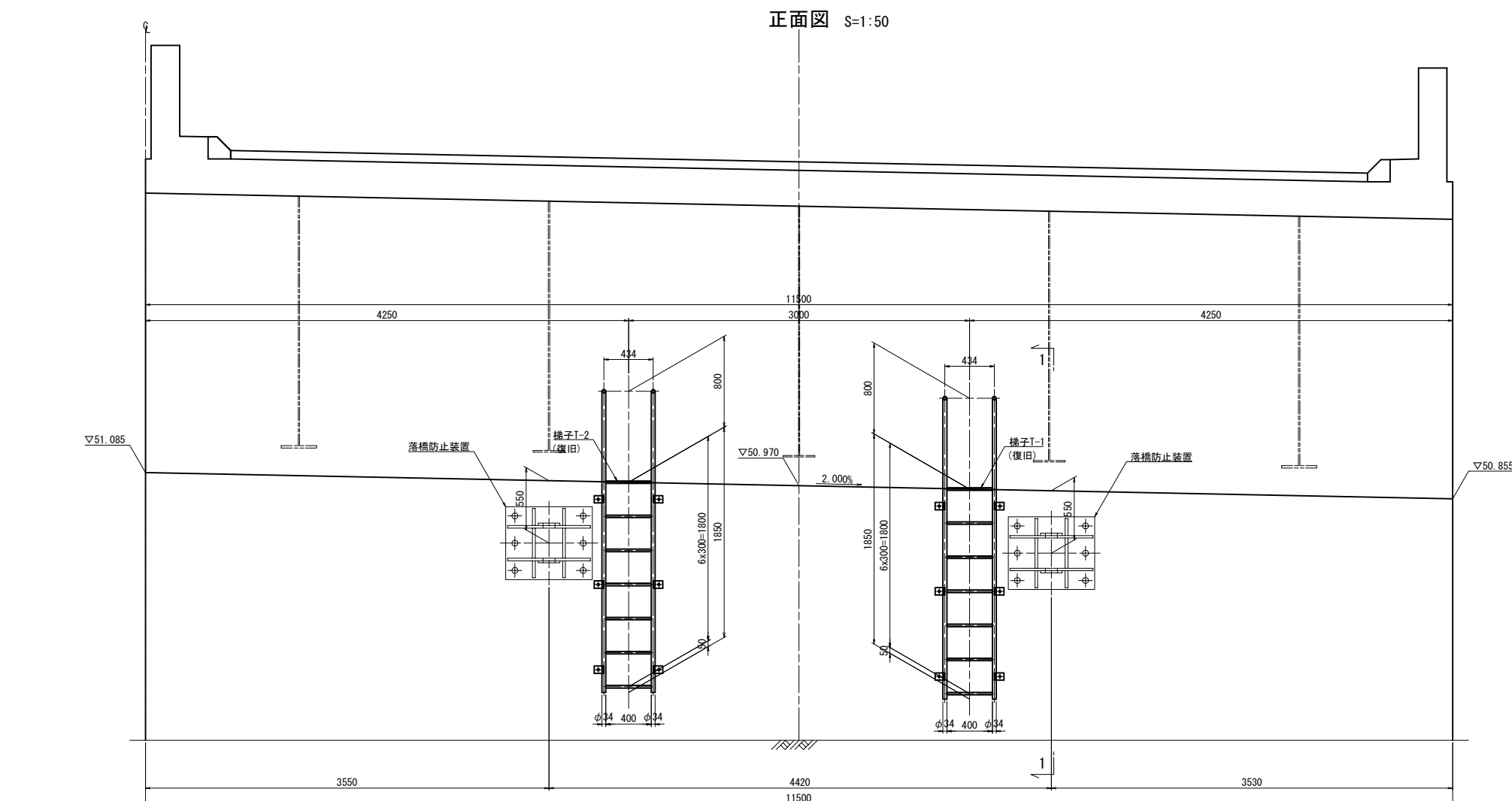


- 注記
- 現場実測後、製作、施工すること。
 - 特記なき材質は、全てSS400とする。
 - 新設部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT77 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
 - 溶融亜鉛メッキを施した復旧部材の切断された面には、
高濃度亜鉛末塗料で補修する等の処置を施すこと。
 - ブラケットのアンカーは、既設アンカーを再利用する。
但し、再利用の際もナット、座金については、新設部材を使用する。
なお、既設アンカーを再利用する際は、既設アンカーの健全性を確認し、
健全性が確保出来ない場合は、新設アンカーに変更すること。
 - 新設打込式アンカーの埋込長は、60mmを標準とする。

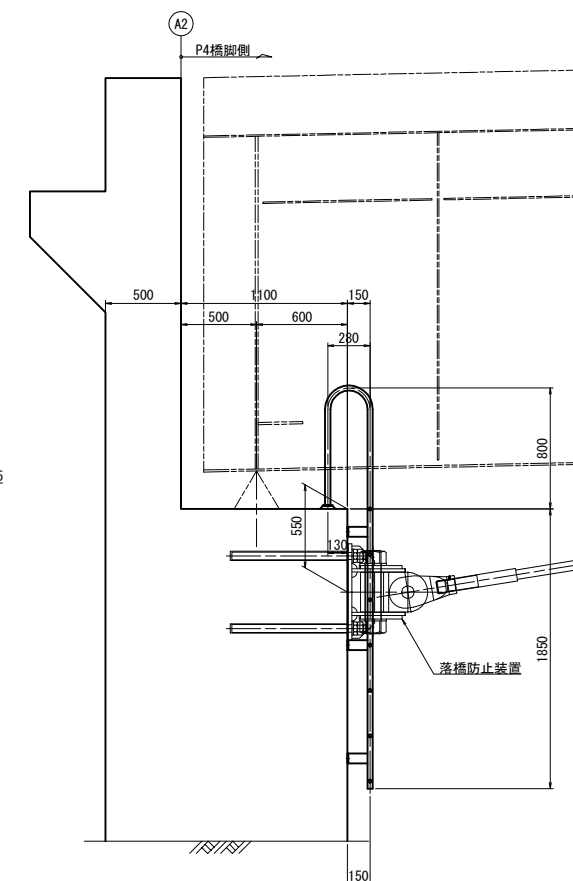
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋		
	下部工検査路復旧図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

丹尾高架橋 下部工検査路復旧図(その3)

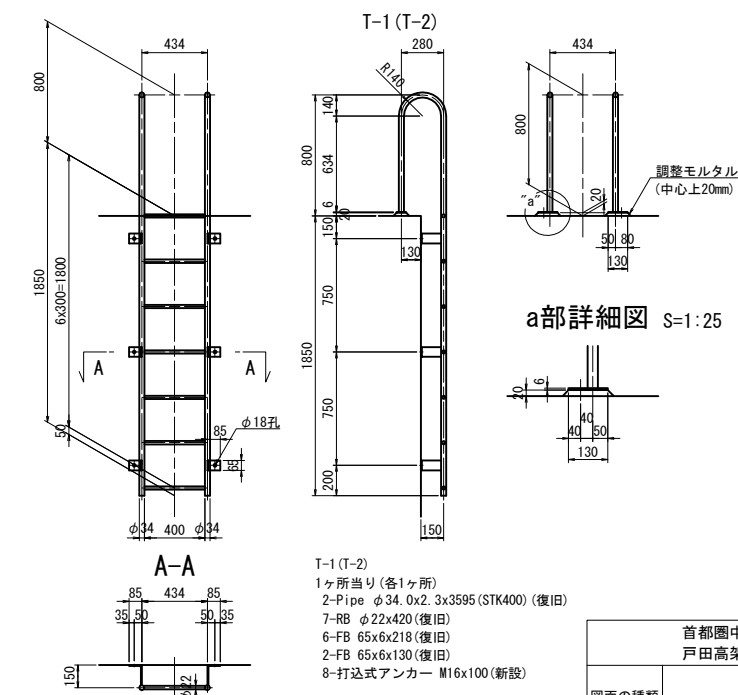
A2橋台



側面図(1-1) S=1:50



梯子詳細図 S=1:50



a部詳細図 S=1:25

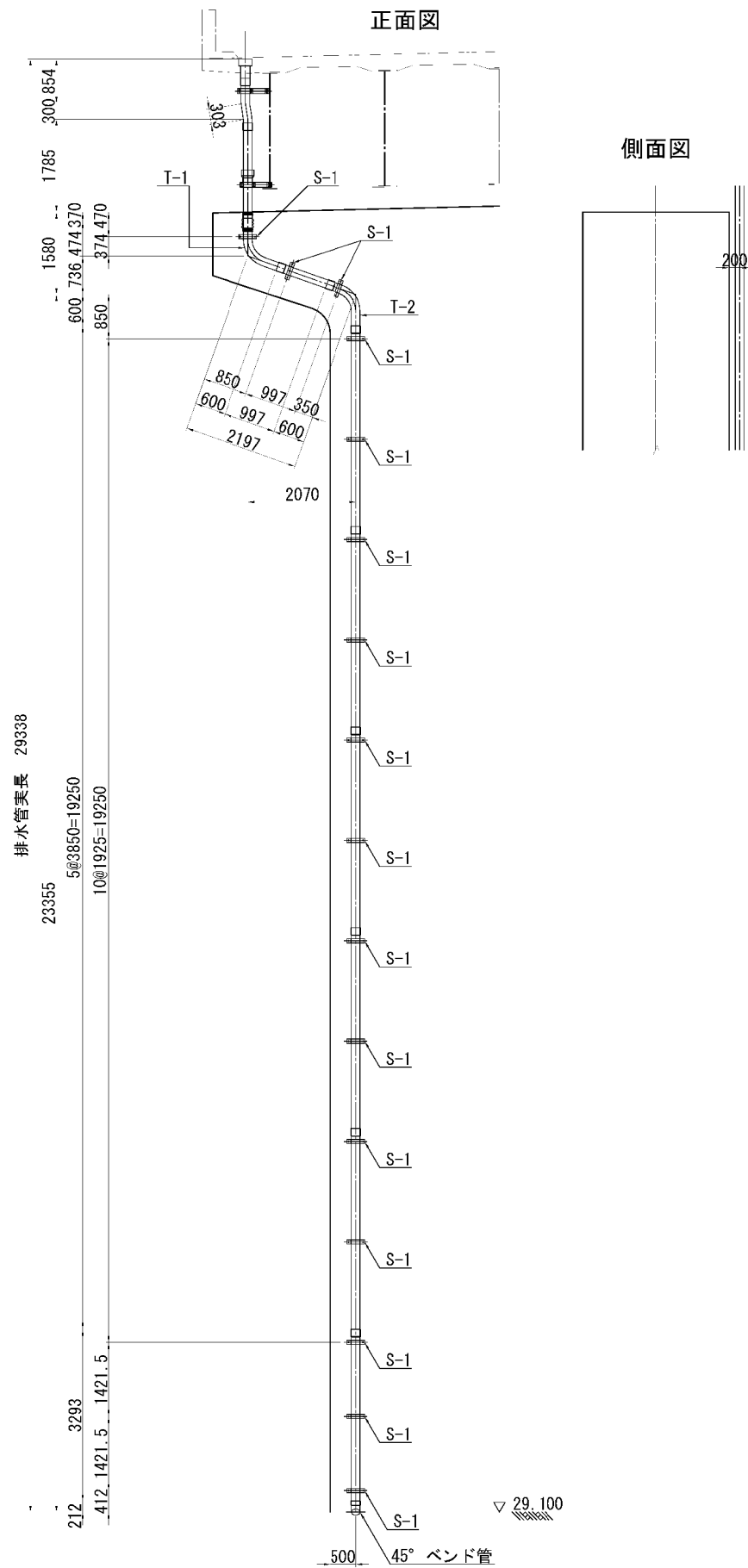
注記

1. 現場実測後、製作、施工すること。
2. 特記なき材質は、全てS400とする。
3. 新設部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZ777 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、
HDZ49とする。
4. 新設打込式アンカーの埋込長は、60mmを標準とする。

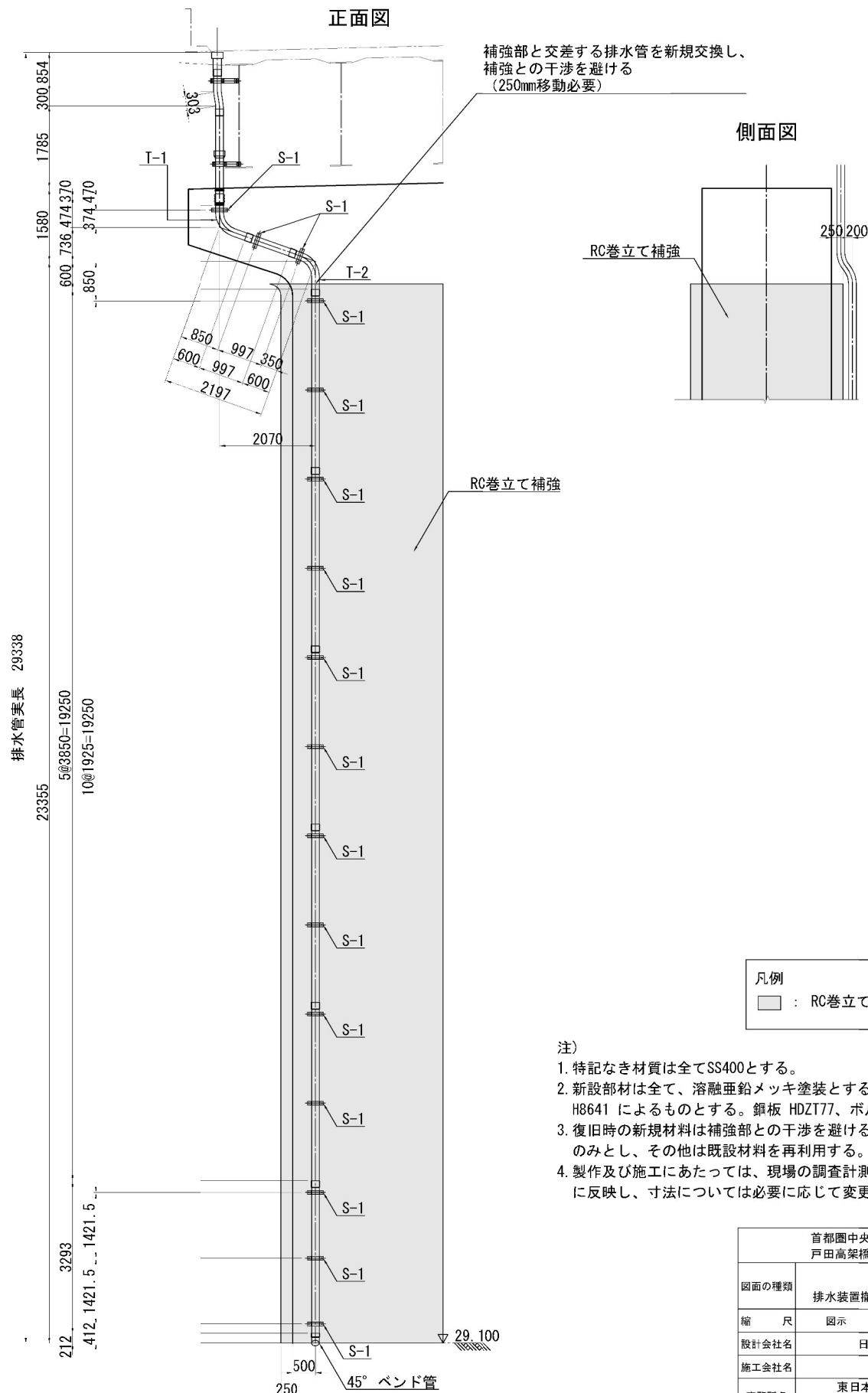
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		丹尾高架橋	
		下部工検査修復旧図 (その3)	
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P1橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



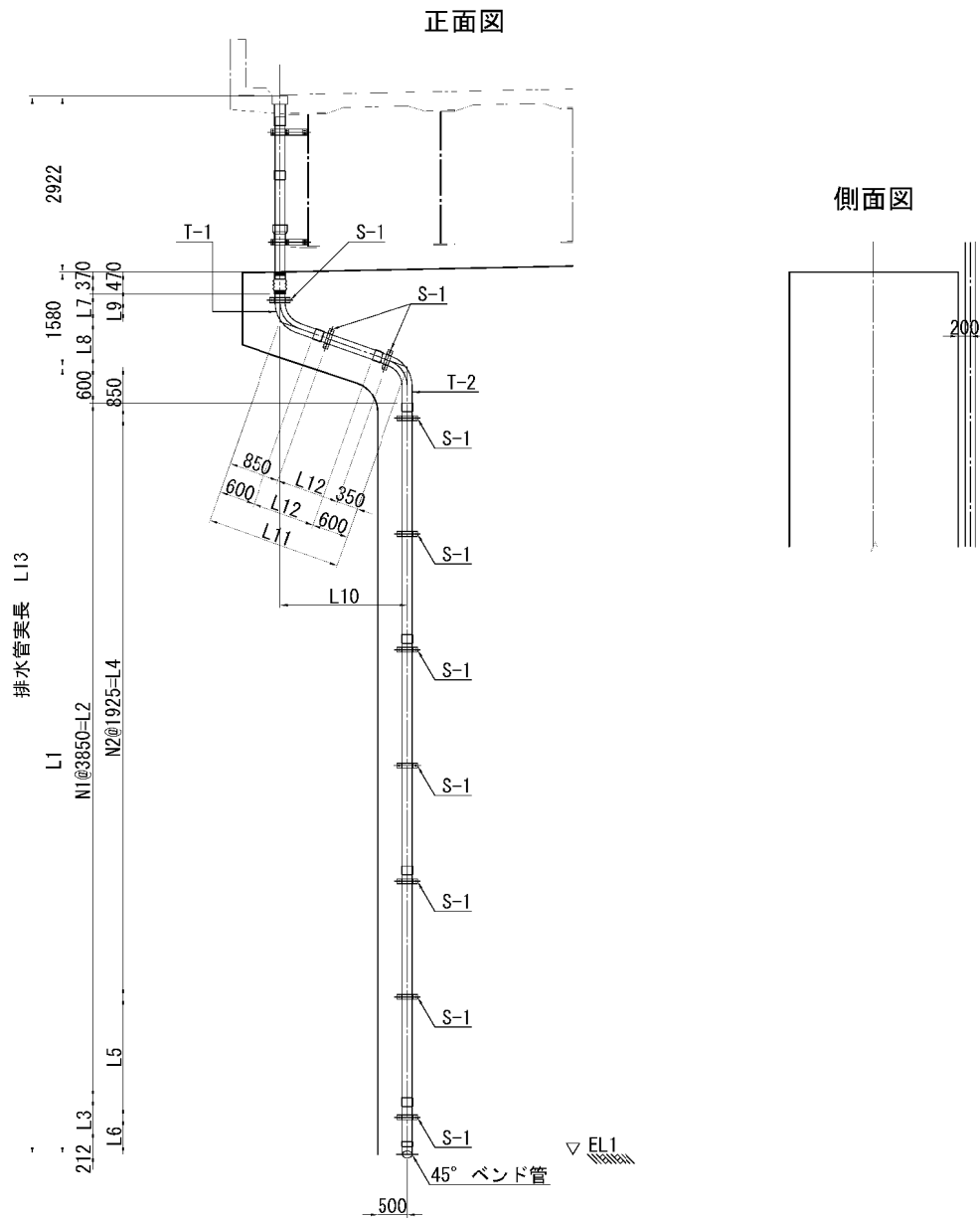
凡例
RC巻立て補強

- 注)
- 1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。銅板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

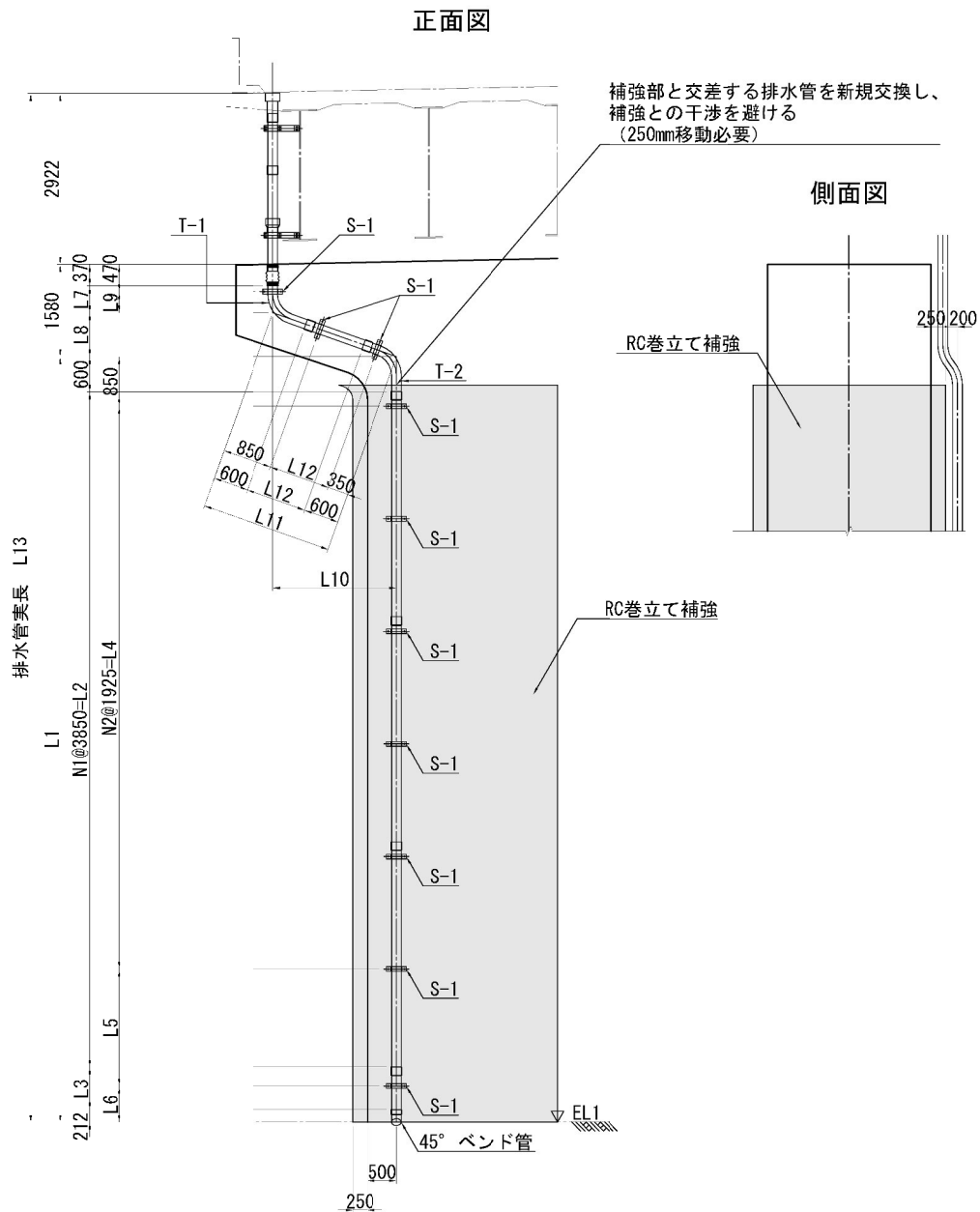
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P2～P4橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



寸法表

	EL1	L1	N1	L2	L3	N2	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11	L12	L13
P2	27.300	24284	6	23100	372	11	21175	1663	596	474	736	374	2070	2197	997	30247
P3	29.700	20987	5	19250	925	9	17325	2000	812	463	747	363	2100	2229	1029	26971
P4	36.700	13091	3	11550	729	5	9625	2000	616	458	752	358	2115	2245	1045	19086

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。銅板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
□ : RC巻立て補強

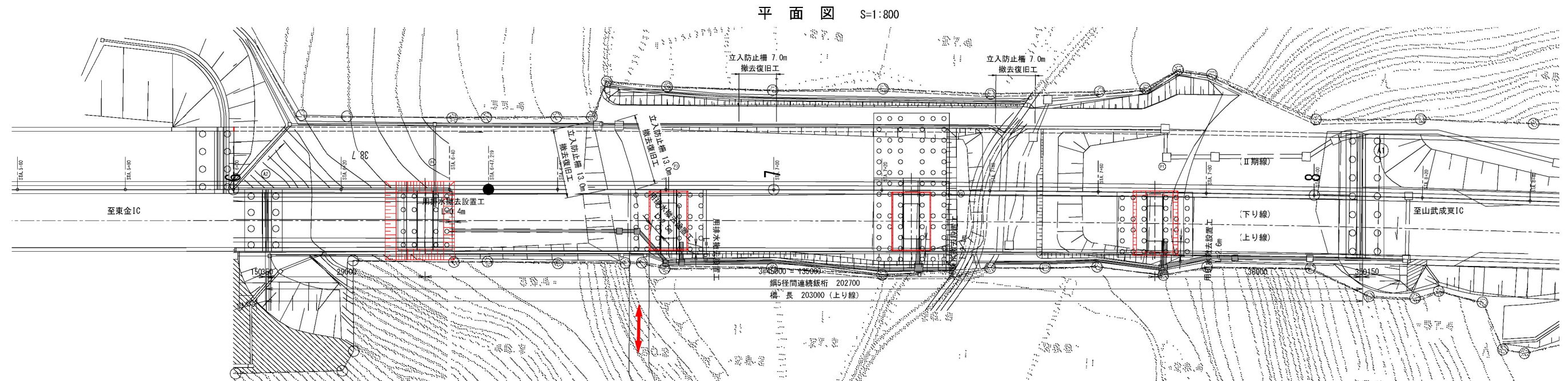
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

丹尾高架橋 工事用道路計画図（参考図）



注記
1) 施工時に必要に応じ現地盤を確認し、
地盤の変状、支障物等がある場合は適宜修正を行うこと

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋		
	工事用道路計画図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



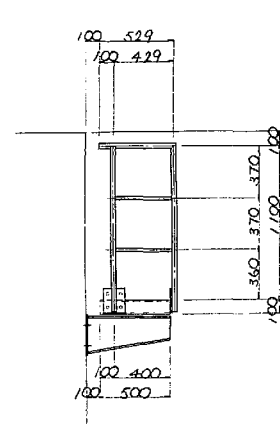
集計表

種別	規格	単位	全体	合計
立入防止柵	φ2.0m	m	40.0	40.0
用排水搬去設置工	0.30・0.30	m	9.1	9.1

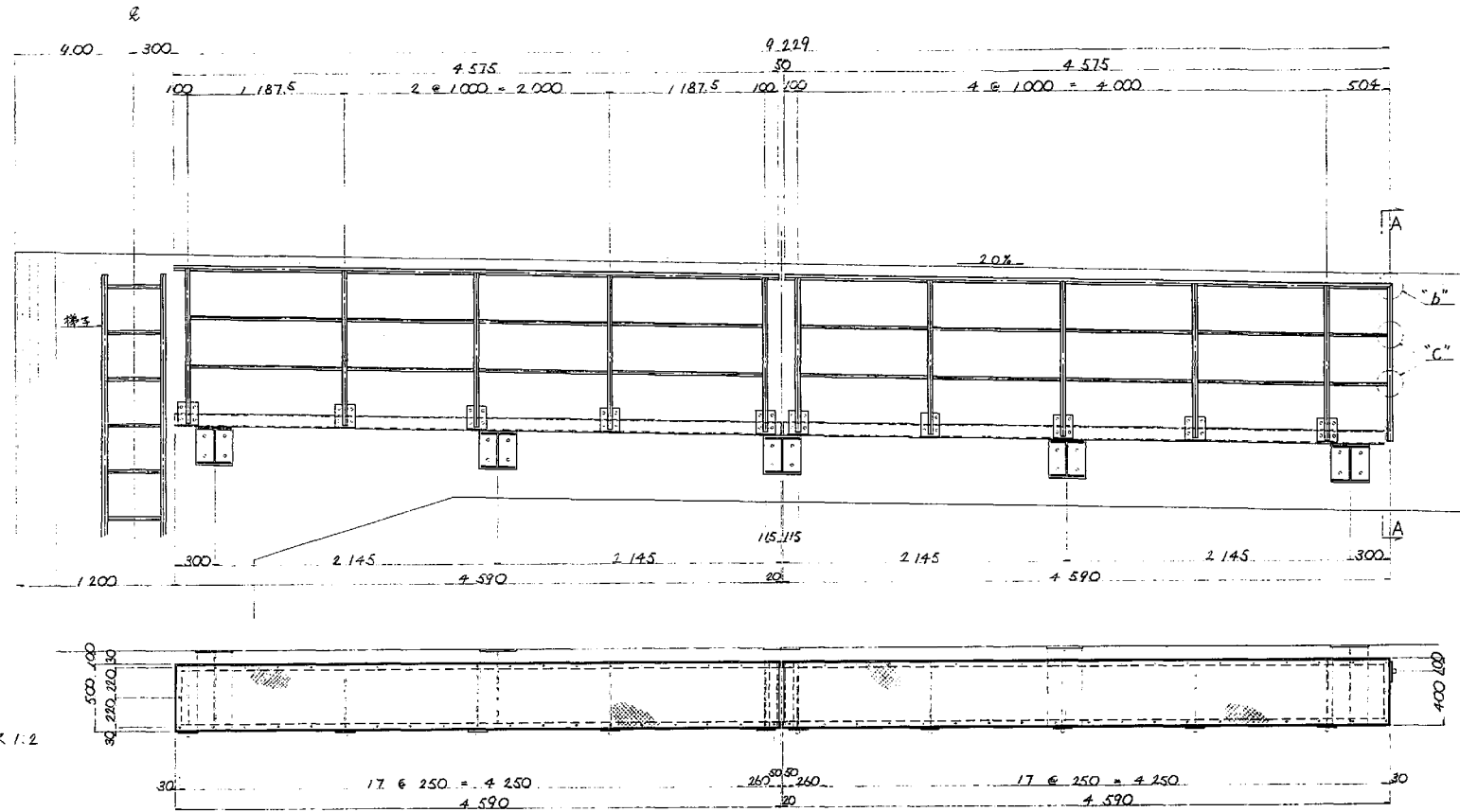
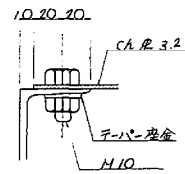
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	丹尾高架橋 附帯工撤去・復旧図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P6橋脚

A - A



"a"部詳細図 縮尺 1:2

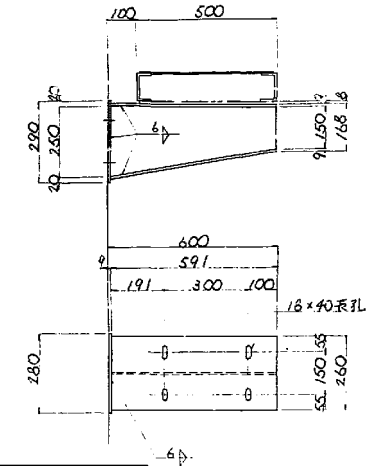
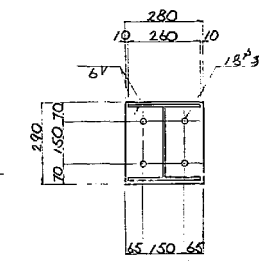


一時撤去材料

2 - Pipe	34 [#] × 2.3 × 4.575 (STK400)	22 - R	150 × 6 × 180	10 - FB	50 × 6 × 490
10 - Pipe	34 [#] × 2.3 × 1180 (*)	4 - R	34 [#] × 3.2	2 - CR	480 × 3.2 × 4.570
12 - Pipe	21.7 [#] × 1.9 × 974 (*)	40 - BN	M16 × 35 (2 - 溶金付)	4 - R	260 × 8 × 480
4 - Pipe	21.7 [#] × 1.9 × 1162 (*)	4 - E	100 × 50 × 5 × 7.5 × 4.590	2 - R	120 × 8 × 480
1 - Pipe	34 [#] × 2.3 × 546 (*)	2 - E	75 × 75 × 6 × 490	80 - BN	M10 × 30
2 - Pipe	21.7 [#] × 1.9 × 177 (*)	2 - L	75 × 75 × 6 × 490	(1 チーバー溶金, 1 - 溶金付)	

ブラケット取付板 縮尺 1:10

ブラケット 縮尺 1:10

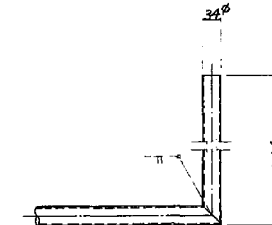


撤去材料 (撤去数: 5)

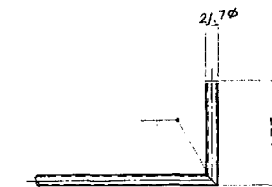
1 - R	260 × 9 × 591	4-NUT M16 (1種)
1 - R	260 × 9 × 599	4-WASHER M16
1 - R	250 × 9 × 591	4-SPRING WASHER M16
1 - R	260 × 9 × 290	
4 - BN	M16 × 35	

注) ホールインアンカーは、ナットおよびワッシャーのみ撤去し、アンカー本体は再利用する。

"b"部詳細図 縮尺 1:5

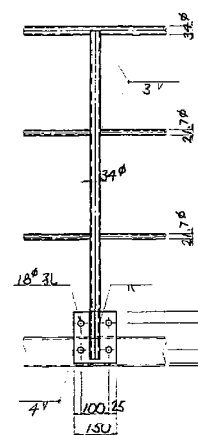
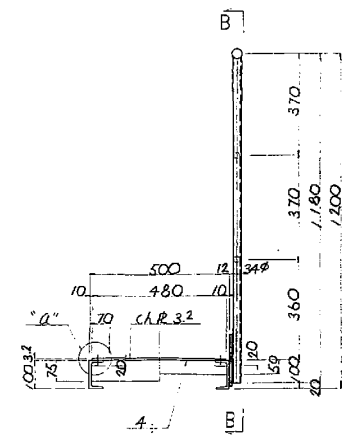


"c"部詳細図 縮尺 1:5

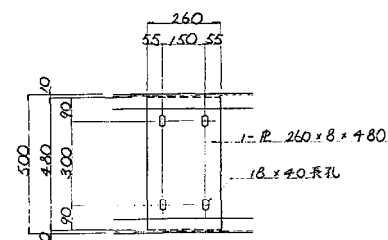


断面図 縮尺 1:10

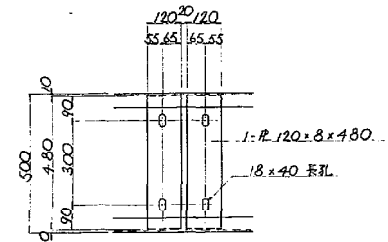
B - B



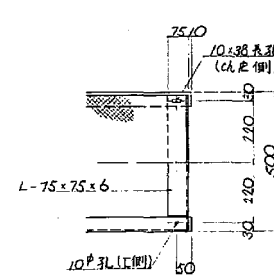
中間部



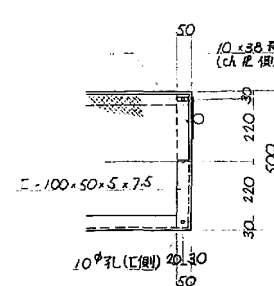
取合部



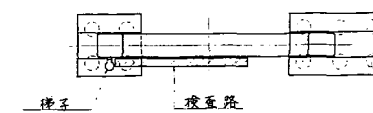
端部断面



外側部



検査路配置図



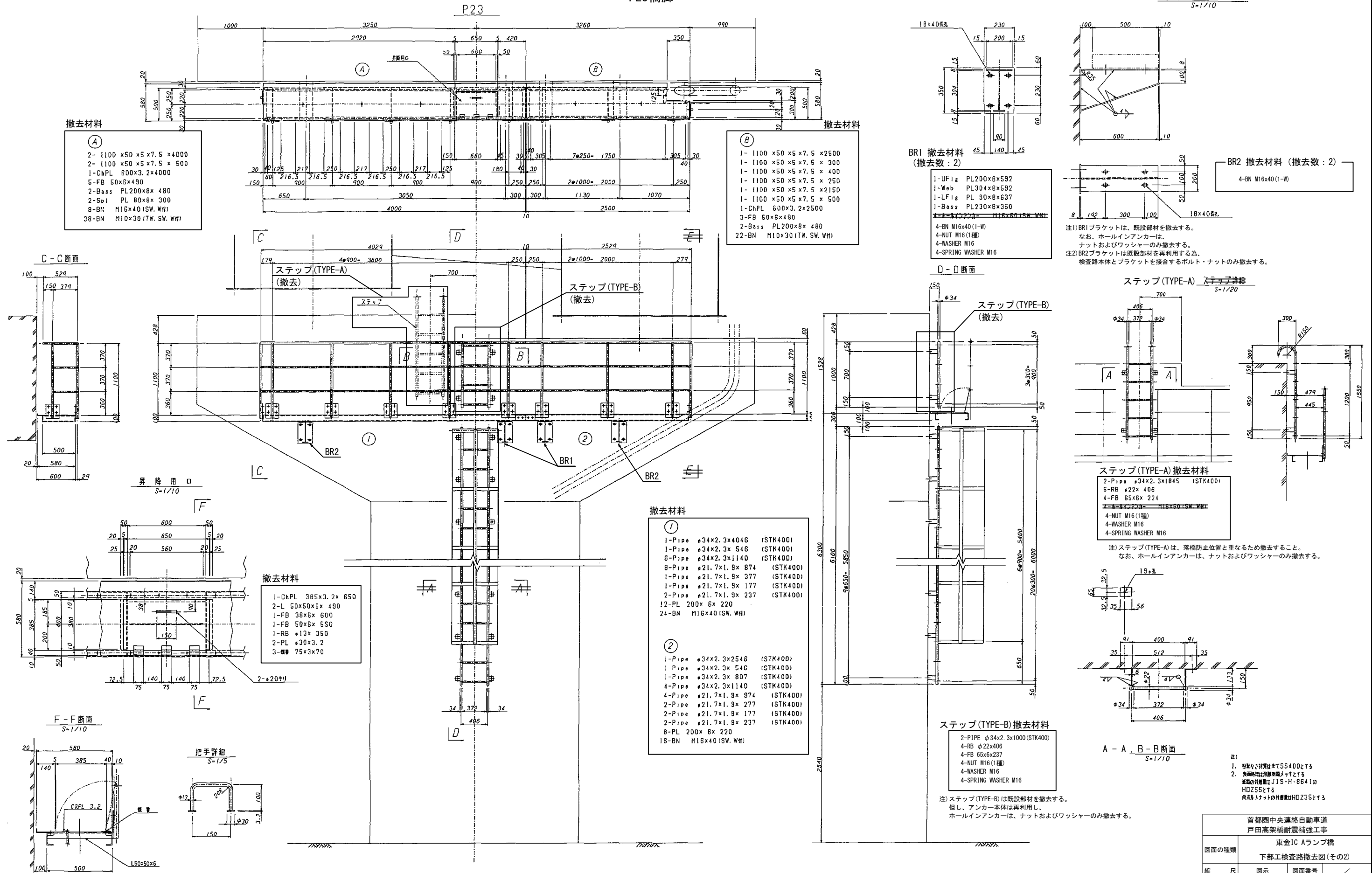
- 注) 1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 部材は全て溶融亜鉛メッキを施す。
付着量はJIS H 864 HDZ55Cとする。
(但し、ボルト、ナットはHDZ35Aとする)

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 下部工検査路撤去図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

東金IC Aランプ橋 下部工検査路撤去図(その2)

P23橋脚

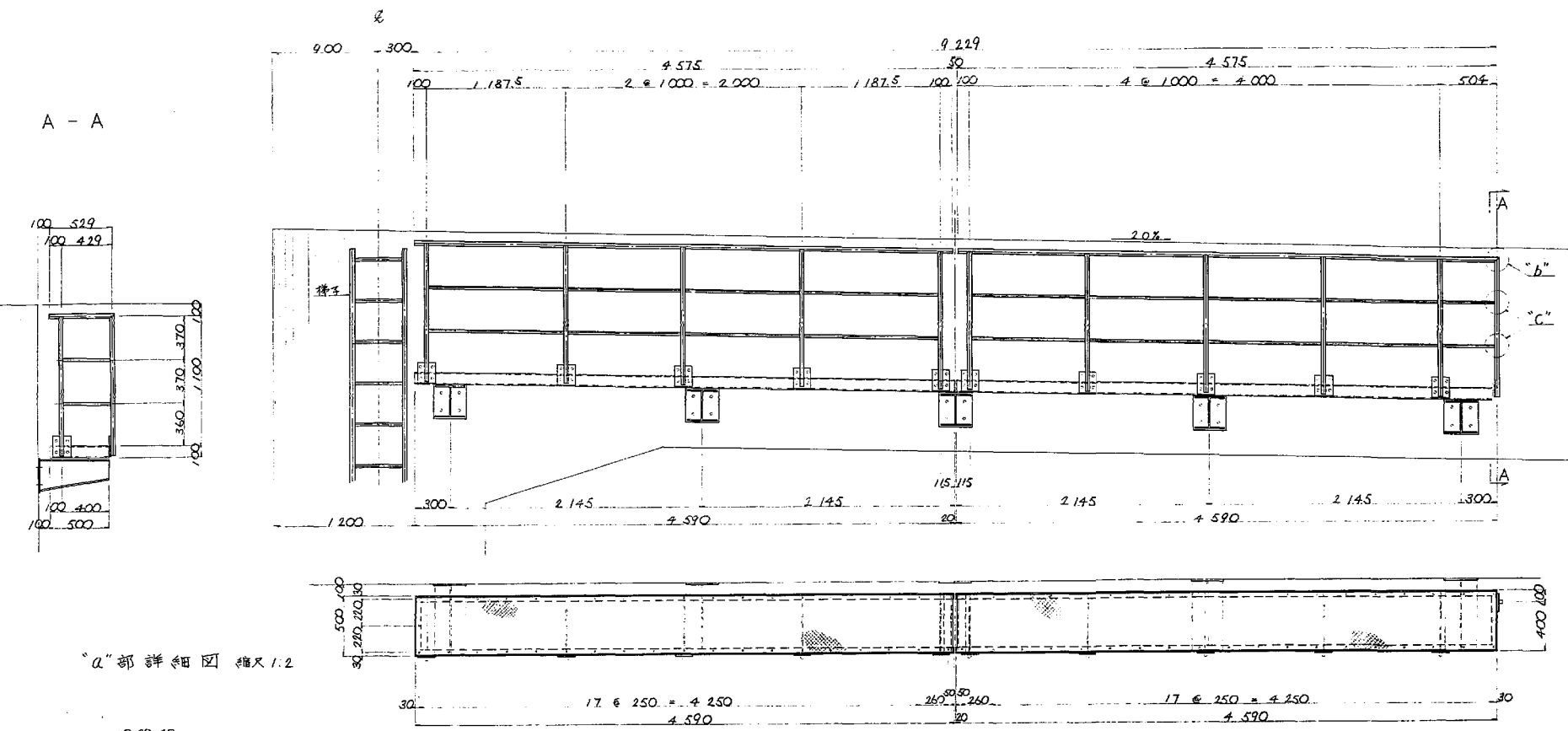
ブラケット詳細
S-1/10



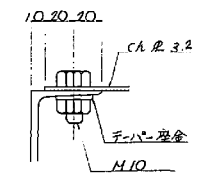
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	下部工検査路撤去図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

東金IC Aランプ橋 下部工検査路復旧図(その1)

P6橋脚(既設下部工検査路復旧図)



"A"部詳細図 縮尺 1:2



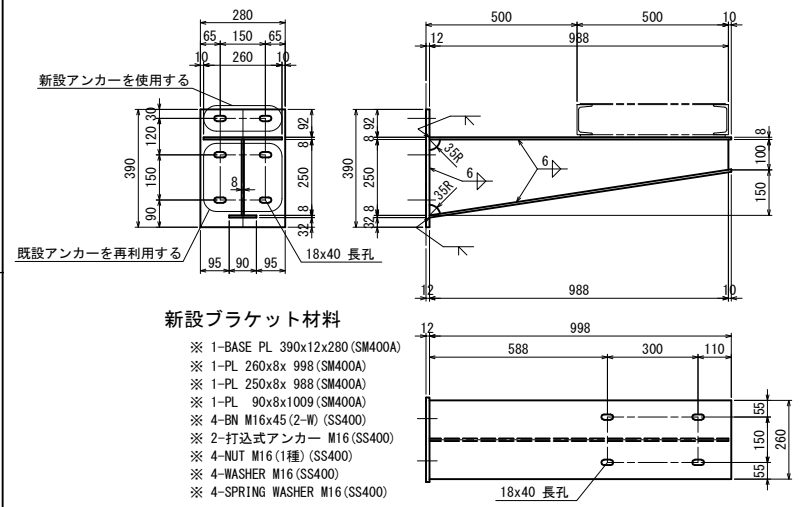
復旧材料

2 - Pipe	34 [#] x 2.3 x 4.575 (STK400)	22 - R	150 x 6 x 180	10 - FB	50 x 6 x 490
10 - Pipe	34 [#] x 2.3 x 1180 ()	4 - R	34 [#] x 3.2	2 - CR	480 x 3.2 x 4.570
12 - Pipe	21.7 [#] x 1.9 x 974 ()	40 - BN	M16 x 35 (2 - 座金付)	4 - R	260 x 8 x 480
4 - Pipe	21.7 [#] x 1.9 x 1162 ()	4 - E	100 x 50 x 5 x 7.5 x 4.590	2 - R	120 x 8 x 480
1 - Pipe	34 [#] x 2.3 x 546 ()	2 - E	x 4 x 4 x 500	80 - BN	M10 x 30
2 - Pipe	21.7 [#] x 1.9 x 177 ()	2 - L	75 x 75 x 6 x 490		(1 チーバー座金, 1 - 座金付)

ブラケット取付板 縮尺 1:10

新設ブラケット S=1:25

(製作数:5)



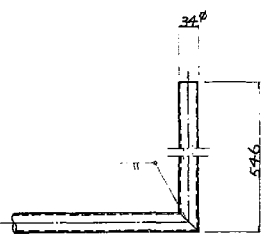
新設ブラケット材料

- ※ 1-BASE PL 390x12x280 (SM400A)
- ※ 1-PL 260x8x 998 (SM400A)
- ※ 1-PL 250x8x 988 (SM400A)
- ※ 1-PL 90x8x1009 (SM400A)
- ※ 4-BN M16x45 (2-W) (SS400)
- ※ 2-打込式アンカー M16 (SS400)
- ※ 4-NUT M16 (1種) (SS400)
- ※ 4-WASHER M16 (SS400)
- ※ 4-SPRING WASHER M16 (SS400)

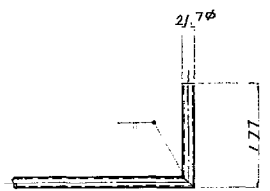
注記

1. 現場実測後、製作、施工すること。
2. 新設ブラケットのアンカーは、既設アンカーを再利用する。但し、再利用の際もナット、座金については、新設部材を使用する。なお、既設アンカーを再利用する際は、既設アンカーの健全性を確認し、健全性が確保出来ない場合は、新設アンカーに変更すること。
3. ※印付部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT77 とする。但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
4. 検査路とブラケットを取付ける新設BNは、ゆるみ止めナットを使用すること。
5. 新設打込式アンカーの埋込長は、60mmを標準とする。

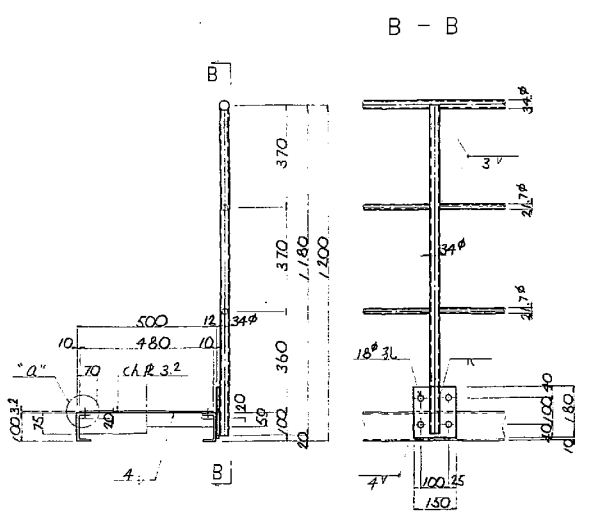
"B"部詳細図 縮尺 1:5



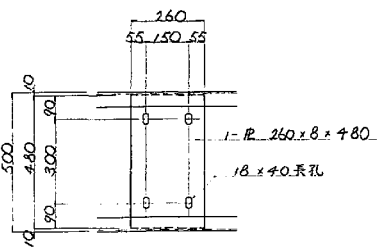
"C"部詳細図 縮尺 1:5



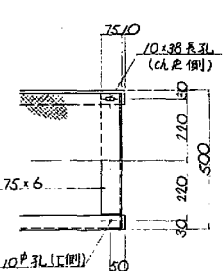
断面図 縮尺 1:10



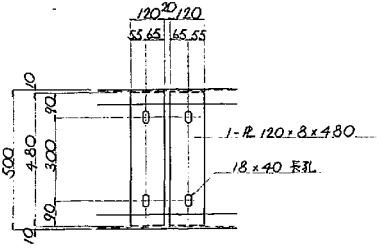
中間部



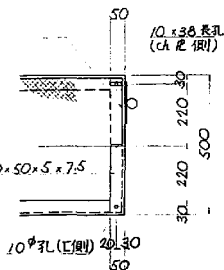
端部断面



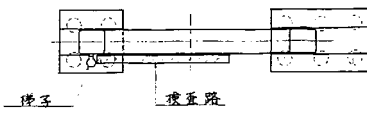
取合部



外側部



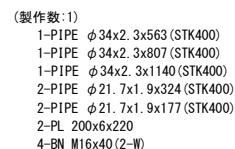
検査路配置図



- 注) 1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 部材は全て溶融亜鉛メッキを施す。付着量はJIS H 8641 HDZ55Cとする。(但し、ボルト、ナットはHDZ35Aとする)

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 下部工検査路復旧図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

A - A



- 1-PIPE ϕ 34x2. 3x1603 (STK400)
1-PIPE ϕ 34x2. 3x567 (STK400)
1-PIPE ϕ 34x2. 3x761 (STK400)
5-PIPE ϕ 34x2. 3x1140 (STK400)
2-PIPE ϕ 21. 7x1. 9x277 (STK400)
4-PIPE ϕ 21. 7x1. 9x554 (STK400)
2-PIPE ϕ 21. 7x1. 9x133 (STK400)
2-PIPE ϕ 21. 7x1. 9x564 (STK400)
2-PIPE ϕ 21. 7x1. 9x196 (STK400)
2-PIPE ϕ 21. 7x1. 9x424 (STK400)
10-PL 200x6x220
20-BN M16x40 (2-W)

- 1-PIPE $\phi 34 \times 2.3 \times 761$ (STK400)
 1-PIPE $\phi 34 \times 2.3 \times 567$ (STK400)
 1-PIPE $\phi 34 \times 2.3 \times 1593$ (STK400)
 5-PIPE $\phi 34 \times 2.3 \times 1140$ (STK400)
 2-PIPE $\phi 21.7 \times 1.9 \times 744$ (STK400)
 2-PIPE $\phi 21.7 \times 1.9 \times 146$ (STK400)
 2-PIPE $\phi 21.7 \times 1.9 \times 564$ (STK400)
 2-PIPE $\phi 21.7 \times 1.9 \times 133$ (STK400)
 4-PIPE $\phi 21.7 \times 1.9 \times 599$ (STK400)
 2-PIPE $\phi 21.7 \times 1.9 \times 177$ (STK400)
 10-PL 2006x6220
 20-BN M16x40 (2-W)

[illegible]

- 1-CH 100x50x5x7. 5x1572
1-CH 100x50x5x7. 5x571
1-CH 100x50x5x7. 5x800
1-CH 100x50x5x7. 5x400
1-CH 100x50x5x7. 5x2510
1-CH 100x50x5x7. 5x300
1-CH 100x50x5x7. 5x250
1-CH 100x50x5x7. 5x750
1-FB 50x6x290
2-FB 50x6x490
2-FB 50x6x740
1-Ch. PL 850x3. 2x2840
1-PL 200x8x480
1-PL 200x8x730
31-BN M10x30 (1-W, 1-TW)

- 1-CH 100x50x5x7. 5x800
 1-CH 100x50x5x7. 5x571
 1-CH 100x50x5x7. 5x1562
 1-CH 100x50x5x7. 5x2850
 1-CH 100x50x5x7. 5x750
 1-CH 100x50x5x7. 5x500
 2-FB 50x6x740
 3-FB 50x6x490
 1-Ch. PL 850x3. 2x2830
 1-PL 200x8x730
 1-PL 200x8x480
 30-BN M10x30 (1-W. 1-TW)

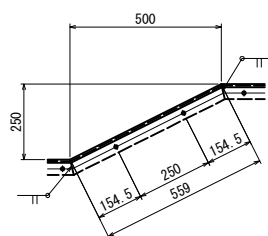
(製作数:1)

- 1-PIPE $\phi 34 \times 2.3 \times 546$ (STK400)
- 1-PIPE $\phi 34 \times 2.3 \times 1140$ (STK400)
- 2-PIPE $\phi 21.7 \times 1.9 \times 377$ (STK400)
- 2-PL 200x6x220
- 4-BN M16x40 (2-W)

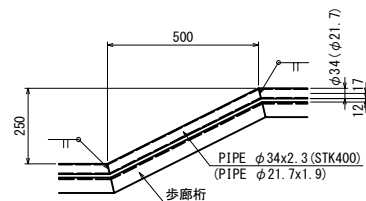
(製作数:2)

- 1-PIPE $\phi 34 \times 2.3 \times 250$ (STK400)
- 1-PIPE $\phi 34 \times 2.3 \times 1140$ (STK400)
- 2-PIPE $\phi 21.7 \times 1.9 \times 87$ (STK400)
- 2-PIPE $\phi 21.7 \times 1.9 \times 137$ (STK400)
- 2-PL 200x6x220
- 4-BN M16x40 (2-W)

步廊桁位置



手摺位置



Technical drawing of a bridge structure showing dimensions and a warning label. The drawing includes the following dimensions:

- Top horizontal dimensions: 150, 500, 200
- Left vertical dimension: 500
- Right vertical dimensions: 250, 500, 750, 100
- Bottom horizontal dimensions: 560, 290

A label with an arrow points to a specific part of the structure, reading: 落橋防止 (Falling off the bridge prevention).

Technical drawing of a handrail assembly (Figure 10-10). The drawing shows a side view of a handrail with three horizontal bars. Dimensions include a total height of 610, a distance of 370 from the top bar to the center of the handrail, and a distance of 360 from the bottom bar to the center. The handrail has a diameter of 34 and a length of 1100. A label "落橋防止" (Prevention of falling off the bridge) points to the top bar.

注記

1. 現場実測後、製作、施工すること。
2. 特記な材質は、全てSS400とする。
3. ナットは、全てゆるめナットを使用すること。
4. 部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の厚度は「JIS H 8641 HDZ777 とする。
但し、ボルト、ナットおよび厚板3.2mm未満の部材
(チェッカープレートを含む)は、HDZ749とする。
5. 各部詳細は、「東金ICランプ橋 下部工検査路復旧図(その3)」
を参照のこと。
6. 昇降梯子は「昇降梯子図」を参照のこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		東金IC Aランプ橋 下部工検査路復旧図(その2)	
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
東金IC ランプ橋			
図面の種類		下部工検査路復旧図(その3)	
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名		日本工営株式会社	
施工会社名			
事務所名		東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所	

P6橋脚

昇降設備 撤去

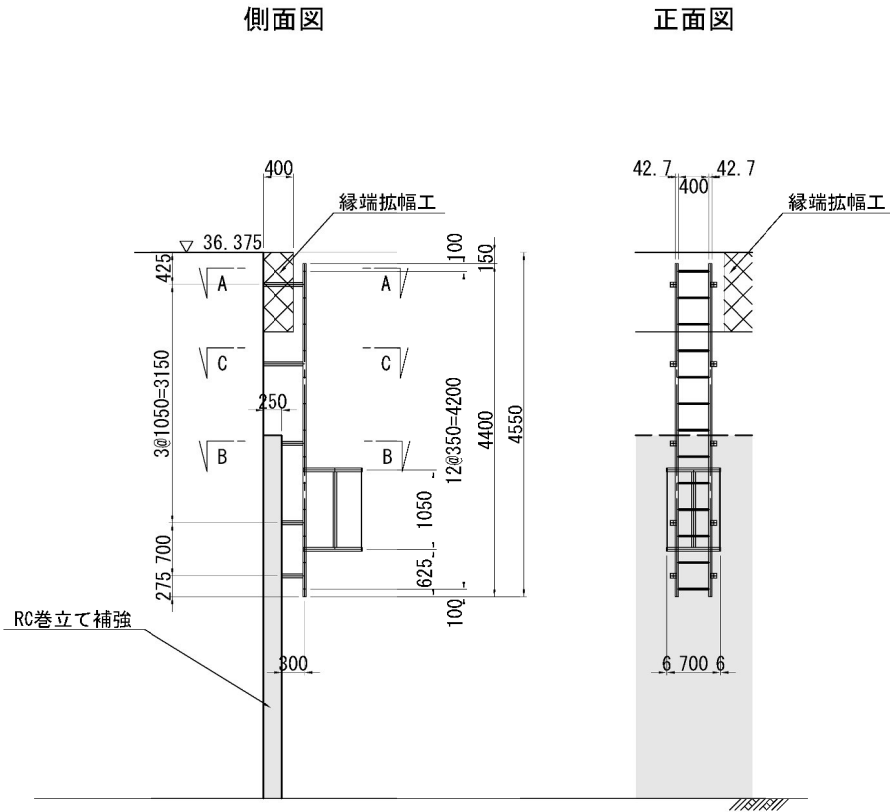
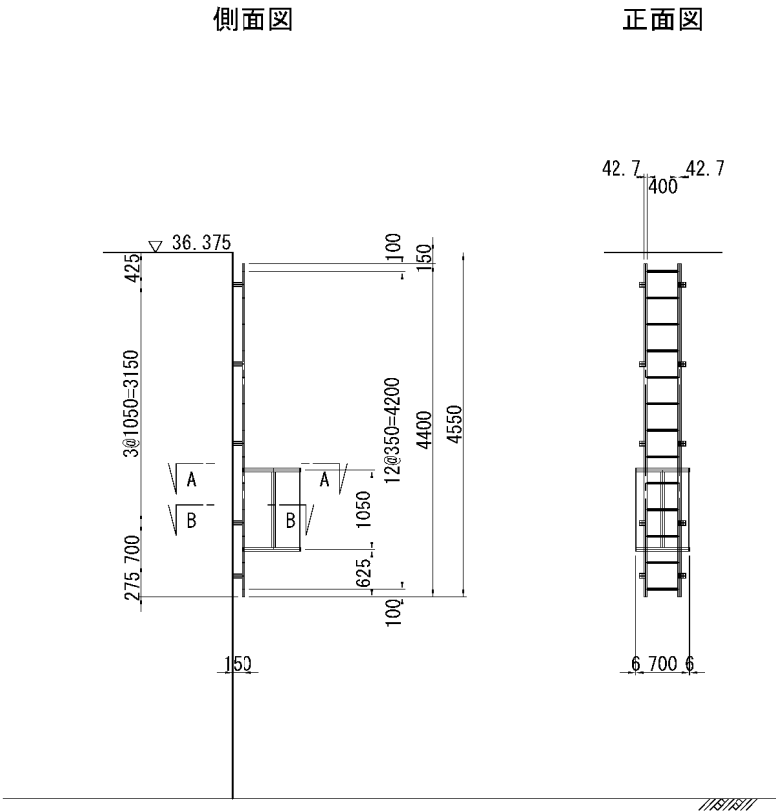
昇降設備 復旧

側面図

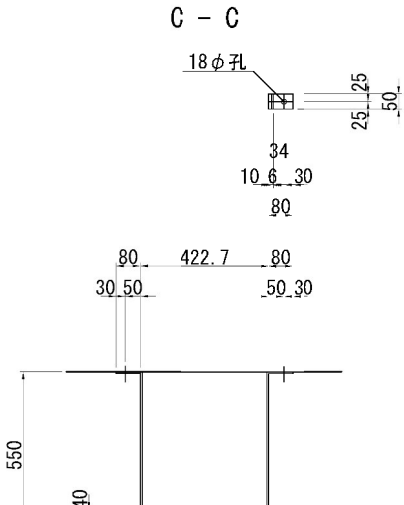
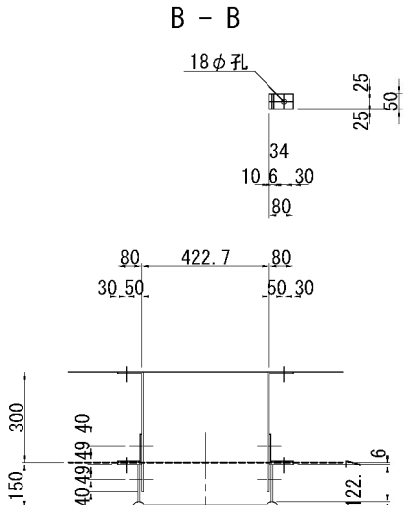
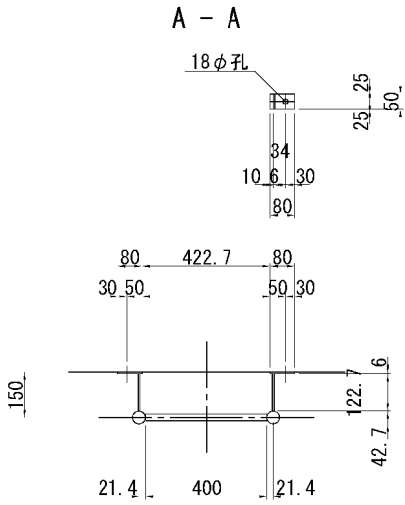
正面図

側面図

正面図



昇降設備断面図 S=1:25



- 一時撤去材料
- 2 - Pipe 42.7φ x 2.3 x 4400 (STK400)
 - 2 - FB 50 x 6 x 1971
 - 3 - FB 50 x 6 x 1100
 - 10 - FB 50 x 6 x 80
 - 10 - FB 50 x 6 x 123
 - 13 - RB 22φ x 400

- 撤去材料
- 10 - ホールインアンカー M16

- 新設材料
- 10 - ホールインアンカー M16
 - 6 - FB 50 x 6 x 481
 - 6 - FB 50 x 6 x 175
 - 4 - FB 50 x 6 x 731
 - 4 - FB 50 x 6 x 175
 - 18 - BN M16 x 40
 - 12 - BN M16 x 40

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

- 凡例
- RC巻立て補強
 - 縁端拡幅工

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 昇降設備撤去・復旧計画図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P23橋脚(起点側)

昇降設備 撤去

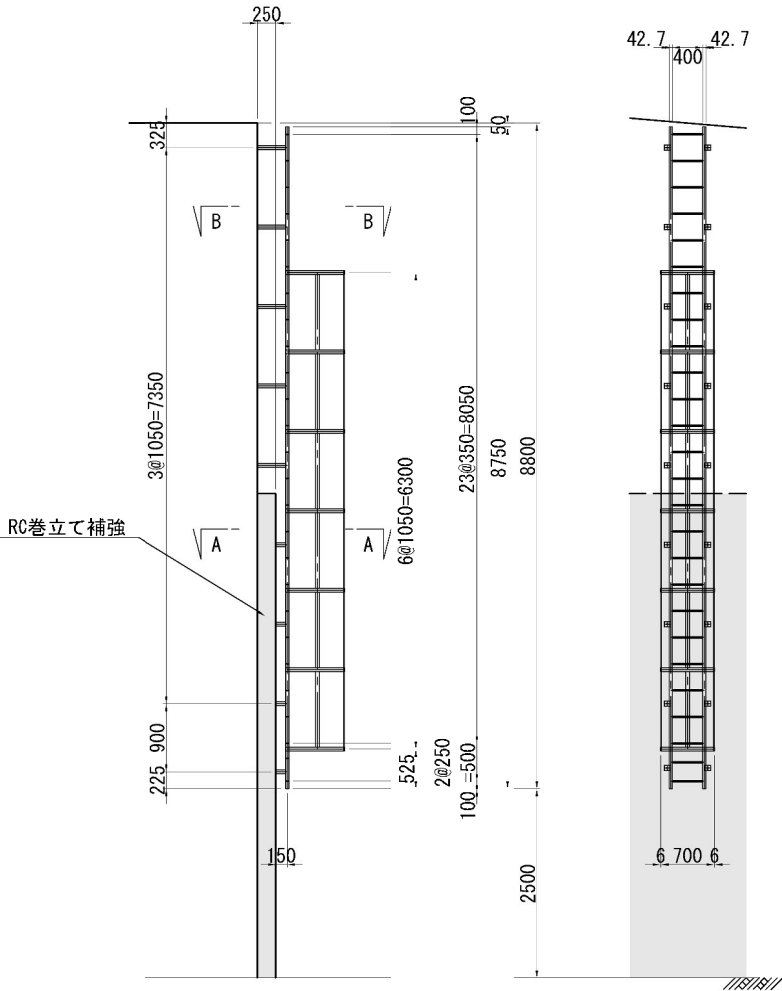
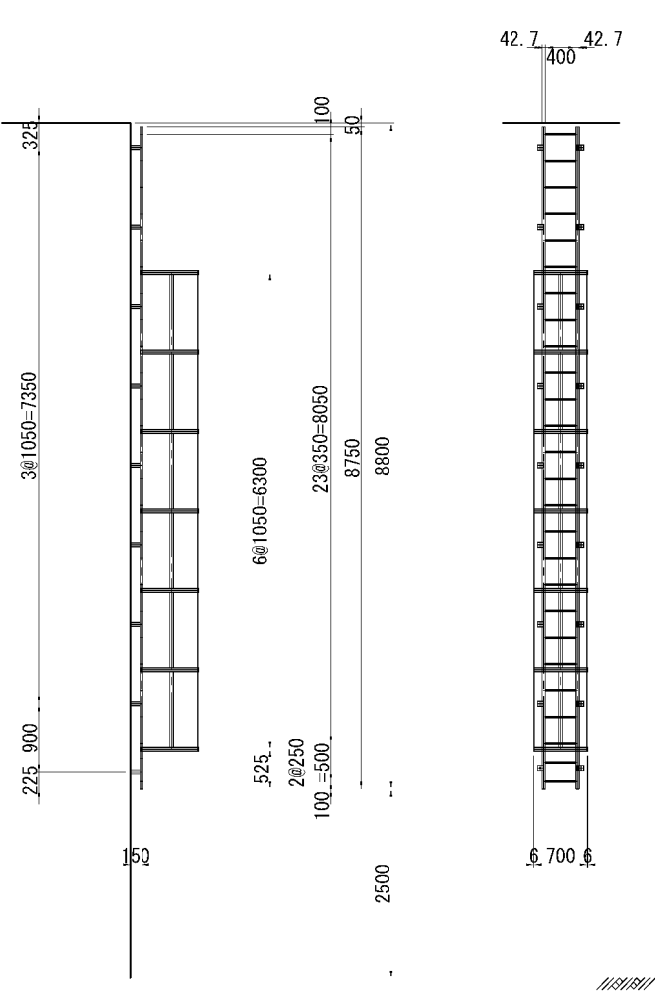
昇降設備 復旧

側面図

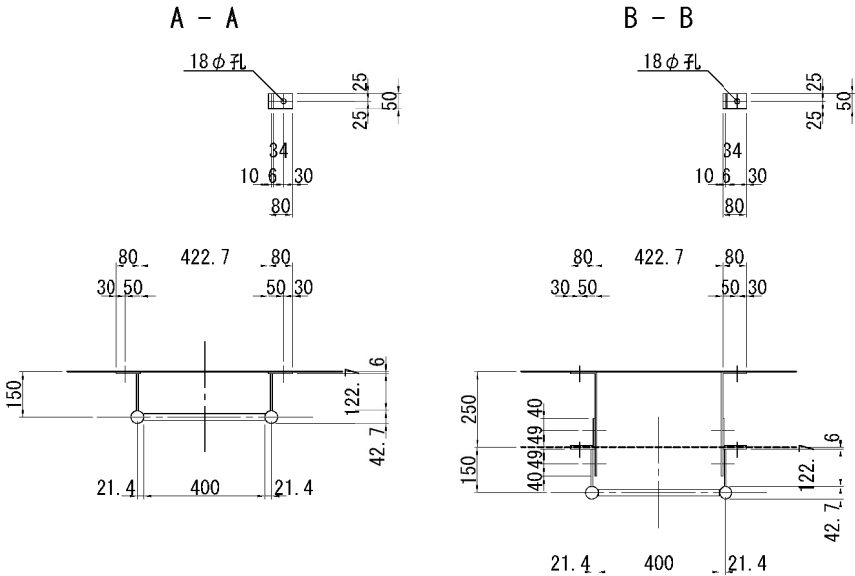
正面図

側面図

正面図



昇降設備断面図 S=1:25



- 一時撤去材料
- 2 - Pipe 42.7φ x 2.3 x 8750 (STK400)
 - 2 - FB 50 x 6 x 1971
 - 3 - FB 50 x 6 x 7750
 - 18 - FB 50 x 6 x 80
 - 18 - FB 50 x 6 x 123
 - 26 - RB 22φ x 400

- 撤去材料
- 18 - ホールインアンカー M16

- 新設材料
- 18 - ホールインアンカー M16
 - 10 - FB 50 x 6 x 431
 - 10 - FB 50 x 6 x 175
 - 30 - BN M16 x 40

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋸板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
RC巻立て補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	昇降設備撤去・復旧計画図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P23橋脚(終点側)

昇降設備 撤去

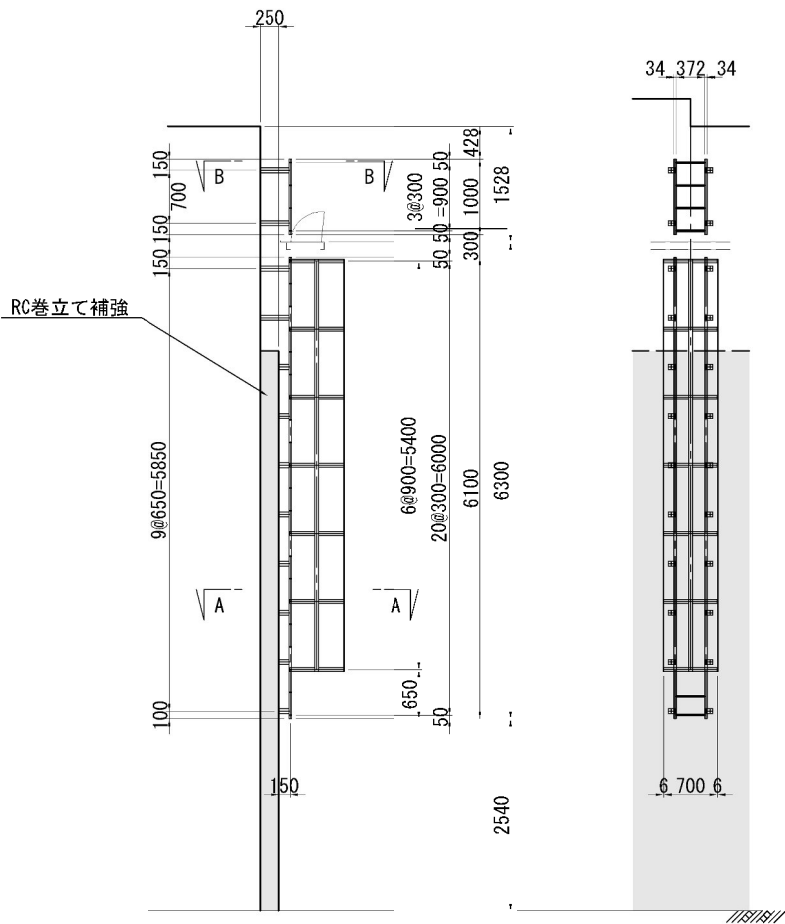
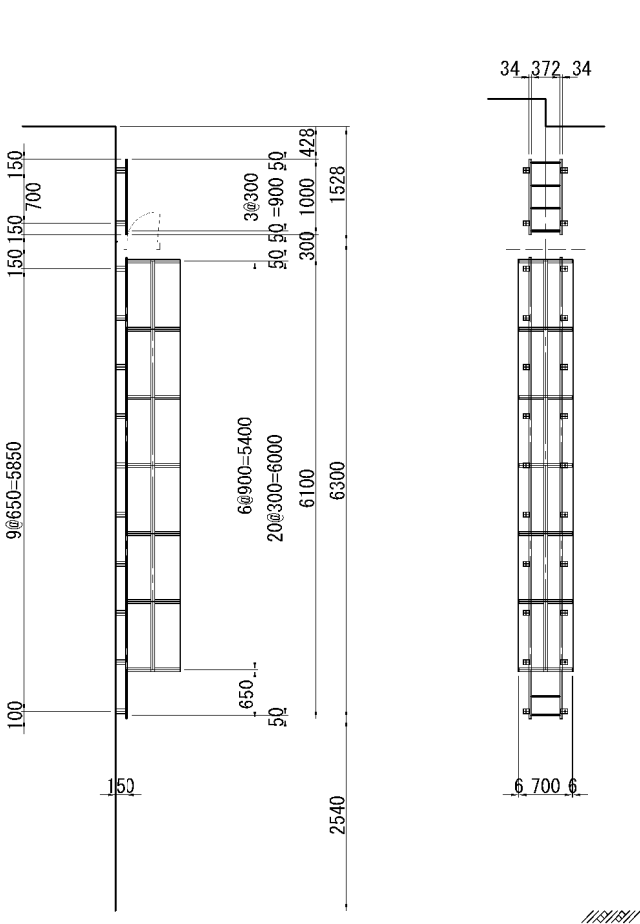
昇降設備 復旧

側面図

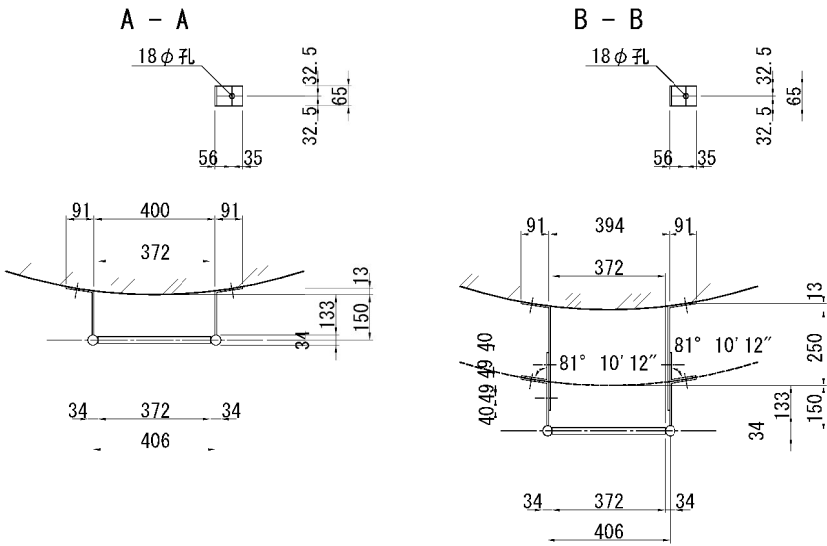
正面図

側面図

正面図



昇降設備断面図 S=1:25



- 一時撤去材料
- 2 - Pipe 34φ x 2.3 x 6'00 (STK400)
 - 2 - Pipe 34φ x 2.3 x 1000 (STK400)
 - 25 - RB 22φ x 406
 - 12 - FB 65 x 6 x 237
 - 3 - FB 65 x 6 x 5430
 - 7 - FB 50 x 6 x 1847
- 撤去材料
- 24 - ホールインアンカー M16 x 60 (SW. W付)
- 新設材料
- 24 - ホールインアンカー M16 x 60 (SW. W付)
 - 8 - FB 65 x 6 x 441
 - 8 - FB 65 x 6 x 187
 - 24 - BN M16 x 40

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋸板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例

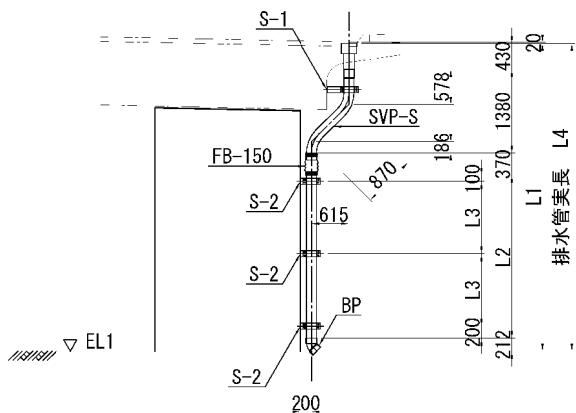
RC巻立て補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 昇降設備撤去・復旧計画図(その3)		
	縮尺	図示	図面番号
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P1・P2橋脚

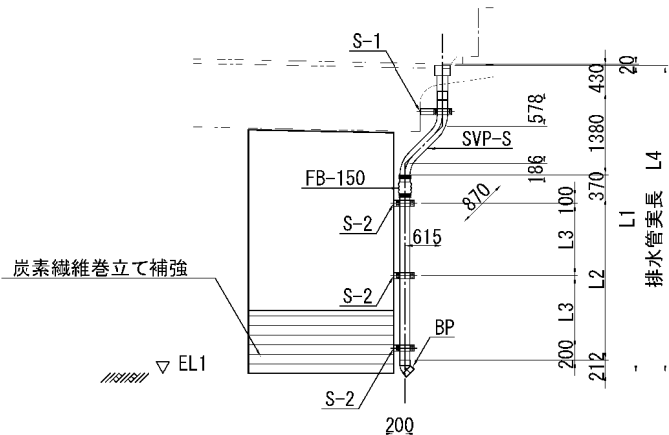
既設排水装置撤去図

正面図



新設排水装置改良図

正面図



寸法表

	EL1	L1	L2	L3	L4
P1	27.900	5086	2694	1197	5340
P2	28.200	5686	3294	1497	5940

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鍍板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

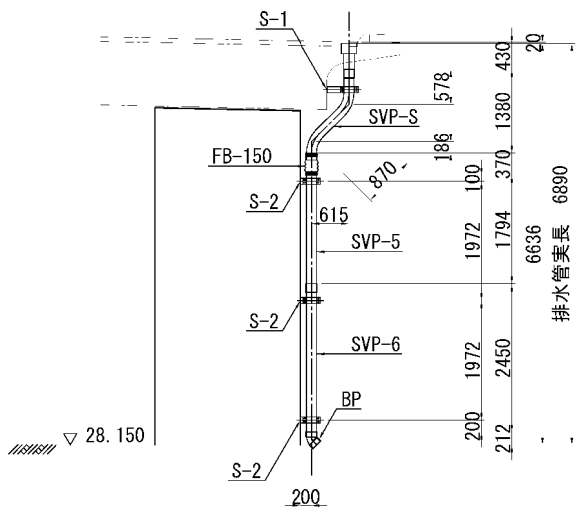
凡例
炭素繊維巻立て補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 排水装置撤去・復旧計画図(その1)		
	縮尺	図示	図面番号
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P3橋脚

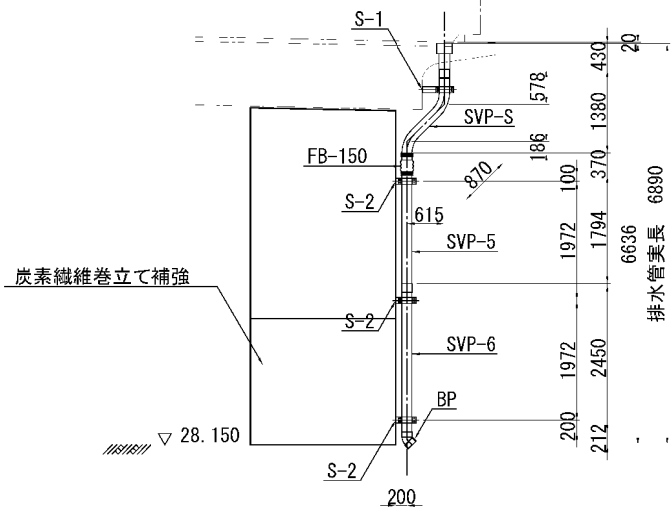
既設排水装置撤去図

正面図



新設排水装置改良図

正面図



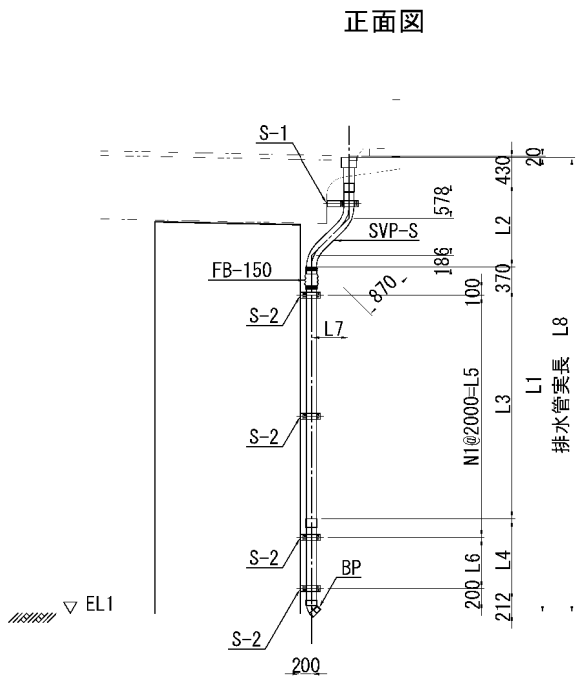
- 注)
- 1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鍍板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
≡ : 炭素繊維巻立て補強

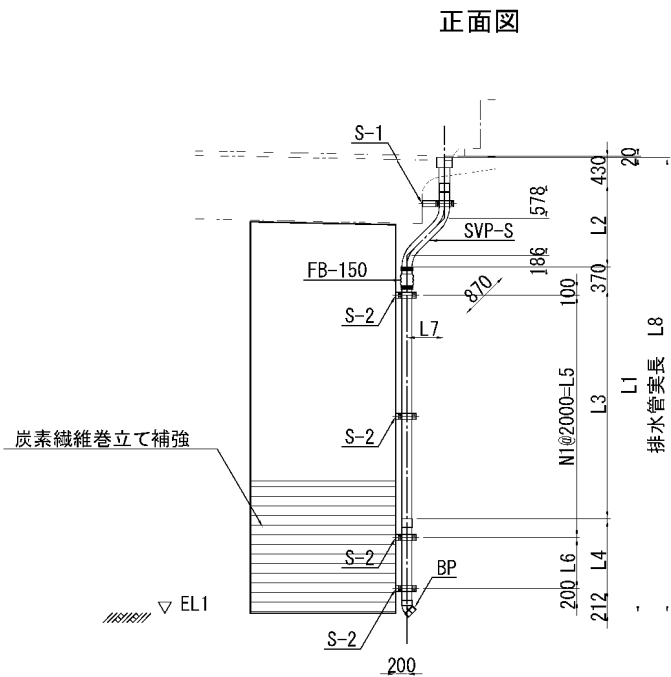
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P4・P5・P7橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



寸法表

	EL1	L1	L2	L3	L4	N1	L5	L6	L7	L8
P4	28.150	7536	1380	3794	1350	2	4000	844	615	7790
P5	28.350	8213	1380	3794	2027	2	4000	1521	615	8467
P7	27.900	10048	1384	3794	3858	3	6000	1352	619	10298

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋲板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

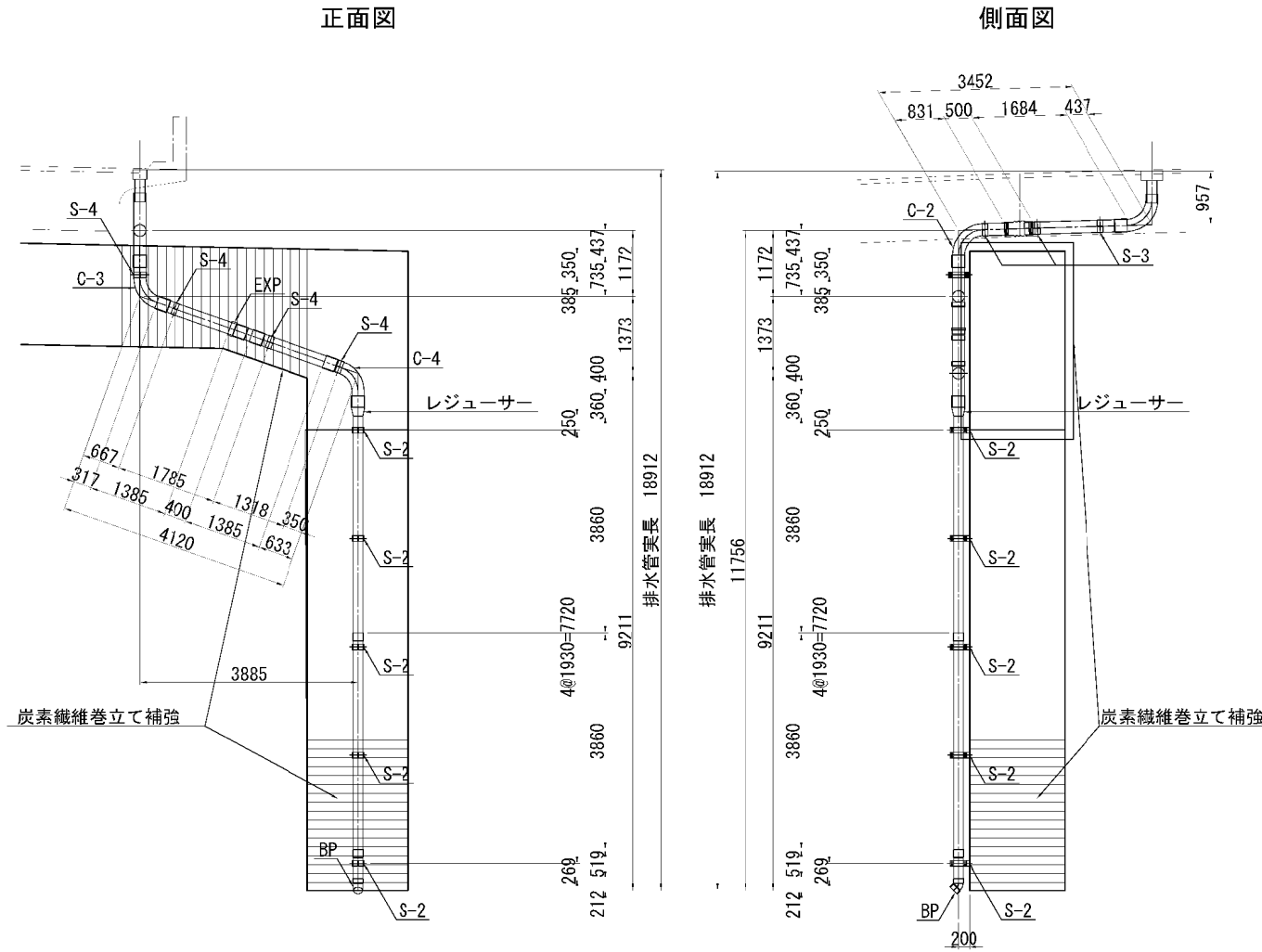
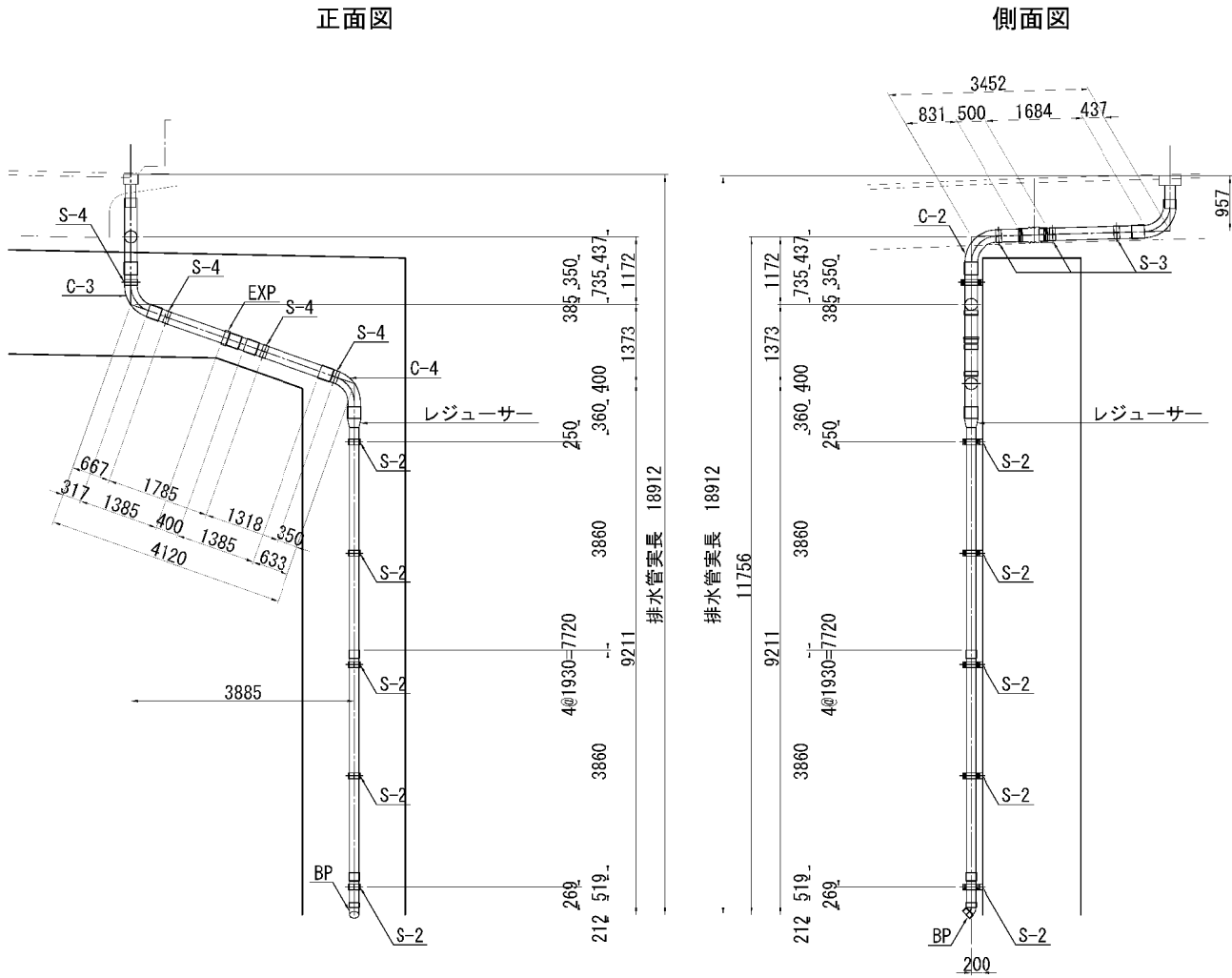
凡例
炭素繊維巻立て補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 排水装置撤去・復旧計画図(その3)		
	縮尺	図示	図面番号
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P6橋脚

既設排水装置撤去図

新設排水装置改良図



- 注)
- 1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋲板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

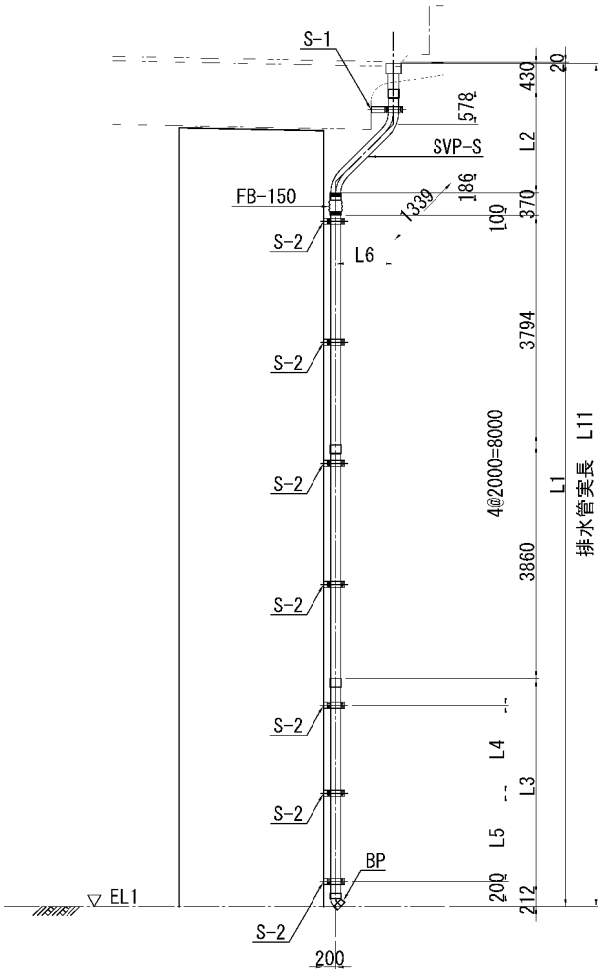
凡例
炭素繊維巻立て補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その4)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P8・P9・P11橋脚

既設排水装置撤去図

正面図

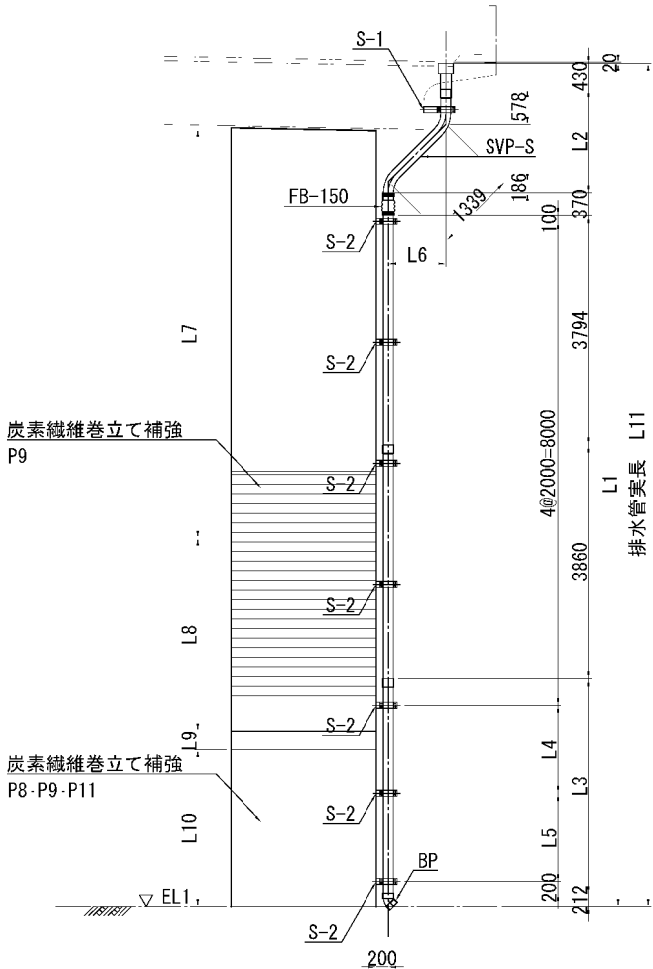


寸法表

	EL1	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L11
P8	24.500	13827	1517	3644	1499	1499	752	14413
P9	24.600	13935	1712	3557	1455	1455	947	14326
P11	25.700	12729	1406	2657	1005	1006	641	13426

新設排水装置改良図

正面図



寸法表

	L7			L8	L9	L10
	左柱	中央柱	右柱			
P8	5742	-	5658	-	-	7078
P9	6846	-	6754	3200	300	2592
P11	5182	5100	5018	-	-	6620

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋲板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

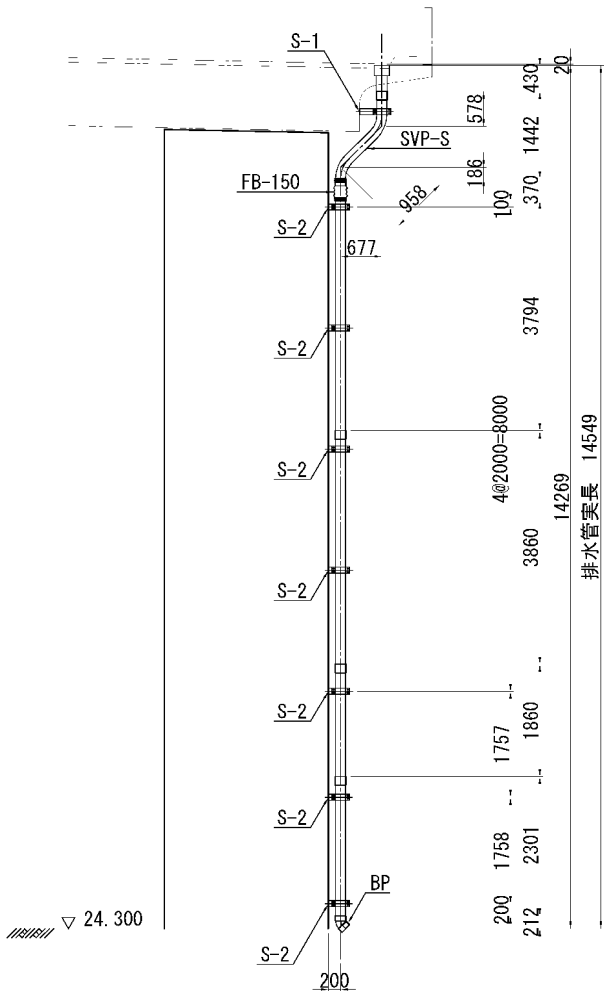
凡例
≡ : 炭素繊維巻立て補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 排水装置撤去・復旧計画図(その5)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P10橋脚

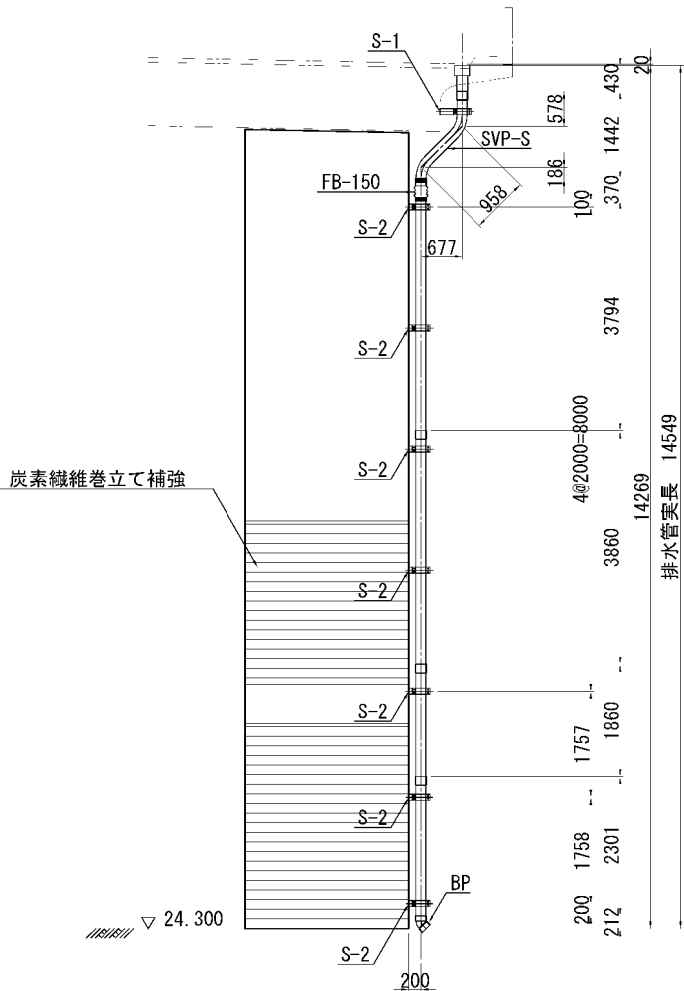
既設排水装置撤去図

正面図



新設排水装置改良図

正面図



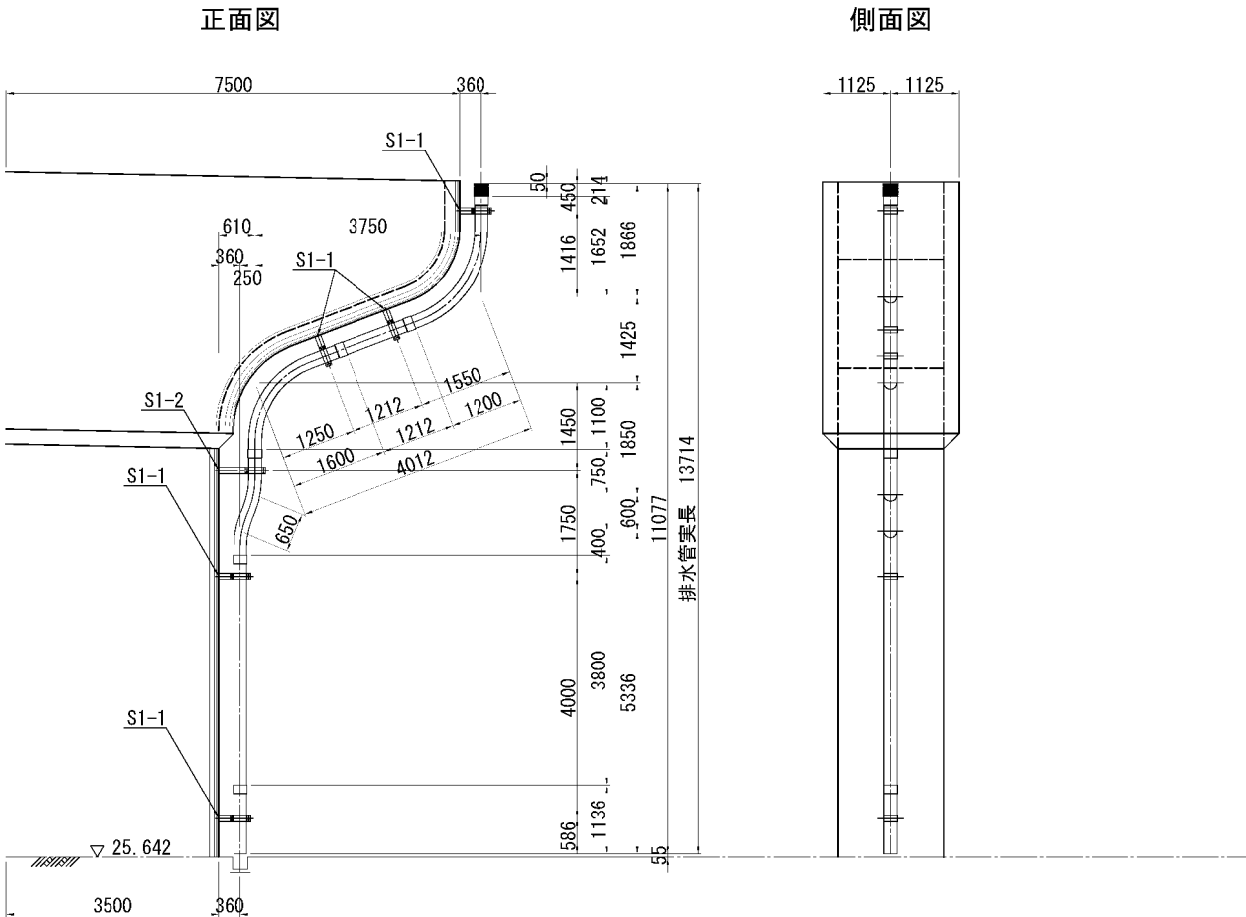
- 注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋲板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
炭素繊維巻立て補強

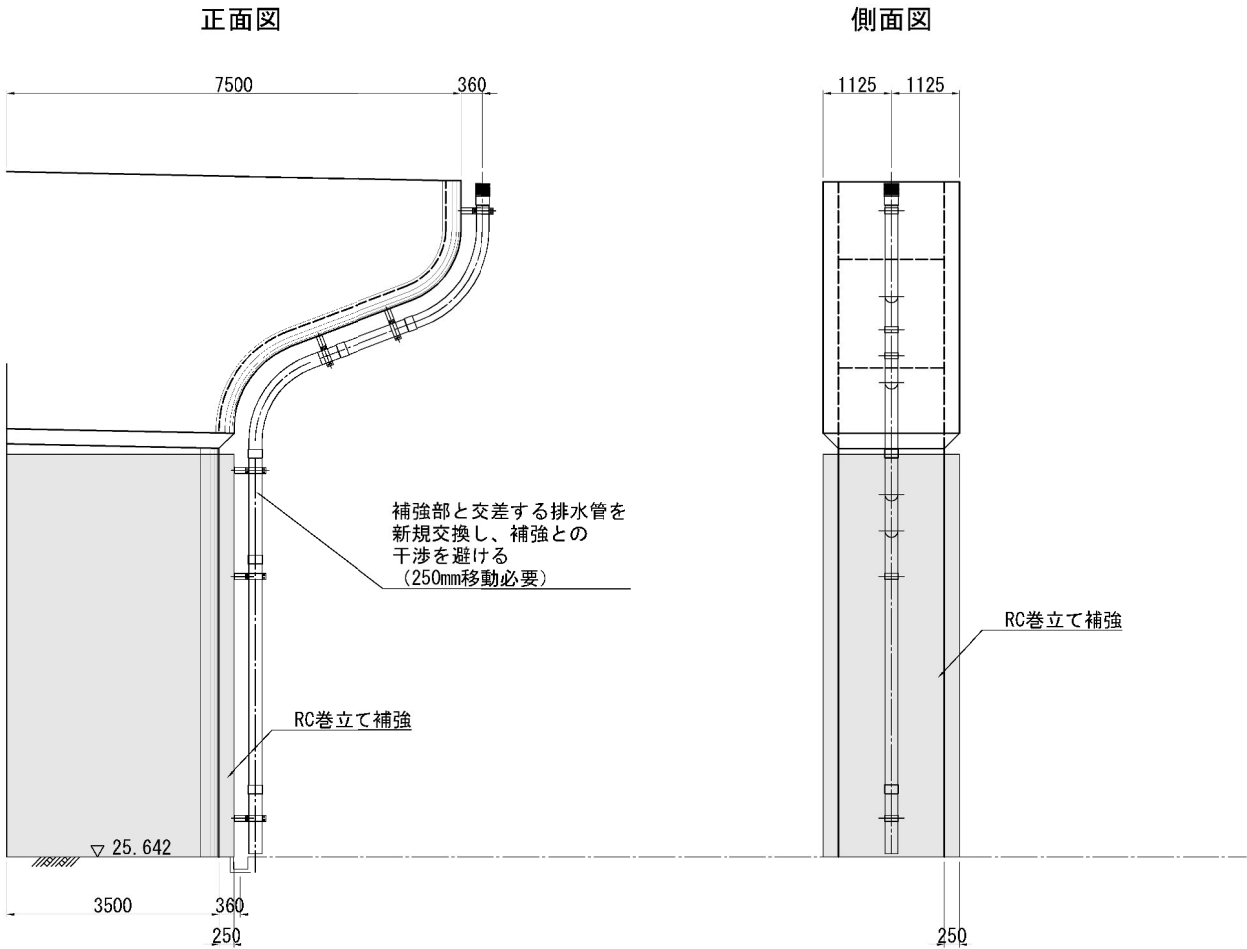
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その6)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P12橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



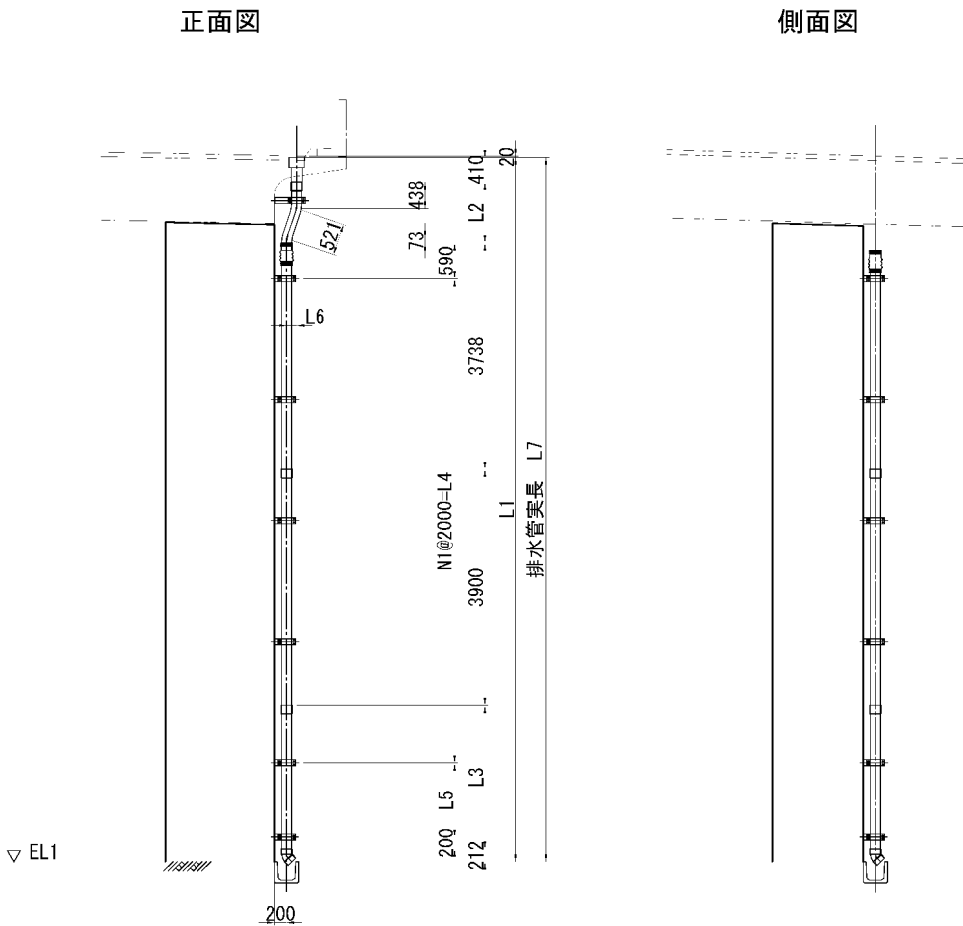
- 注)
- 1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。銅板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
□ : RC巻立て補強

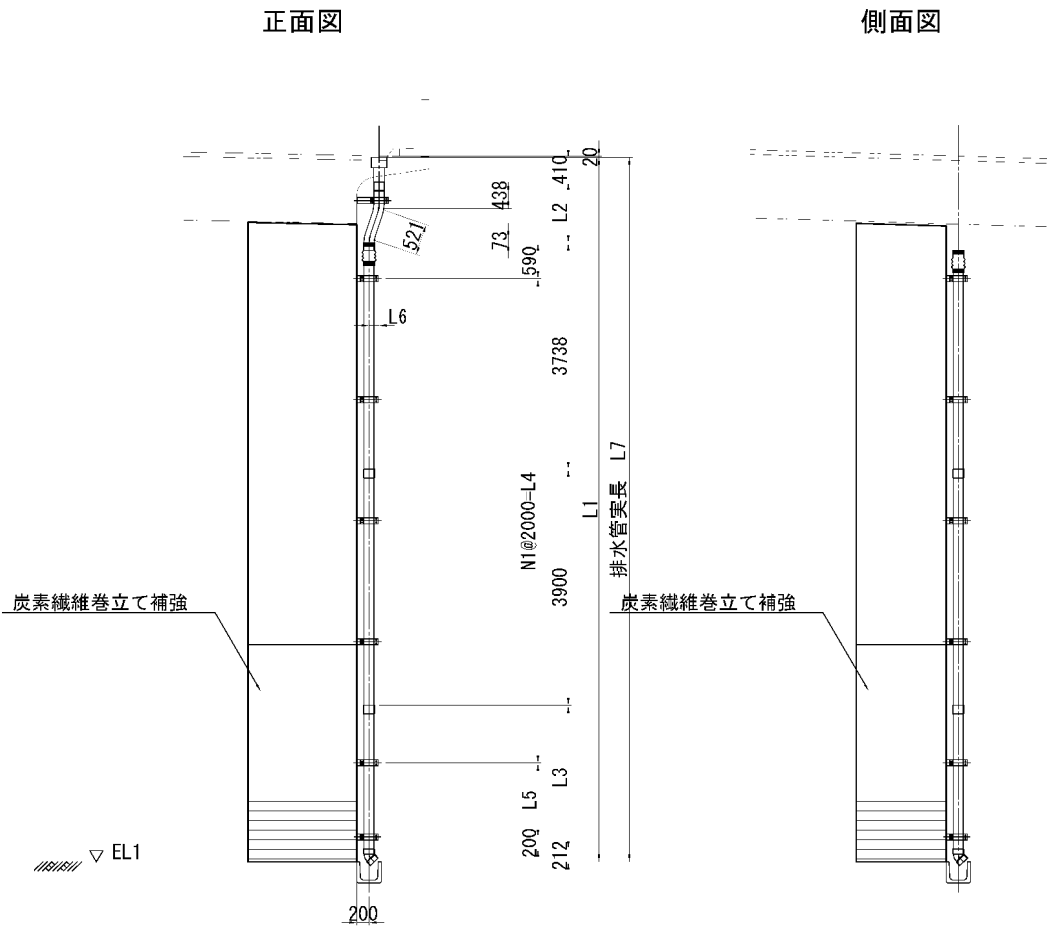
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 排水装置撤去・復旧計画図(その7)		
	縮尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P13・P14・P21・P22橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



寸法表

	EL1	L1	L2	L3	N1	L4	L5	L6	L7
P13	26.220	11646	1005	2381	4	8000	1229	165	11673
P14	26.400	10935	1005	1670	4	8000	518	165	10962
P21	25.870	10119	1465	394	3	6000	1242	675	9686
P22	24.860	11316	1565	1491	4	8000	339	764	10783

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鍍板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
炭素繊維巻立て補強

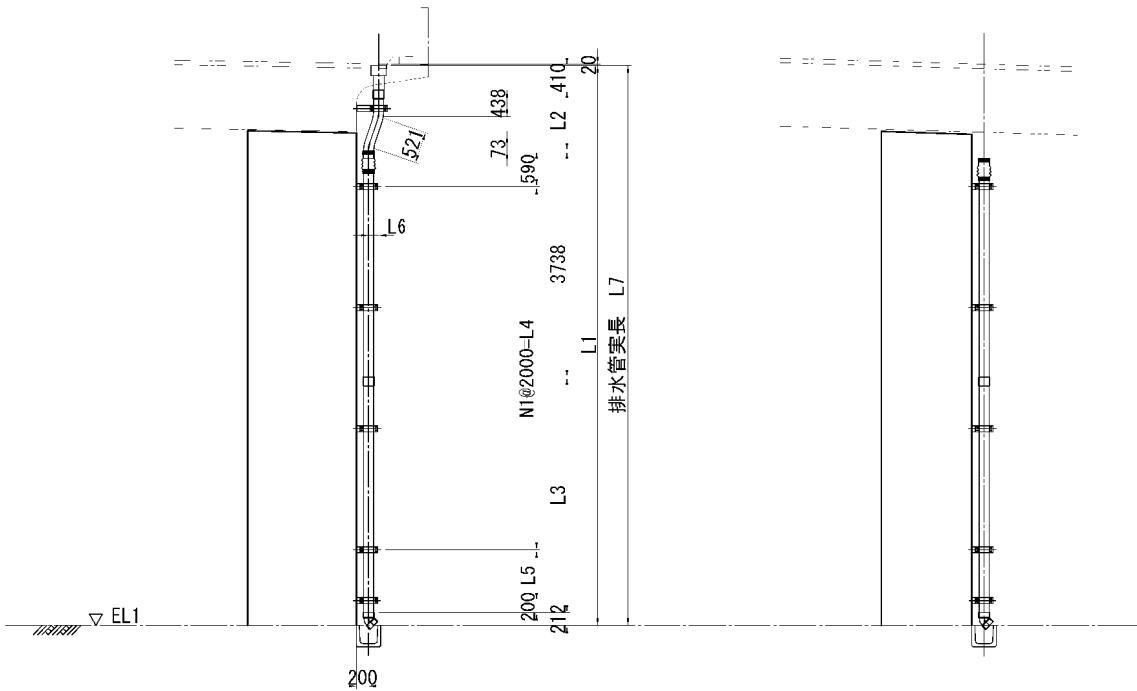
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 排水装置撤去・復旧計画図(その8)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P15・P17・P18・P20橋脚

既設排水装置撤去図

正面図

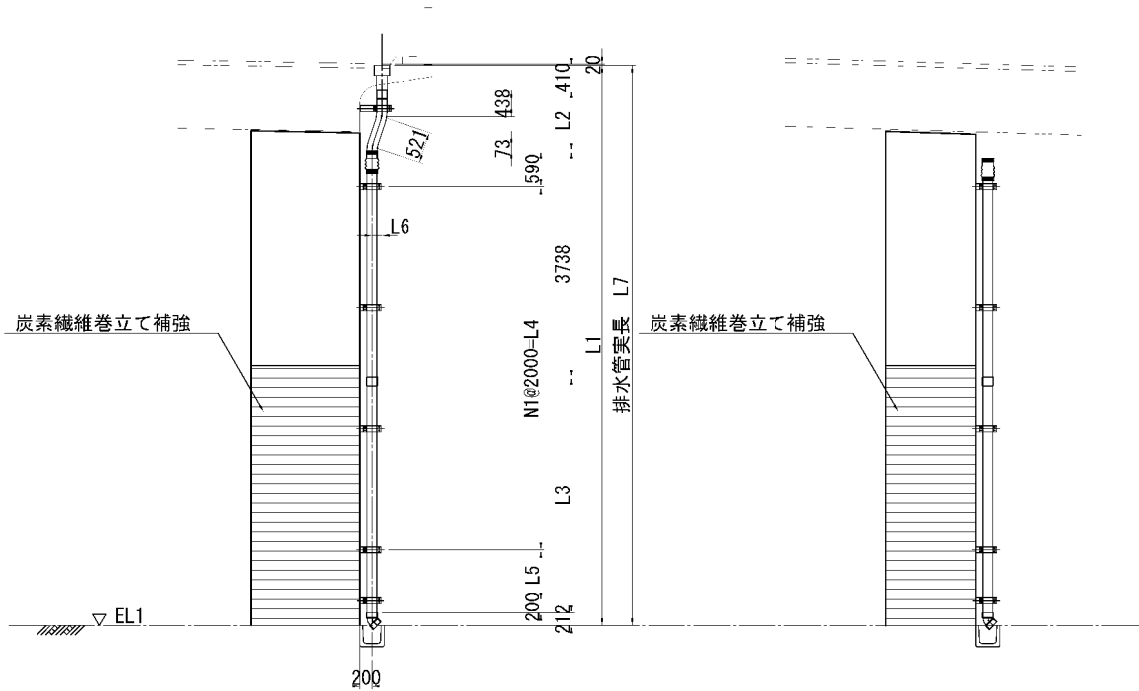
側面図



新設排水装置改良図

正面図

側面図



寸法表

	EL1	L1	L2	L3	N1	L4	L5	L6	L7
P15	27.550	9256	1005	3891	3	6000	839	165	9283
P17	27.550	8365	1065	2940	2	4000	1888	318	8332
P18	27.270	8413	1165	2888	2	4000	1836	407	8280
P20	26.680	9118	1365	3393	3	6000	341	586	8785

- 注)
- 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鉛板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

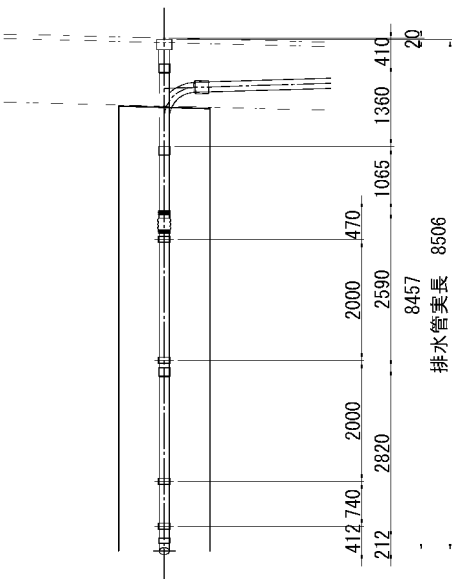
凡例
炭素繊維巻立て補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 排水装置撤去・復旧計画図(その9)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

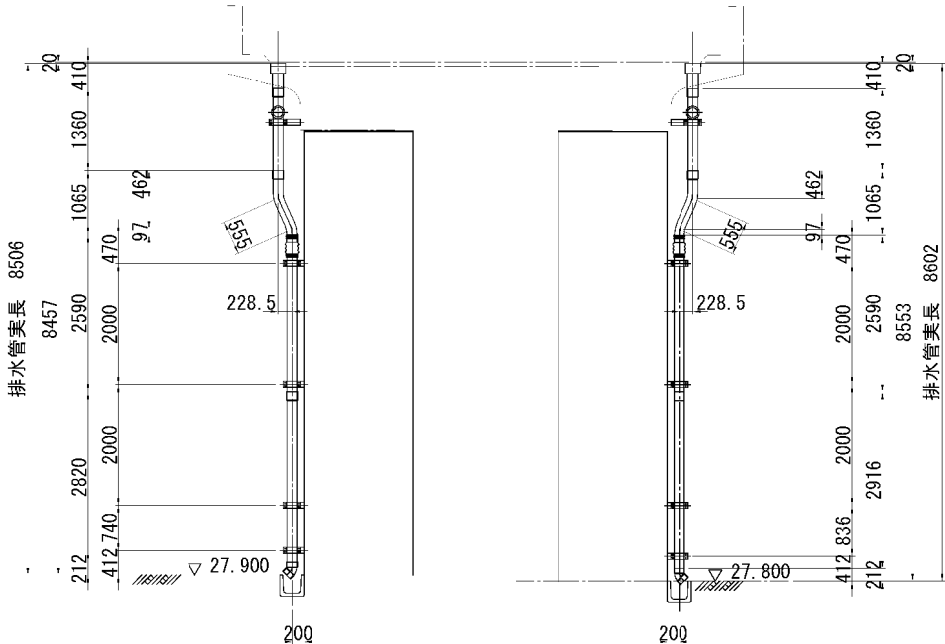
P16橋脚

既設排水装置撤去図

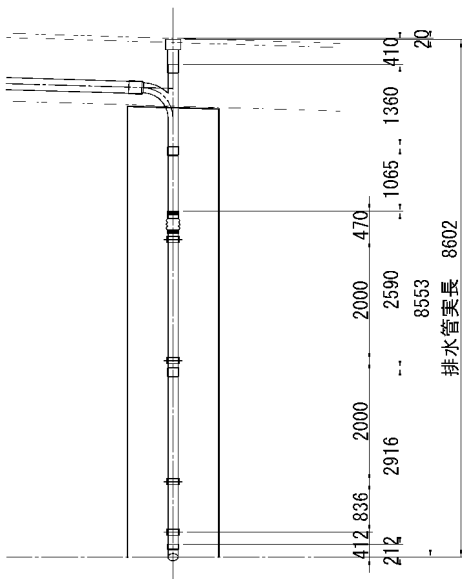
起点側側面図



正面図

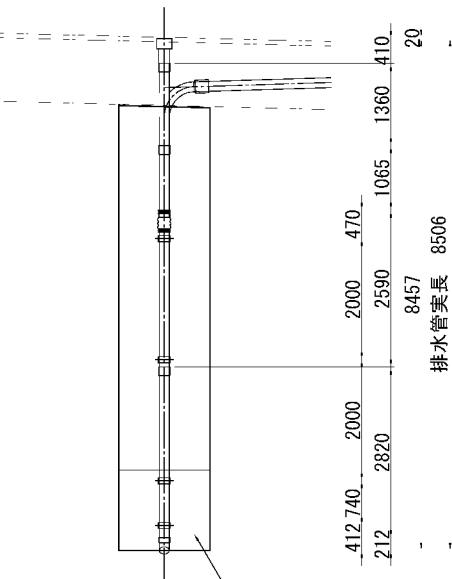


終点側側面図

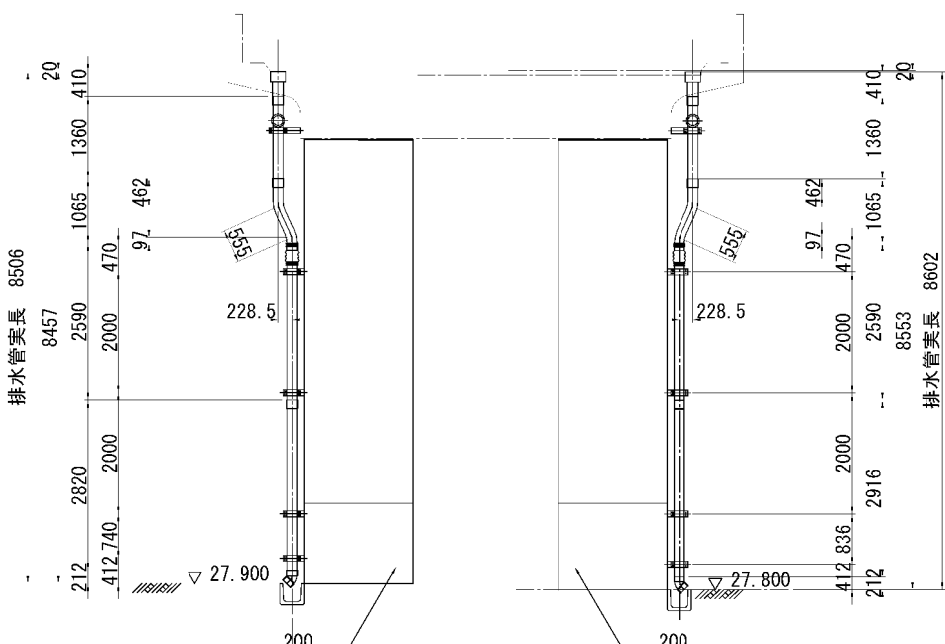


新設排水装置改良図

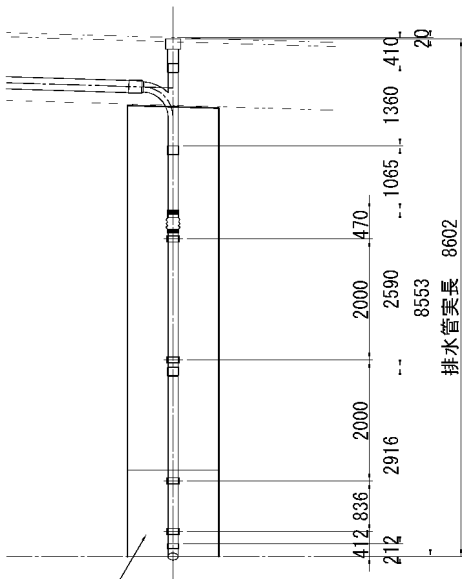
起点側側面図



正面図



終点側側面図



- 注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋲板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
□ : 炭素繊維巻立て補強

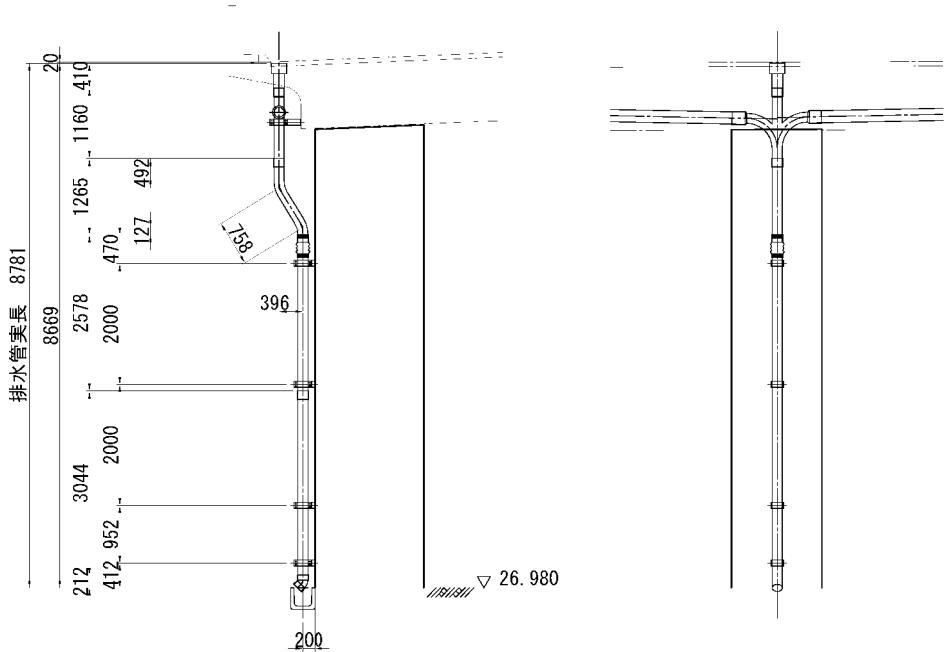
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 排水装置撤去・復旧計画図(その10)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P19橋脚

既設排水装置撤去図

正面図

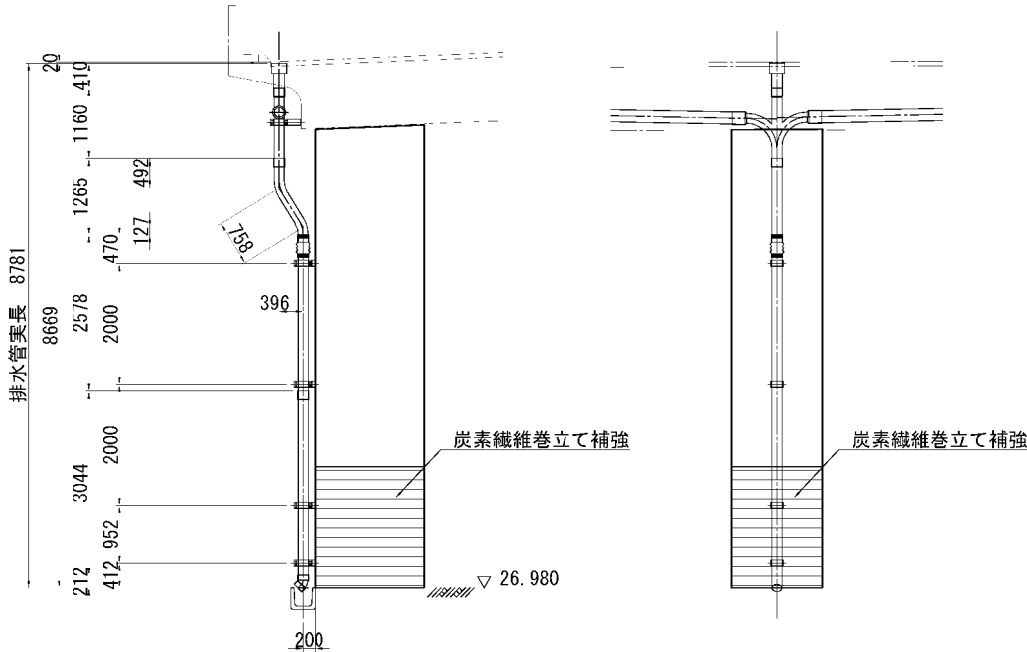
側面図



新設排水装置改良図

正面図

側面図



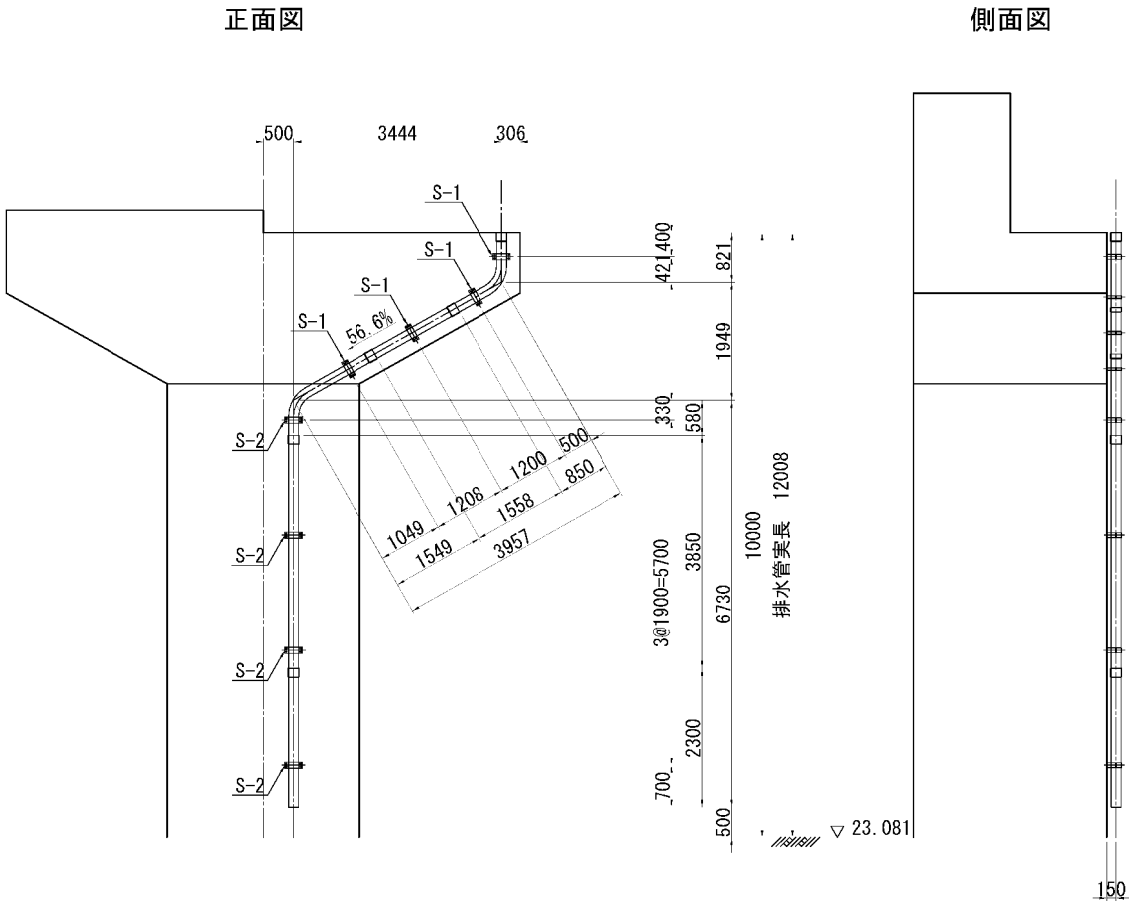
- 注)
- 1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋲板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
≡ : 炭素繊維巻立て補強

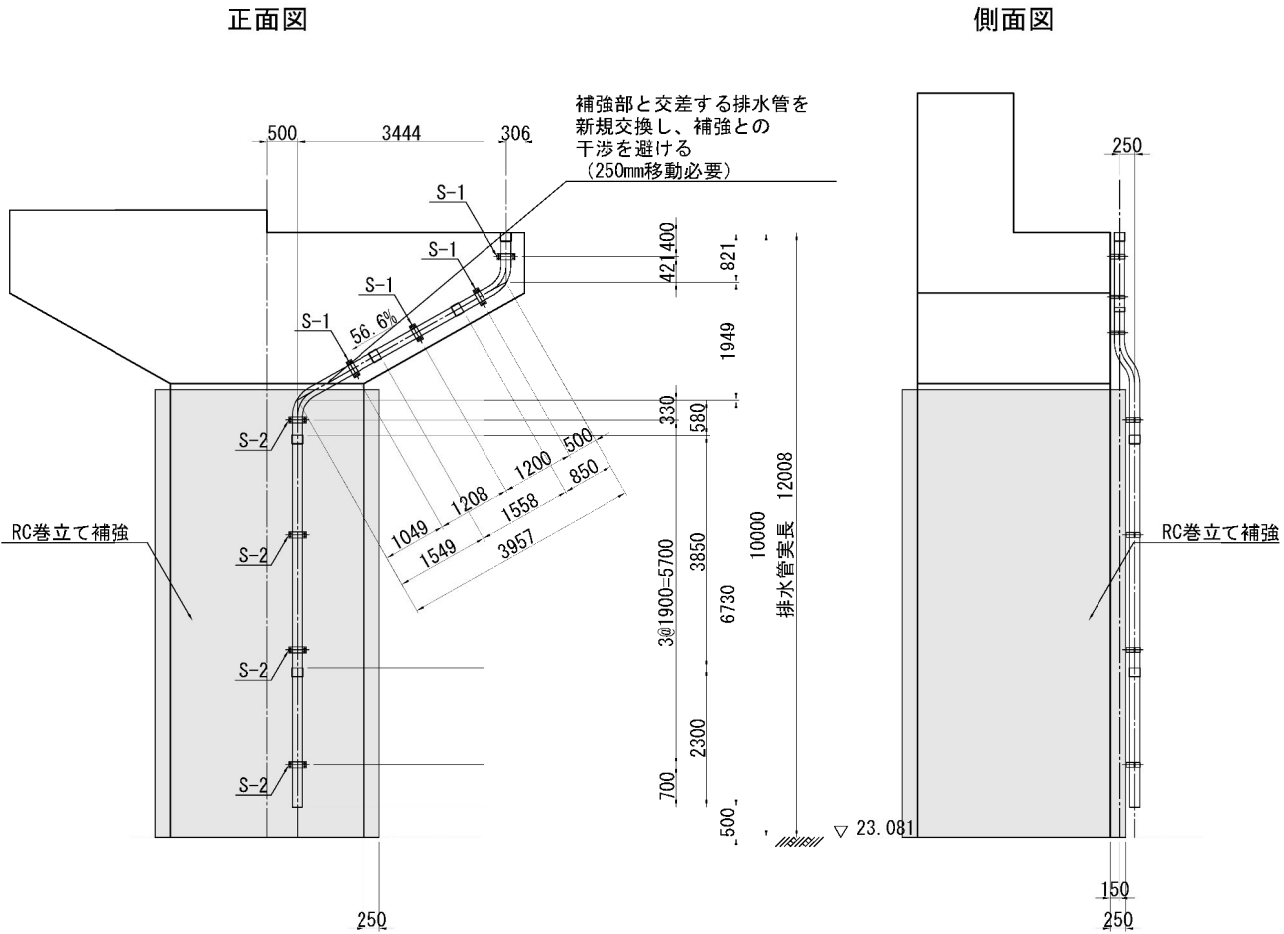
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その11)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P23橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



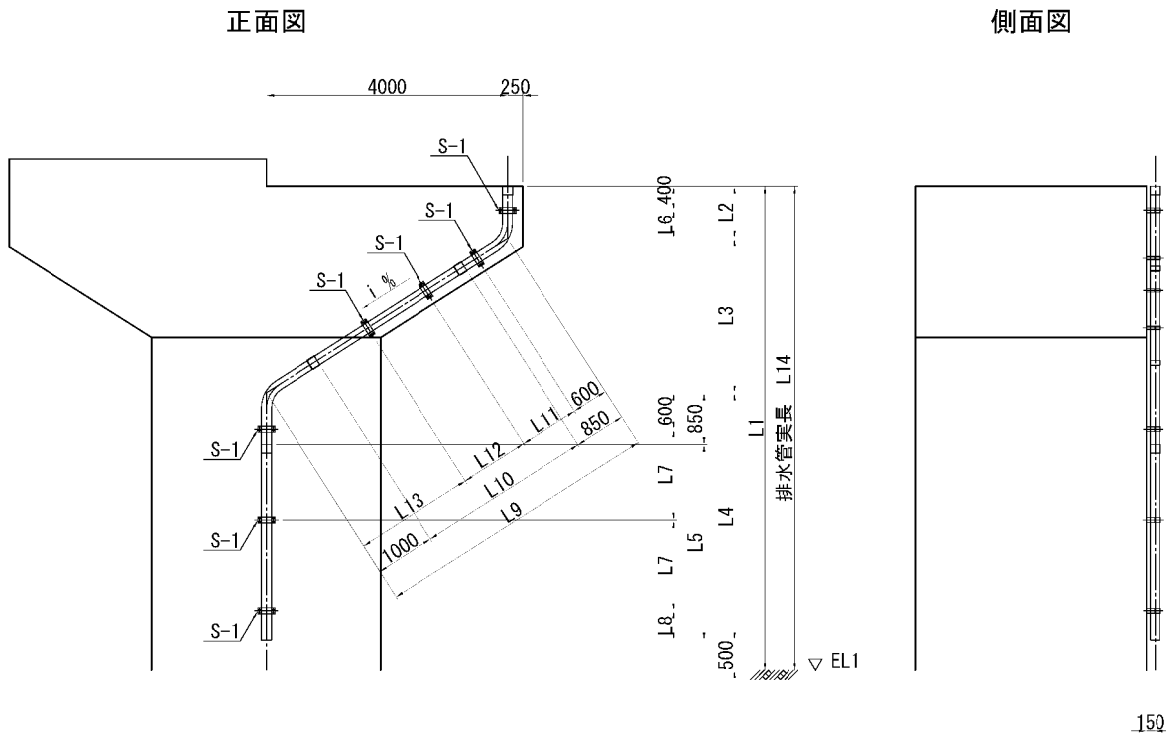
- 注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
□ : RC巻立て補強

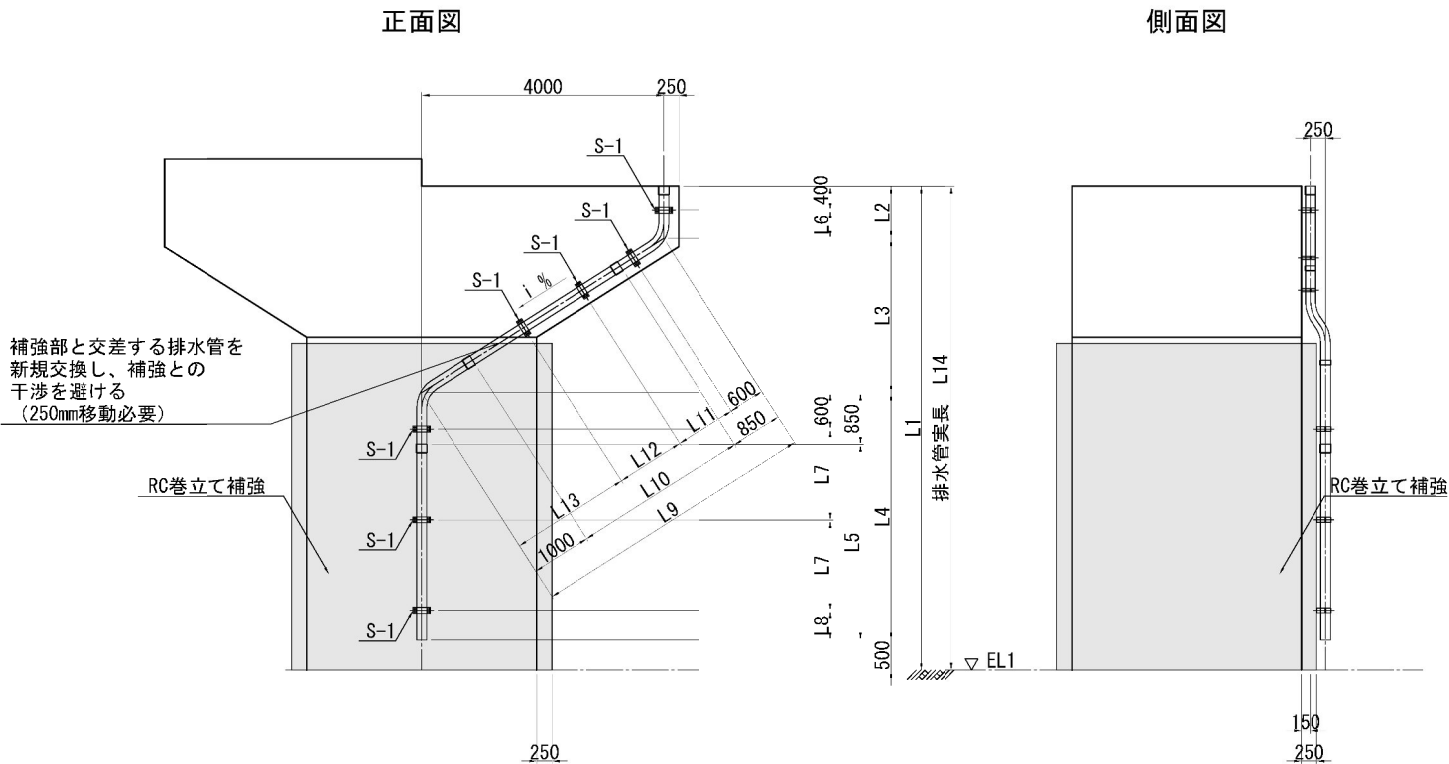
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その12)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P24橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



寸法表

	EL1	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11	L12	L13	i	L14
P24	25.816	8000	863	2553	4084	3234	463	1500	484	4745	2895	1000	1145	2000	63.8	10192

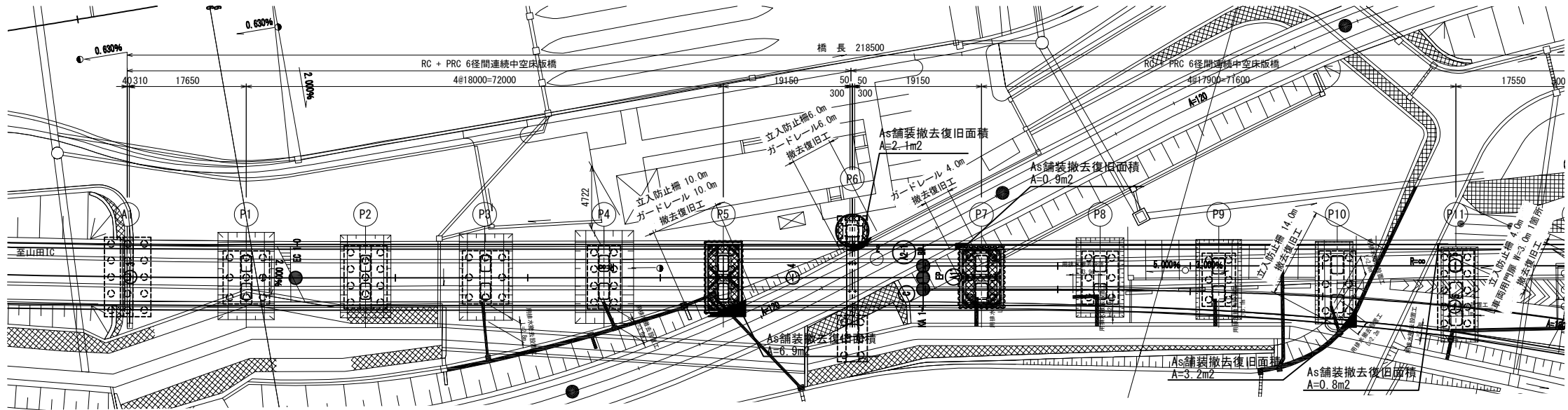
- 注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
RC巻立て補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その13)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

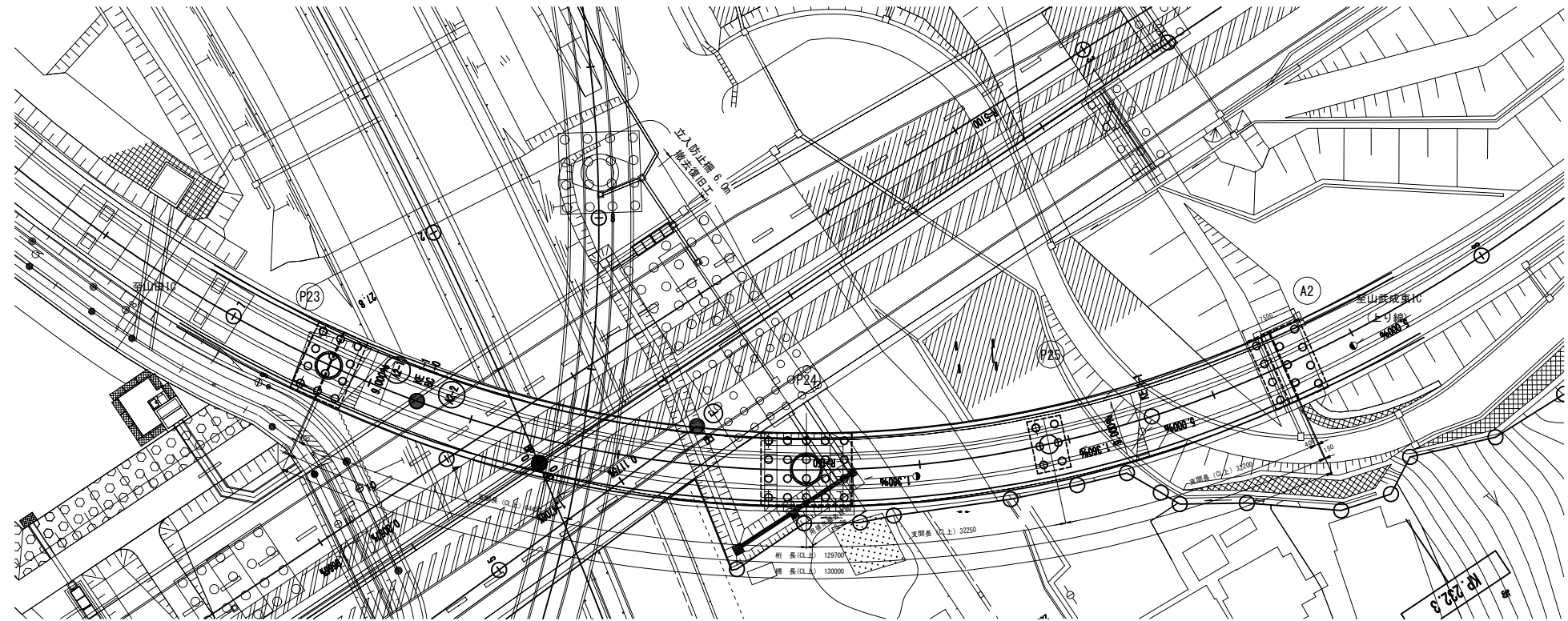
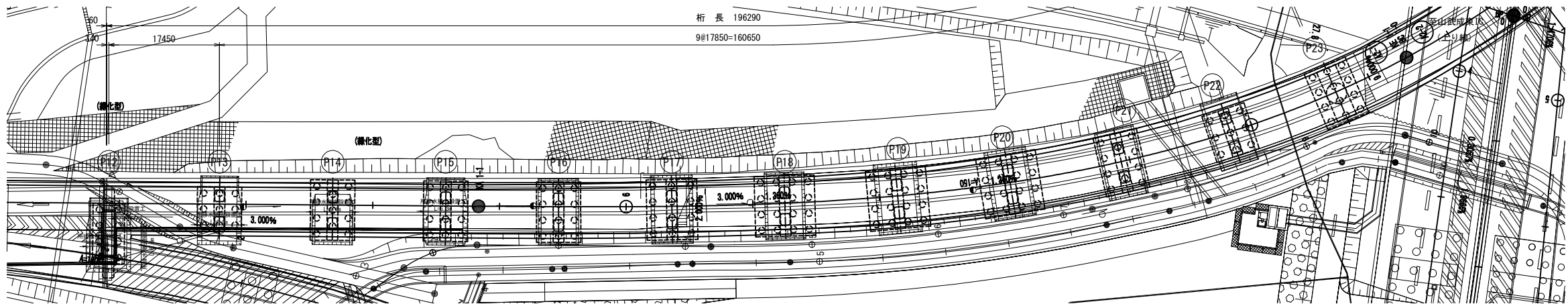
東金IC Aランプ橋 附帯工撤去・復旧図

平面図 S=1:800

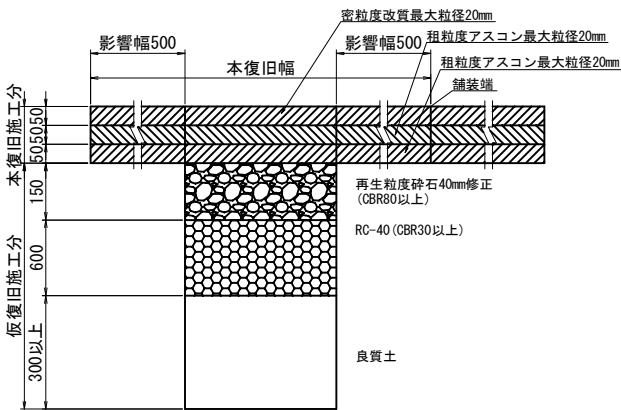


集計表

種別	規格	単位	全体	合計
立入防止柵	②2.0m	m	40.0	40.0
ガードレール		m	20.0	20.0
車両用門扉	W=3.0m	箇所	1	1
舗装撤去・復旧	P5橋脚	m2	6.9	13.9
	P6橋脚	m2	2.1	
	P7橋脚	m2	0.9	
	P10橋脚	m2	3.2	
	P11橋脚	m2	0.8	
用排水撤去設置工	0.30×0.30	m	69.8	69.8



舗装復旧構成標準図 S=1:20

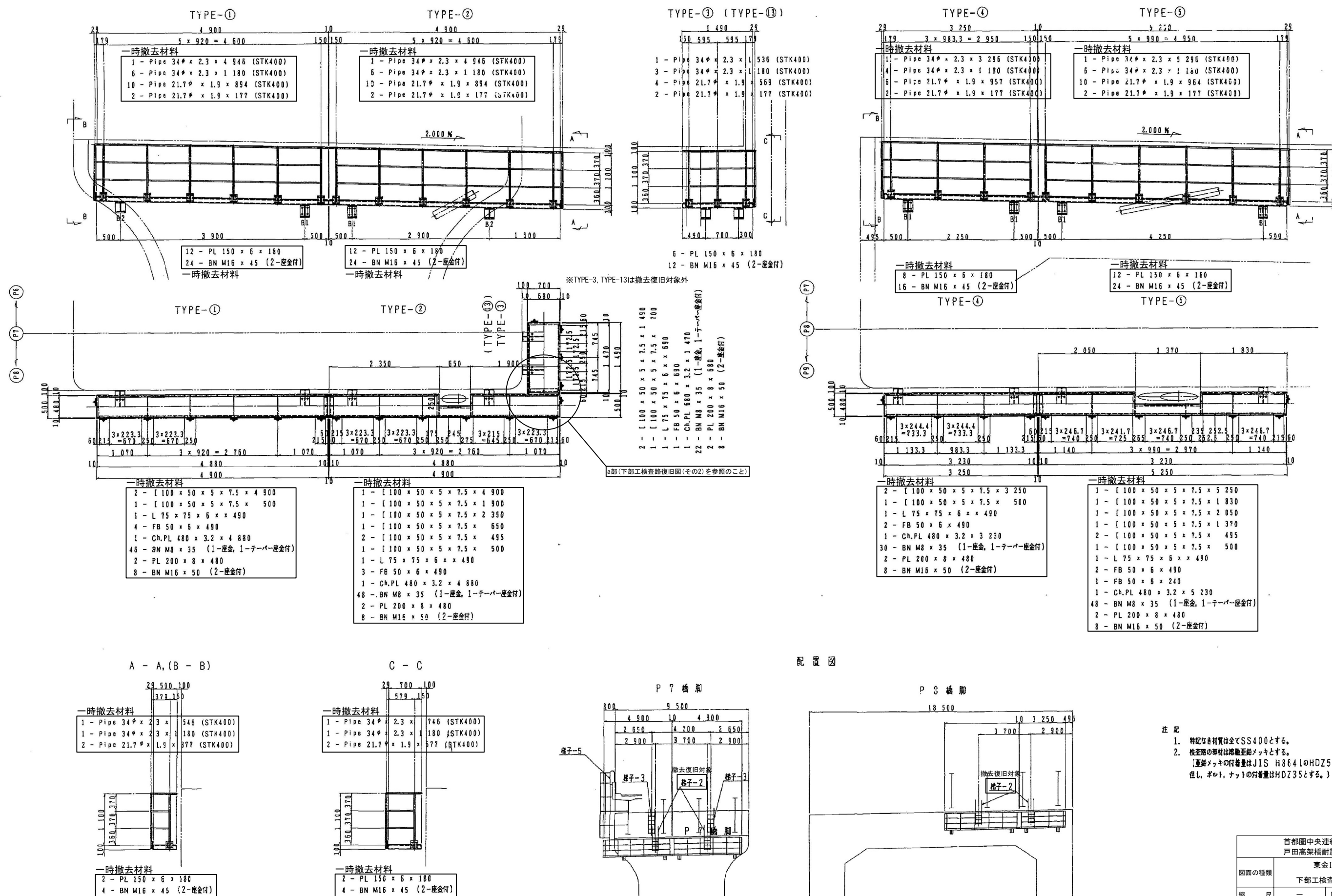


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 附帯工撤去・復旧図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

Technical drawing of a road layout, showing a bridge structure with multiple spans. The drawing includes a plan view of the bridge and surrounding roads, with labels for "市道5231号線" and "市道5028号線". It also shows a cross-section of the bridge deck with dimensions like 7000, 6500, 7000, 5000, 4500, 5500, 5000, 5500, and 5500. The drawing is dated 2024.2.

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC アランプ橋 試掘工平面図(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

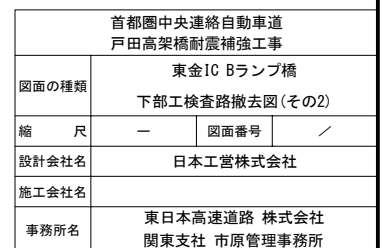
東金IC Bランプ橋 下部工検査路撤去図(その1)



注 記

1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 検査路の部材は溶融亜鉛メッキとする。
〔亜鉛メッキの付着量はJIS H 8641のHDZ55とする。
但し、ボルト、ナットの付着量はHDZ35とする。〕

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架耐震補強工事	
図面の種類	東金IC ブラン浦橋 下部工検査路撤去図(その1)
縮 尺	— 図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所

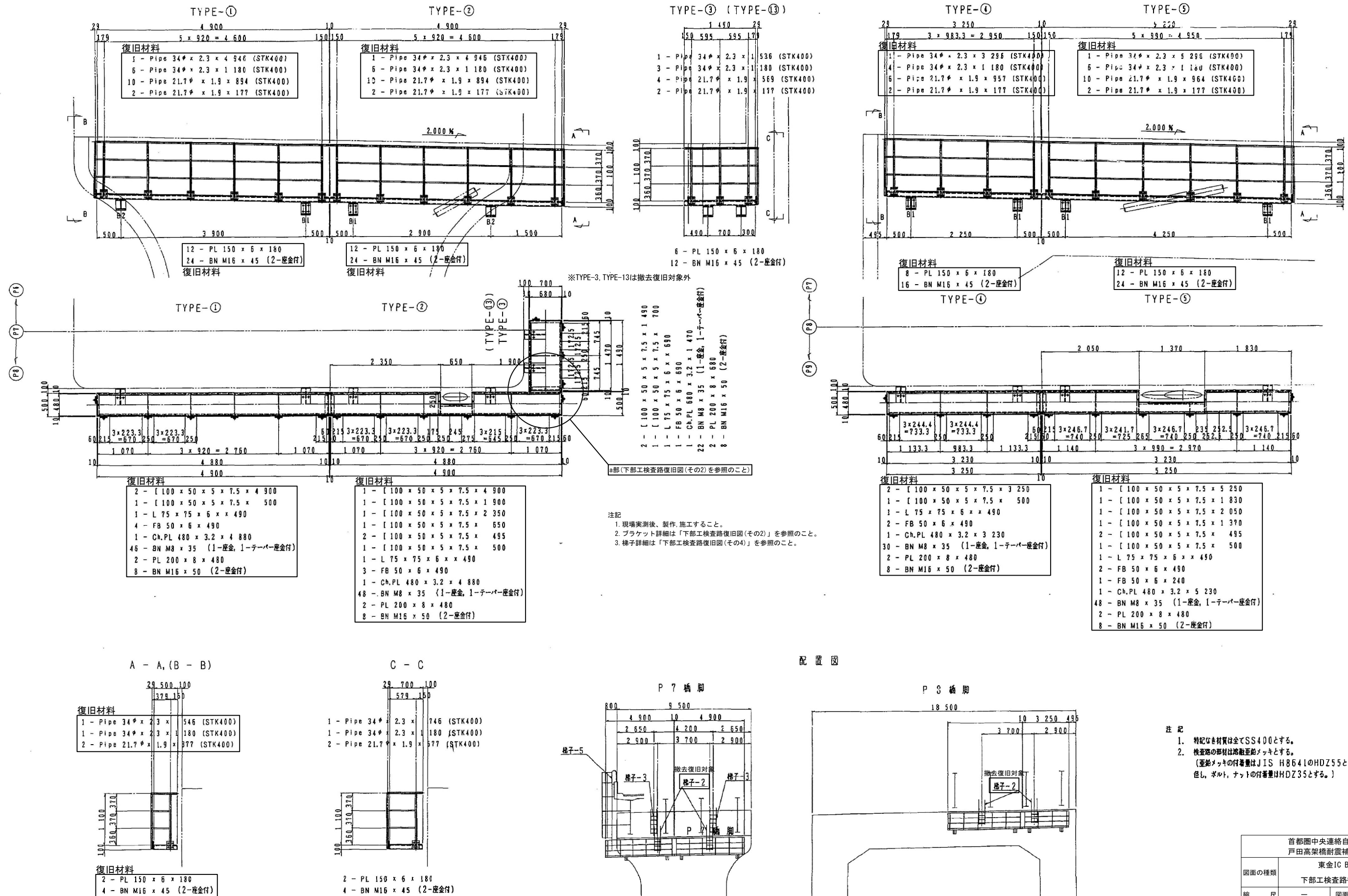


東金IC Bランプ橋 下部工検査路復旧図(その1)

P7橋脚

P7、P8橋脚

P8橋脚



注 記

1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 検査路の部材は溶融鋳造メッキとする。

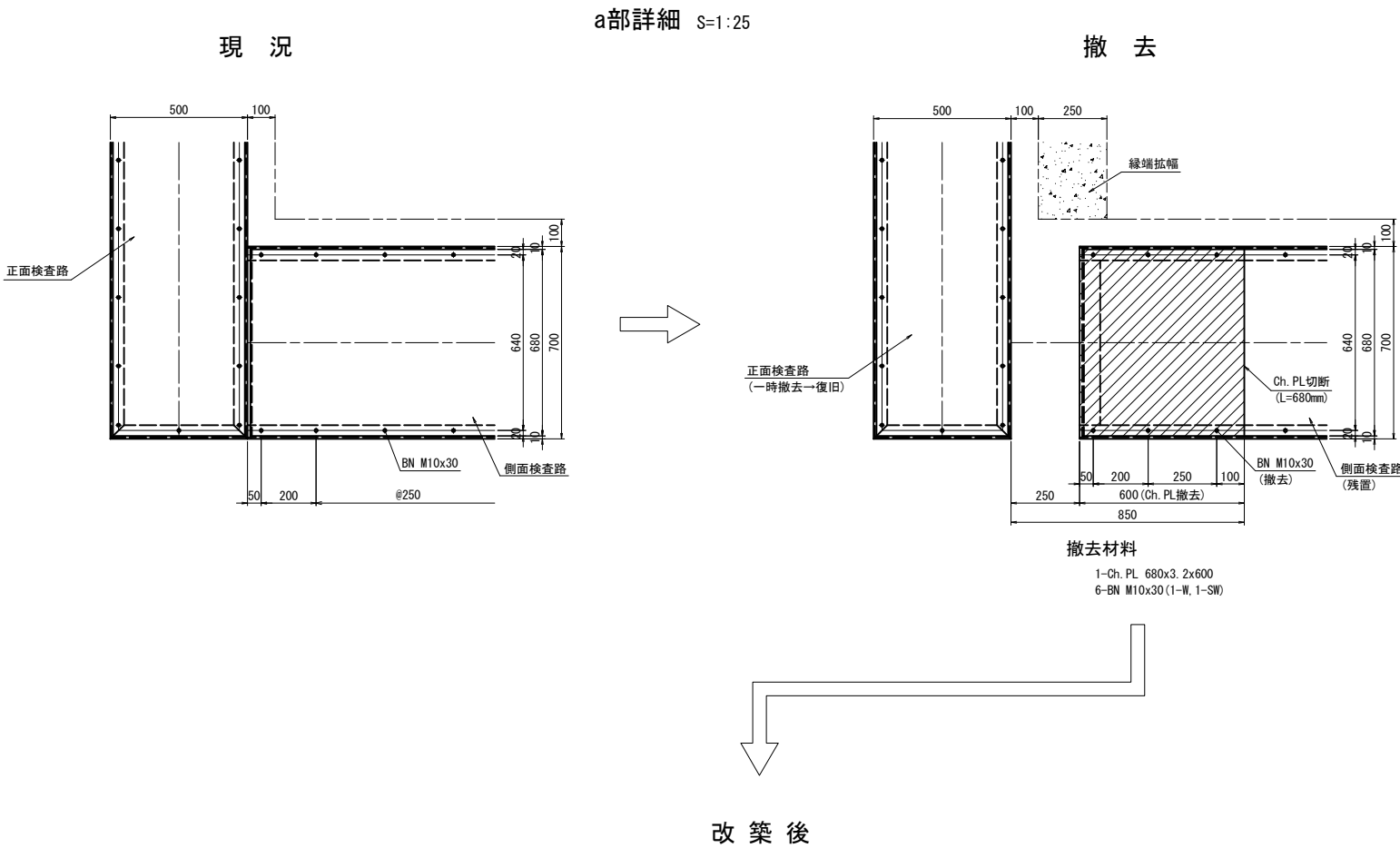
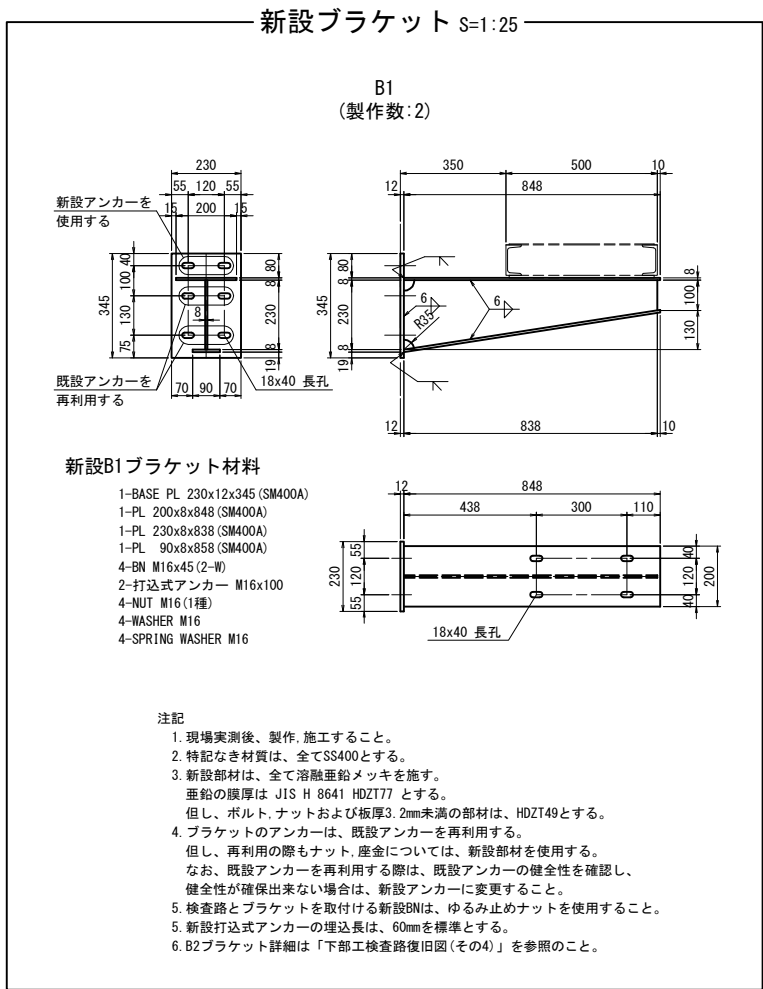
{ 亜鉛メッキの付着量はJIS H 8641のHDZ55とする。
但し、ボルト、ナットの付着量はHDZ35とする。 }

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		東金IC Bランプ橋 下部工検査路復旧図(その1)	
縮 尺	—	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

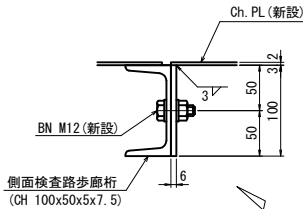
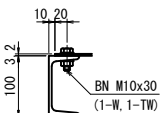
東金IC Bランプ橋 下部工検査路復旧図(その2)

P7橋脚

既設下部工検査路改築図

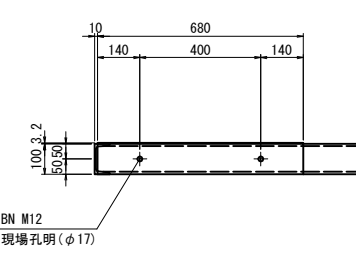
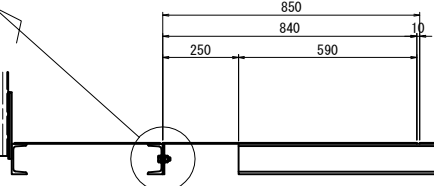


新設Ch. PL取付部詳細 S=1:12.5



A - A

B - B



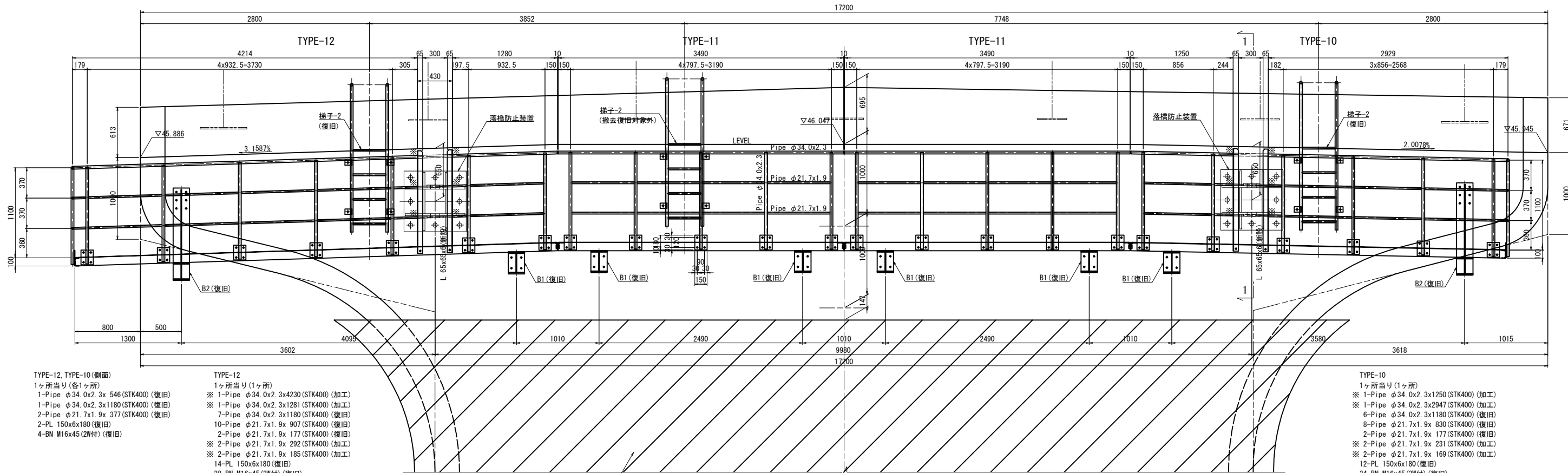
- 注記
1. 現場実測後、製作、施工すること。
 2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
 3. 新設部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT77 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材 (チェッカープレートを含む) は、HDZT49とする。
 4. ナットは、全てゆるみ止めナットを使用すること。
 5. 溶融亜鉛メッキを施した復旧部材の切断された面には、
高濃度亜鉛未塗料で補修する等の処置を施すこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Bランプ橋 下部工検査路復旧図(その2)		
縮 尺	—	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

東金IC Bランプ橋 下部工検査路復旧図(その3)

P11橋脚

正面図 S=1:50



TYPE-12, TYPE-10(側面)

- 1ヶ所当り(各1ヶ所)
1-Pipe φ34.0x2.3x 546 (STK400) (復旧)
1-Pipe φ34.0x2.3x1180 (STK400) (復旧)
2-Pipe φ21.7x1.9x 377 (STK400) (復旧)
2-PL 150x6x180 (復旧)
4-BN M16x45 (2W付) (復旧)

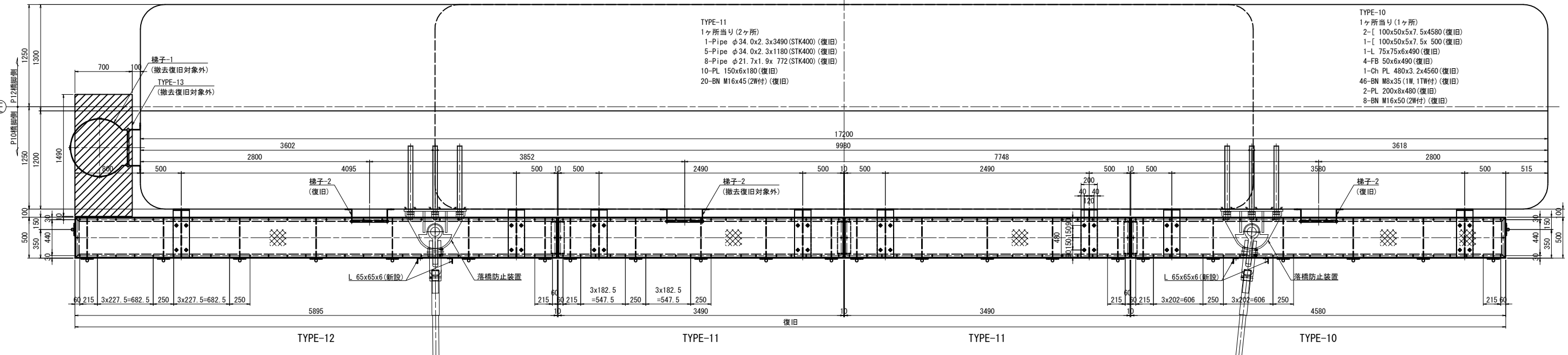
TYPE-12

- 1ヶ所当り(1ヶ所)
※ 1-Pipe φ34.0x2.3x4230 (STK400) (加工)
※ 1-Pipe φ34.0x2.3x1281 (STK400) (加工)
7-Pipe φ34.0x2.3x1180 (STK400) (復旧)
10-Pipe φ21.7x1.9x 907 (STK400) (復旧)
2-Pipe φ21.7x1.9x 177 (STK400) (復旧)
※ 2-Pipe φ21.7x1.9x 292 (STK400) (加工)
※ 2-Pipe φ21.7x1.9x 185 (STK400) (加工)
14-PL 150x6x180 (復旧)
28-BN M16x45 (2W付) (復旧)
2-L 65x65x6x1255 (新設)
2-BN M16x40 (2W付) (新設)
※印はガス切断を行う。

TYPE-10

- 1ヶ所当り(1ヶ所)
※ 1-Pipe φ34.0x2.3x1250 (STK400) (加工)
※ 1-Pipe φ34.0x2.3x2947 (STK400) (加工)
6-Pipe φ34.0x2.3x1180 (STK400) (復旧)
8-Pipe φ21.7x1.9x 830 (STK400) (復旧)
2-Pipe φ21.7x1.9x 177 (STK400) (復旧)
※ 2-Pipe φ21.7x1.9x 231 (STK400) (加工)
※ 2-Pipe φ21.7x1.9x 169 (STK400) (加工)
12-PL 150x6x180 (復旧)
24-BN M16x45 (2W付) (復旧)
2-L 65x65x6x1255 (新設)
2-BN M16x40 (2W付) (新設)
※印はガス切断を行う。

平面図 S=1:50



TYPE-11

- 1ヶ所当り(2ヶ所)
1-Pipe φ34.0x2.3x3490 (STK400) (復旧)
5-Pipe φ34.0x2.3x1180 (STK400) (復旧)
8-Pipe φ21.7x1.9x 772 (STK400) (復旧)
10-PL 150x6x180 (復旧)
20-BN M16x45 (2W付) (復旧)

TYPE-10

- 1ヶ所当り(1ヶ所)
2-L 100x50x5x7.5x4580 (復旧)
1-L 100x50x5x7.5x 500 (復旧)
1-L 75x75x6x490 (復旧)
4-FB 50x6x490 (復旧)
1-Ch PL 480x3.2x4560 (復旧)
46-BN M8x35 (1W, 1TW付) (復旧)
2-PL 200x8x480 (復旧)
8-BN M16x50 (2W付) (復旧)

TYPE-12

- 1ヶ所当り(1ヶ所)
2-L 100x50x5x7.5x5895 (復旧)
1-L 100x50x5x7.5x 500 (復旧)
1-L 75x75x6x490 (復旧)
5-FB 50x6x490 (復旧)
1-Ch PL 480x3.2x5875 (復旧)
54-BN M8x35 (1W, 1TW付) (復旧)
2-PL 200x8x480 (復旧)
8-BN M16x50 (2W付) (復旧)

TYPE-11

- 1ヶ所当り(2ヶ所)
2-L 100x50x5x7.5x3490 (復旧)
2-L 75x75x6x490 (復旧)
3-FB 50x6x490 (復旧)
1-Ch PL 480x3.2x3470 (復旧)
38-BN M8x35 (1W, 1TW付) (復旧)
2-PL 200x8x480 (復旧)
8-BN M16x50 (2W付) (復旧)

注記

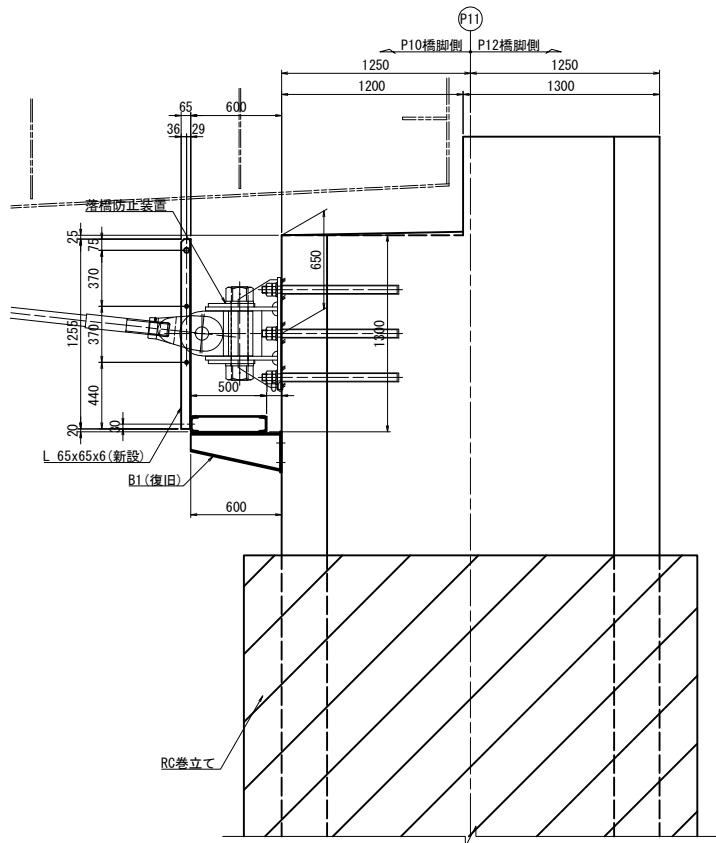
- 現場実測後、製作、施工すること。
- 特記なき材質は、全てSS400とする。
- 新設部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は、JIS H 8641 HDZ177 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、
HDZ149 とする。
- 溶融亜鉛メッキを施した復旧部材の切断された面には、
高濃度亜鉛末塗料で補修する等の処置を施すこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Bランプ橋		
	下部工検査路復旧図(その3)		
縮 尺	—	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

東金IC Bランプ橋 下部工検査路復旧図(その4)

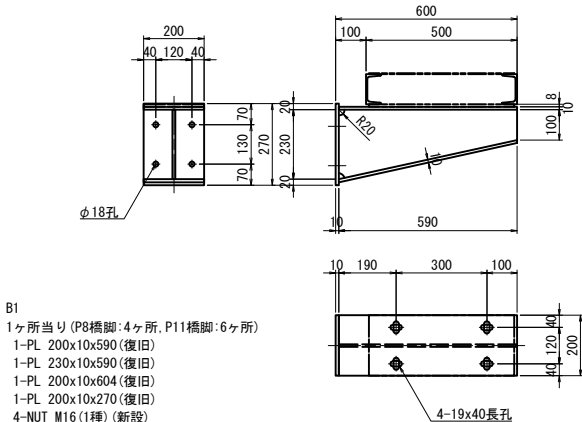
P7、P8、P11橋脚

側面図(1-1) S=1:50



ブラケット詳細図 S=1:25

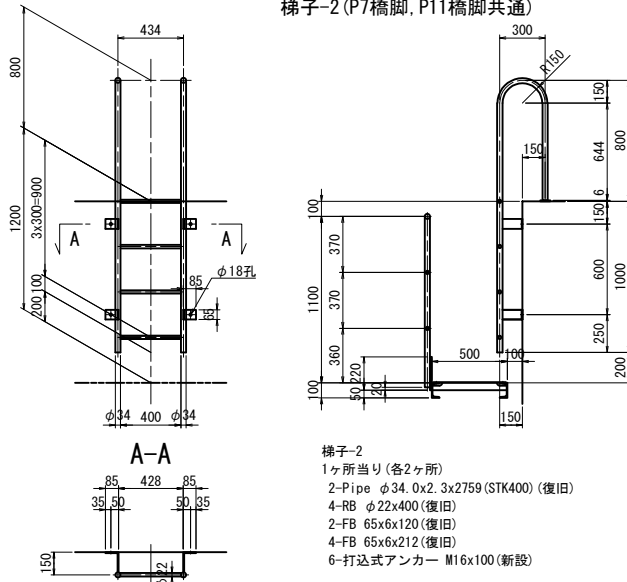
B1 (P8橋脚, P11橋脚共通)



B1
1ヶ所当り (P8橋脚:4ヶ所, P11橋脚:6ヶ所)
1-PL 200x10x590 (復旧)
1-PL 230x10x590 (復旧)
1-PL 200x10x604 (復旧)
1-PL 200x10x270 (復旧)
4-NUT M16 (1種) (新設)
4-WASHER M16 (新設)
4-SPRING WASHER M16 (新設)
※アンカー本体は再利用する。

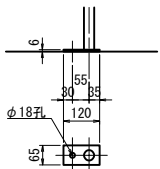
梯子詳細図 S=1:50

梯子-2 (P7橋脚, P11橋脚共通)

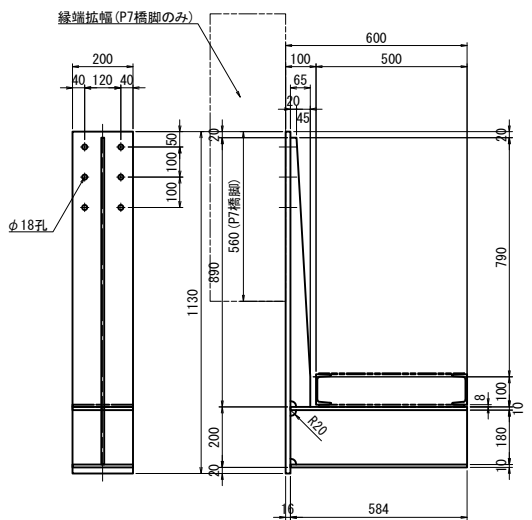


梯子-2
1ヶ所当り (各2ヶ所)
2-Pipe $\phi 34.0 \times 2.3 \times 2759$ (STK400) (復旧)
4-RB $\phi 22 \times 400$ (復旧)
2-FB $65 \times 6 \times 120$ (復旧)
4-FB $65 \times 6 \times 212$ (復旧)
6-打込式アンカー M16x100 (新設)

a部詳細図 S=1:25



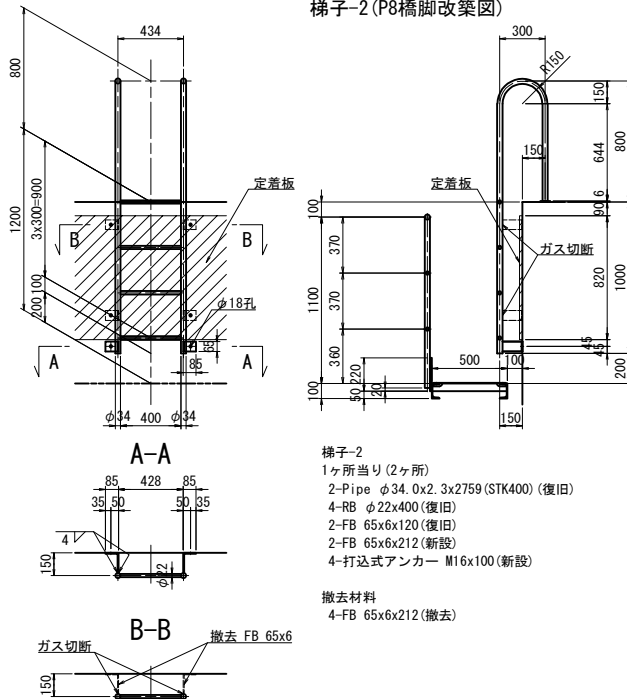
B2 (P7橋脚, P11橋脚共通)



B2 (P7橋脚)
1ヶ所当り (2ヶ所)
2-PL 200x10x584 (復旧)
1-PL 180x10x584 (復旧)
1-PL 200x16x1130 (復旧)
1-PL 65x10x890 (復旧)
6-打込式アンカー M16x100 (新設)

B2 (P11橋脚)
1ヶ所当り (2ヶ所)
2-PL 200x10x584 (復旧)
1-PL 180x10x584 (復旧)
1-PL 200x16x1130 (復旧)
1-PL 65x10x890 (復旧)
6-NUT M16 (1種) (新設)
6-WASHER M16 (新設)
6-SPRING WASHER M16 (新設)
※アンカー本体は再利用する。

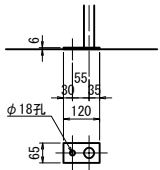
梯子-2 (P8橋脚改築図)



梯子-2
1ヶ所当り (2ヶ所)
2-Pipe $\phi 34.0 \times 2.3 \times 2759$ (STK400) (復旧)
4-RB $\phi 22 \times 400$ (復旧)
2-FB $65 \times 6 \times 120$ (復旧)
2-FB $65 \times 6 \times 212$ (新設)
4-打込式アンカー M16x100 (新設)

撤去材料
4-FB $65 \times 6 \times 212$ (撤去)

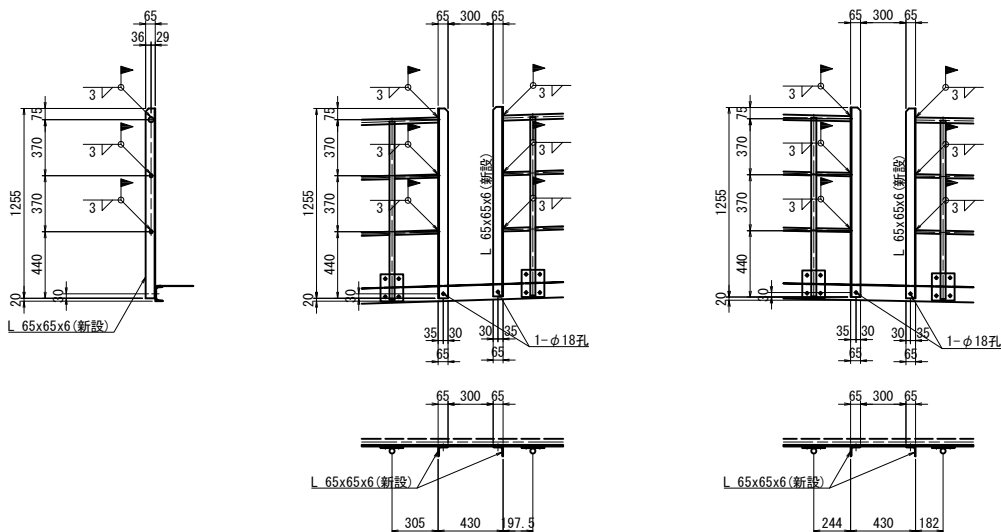
a部詳細図 S=1:25



加工詳細図 S=1:50

TYPE-12

TYPE-10



注記
1. 現場実測後、製作、施工すること。
2. 特記なき材質は、全てSS400とする。
3. 新設部材は、全て溶融亜鉛メッキを施す。
亜鉛の膜厚は JIS H 8641 HDZT77 とする。
但し、ボルト、ナットおよび板厚3.2mm未満の部材は、HDZT49とする。
4. 溶融亜鉛メッキを施した復旧部材の切断された面には、
高濃度亜鉛未塗料で補修する等の処置を施すこと。
5. P7橋脚の一部を除き、ブラケットのアンカーは、既設アンカーを再利用する。
但し、再利用の際もナット、座金については、新設部材を使用する。
なお、既設アンカーを再利用する際は、既設アンカーの健全性を確認し、
健全性が確保出来ない場合は、新設アンカーに変更すること。
6. 新設打込式アンカーの埋込長は、60mmを標準とする。

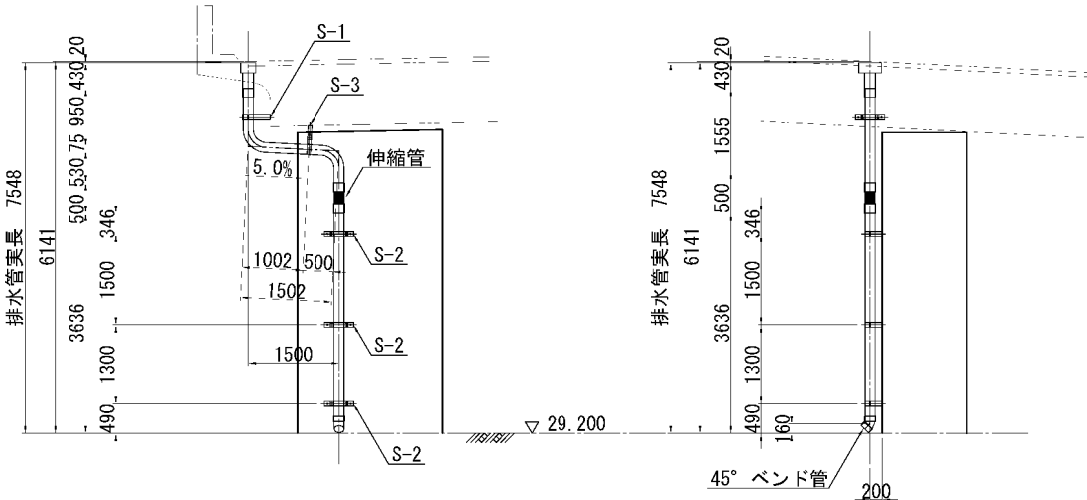
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Bランプ橋 下部工検査路復旧図(その4)		
	縮尺	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

P1橋脚

既設排水装置撤去図

正面図

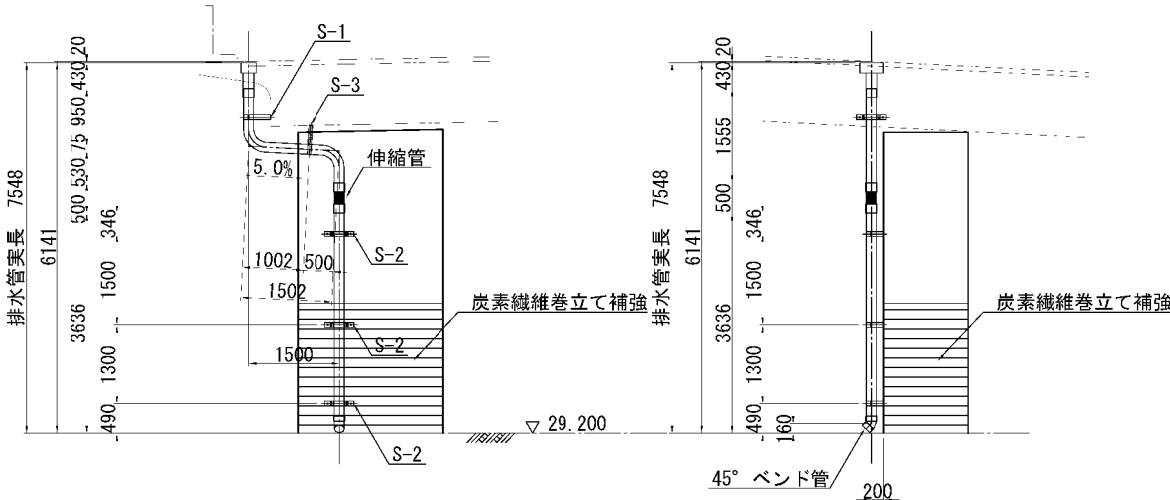
側面図



新設排水装置改良図

正面図

側面図



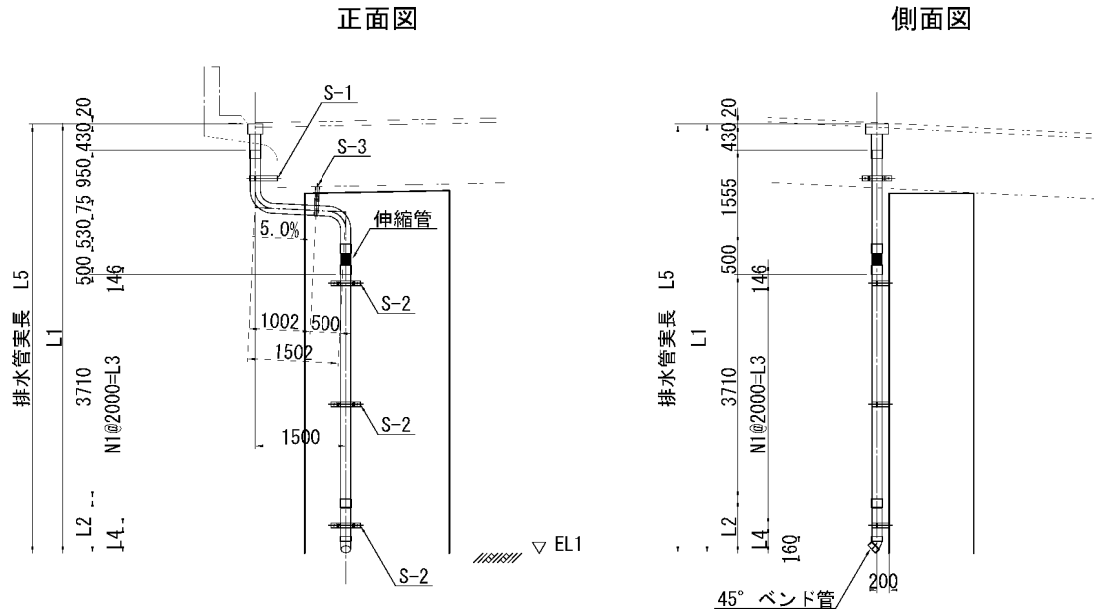
- 注)
- 1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 - 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 - 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 - 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
炭素繊維巻立て補強

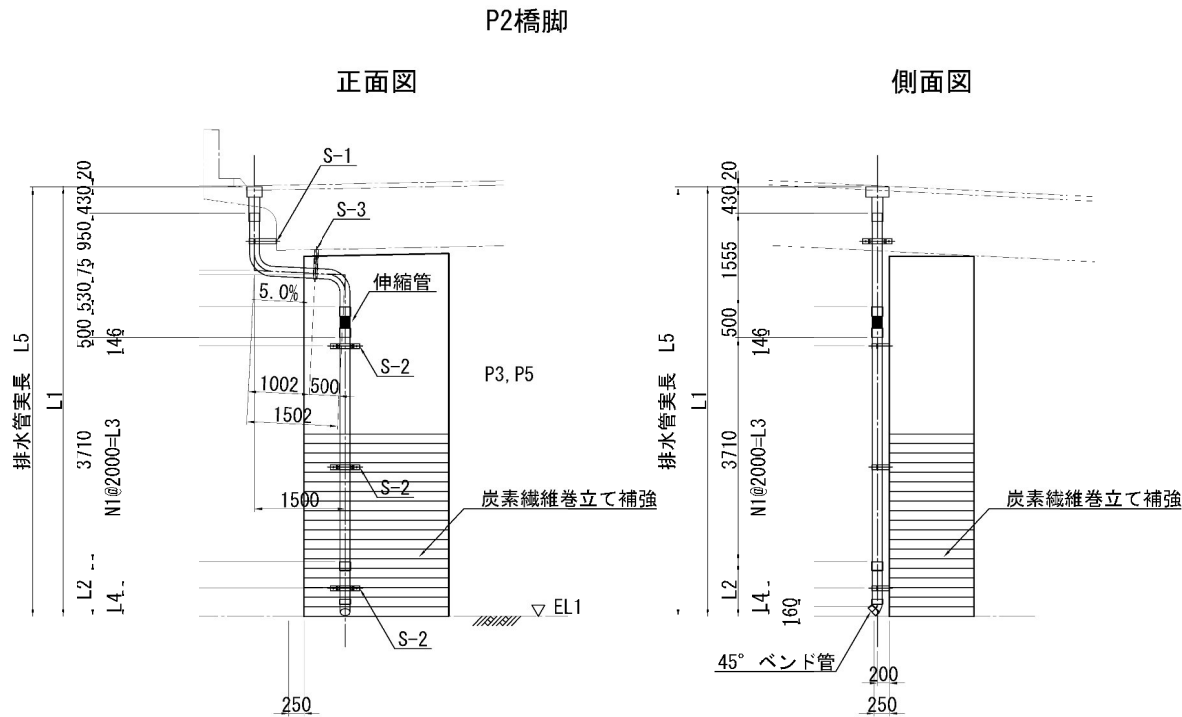
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Bランプ橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P2・P3・P5橋脚

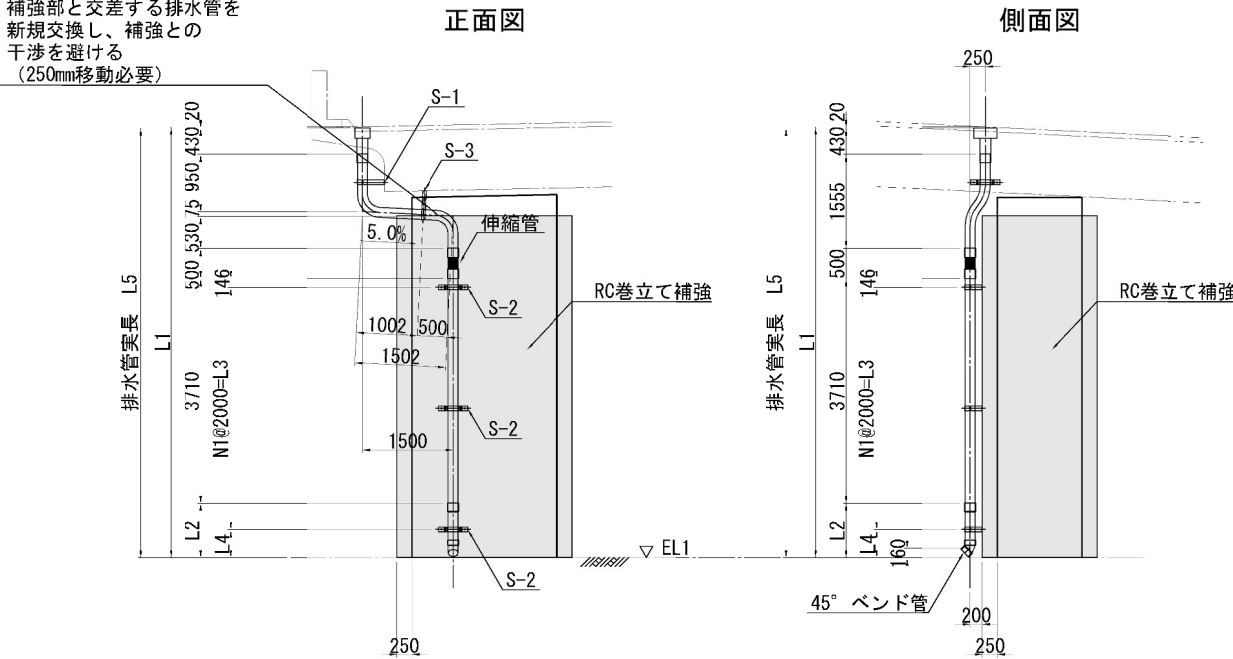
既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



補強部と交差する排水管を
新規交換し、補強との
干渉を避ける
(250mm移動必要)



寸法表

	EL1	L1	L2	N1	L3	L4	L5
P2	29.100	7116	901	2	4000	465	8523
P3	29.400	7691	1476	2	4000	1040	9098
P5	29.600	9241	3026	3	6000	590	10648

凡例

- RC巻立て補強
- 炭素繊維巻立て補強

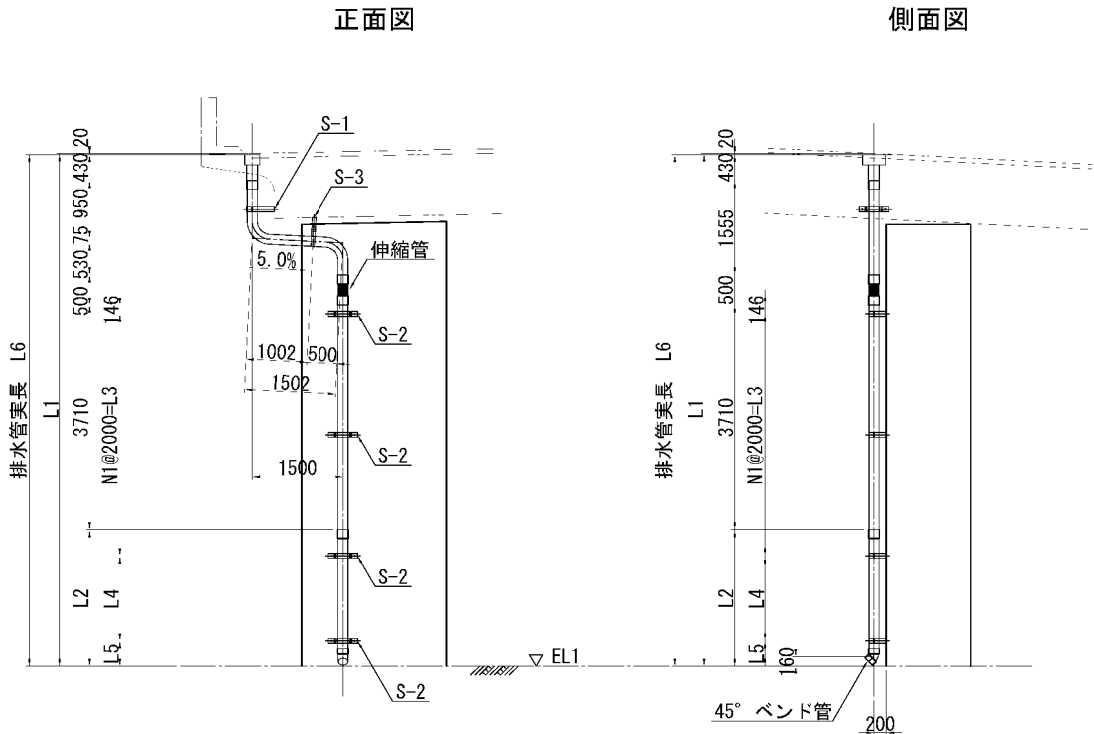
注)

- 特記なき材質は全てSS400とする。
- 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。銅板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
- 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
- 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

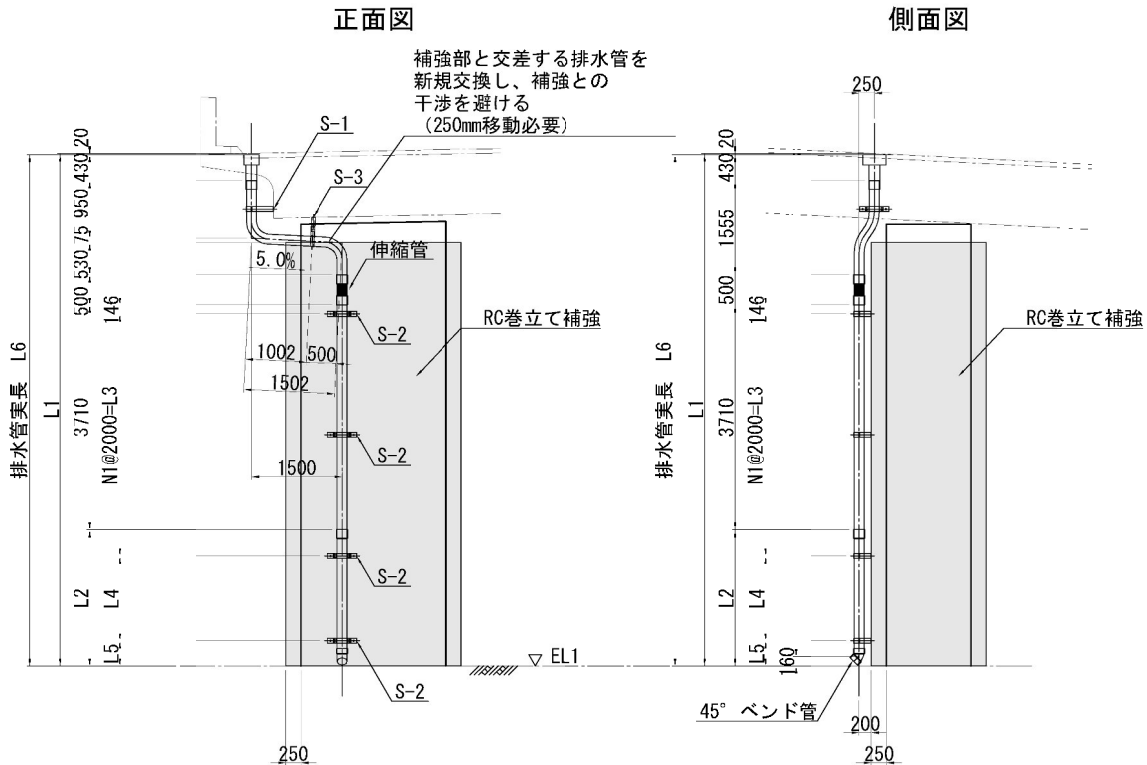
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Bランプ橋 排水装置撤去・復旧計画図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P4・P6橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



寸法表

	EL1	L1	L2	NI	L3	L4	L5	L6
P4	29.500	8466	2251	2	4000	1400	415	9873
P6	29.700	10016	3801	3	6000	900	465	11423

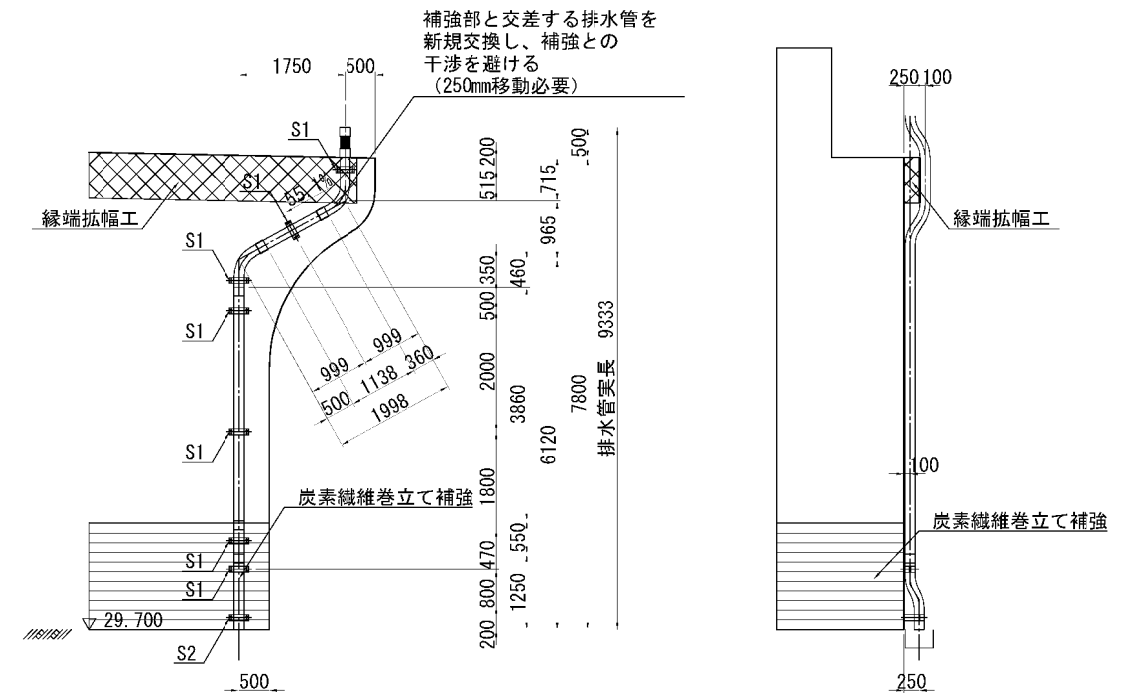
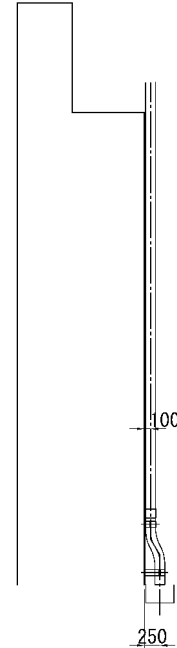
- 注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
RC巻立て補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Bランプ橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その3)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

新設排水装置改良図

側面図



注)

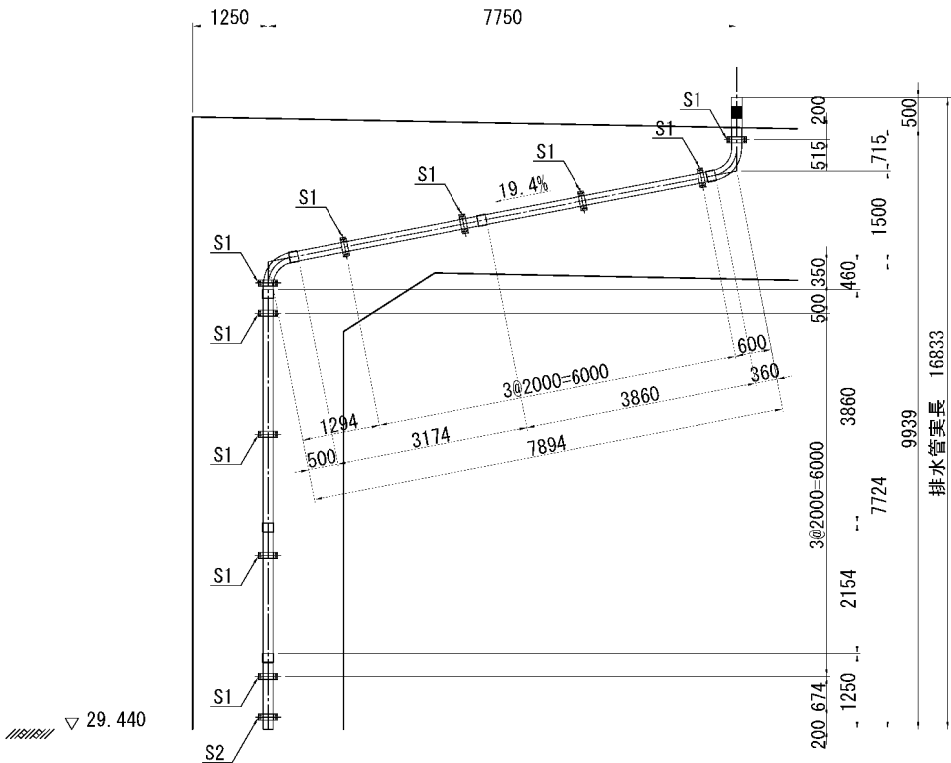
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鍍板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
4. 製作及び施工にあつては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例  : 炭素繊維巻立て補強  : 縁端拡幅工	首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
	図面の種類	東金ICランプ橋		
		排水装置撤去・復旧計画図(その4)		
	縮 尺	図示	図面番号	／
	設計会社名	日本工営株式会社		
	施工会社名			
	事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

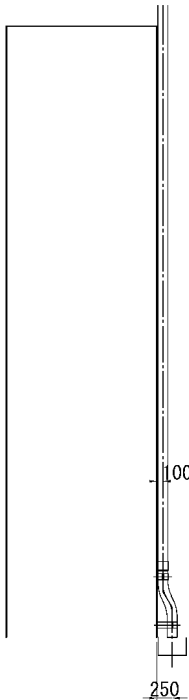
P8橋脚

既設排水装置撤去図

正面図

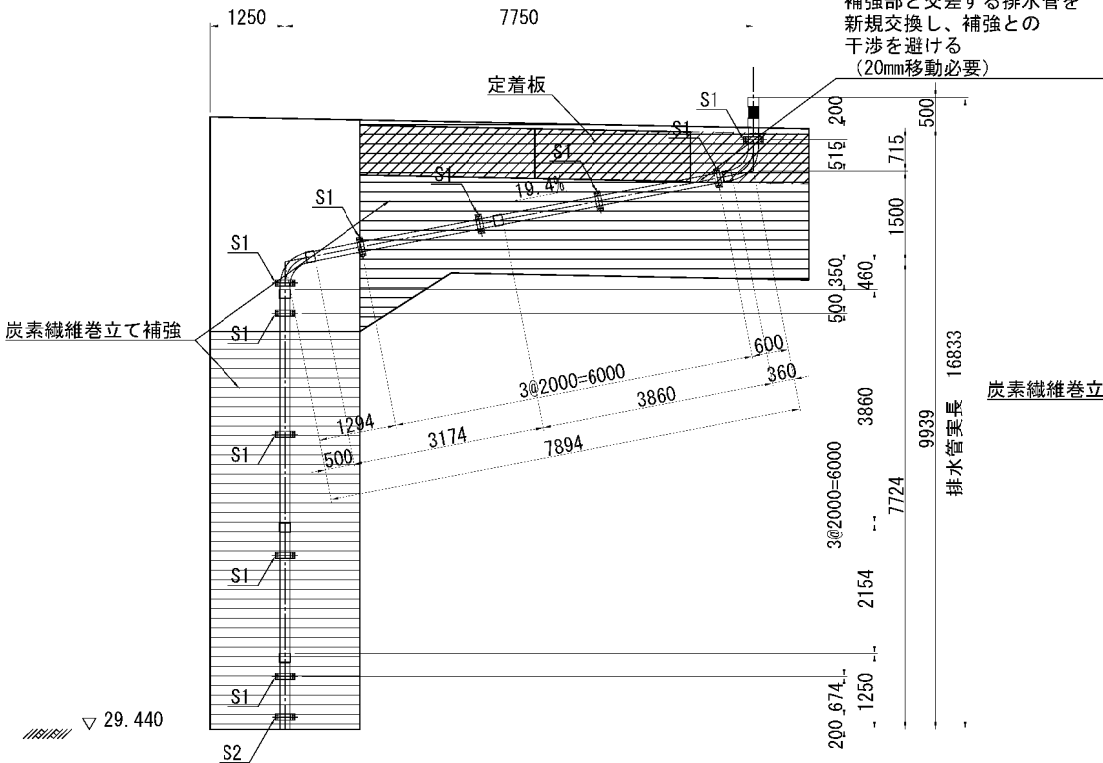


側面図

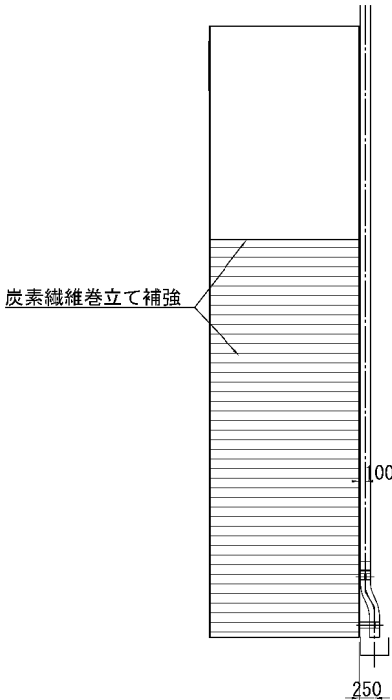


新設排水装置改良図

正面図



側面図



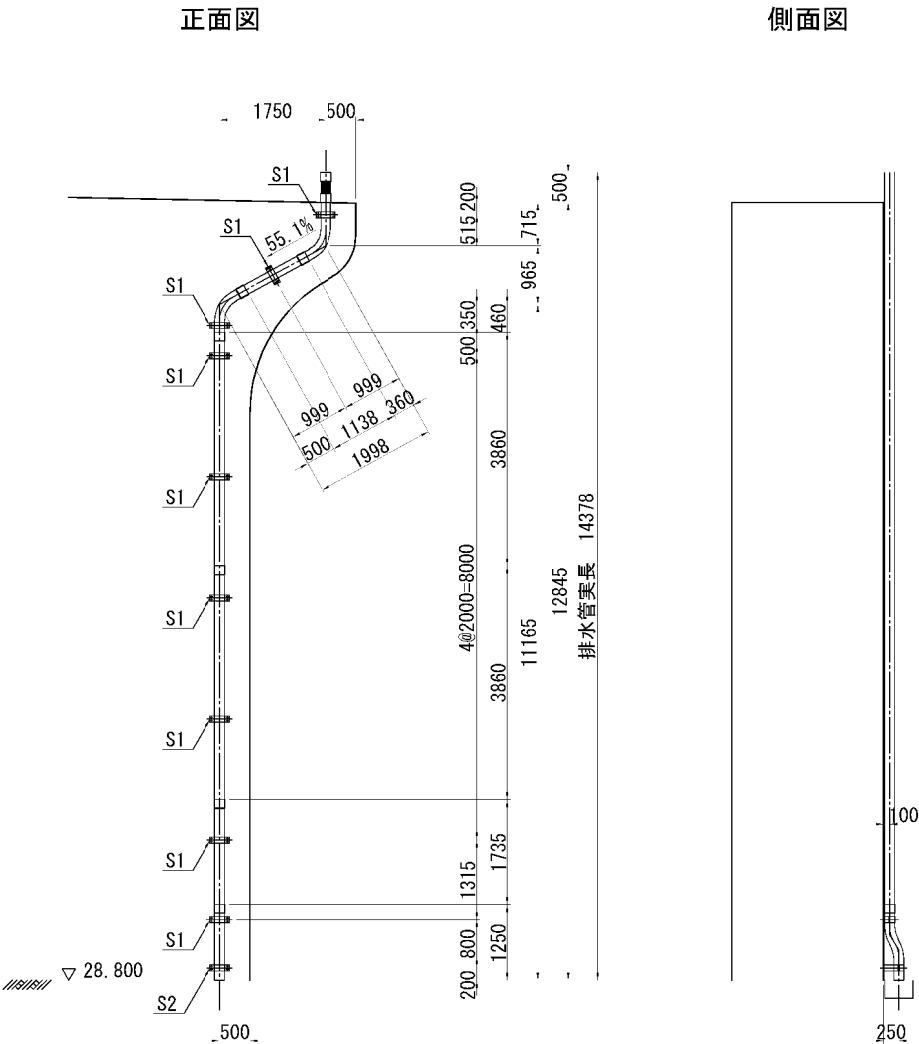
- 注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋲板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例	
	: 炭素繊維巻立て補強
	: 定着板

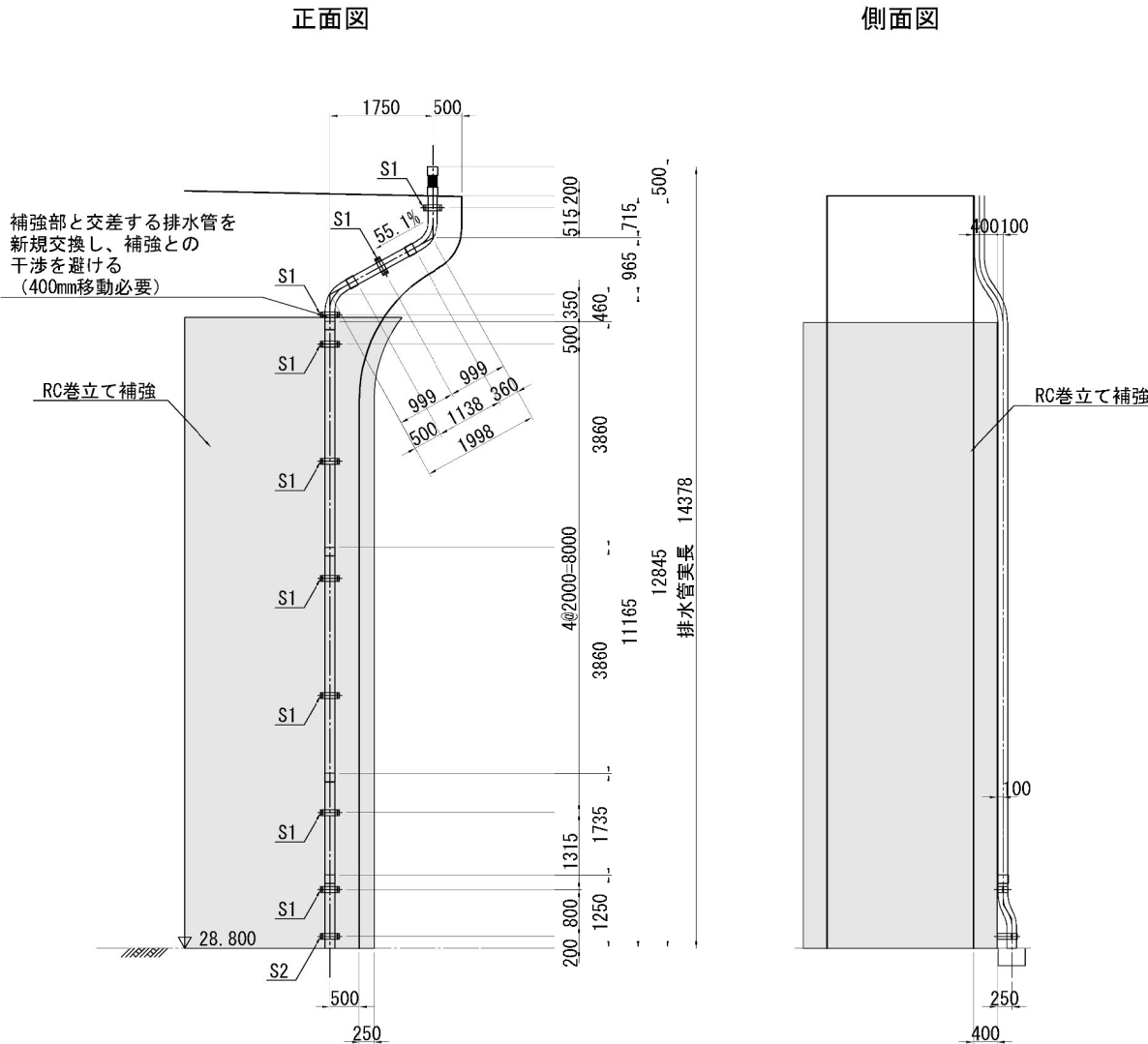
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Bランプ橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その5)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P9橋脚

既設排水装置撤去図



新設排水装置改良図



- 注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

凡例
RC巻立て補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Bランプ橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その6)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P10橋脚

既設排水装置撤去図

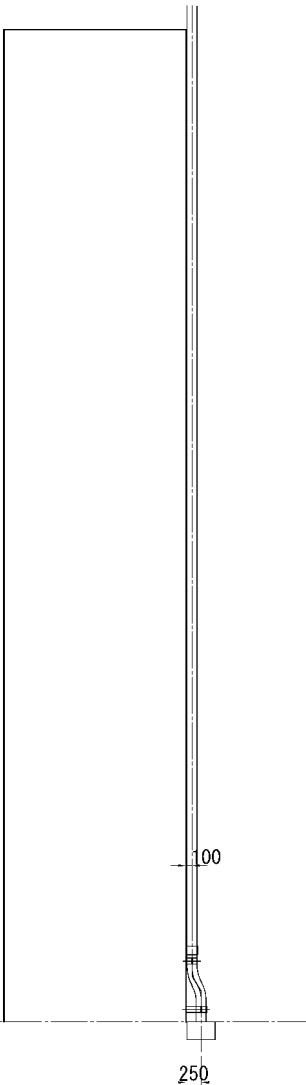
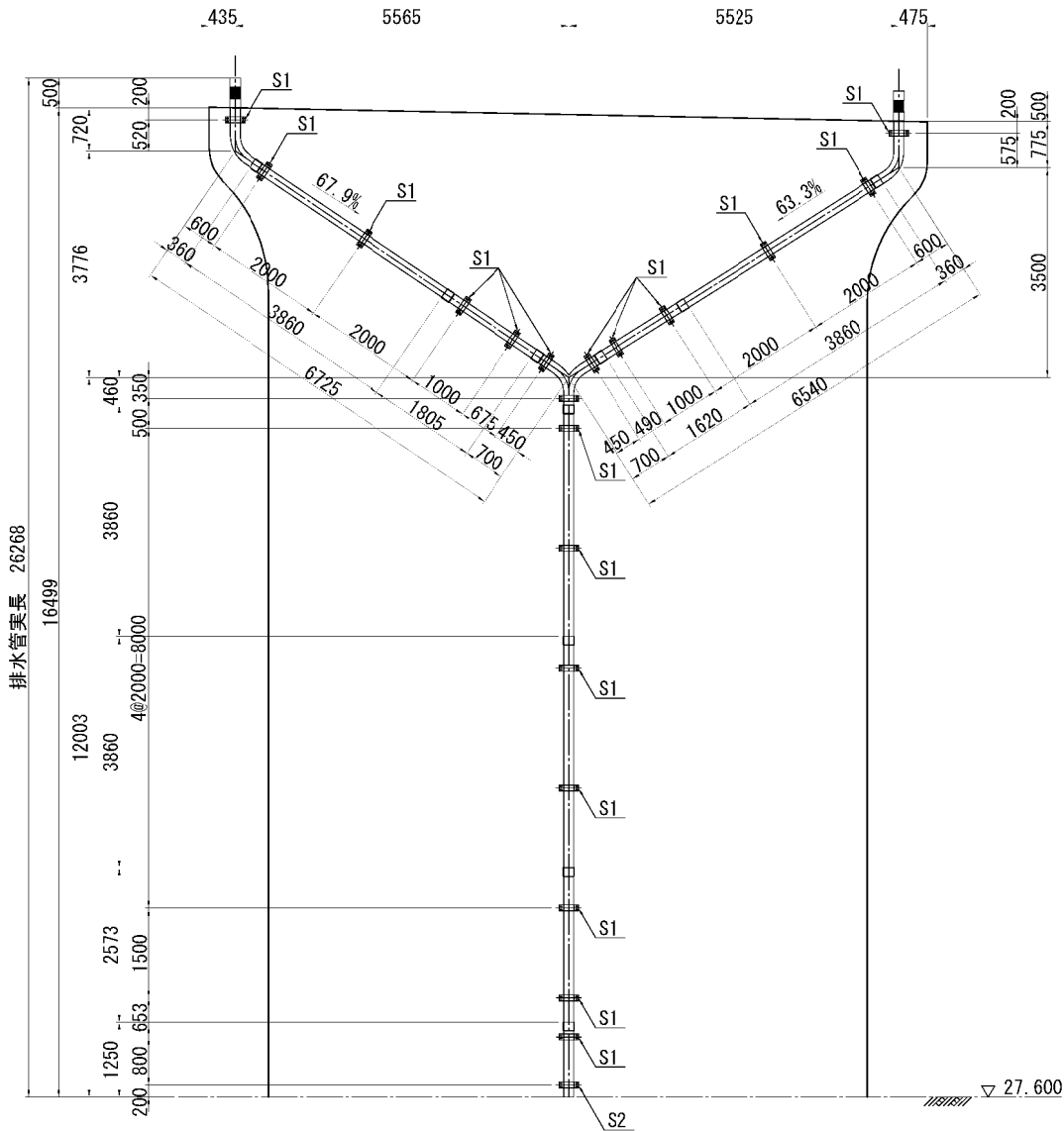
正面図

側面図

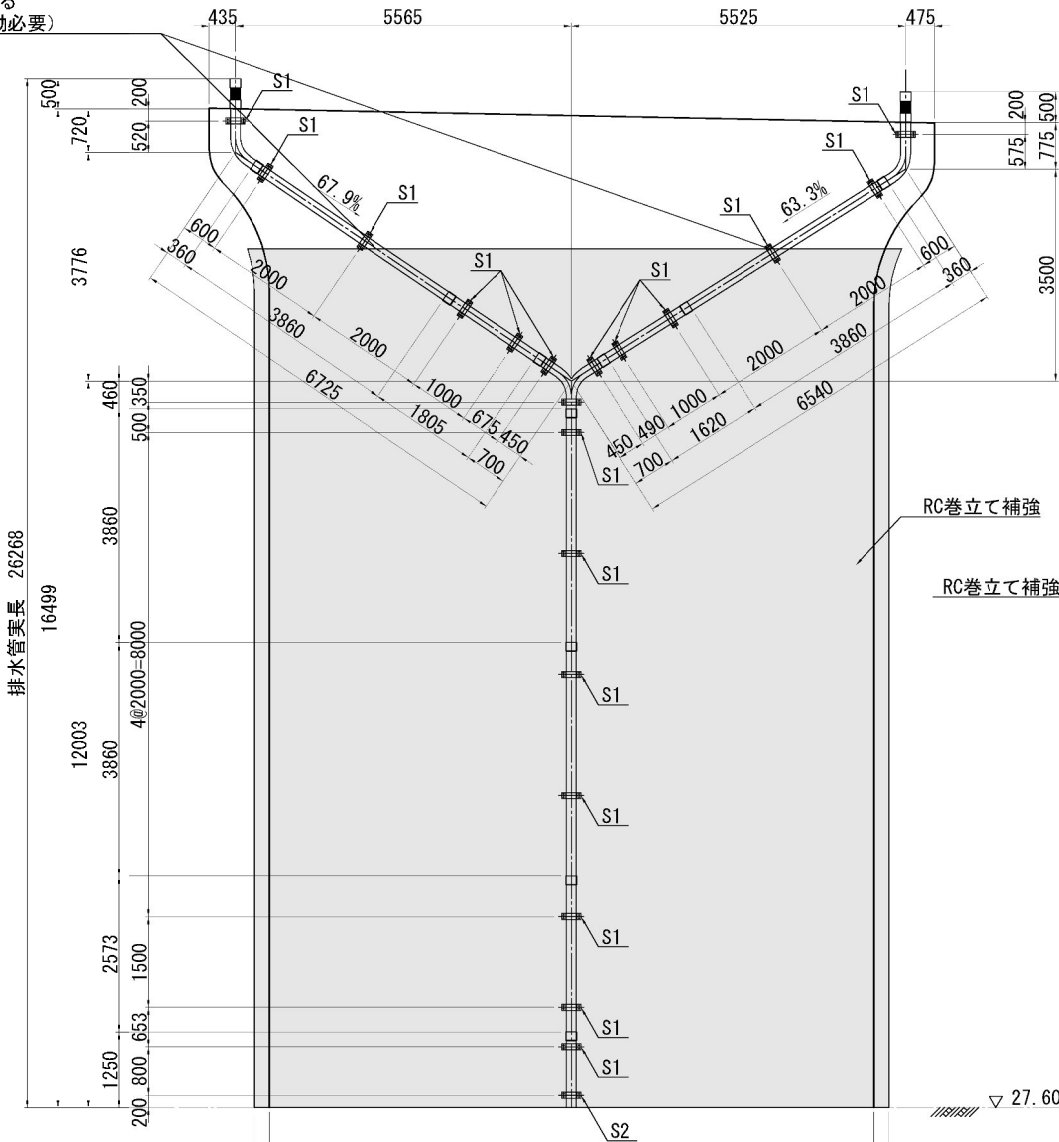
新設排水装置改良図

正面図

側面図



補強部と交差する排水管を
新規交換し、補強との
干渉を避ける
(400mm移動必要)



RC巻立て補強

RC巻立て補強

排水管実長 26268

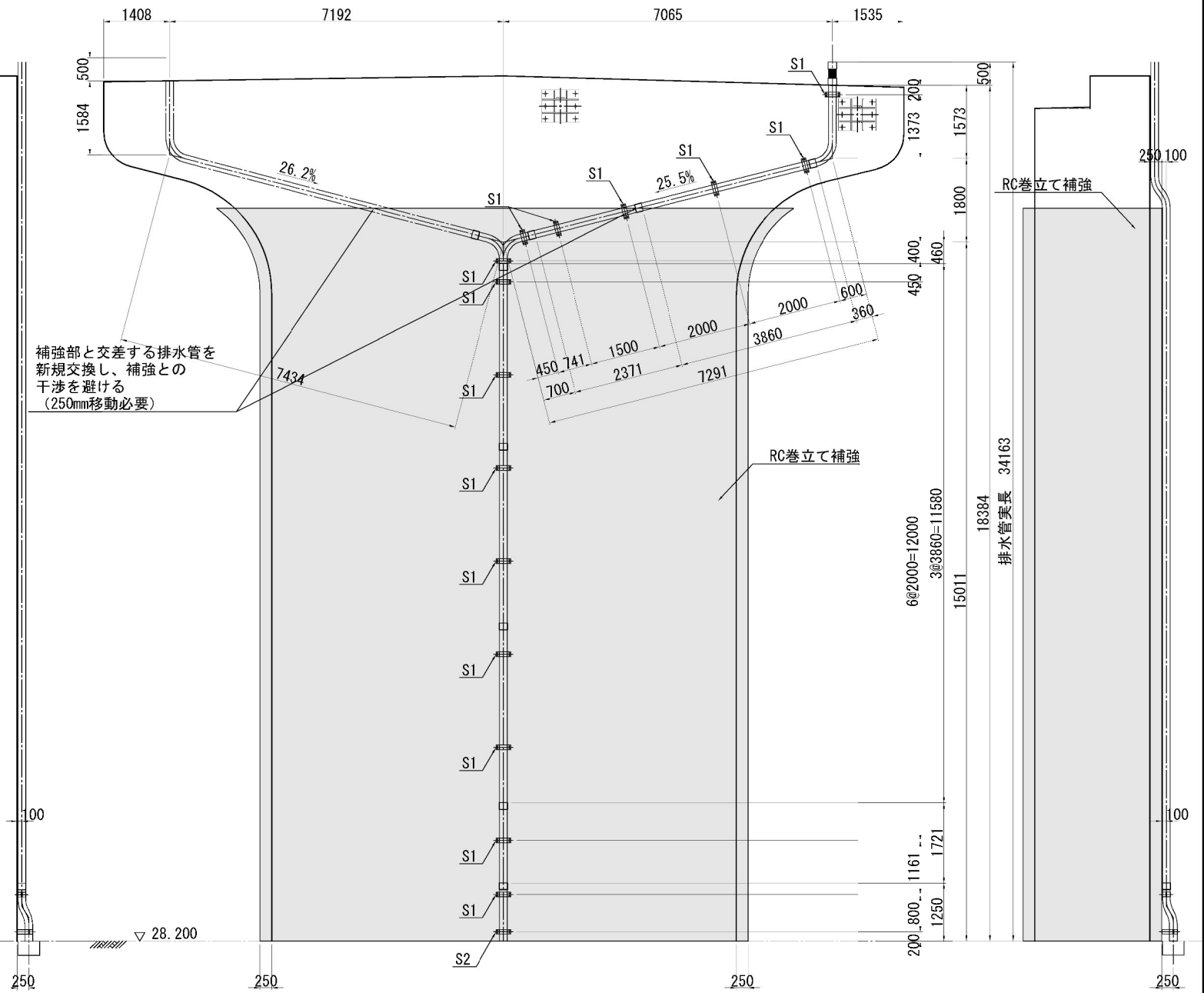
凡例
□ : RC巻立て補強

- 注)
1. 特記なき材質は全てSS400とする。
 2. 新設部材は全て、溶融亜鉛メッキ塗装とする。付着量は、JIS H8641 によるものとする。鋼板 HDZT77、ボルト・ナットHDZT49。
 3. 復旧時の新規材料は補強部との干渉を避けるために必要な部材のみとし、その他は既設材料を再利用する。
 4. 製作及び施工にあたっては、現場の調査計測を行い現況を十分に反映し、寸法については必要に応じて変更し製作すること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Bランプ橋		
	排水装置撤去・復旧計画図(その7)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

新設排水装置改良図

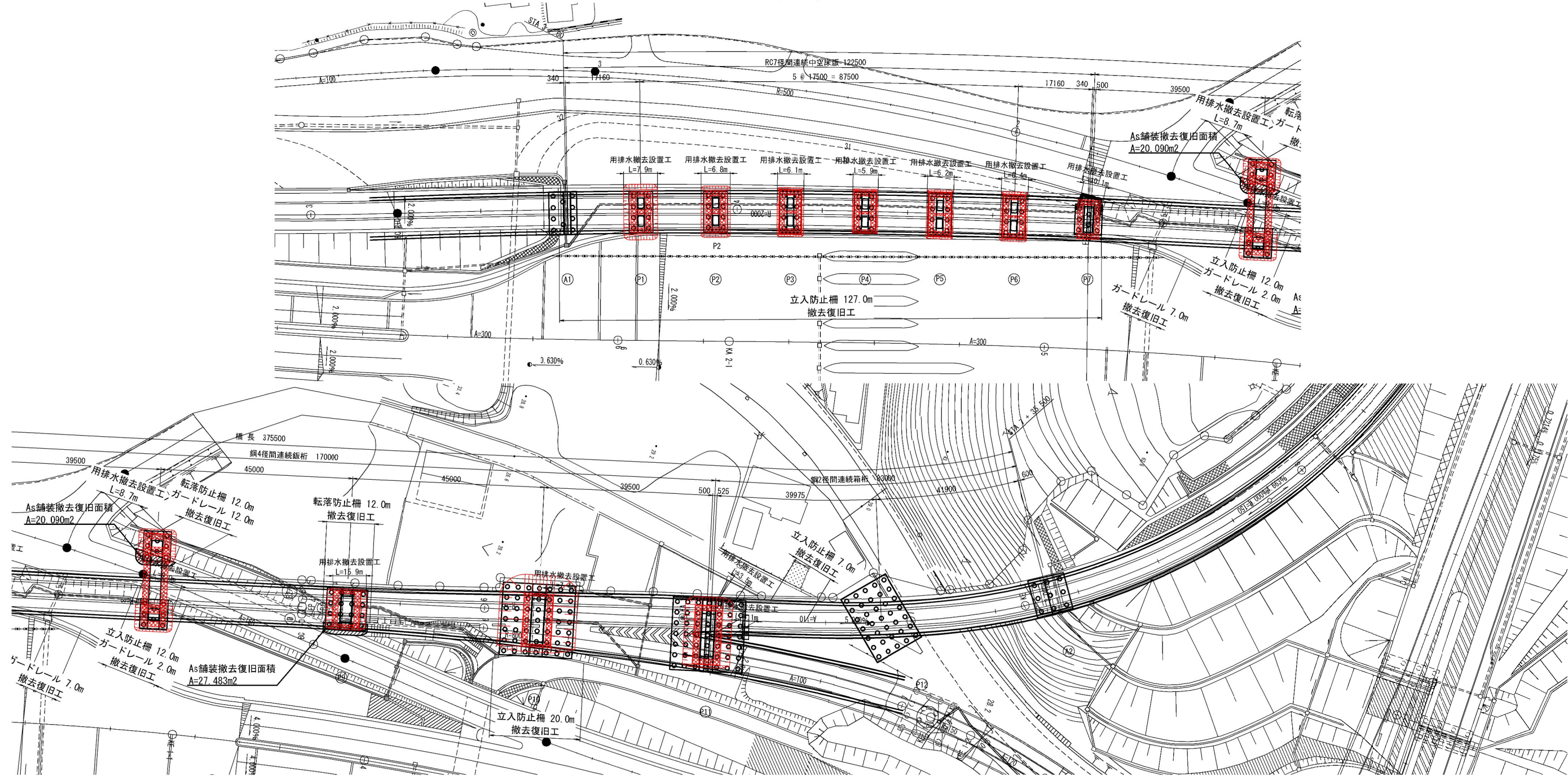
側面図



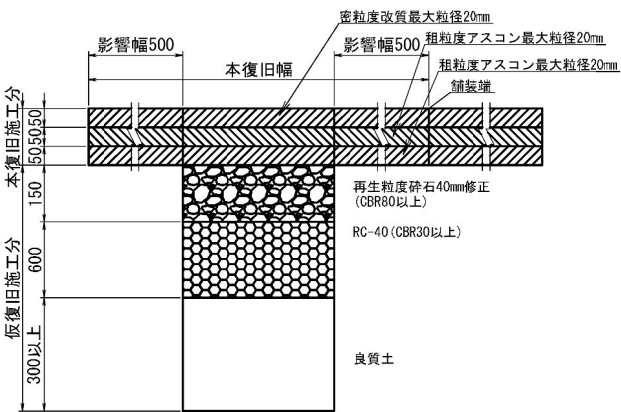
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事		
図面の種類	東金ICランプ橋 排水装置撤去・復旧計画図(その8)	
縮 尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所	

東金IC Bランプ橋 附帯工撤去復旧図

平面図 S=1:1000



舗装復旧構成標準図 S=1:20



集計表

種別	規格	単位	全体	合計
立入防止柵	@2.0m	m	166.0	166.0
転落防止柵	@2.0m	m	24.0	24.0
ガードレール		m	21.0	21.0
舗装撤去・復旧	P8橋脚	m2	20.090	47.573
	P9橋脚	m2	27.483	
用排水撤去設置工	0.30・0.30	m	98.0	98.0

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Bランプ橋 附帯工撤去復旧図		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

